元総社蒼海遺跡群(20)

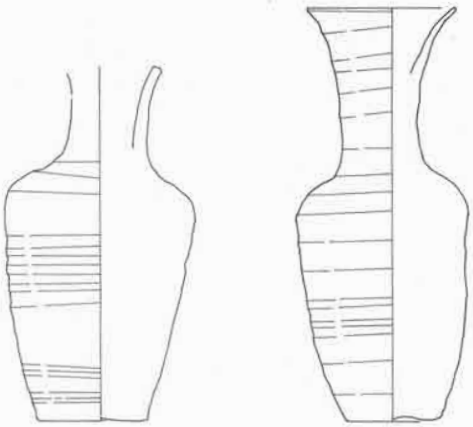
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群(20)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



7区　3号土坑出土の須恵器長頸壺

2009.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

７区　調査区遠景（南東から国分尼寺方向を見る）

巻頭図版２

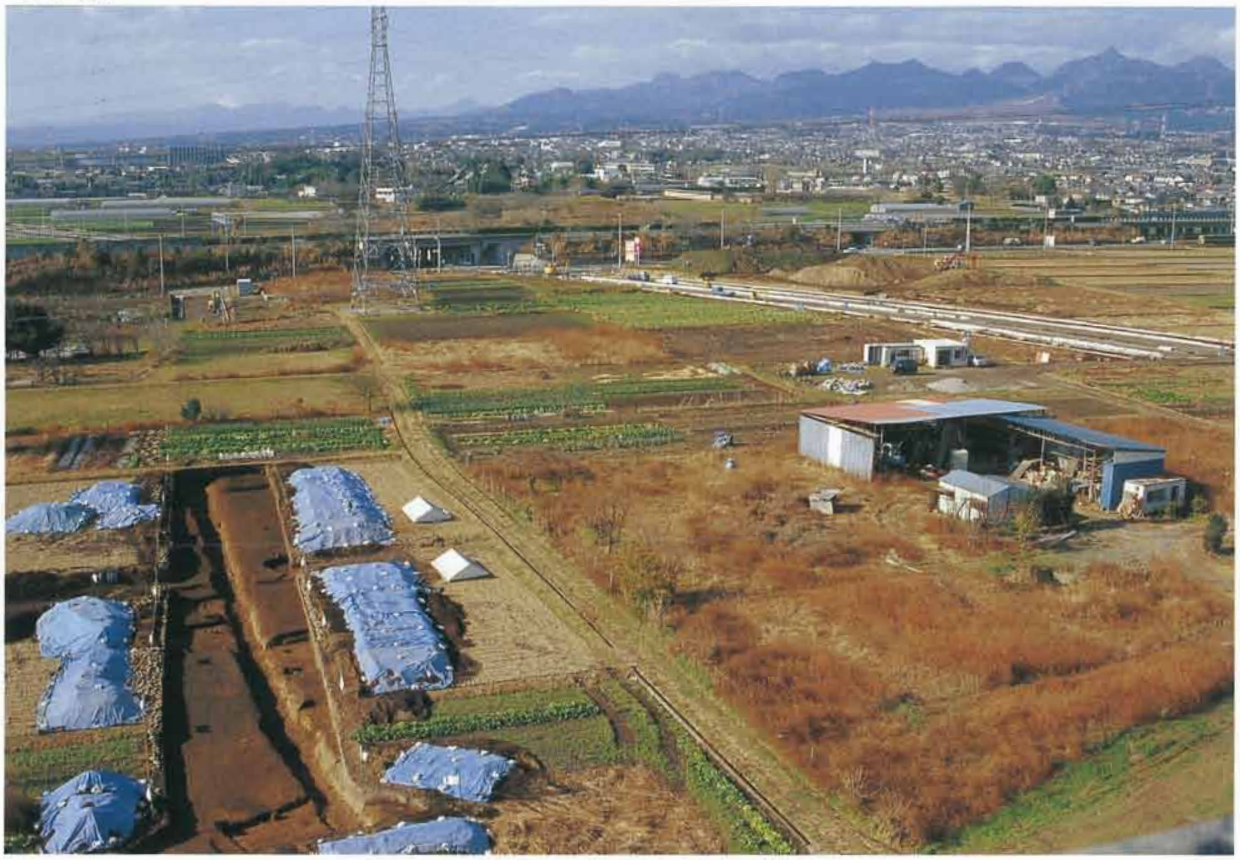
２区　調査区遠景（西から国府推定域を見る）

３区　調査区全景（南から）

５区　調査区全景（上が北）

７区　瓦敷き面全景（上が北）

巻頭図版４



９区　調査区遠景（東から）

元総社蒼海遺跡群(20)　７区出土遺物

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感ぜられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(20)は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　依　田　三次郎

例　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業および前橋市元総社公民館新築移転工事に伴う元総社蒼海遺跡群(20) 発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1085-4番ほか
発掘調査期間	平成20年５月７日～平成20年12月25日
整理・報告書作成期間	平成20年12月25日～平成21年３月19日
発掘・整理担当者	阿久澤真一・清水亮介・神宮　聡・小田哲生・池田史人・綿貫綾子（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は阿久澤・清水・神宮・小田・池田・綿貫が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
青木昭二郎・阿部シゲ子・石原義夫・伊藤修道・岩木　操・植木政俊・大木伸二・大澤俊夫・小澤香代
岸フクエ・斉藤亀寿・佐藤佳子・杉渕富雄・須田博治・須藤　豊・関根その子・高澤京子・高橋公代
瀧上政信・角田　愷・多田啓子・角田節子・角田昌幸・勅使川原幸枝・渡木秋子・友永　茂・中山　昭
長澤幸枝・中澤光江・中林美智子・奈良啓子・西山勝久・萩原秀子・橋本ちづる・平林しのぶ・星野和子
細野進太郎・堀込とよ江・町田妙子・町田敏彦・真庭武志・峰岸あや子・森下陽介・弥郡啓吾・山口淳子
湯浅たま江・湯浅道子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に国土地理院発行の1：200,000地形図（宇都宮、長野）、1：25,000地形図（前橋）、1：6,000前橋市現形図を使用した。
3．本遺跡の略称は、20A130－20である。
4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　T…竪穴状遺構　W…溝跡　A…道路状遺構　D…土坑
DB…土壙墓　P…ピット・貯蔵穴（住居内P_5を貯蔵穴とした。）　X…性格不明遺構　O…風倒木跡
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。
遺構　全体図…1：200　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1：60　竈・炉断面図…1：30
遺物　土器・鉄製品…1/3・1/4　石器・石製品・土製品…2/3・1/3　鉄器・鉄製品…1/2　瓦…1/6
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示し、それぞれ以下のように表現する。
◎…非常に締まり・粘性あり、○…締まり・粘性あり、△…締まり・粘性ややあり、×…締まり・粘性なし
8．遺構平面図の------は推定線を表す。
9．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　焼　土…　粘　土…
遺構断面図　構築面…
遺物実測図　須恵器断面…　灰釉陶器断面…　灰釉陶器表面…
緑釉陶器断面…　内黒…　粘土、たたき…
いぶし焼成…　煤、炭化物付着…　石；煤、被熱痕…
10．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。
As-B　（浅間Ｂ軽石：供給火山・浅間山、1108年）
Hr-FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半）

目　次

序 …… i

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地 …… 1

2　歴史的環境 …… 1

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針 …… 7

2　調査経過 …… 7

Ⅳ　基本層序 …… 19

Ⅴ　遺構と遺物 …… 20

Ⅵ　まとめ …… 62

1　竪穴住居跡について …… 62

2　7区 国分尼寺南側での調査について …… 64

3　壺Gについて …… 69

図　　版

口絵1　7区　調査区遠景（南から国分尼寺方向を見る）
2　2区　調査区遠景（西から国府指定域を見る）
3　3区　調査区全景（南から）
4　5区　調査区全景（上が北）
5　7区　瓦敷き面全景（上が北）
6　9区　調査区遠景（東から）
7　元総社蒼海遺跡群(20)　7区出土遺物

PL.1　1区全景、H－1号住居跡、W－1・2号溝跡
2　2区H－1～5・10号住居跡
3　2区H－6・9号住居跡、W－4号溝跡、D－1・2号土坑
4　3区H－2～5号住居跡、D－3号土坑
5　3区H－6号住居跡
6　3区H－6～9号住居跡
7　3区H－10～14号住居跡、W－2・4号溝跡、I－1号井戸跡
8　5区H－1～4号住居跡
9　5区H－5～7号住居跡、W－2号溝跡、A－1号道路状遺構、D－3号土坑、6区H－1号住居跡
10　6区H－2～5号住居跡、D－2号土坑、調査区全景
11　7区H－1～3・6～9号住居跡
12　7区10号住居跡、W－1号溝跡、T－1号竪穴状遺構、D－2・3号土坑、D－3号土坑出土遺物
13　7区瓦敷き集中部、瓦敷き面中央部 D－6・7・10・13号土坑、瓦敷き面埋め戻し前状況
14　8区調査区全景、9区H－1・2号住居跡
15　9区H－3～6・10号住居跡
16　9区H－7～9・11号住居跡、W－1号溝跡石検出状況、DB－1土坑墓
17　10区西側ピット群、東側FA下水田確認面、W－1・2号溝跡、D－1・2号土坑
18　11区調査区全景、H－1～4号住居跡
19　縄文土器、1区出土遺物
20　2区出土遺物
21　2区出土遺物
22　2区出土遺物
23　3区出土遺物
24　3区出土遺物
25　3区出土遺物
26　3区出土遺物
27　5区出土遺物
28　5区出土遺物
29　5・6区出土遺物
30　6・7区出土遺物
31　7区出土遺物
32　7・9区出土遺物
33　9区出土遺物
34　9・11区出土遺物
35　11区出土遺物、5区土製品、9区鉄製品
36　鉄製品、石製品
37　瓦
38　瓦
39　瓦
40　瓦

挿　　図

Fig.1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　元総社蒼海遺跡群(20)　調査区位置図
5　元総社蒼海遺跡群(20)　1・2区全体図
6　元総社蒼海遺跡群(20)　3区全体図
7　元総社蒼海遺跡群(20)　5区全体図
8　元総社蒼海遺跡群(20)　6・8区全体図
9　元総社蒼海遺跡群(20)　7区全体図
10　元総社蒼海遺跡群(20)　9区全体図
11　元総社蒼海遺跡群(20)　10・11区全体図
12　基本層序
13　1区H－1号住居跡、D－1～5号土坑、I－1号井戸跡
14　1区W－1・2号溝跡
15　2区H－1・2号住居跡
16　2区H－3・4・10号住居跡
17　2区H－5・6号住居跡
18　2区H－7～9・11号住居跡、D－1・2号土坑
19　2区W－1～4号溝跡
20　3区H－1・2号住居跡
21　3区H－3・4号住居跡
22　3区H－4・5号住居跡、D－3～5号土坑
23　3区H－6号住居跡
24　3区H－6号住居跡
25　3区H－7・8号住居跡
26　3区H－9・10・14号住居跡
27　3区H－10・11号住居跡
28　3区H－12・13号住居跡
29　3区H－15号住居跡、D－1・6号土坑、P－1・2号ピット、I－1号井戸跡
30　3区W－1・2・4・5号溝跡
31　5区H－1・2号住居跡
32　5区H－3・4号住居跡
33　5区H－5・6号住居跡
34　5区H－7号住居跡、D－1～4号土坑、P－1～3号ピット
35　5区W－1～3号溝跡、A－1号道路跡
36　6区H－1～3号住居跡
37　6区H－4～7号住居跡
38　6区D－1～6号土坑、P－1～3号ピット、I－1・2号井戸跡、O－1号落ち込み
39　7区H－1・2号住居跡

40　7区H－3・5号住居跡、T－1号竪穴状遺構
41　7区H－6～8号住居跡
42　7区H－9・10号住居跡
43　7区H－11号住居跡、W－1・2号溝跡、
　A－1号道路状遺構
44　7区D－1～3・8号土坑
45　7区H20－1～3トレンチ断面図
46　7区H12－2・3、H20－4トレンチ断面図
47　8区D－1～6号土坑、P－1～3号ピット、
　W－1号溝跡
48　9区H－1・2号住居跡
49　9区H－3・4・10号住居跡
50　9区H－5・6号住居跡、W－4号溝跡
51　9区H－7～9号住居跡
52　9区H－11号住居跡、DB－1号土坑墓
53　9区D－1号土坑、W－2・3号溝跡
54　9区W－1号溝跡平面図
55　9区W－1号溝跡断面図
56　10区W－1号溝跡、D－1・2号土坑、
　P－1～23号ピット
57　10区W－2号溝跡、南・東・北壁断面図
58　11区H－1～3号住居跡、P－1・2号ピット
59　11区H－4号跡、T－1号竪穴状遺構
60　11区D－1号土坑、P－3～12号ピット
61　縄文土器・銅銭
62　1区H－1号住居跡、W－2号溝跡、
　2区H－1・3・5・7号住居跡出土遺物
63　2区H－6・9号住居跡、W－4号溝跡出土遺物
64　2区H－4・9号住居跡、W－4号溝跡、
　グリッド出土遺物
65　3区H－1～4号住居跡出土遺物
66　3区H－5号住居跡出土遺物(1)
67　3区H－5号住居跡出土遺物(2)
68　3区H－6号住居跡出土遺物
69　3区H－7・9・10号出土遺物
70　3区H－10・11・13・14号住居跡出土遺物
71　3区H－14・15号住居跡、O－1号遺構、
　D－1号土坑、I－1号井戸跡出土遺物
72　5区H－1・2・4・6・7号住居跡、
　D－3・5号土坑出土遺物
73　5区H－3号住居跡出土遺物
74　5区D－3号土坑、グリッド、
　6区H－1・4・5・7・8号住居跡、
　I－1号井戸跡、O－1号落ち込み出土遺物
75　7区H－2・6・8号住居跡出土遺物
76　7区H－7・9・10号住居跡、W－1号溝跡出土遺物
77　7区D－3号土坑、9区H－1～7号住居跡出土遺物
78　9区H－3・9号住居跡、W－2・3号溝跡出土遺物
79　9区H－4・11号住居跡、D－1号土坑、
　W－1号溝跡、10区P－18号ピット、
　11区H－3号住居跡出土遺物
80　11区H－2・4号住居跡、表採出土遺物、緑釉陶器、
　土製品
81　石製品(1)
82　石製品(2)
83　石製品(3)
84　石製品(4)
85　石製品(5)、鉄製品(1)
86　鉄製品(2)
87　瓦(1)
88　瓦(2)
89　瓦(3)
90　瓦(4)
91　瓦(5)
92　瓦(6)

表

Tab.1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　住居跡等一覧表
3　溝跡・道路跡計測表
4　土坑・ピット・井戸跡等計測表
5　縄文土器観察表
6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表
7　石器・石製品観察表
8　鉄器・鉄製品観察表
9　土製品・銅銭観察表
10　瓦観察表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年4月1日付けで、前橋市長　高　木　政　夫より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　依　田　三次郎に対し、調査実施について協議を行い、調査団はこれを受諾した。平成20年4月17日、調査依頼者である前橋市長　高　木　政　夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長　依　田　三次郎との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月7日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(20)」(遺跡コード：20A130-20) の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(20)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

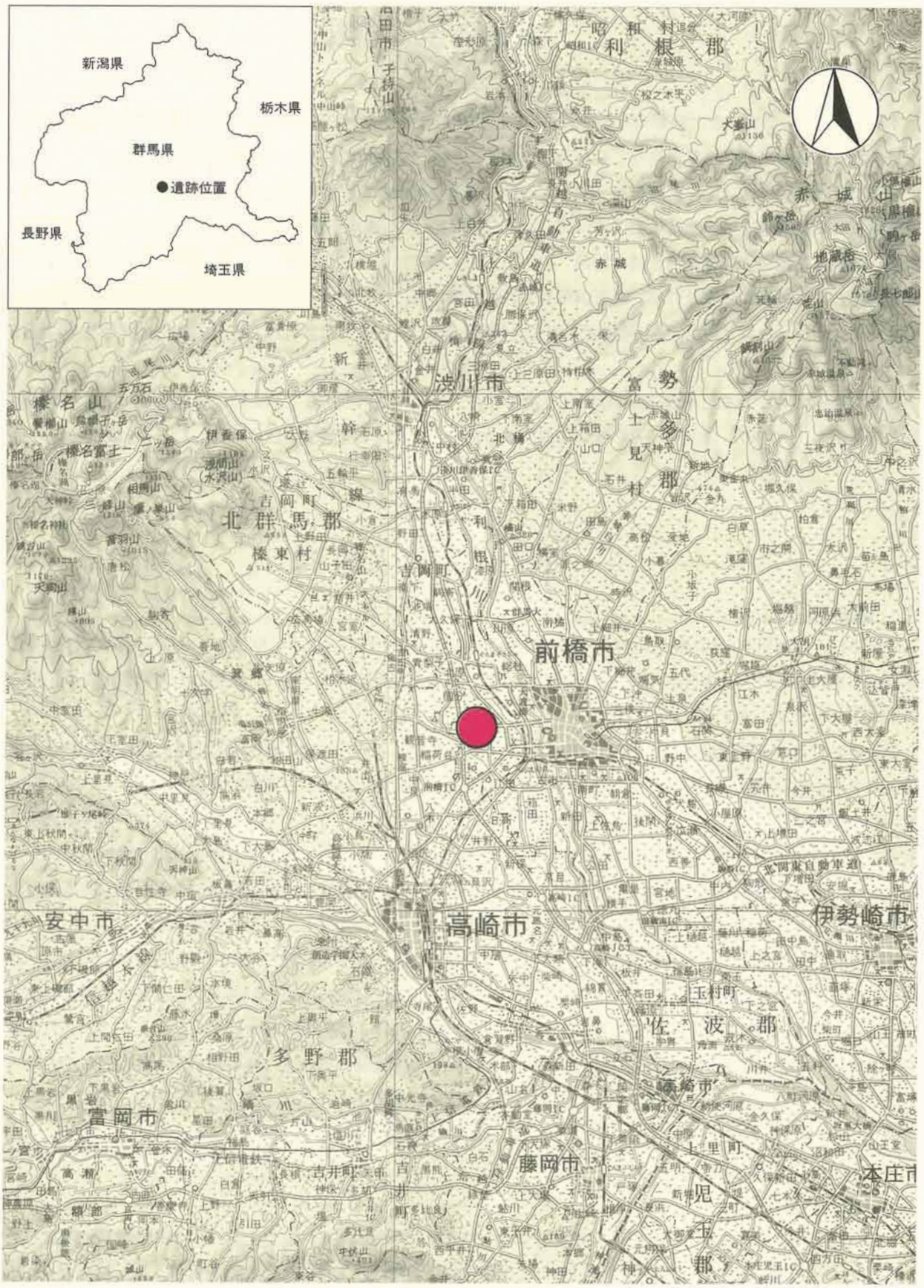


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡(放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成18年度から５カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成18年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成19年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成20年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群(7)(9)(10)と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。これにより、手付かず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

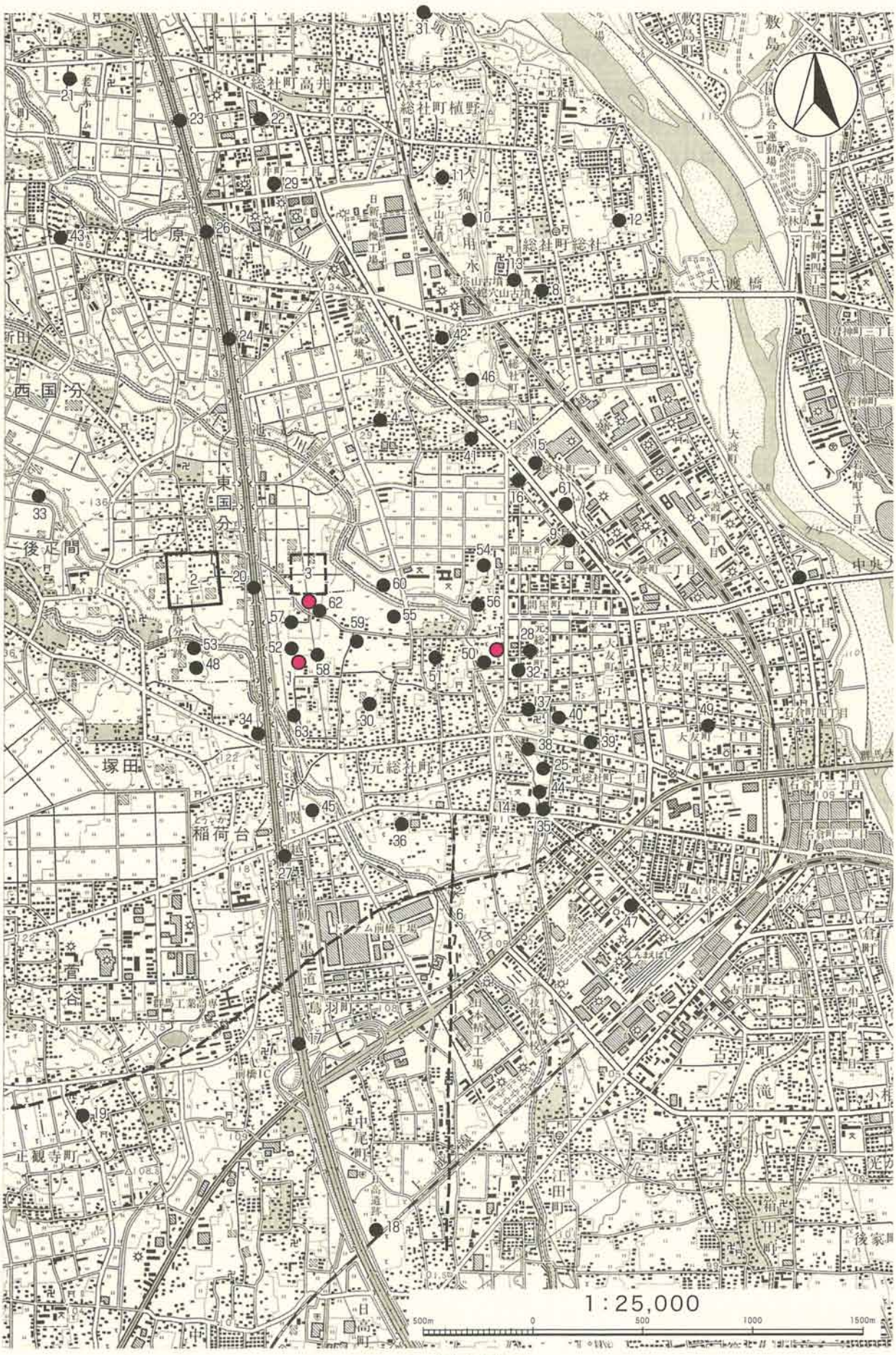

1:25,000
500m
0
500
1000
1500m
総社町高井
総社町植野
総社町総社
大渡橋
北原
西国分
東国分
後正間
塚田
稲荷台
元総社町
中尾町
正観寺町
日高町
敷島
中央
大友町
石倉町
古市町
後家町

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群(20)	2008	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6C中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（8C初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（6C後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7C初）
11	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6C末～7C初）
12	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5C後半）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7C末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄文：ピット、奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～84	縄文：屋外埋甕、弥生：住居跡、古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世：住居跡・溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
25	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・大形人形 中世：住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～7m、下幅3.24m、深さ2m）
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983, 88	奈良・平安：住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
31	桜ケ丘遺跡		弥生：住居跡
	総社桜ケ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985, 87	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
33	後正間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安：溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 88	奈良・平安：住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986, 95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
43	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器 中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989, 95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡 中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	2006	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘建柱建物跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構 中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・椀類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡 奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡 中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡 中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡 中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡 中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金粒 中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群(2)（6）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・井戸跡、中世：溝跡
	元総社蒼海遺跡群(11)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡 中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡、溝跡
	元総社蒼海遺跡群(1)（5）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
63	元総社蒼海遺跡群(8)	2006	奈良・平安：住居跡、緑釉陶器

※　調査年度の欄の（　）は調査開始年度を表す。
※　調査名の欄の（事業団）は㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託された調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い築造予定の道路用地であるため、幅６ｍの極めて狭長なトレンチ状の調査区が中心となっている。総調査面積は約4,351㎡である。現地での調査では、遺構の付番等における混乱をさけるため、調査区全体を１～11区に区分した。遺構番号は、各区ごとに個別に付番することとし、１区Ｈ－１号住居跡、２区Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系）Ｘ＝ +44000・Ｙ＝ -72200を基点（Ｘ０・Ｙ０）とする４ｍピッチのものを使用し、７区においては、西から東へＸ58、59、60…、北から南へＹ79、80、81…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＸ68・Ｙ82の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X=+43,672.000　Y=-71,928.000		
緯　　度	36° 23′ 27″ .3193	経　　度	139° 01′ 53″ .5311
子午線収差角	28′ 32″ .6	増 大 率	0.999964

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的に As-C・Hr-FP 軽石と As-B 軽石が混入する土層を手がかりにした。

図面作成は、平板･簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

現地調査は平成20年５月７日から12月25日まで行った。調査経過は下記一覧表のとおりである。

元総社蒼海遺跡群(20) の調査地は11ヵ所に分かれており、調査着手順で１区、２区…とした。

１区…蒼海公園の西側に位置し、南側が住宅、北側が道路に面しており、最初に安全対策を実施した。５月７日から重機による表土掘削を開始した。５月９日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げ･遺構精査を進めていった。住居跡１軒、溝跡２条、土坑３基、井戸跡１基を検出した。

２区…蒼海公園の南側に位置し、東西に細長い調査区ながら、東から中央部までは粘性が強く乾くと硬い土質で、雨が降るたびに水が溜まり調査に遅れを生じた。５月９日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ・遺構精査を進めていった。住居跡11軒、溝跡４条、土坑２基を検出した。６月４日に１区と共に全景写真撮影を行い、６月６日に１区を含めて埋め戻しを終了した。

３区…５月７日から重機による表土掘削を開始した。５月９日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ、精査を進めていった。調査区中央部分で遺構の重複があり、やや手間がかかった。住居跡15軒、溝跡５条、土坑５基、井戸跡１基を検出した。６月13日に全景写真撮影を行い、６月25日には埋め戻しを終了した。

４区…牛池川左岸の低地にあり、まず５月27日に試掘調査を行った。結果、東側は宅地造成のために削平された台地で遺構がないことがわかった。西側の低地部分では　Hr-FA 下の水田が確認されたが、調査可能な場所が少ないため、試掘のみで調査終了とした。

５区…６月９日から調始し、６月10日に杭打ち測量を行い、遺構の掘り下げ、精査を進めていった。粘性の強い土質のため、雷雨の後は水が溜まり調査に遅れを生じた。住居跡５軒、溝跡３条、土坑4基などを検出した。

8月6日にラジコンヘリによる全景空中撮影を行い、8月22日に埋め戻しを終了した。

6区…三方を住宅に囲まれた狭い調査区で、重機による掘削土はダンプにより別の場所へ搬送した。6月9日に重機による表土掘削を行った。6月10日に杭打ち測量を行い、遺構掘り下げ･遺構精査を進めていった。遺構確認面まで浅く残りも悪かったが8軒の住居跡などを検出した。7月3日に全景写真撮影を行い、7月11日に埋め戻しを終了した。

7区…国分尼寺の南面に位置する。6月16日から重機による表土掘削を行い、6月18日に杭打ち測量を行った。その後遺構の掘り下げや精査を行っていたが、急遽道路予定地北側部分に仮設住宅を8月下旬に建設するために、6月25日からその部分の重機による表土掘削を行った。調査区の中央から東側では国分尼寺と関わりがあると思われる瓦敷遺構や土坑が検出された。今後再調査が必要となってきたので、仮設住宅建設において遺跡の更なる保護を区画整理第二課に伝えた。住居跡10軒、土坑12基、溝跡2条などを検出した。8月6日にラジコンヘリによる全景空中撮影を行い、8月21日に埋め戻しを行った。

8区…7月3日に重機による表土掘削を行い、7月4日に杭打ち測量を行った。その後遺構の堀り下げを行ったが、溝1条を検出するだけとなった。7月11日に全景写真撮影を行い、7月15日に埋め戻しを行った。

9区は11月6日から耕作土を分けながら重機による表土掘削を開始した。調査区中央に石を含んだ溝が東西方向に走るため、重機による掘り下げに苦労した。その溝に重複する住居跡11軒などを検出した。12月に入り霜と寒さに悩まされながら調査を進め、12月18日に全景写真撮影を行い、12月25日に埋め戻しを終了した。

10区は牛池川に向かって下降する斜面に位置する。11月18日から重機による掘削を開始した。東側は約2m掘削してHr-FA下の水田確認面へ達するために掘削に時間を要した。人力によりHr-FAを剥がし水田面を確認後、12月8日に再び重機掘削を行い、As-C下の水田面を確認したが、湧き水にも悩まされ思うように確認はできなかった。12月10日に全景写真撮影後、12月17日に埋め戻しを終了した。

11区は5区の東側に位置する飛び地である。12月4日に重機による表土掘削を行い、12月8日に杭打ち測量を行った。霜と寒さに悩まされながら調査を進め、住居跡4軒、土坑3基などを検出した。12月18日に全景写真撮影を行い、12月22日に埋め戻しを終了した。

12月25日より文化財保護課庁舎に戻り、出土遺物・図面・写真当の整理作業及び報告書作成にあたり、翌年3月13日までに全ての作業を終了した。

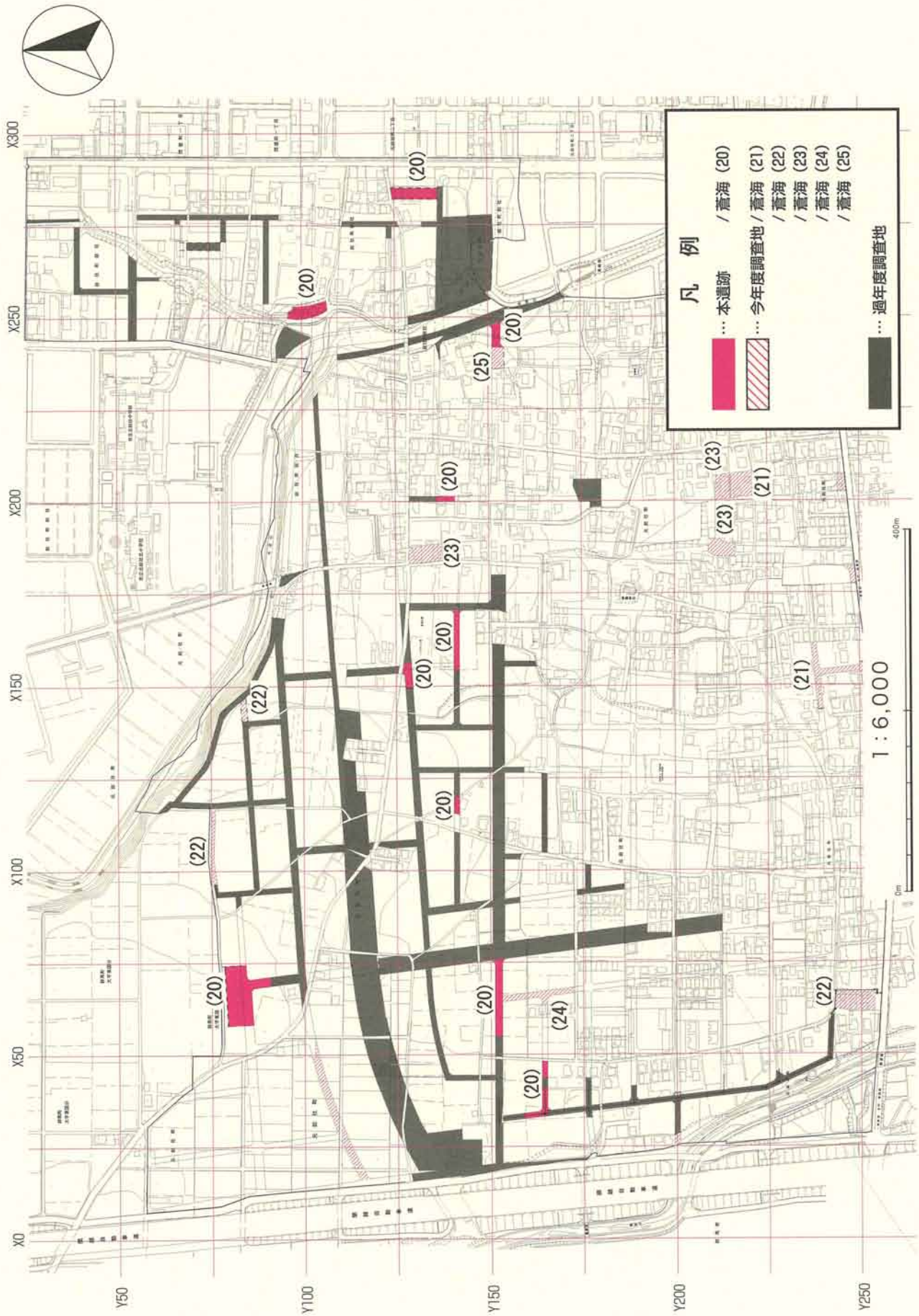


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

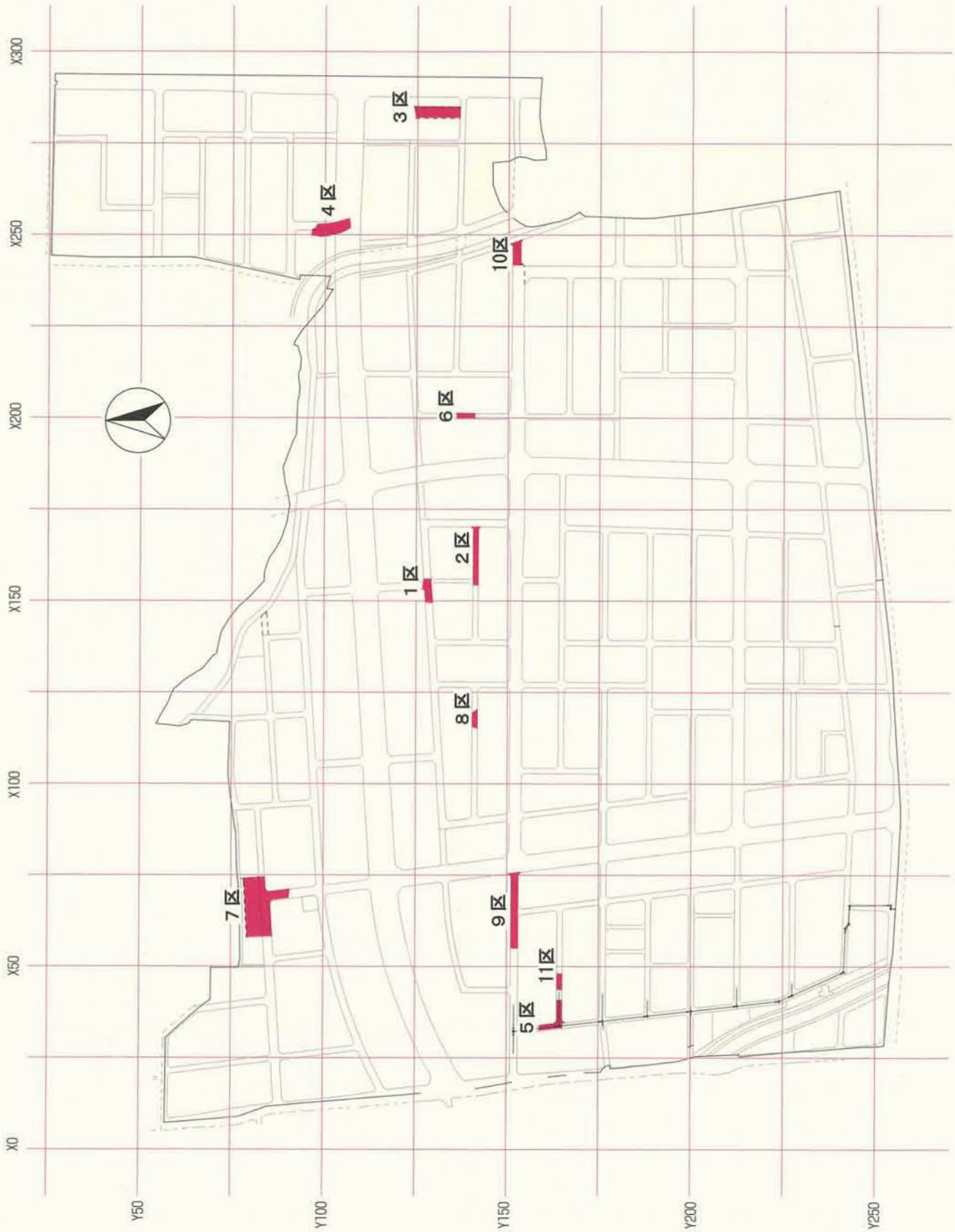


Fig. 4　元総社蒼海遺跡群(20) 調査区位置図

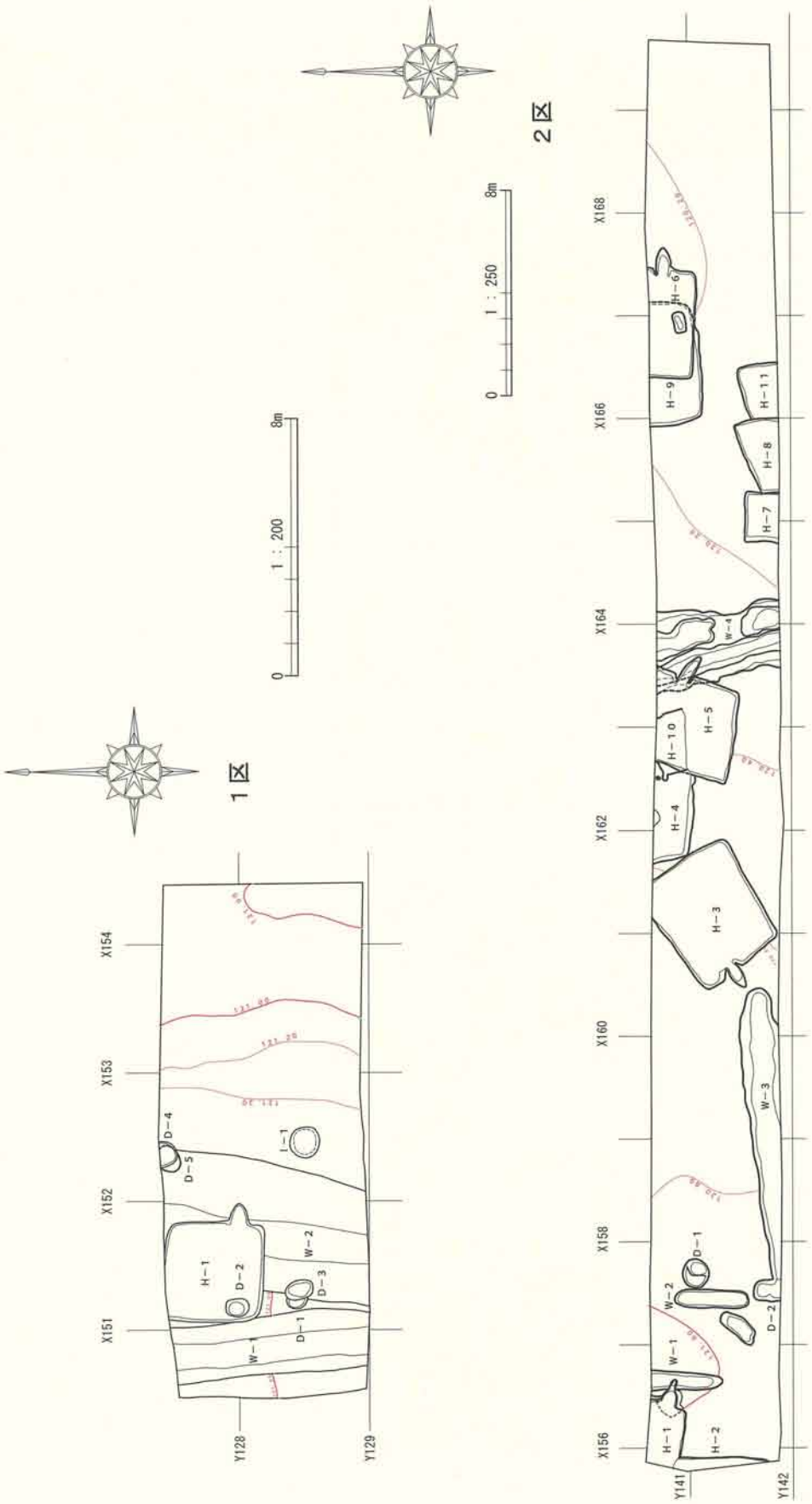


Fig. 5　元総社蒼海遺跡群(20)　1・2区全体図

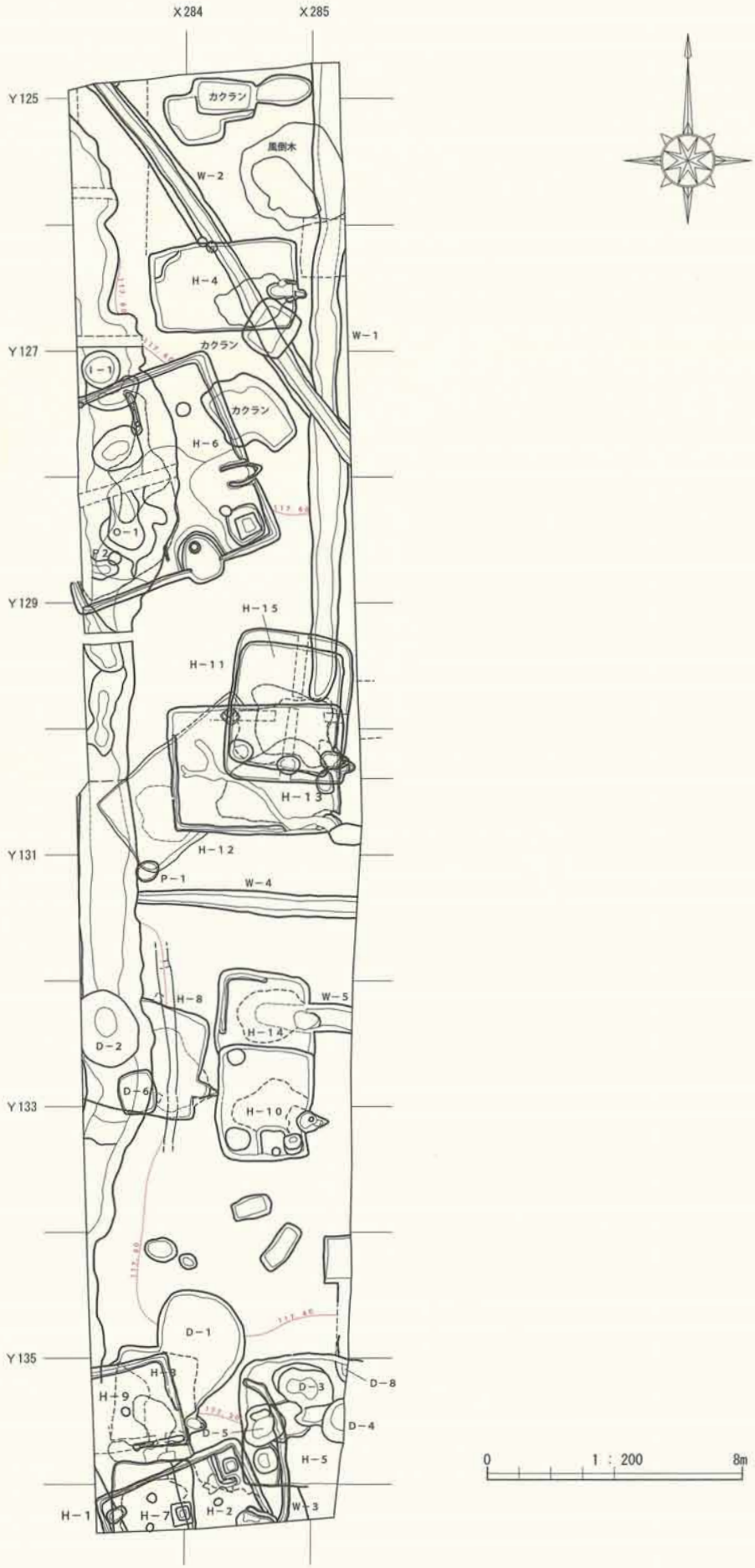


Fig. 6　元総社蒼海遺跡群(20)　3区全体図

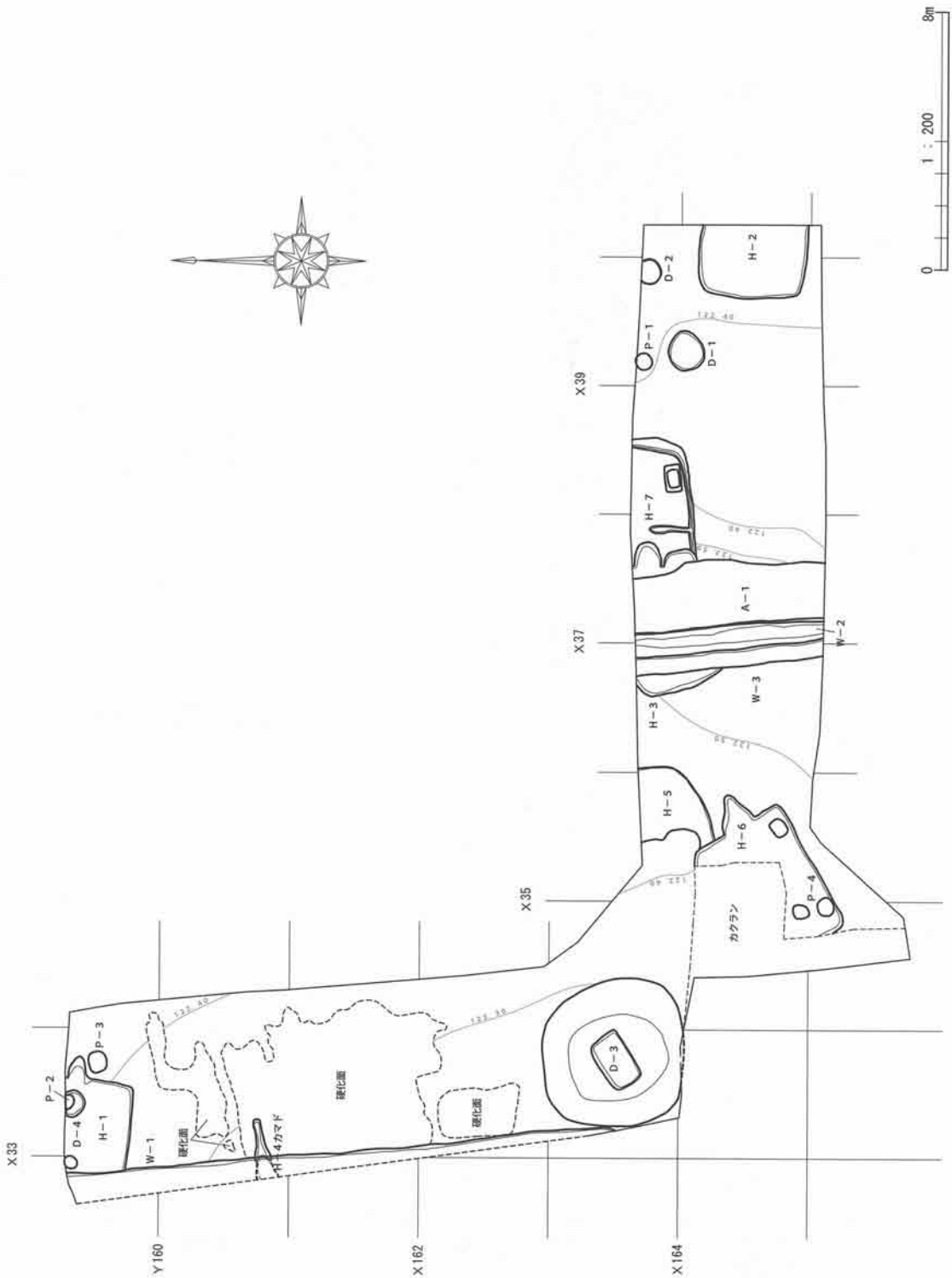


Fig. 7　元総社蒼海遺跡群(20)　5区全体図

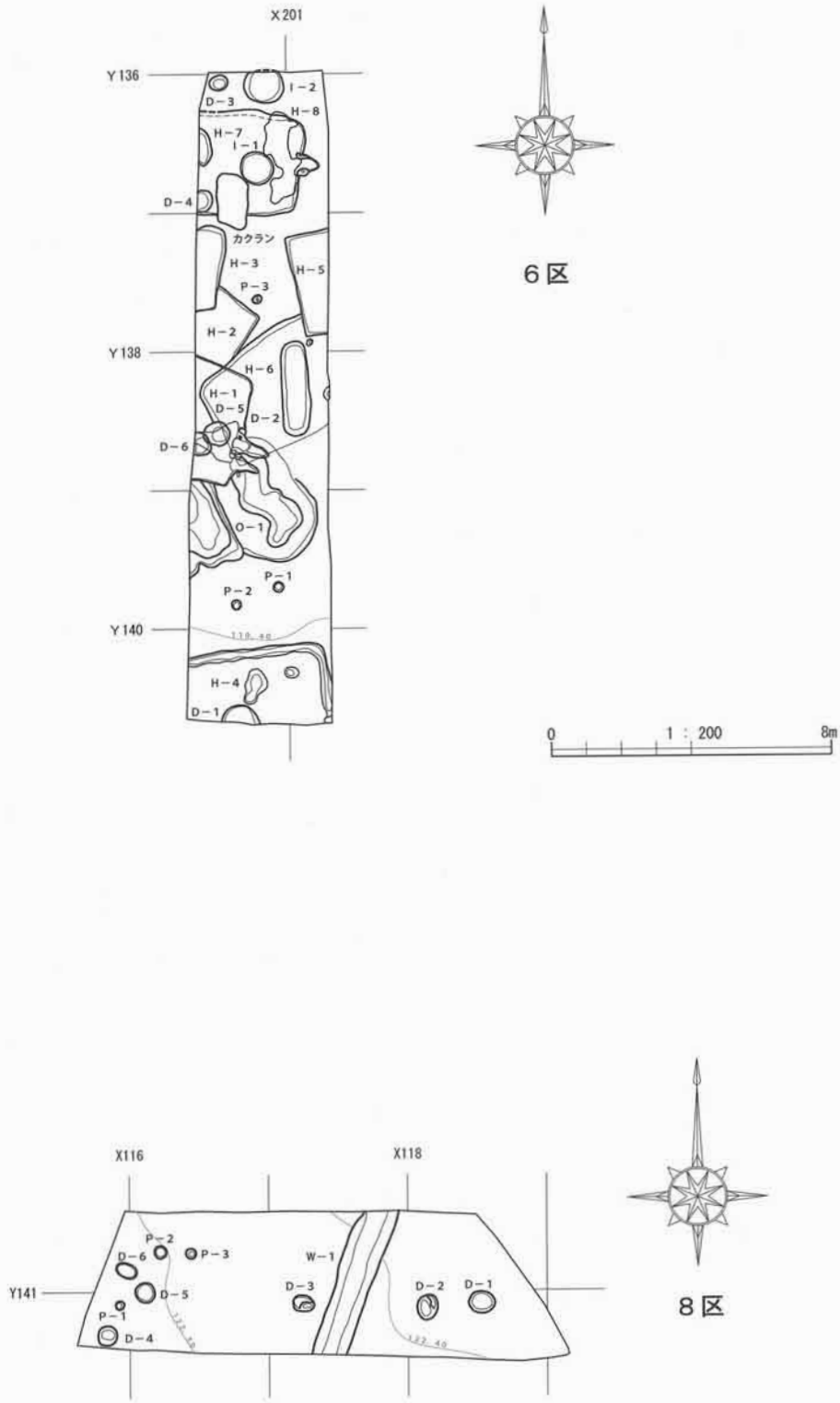


Fig. 8　元総社蒼海遺跡群(20)　6・8区全体図

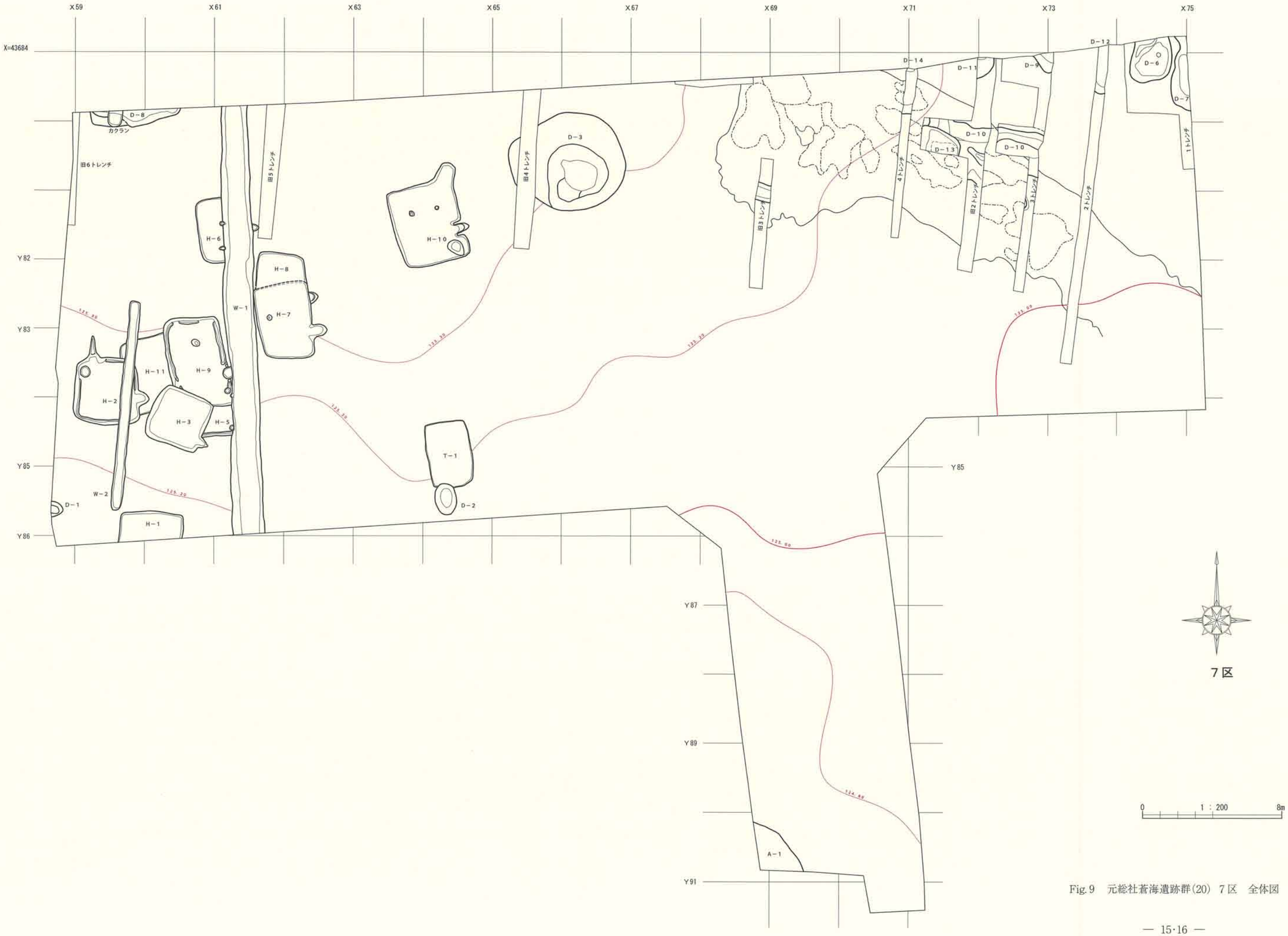


Fig. 9　元総社蒼海遺跡群(20)　7区　全体図

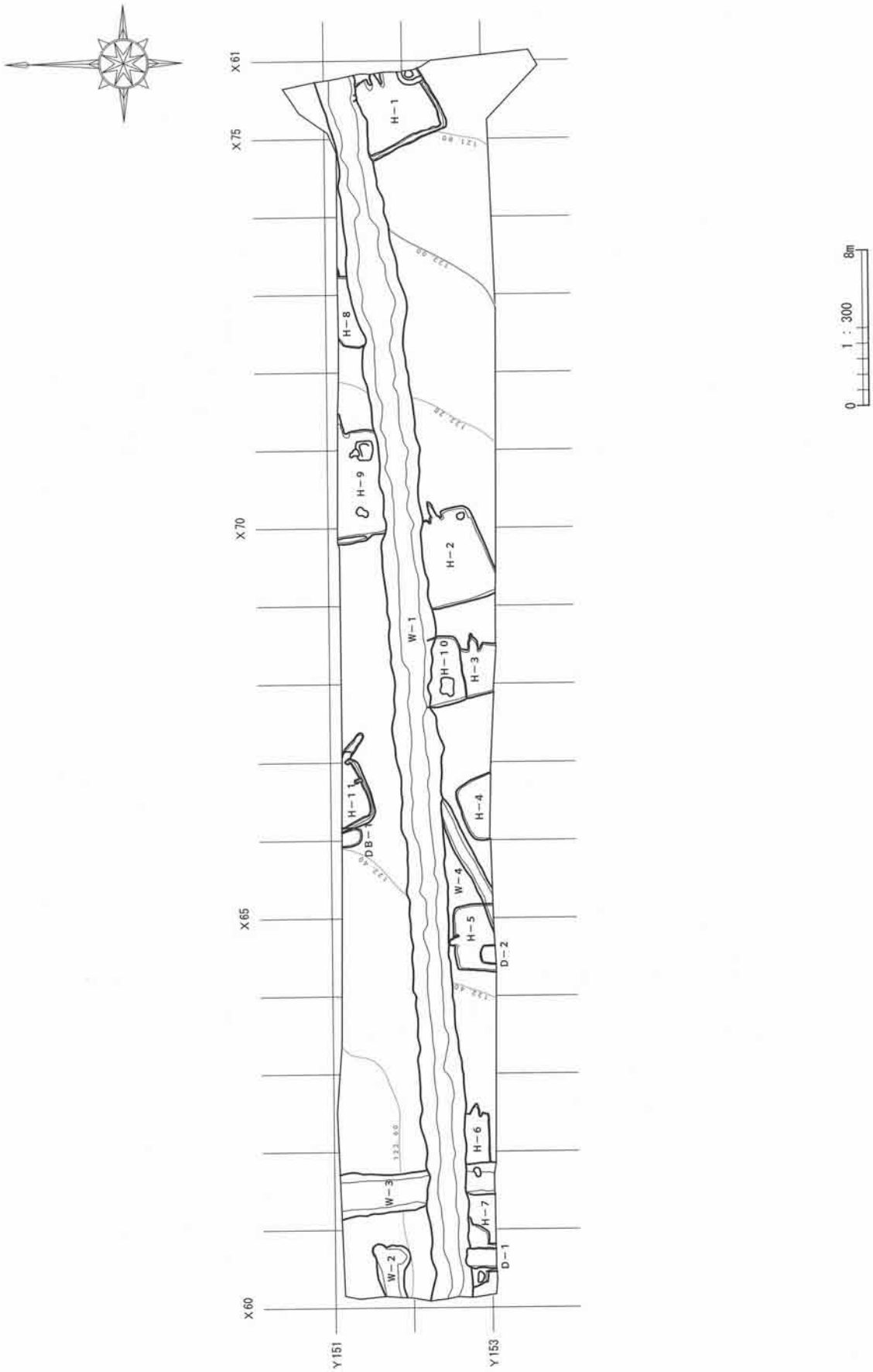
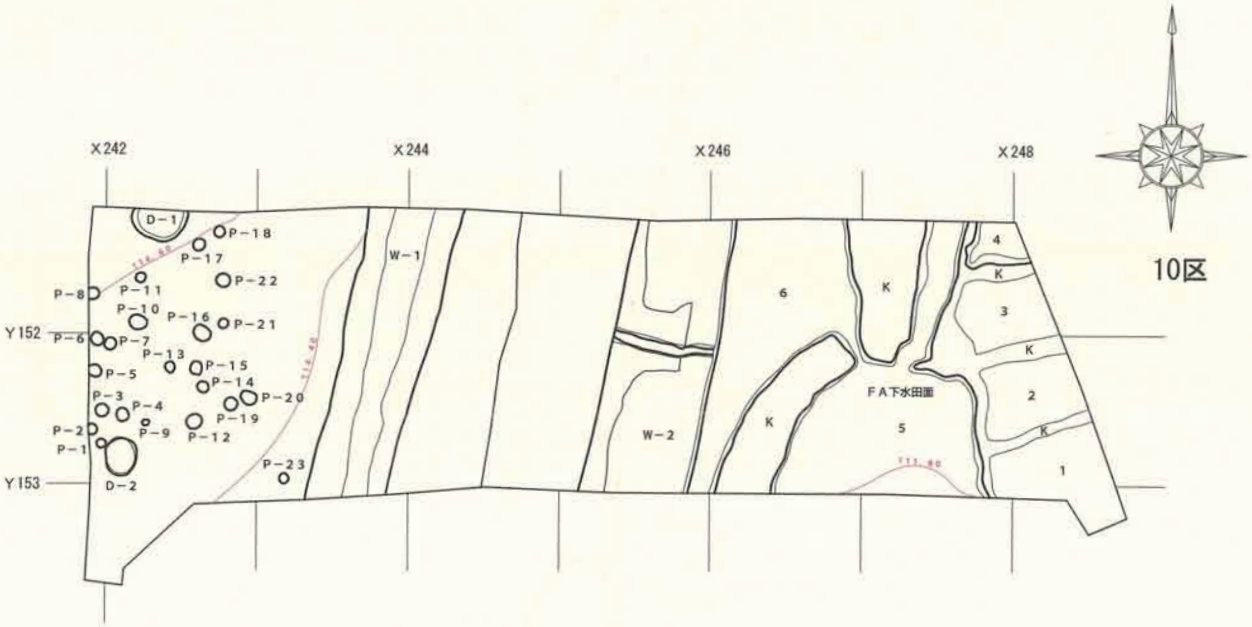
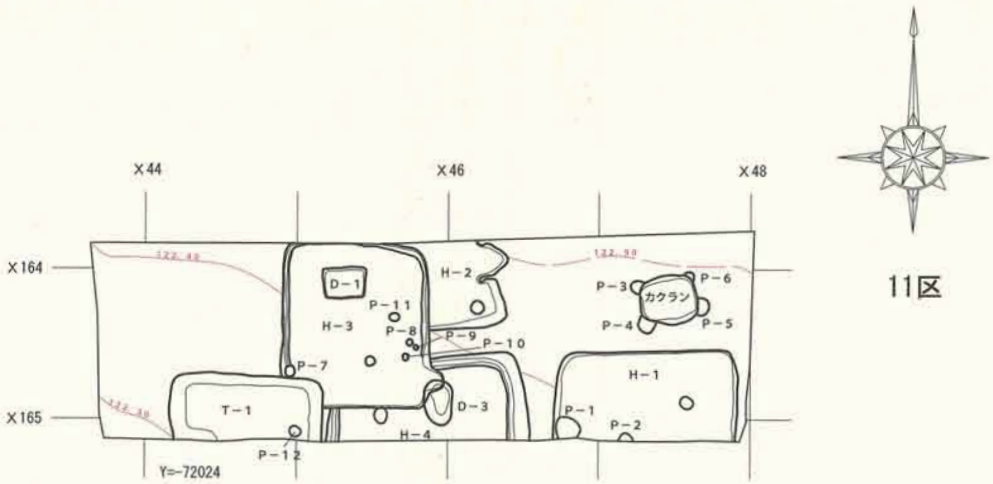


Fig.10　元総社蒼海遺跡群(20)　9区全体図

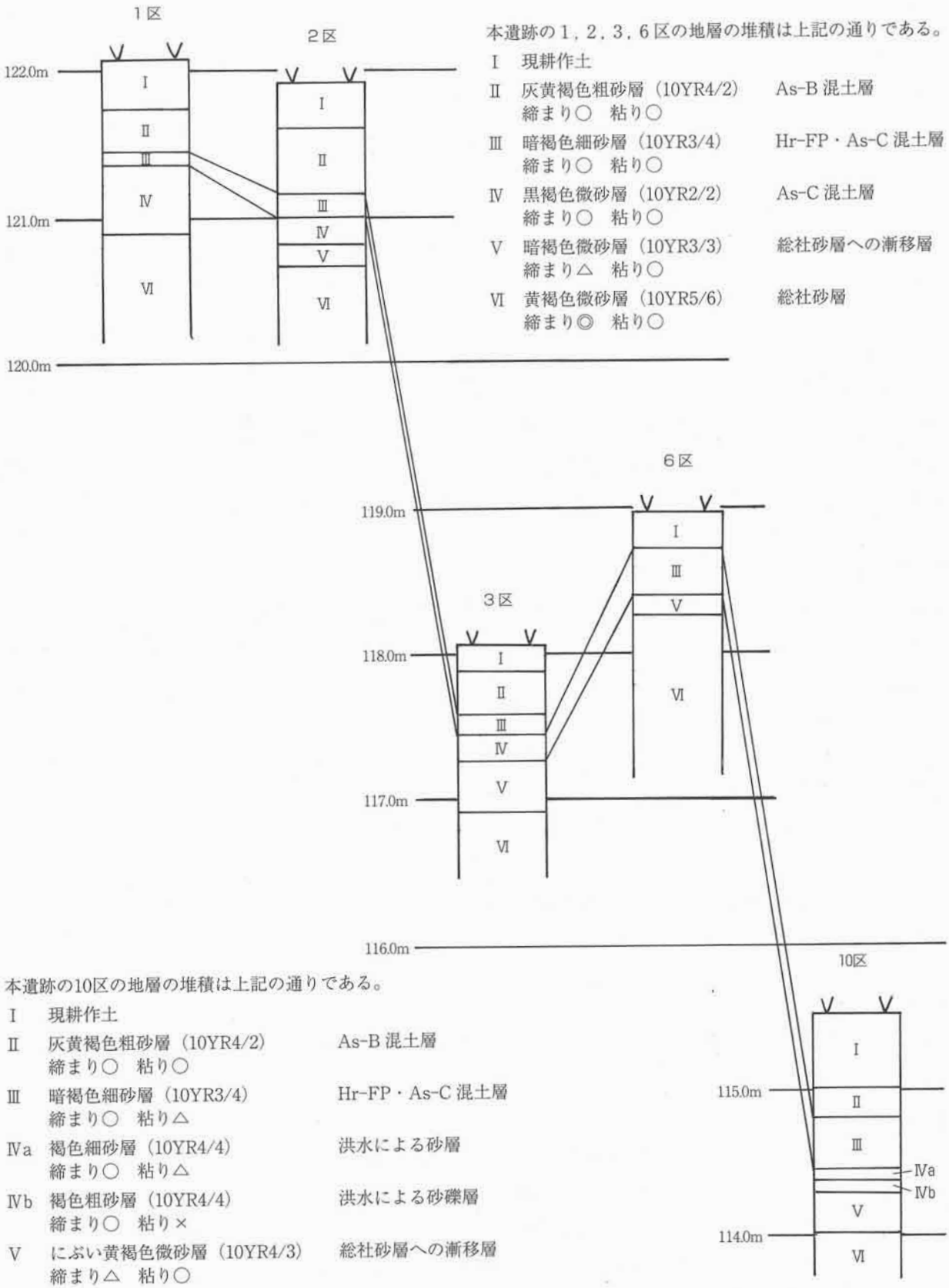




0 1 : 200 8m

Fig.11　元総社蒼海遺跡群(20) 10・11区全体図

Ⅳ　基本層序



本遺跡の１，２，３，６区の地層の堆積は上記の通りである。

Ⅰ	現耕作土	
Ⅱ	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2） 締まり○　粘り○	As-B 混土層
Ⅲ	暗褐色細砂層（10YR3/4） 締まり○　粘り○	Hr-FP・As-C 混土層
Ⅳ	黒褐色微砂層（10YR2/2） 締まり○　粘り○	As-C 混土層
Ⅴ	暗褐色微砂層（10YR3/3） 締まり△　粘り○	総社砂層への漸移層
Ⅵ	黄褐色微砂層（10YR5/6） 締まり◎　粘り○	総社砂層

本遺跡の10区の地層の堆積は上記の通りである。

Ⅰ	現耕作土	
Ⅱ	灰黄褐色粗砂層（10YR4/2） 締まり○　粘り○	As-B 混土層
Ⅲ	暗褐色細砂層（10YR3/4） 締まり○　粘り△	Hr-FP・As-C 混土層
Ⅳa	褐色細砂層（10YR4/4） 締まり○　粘り△	洪水による砂層
Ⅳb	褐色粗砂層（10YR4/4） 締まり○　粘り×	洪水による砂礫層
Ⅴ	にぶい黄褐色微砂層（10YR4/3） 締まり△　粘り○	総社砂層への漸移層
Ⅵ	黄褐色微砂層（10YR5/6） 締まり◎　粘り○	総社砂層

Fig.12　基本層序

V　遺構と遺物

1区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.13・62・85、PL.1・19）

位置　X151、Y127・128グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.22）m、南北（3.12）m、壁現高46.0cm。　**面積**　（11.55）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－90°－E。全長68cm、最大幅76cm、焚口部幅46cm。構築材に凝灰岩、粘土、袖部に瓦を用いる。　**重複**　W－2と重複しており、新旧関係はW－2→本遺構　**出土遺物**　土師器27点、須恵器22点、瓦21点、鉄製品2点、石製品1点。そのうち土師器坏1点、須恵器小型坏1点・須恵器甕1点・須恵器蓋1点、瓦4点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

(2)　溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.14、PL.1）

位置　X150・151、Y127・128グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**形状等**　逆台形。　長さ　6.0m　深さ　87.0cm　最大上幅270cm、最大下幅82cm　**出土遺物**　土師器1点、須恵器3点、縄文土器1点、石製品1点。　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－2号溝跡（Fig.14・62・85、PL.1・19）

位置　X151・152、Y127・128グリッド　**主軸方向**　N－6°－E　**形状等**　逆台形。　長さ　6.4m　深さ　129.5cm　最大上幅406cm、最大下幅140cm　**出土遺物**　土師器105点、須恵器64点、瓦9点、縄文土器41点、鉄製品3点、灰釉陶器3点。そのうち土師器坏1点、須恵器蓋1点、鉄製品3点を図示。　**時期**　覆土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

(3)　土坑、井戸跡（Fig.13）

土坑、井戸跡については、Tab.4土坑、井戸跡計測表を参照のこと。

(4)　グリッド等出土遺物（Fig.85、PL.36）

土師器95点、須恵器62点、瓦12点、鉄製品2点、石製品5点を出土。そのうち鉄製品2点を図示。

2区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.15・62、PL.2・20）

位置　X155・156、Y140グリッド　**主軸方向**　N－94°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.26）m、南北（1.68）m、壁現高9.0cm。　**面積**　（3.17）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－96°－E。全長112cm、最大幅124cm、焚口部幅56cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**重複**　H－2と重複しており、新旧関係は本遺構→H－2　**出土遺物**　土師器32点、須恵器3点、瓦3点。そのうち土師器甕3点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.15、PL.2）

位置　X155、Y141グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（0.52）m、南北（3.82）m、壁現高11.0cm。　**面積**　（1.40）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－1と重複しており、新旧関係はH－1→本遺構　**時期**　時期は覆土と重複関係から10世紀後半以降からAs-B降下以前と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.16・62・85・89、PL.2・20）

位置　X160・161、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－127°－W　**形状等**　長方形。東西4.74m、南北4.30m、壁現高27.0cm。　**面積**　17.36㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　西壁中央北寄りに位置する。主軸方向N－132°－W。全長110cm、最大幅100cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、袖部に瓦、川原石を用いる。　**出土遺物**　土師器27点、須恵器42点、瓦12点、灰釉陶器4点、石製品4点、鉄製品1点。そのうち須恵器小型坏2点、瓦4点、鉄製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.16・64、PL.2・20）

位置　X161・162、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－101°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.30）m、南北（1.40）m、壁現高38.0cm。　**面積**　（4.78）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－5、10と重複しており、新旧関係はH－5→H－10→本遺構　**出土遺物**　土師器18点、須恵器10点、瓦2点、灰釉陶器3点。そのうち土師器甕1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.17・62、PL.2・20）

位置　X162・161、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.00）m、南北（3.71）m、壁現高27.0cm。　**面積**　（11.16）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に位置する。主軸方向N－120°－E。全長140cm、最大幅86cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－4、W－4と重複しており、新旧関係はW－4→本遺構→H－10　**出土遺物**　土師器36点、須恵器44点、瓦1点、灰釉陶器4点。そのうち土師器坏1点、須恵器坏1点・須恵器高台椀1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.17・63・85・89、PL.3・20・21）

位置　X162・163、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.30）m、南北（2.20）m、壁現高30.0cm。　**面積**　（11.85）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－92°－E。全長112cm、最大幅80cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土、瓦を用いる。　**重複**　H－9と重複しており、新旧関係はH－9→本遺構　**出土遺物**　土師器290点、須恵器90点、瓦21点、瓦6点、灰釉陶器1点、鉄製品1点。そのうち土師器甕4点、須恵器小型坏3点、瓦1点、鉄製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.18・62、PL.20・21）

位置　X164・165、Y141グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.02）m、南北（1.50）m、壁現高29.0cm。　**面積**　（2.62）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8　**出土遺物**　土師器13点、須恵器19点。そのうち土師器甕1点、須恵器高台椀3点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.18）

位置　X165、Y141グリッド　**主軸方向**　N－99°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.99）m、南北（1.80）m、壁現高28.0cm。　**面積**　（3.72）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－7，11と重複しており、新旧関係はH－7，11→本遺構　**時期**　覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.18・63・64、PL.3・21）

位置　X165～167、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.24）m、南北（4.90）m、壁現高45.0cm。　**面積**　（8.88）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－6　**出土遺物**　土師器180点、須恵器47点。そのうち土師器坏5点、須恵器甕1点・須恵器蓋1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.16、PL.2）

位置　X162・163、Y140グリッド　**主軸方向**　N－102°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.40）m、南北（1.60）m、壁現高11.0cm。　**面積**　（2.76）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　W－2と重複しており、新旧関係はH－5→本遺構→H－4　**出土遺物**　須恵器1点。　**時期**　覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.18）

位置　X106、Y141グリッド　**主軸方向**　N－106°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.20）m、南北（1.70）m、壁現高21.0cm。　**面積**　（2.97）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－11　**出土遺物**　土師器41点、須恵器20点、瓦2点、鉄製品2点。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

(2)　溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.19）

位置　X156、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－1°－E　**形状等**　U字形。　長さ　2.8m　深さ　17.0cm　最大上幅80cm、最大下幅54cm　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－2号溝跡（Fig.19）

位置　X157、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－45°－E　**形状等**　U字形。　長さ　2.9m　深さ　13.5cm　最大上幅74cm、最大下幅56cm　**時期**　覆土からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－3号溝跡（Fig.19）

位置　X157～160、Y141グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　U字形。　長さ　11.5m　深さ　29.5cm　最大上幅160cm、最大下幅100cm　**出土遺物**　土師器20点、須恵器16点。　**時期**　覆土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－4号溝跡（Fig.19・63・64、PL.3・22）

位置　X163・164、Y140・141グリッド　**主軸方向**　N－18°－W　**形状等**　逆台形。　長さ　4.8m　深さ　69.5cm　最大上幅323cm、最大下幅54cm　**出土遺物**　土師器186点、須恵器251点、石製品1点。そのうち土師器甕3点・土師器高坏1点、須恵器坏1点・須恵器甕1点・須恵器壺2点を図示。　**時期**　覆土と重複関係から

Hr-FP 降下以降 9 世紀以前と考えられる。 **備考** 流水の痕跡無し。

(3) 土坑 (Fig.18、PL. 3)

土坑については、Tab. 4 土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物 (Fig.64、PL.22)

土師器158点、須恵器86点、瓦14点、縄文土器 1 点、灰釉陶器 2 点、石製品 6 点を出土。このうち須恵器甕 1 点を図示。

3区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡 (Fig.20・65、PL.23)

位置 X283、Y135～136グリッド **主軸方向** 不明 **形状等** 遺構本体の多くは調査区外にあり、東壁側の一部と竈部分を確認。 **面積** 検出部分で (1.22)㎡ **床面** わずかに堅緻面を確認。 **竈** 東壁側に付設。主軸方向N－63°－E。全長71cm、最大幅52cm、焚口部幅30cm。本体は粘土で構築、被熱により焼土化している。手袖部両側に、径20～25cm大の安山岩自然礫を設置する。 **重複** H－3と重複しており、新旧関係はH－3→本遺構 **出土遺物** 床面出土の遺物 2 点を図示。 **時期** 重複関係や出土遺物から10世紀中～後半頃。

H－2号住居跡 (Fig.20・65、PL. 4 ・23)

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド **主軸方向** N－65°－E **形状等** 検出部分から、方形状をなす。 **規模** 東西5.16m、南北 (3.11) m、壁高55.5cm。 **面積** (10.56)㎡。 床面ほぼ平坦。竈手前付近を中心に不整形状に堅緻面が拡がる。 **貯蔵穴** 北東コーナー部に平面方形状で確認。またピット西～南側にはL字状をなし、粘質土主体の高さ 5 cm程度の周堤で区画する。P5掘削土で構築。周提部上面で炭化材確認。 **竈** 東壁側に付設。主軸方向N－96°－E。全長 (106) cm、最大幅 (64) cm、焚口幅 (30) cm。袖部は粘土構築、長く舌状に張出す。燃焼部内側の焼土分布拡がる。 **重複** H－7と重複。H－2→7の順。 **出土遺物** 竈内で土師器坏(3)が出土したほか、東壁下・竈前付近の床面遺物を中心に図化。 **時期** 出土遺物から 6 世紀末～ 7 世紀初頭頃。

H－3号住居跡 (Fig.21・65、PL. 4 ・23)

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド **主軸方向** N－96°－E **形状等** 南北に長い方形状。 **規模** 東西 (2.64) m、南北 (3.11) m、壁高33.0cm。 **面積** 〔7.96〕㎡ **床面** ほぼ平坦。さほどの堅緻はみられない。ピット等は確認できなかった。 **竈** 東壁南寄りに付設。主軸方向N－99°－E。全長70cm、最大幅57cm、焚口幅30cm。袖部・燃焼部には構築材・支脚材の安山岩礫がまとまる。 **重複** O－1・D－1と重複。いずれより本跡が旧い。 **出土遺物** 比較的竈付近の床面に集中。 **時期** 出土遺物から10世紀中～後半頃か。

H－4号住居跡 (Fig.21・22・65・82、PL. 3 ・23)

位置 X283・284、Y126グリッド **主軸方向** N－87°－E **形状等** 東西に長い方形。東西4.72m、南北2.90m、壁現高36.5cm。 **面積** 12.72㎡ **床面** 北西隅部がやや高まるが、全体的には平坦。暗褐色土を用いた貼床。竈前が堅緻。 **竈** 東壁中央に付設。主軸方向N－96°－E、全長122cm、最大幅76cm。焚口部幅34cm。構築材として両袖に粘土、右袖に円筒埴輪片、右袖には安山岩礫を使用。竈手前には構築材に用いられたと思われる凝灰質

砂岩の流出も確認された。 **重複** W－2と重複し、本遺構が新。 **出土遺物** 総数230点が出土。うち土師器4点（坏1、小型甕2、甕1）、円筒埴輪2点（竈構築材と考えられる）を図示した。 **時期** 出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.22・66・67、PL.4・23・24）

位置 X284・285グリッド、Y134・135グリッド **主軸方向** N－92°－E **形状等** 方形状。 **規模** 東西(3.46)m、南北（4.30)m、現壁高49.0cm。 **面積** (13.19)㎡ **床面** 南東側付近で、比較的平坦面形成。 **竈** 未検出。**重複** 中央部分で（D－3・4・5・7）土坑が出土。これらについては、床下土坑の可能性も想定されたが、須恵器甕（20・21・24）等が、住居跡覆土上面～土坑（D－3・5）の底面にかけて出土することから、住居跡床あるいは下面（床下土坑）のいずれかに帰属するといった状況は窺えない。土坑群との関係は遺物出土状況から、住居跡→土坑群（D－3・5、若干の時間差でD－4）であろうか。 **出土遺物** 住居跡覆土～D－3・5内に須恵器大甕（20・24)、住居跡床面で同（21)、D－3底面で土師器高坏（19）が出土。(20）はH－6出土片を含む等の特徴を示す。 **時期** 5世紀末～6世紀初め頃。

H－6号住居跡（Fig.23・24・68・81・82、PL.5・6・24～26）

位置 X283・284、Y127～129グリッド **主軸方向** N－69°－E **形状等** 正方形。東西6.98m、南北7.00m、壁現高73.0cm。南壁中央やや東側に張り出しがある。 **面積** (36.57)㎡ **覆土** 地山の黄褐色土ブロックを多量に含み、人為的に埋められたような状況が看取された。 **床面** 全体的に平坦で、竈前に広く堅緻面を確認。黄褐色土と黒褐色土で貼床を施す。住居西側の床面には広く灰の分布が認められた。 **間仕切り** 3ヵ所で間仕切りと思われる溝状の掘り方を検出。長さ0.9～1.4m、幅0.2m、深さ10～15cm程度。 **竈** 東壁中央やや南に付設。主軸方向N－73°－E、全長152cm、最大幅87cm。焚口部幅45cm。両袖は粘土により構築され、袖石・天井石および支脚に凝灰質砂岩を使用している。天井石（Fig.82 3－石18）は崩落した状況で出土。支脚周辺には粘土が分布しており、粘土により固定されていたと見られる。また土師器甕底部（No.47）が支脚頂部に被さった状態で出土している。 **貯蔵穴** 住居南東隅で検出。形状は隅丸方形で長軸116cm、短軸113cm、深さ55cmを測る。貯蔵穴内から土師器甑（No.51）が出土。 **張り出し** 台形、東西1.18m、南北0.4mを測る。張り出し部周辺は床面がわずかに堤状に高まる（馬蹄形状遺構)。馬蹄形状遺構中央部からは梯子穴と思われるピット（P_6）を検出。これらは、入口施設に関連するものと考えられる。 **重複** O－1と重複し、本遺構が切られる。 **出土遺物等** 床面および壁面際から炭化材が多数出土し、とくに南・西壁付近での出土が多かった。遺物は竈周辺で土師器坏・甕などがまとまって出土した。また、南西隅部では菰編石14点が出土している。遺物の総数は1，167点。うち土師器坏・甕、手づくね小型坏、須恵器、菰編石などを図示した。 **時期** 出土遺物から5世紀末～6世紀初頭と考えられる。 **備考** 炭化材の出土状況や覆土の状況などを勘案すると住居焼失後、人為的に埋められたものと考えられる。遺構・遺物とも残存状況が良く、該期の諸特徴をよく表している。

H－7号住居跡（Fig.25・69、PL.6・25）

位置 X283・284グリッド、Y135・136グリッド **主軸方向** N－88°－E **形状等** 南半部は調査区外。現状から、南北に長い方形状か。 **規模** 東西2.65m、南北（2.34)m、現壁高16.5cm。 **面積** (5.67)㎡ **床面** ほぼ平坦。中央部分で黒褐色土主体の堅緻面を確認。 **重複** H－1・9と重複、新旧は、H－9→7→1の順である。 **出土遺物** 遺物数は少なく、覆土内出土の土師器坏（52）を図化。 **時期** 出土遺物から、7世紀末頃であろうか。

H－8号住居跡（Fig.25、PL.6）

位置　X283・284、Y132・133グリッド　**主軸方向**　N－101°－E　**形状等**　西側が落ち込み（O－1）により切られるが、調査区西壁際に床面が残存していた。方形と推測される。東西（3.57）m、南北3.66m、壁現高26.0cm。　**面積**　(5.79)㎡　**床面**　全体的に平坦で堅緻。部分的に黄褐色土で貼床を施す。　**竈**　東壁南寄りに付設。主軸方向N－100°－E、全長85cm、最大幅72cm。焚口部幅38cm。竈壁面および周辺部に粘土を貼付して構築している。また、周辺からは構築材として用いたとみられる安山岩礫片が出土した。　**重複**　O－1、D－2と重複し、いずれも本遺構を切る。　**出土遺物**　総数61点が出土。　**時期**　出土遺物は少ないものの概ね9世紀代と推測される。

H－9号住居跡（Fig.26・69・83、PL.6・25）

位置　X283・284グリッド、Y134～136グリッド　**主軸方向**　N－76°－E　**形状等**　東半側1/2程度を検出。現状から整った方形状をなすとみられる。　**規模**　東西（5.82）m、南北（3.70）m、現壁高24.5cm。　**面積**　(9.49)㎡　**床面**　ほぼ平坦。中央東寄りの壁下で、不整形状に堅緻面が拡がる。　**間仕切り**　東壁下で、長1.6m、幅20cm、深18cmの溝状。**貯蔵穴**　東壁下南寄りに出土。平面方形状。　**竈**　H－7に切られ本体は未検出だが、間仕切りの南側に竈関連とみられる、灰色粘土主体分布が確認された。　**重複**　H－9→7の順。**出土遺物**　竈付近床面を中心に菰編石群、貯蔵穴内で土師器坏（54）、床面で同（53）が出土。　**時期**　出土遺物から7世紀前半代。

H－10号住居跡（Fig.26・27・69・70・83、PL.7・25）

位置　X284・285グリッド、Y132・133グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　隅丸方形状　**規模**　東西3.13m、南北3.73m、現壁高41.0cm　**面積**　10.68㎡　**床面**　ほぼ平坦。竈手前付近を中心に堅緻面拡がる。　**貯蔵穴**　南東コーナー部で検出。　**竈**　東壁南寄りに付設。袖部に大形自然礫を配し、燃焼部内には支脚材や、構築材に使用したとみられる礫、土釜等の土器類が散在する。主軸方向N－89°－E。全長102cm、最大幅73cm、焚口幅38cm。　**出入口**　南壁下中央部分で、幅75cm程度のテラス中央部分に少ピット1本を確認、梯子穴であろうか。　**重複**　北半側でH－14と重複。H－14→10の順。　**出土遺物**　竈内、焚口付近を中心に集中していた。
時期　出土遺物から、おおよそ10世紀後半頃。

H－11号住居跡（Fig.27・70、PL.7・26）

位置　X284・285、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　南北に長い長方形。東西3.88m、南北4.90m、壁現高14.0cm。　**面積**　17.64㎡　**床面**　全体的に平坦で、竈前を中心に堅緻。　**竈**　東壁南東隅近くに付設。主軸方向N－91°－E、全長68cm、最大幅44cm。焚口部幅22cm。　**貯蔵穴**　中央南壁近くでP_5を検出。形状は楕円形、長径72cm、短径57cm、深さ51cm。　**重複**　H－12・13・15、W－1と重複し、新旧関係はH－12→H－13→H－15→本遺構→W－1の順。　**出土遺物**　総数116点が出土した。そのうち須恵器小型坏1点、灰釉陶器段皿1点を図示した。　**時期**　出土遺物から11世紀前半と推測される。

H－12号住居跡（Fig.28、PL.7）

位置　X283・284、Y129～131グリッド　**主軸方向**　N－53°－E　**形状等**　東西に長い長方形。東西5.78m、南北3.20m、壁現高32.5cm。　**面積**　(6.62)㎡　**床面**　全体的に平坦で、部分的に堅緻。　**貯蔵穴**　北東隅で検出。形状は方形、長軸49cm、短軸46cm、深さ35.5cm。　**重複**　H－11・13・15、O－1と重複し、新旧関係は本遺構→H－13→H－15→H－11、本遺構→O－1の順。　**出土遺物**　総数66点が出土した。　**時期**　出土遺物が少なく時期決定は難しいが、重複するH－13との関係から、6世紀代と推測される。

H－13号住居跡（Fig.28・70、PL.7・26）

位置　X283～285、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　東西に長い長方形。東西5.64m、南北3.17m、壁現高45.5cm。　**面積**　(21.71)㎡　**床面**　全体的に平坦で、竈前を中心に堅緻。　**竈**　東南隅に付設。撹乱により一部壊される。主軸方向N－131°－E、全長（58)cm、最大幅（85)cm。焚口部幅（44)cm。　**貯蔵穴**　竈北側で検出。形状は楕円形、長径72cm、短径52cm、深さ19.5cm。　**重複**　H－11・12・15と重複し、新旧関係はH－12→本遺構→H－15→H－11の順。**出土遺物**　総数89点が出土。うち土師器坏1点を図示した。　**時期**　出土遺物から6世紀後半と考えられる。

H－14号住居跡（Fig.26・70・71、PL.7・26）

位置　X284・285グリッド、Y131・132グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　現状で隅丸方形状　**規模**　東西3.24m、南北（2.80)m、現壁高38.0cm　**面積**　(7.07)㎡　**床面**　ほぼ平坦。中央部円形状に堅緻面拡がる。**周溝**　西～北壁下の一部に確認。最大幅20cm、深さ4cm前後。　**竈**　東壁北寄りに付設痕。主軸方向N－87°－E、全長84cm、最大幅56cm、焚口幅36cm。　**重複**　H－10、W－5と重複。H－14→10、H－14→W－5の順。　**出土遺物**　竈内、検出南側床面を中心にまとまる。　**時期**　10世紀後半頃。

H－15号住居跡（Fig.29・71、PL.26）

位置　X284・285、Y129・130グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　南北に長い長方形。東西3.50m、南北4.10m、壁現高28.5cm。　**面積**　13.25㎡　**床面**　全体的に平坦で、竈前を中心に堅緻。　**竈**　東壁南東隅近くに付設。主軸方向N－97°－E、全長92cm、最大幅60cm。焚口部幅34cm。　**貯蔵穴**　南西隅で検出。形状は円形、長径74cm、短径72cm、深さ31.5cm。　**重複**　H－11・12・13、W－1と重複し、新旧関係はH－12→H－13→本遺構→H－11→W－1の順。　**出土遺物**　総数48点が出土。うち須恵器坏2点を図示した。　**時期**　出土遺物や重複関係から10世紀後半頃と考えられる。

(2)　溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.30）

位置　X284～285、Y124～129グリッド　**主軸方向**　N－2°－E　**長さ**　23.0m　**最大幅**　上幅120cm、下幅35cm。　**深さ**　31cm　**形状**　U字形　**重複**　W－2、H－11・15と重複し、いずれの遺構よりも新しい。　**出土遺物**　土師器・須恵器など総数17点が出土。　**時期**　覆土にAs-B軽石の混入が認められることから、As-B降下以降と考えられる。

W－2号溝跡（Fig.30、PL.7）

位置　X283～285、Y124～127グリッド　**主軸方向**　N－33°－W　長さ　14.2m　**最大幅**　上幅95cm、下幅36cm。　**深さ**　51cm　**形状**　U字形　**重複**　W－1、H－4と重複し、新旧関係は本遺構→H－4→W－1の順。**出土遺物**　土師器など総数73点が出土。　**時期**　H－4との新旧関係から、7世紀後半以前と考えられる。

W－3号溝跡　欠番

W－4号溝跡（Fig.30、PL.7）

位置　X283～285、Y131グリッド　**主軸方向**　N－87°－W　**長さ**　7.0m　**最大幅**　上幅76cm、下幅36cm。　**深さ**　23.5cm　**形状**　U字形　**重複**　O－1と重複し、切られる。　**出土遺物**　土師器16点が出土。　**時期**　不明。

As-B 軽石降下以前。

W－5号溝跡（Fig.30）

位置　X284・285、Y132グリッド　**主軸方向**　N－86°－W　**長さ**　(3.2)m　**最大幅**　上幅90cm、下幅60cm。**深さ**　18～28.5cm　**形状**　U字形　**重複**　H－14と重複。新旧関係はH－14→本遺構の順。　**出土遺物**　土師器・須恵器・瓦片など総数17点が出土。　**時期**　H－14との関係から、10世紀後半以降と考えられる。

(3)　土坑・ピット・井戸跡・落ち込み（Fig.29・71、PL.7・26）

3区からは土坑8基、ピット2基、井戸跡1基を検出した。土坑・ピットについてはいずれも古代、井戸跡は出土遺物から中世と考えられる。Tab.4にこれらの規模等の詳細を記した。

また、調査区東側には自然地形と考えられる落ち込み（O－1）が確認された。覆土は褐色シルトを多く含む黄褐～暗褐色土で、As-CやHr-FPと思われる白色軽石粒をわずかに含む。As-B軽石は混入しない。砂利層などは確認できず、洪水による堆積層ではなく形成要因は不明であるが、H－6・8・11などはこの落ち込みに切られていた。覆土中からは古墳～平安時代にかけての土器片等が出土しており、うち須恵器坏など6点を図示した。これらの出土遺物からこの落ち込みの堆積層は、10世紀後半以降に形成されたとみられる。

4区

試掘調査のみ

5区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.31・72、PL.8・27）

位置　X32・33、Y159グリッド　**主軸方向**　N－97°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.22)m、南北（2.29)m、壁現高23.0cm。　**面積**　(5.92)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に位置する。主軸方向N－100°－E。全長86cm、最大幅76cm、焚口部幅48cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。　**重複**　W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1　**出土遺物**　土師器102点、須恵器40点、瓦6点、縄文土器9点、石製品4点。そのうち土師器坏1点・土師器甕1点、須恵器坏1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.31・61・72、PL.8・19・27）

位置　X39・40、Y164グリッド　**主軸方向**　N－92°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.22)m、南北(2.29)m、壁現高39.0cm。　**面積**　(10.63)㎡　**床面**　平坦な床面。　**炉**　長軸方向N－72°－E。長軸52cm、短軸48cm、深さ10.5cm。　**出土遺物**　土師器101点、須恵器1点、縄文土器瓦9点、石8点。そのうち土師器甕3点、縄文土器2点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.32・61・73・84・85、PL.8・19・27・28）

位置　X31・32、Y163・164グリッド　**主軸方向**　N－72°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.20)m、南北（3.20)m、壁現高40.0cm。　**面積**　(10.35)㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－82°－E。全長90cm、最大幅123cm、焚口部幅70cm。構築材に粘土と凝灰岩を用いる。　**重複**　H－

7、A－1、W－2、W－3と重複しており、新旧関係はH－7→本遺構→A－1→W－2→W－3　**出土遺物**　土師器216点、須恵器204点、縄文土器36点、鉄製品1点、石製品20点。そのうち土師器坏13点・土師器甕4点、須恵器壺1点・須恵器甕1点、縄文土器2点、石製品1点、鉄製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.32・72、PL.8・28）

位置　X32・33、Y160グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**面積**　不明　**床**　不明　**竈**　位置は不明。主軸方向N－86°－E。全長191cm、最大幅67cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、土師器坏、須恵器坏、瓦、凝灰岩を用いる。　**重複関係**　W－1と重複しており、新旧関係は本遺構→W－1　**出土遺物**　土師器47点、縄文土器4点、石製品2点。そのうち土師器坏1点、須恵器坏1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.33・85、PL.9・28・29）

位置　X34・35、Y164・165グリッド　**主軸方向**　N－59°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.40）m、南北（3.32）m、壁現高36.0cm。　**面積**　（7.30）㎡　**床面**　平坦な床面。　**竈**　中央南寄りに位置する。主軸方向N－63°－E。全長116cm、最大幅112cm、焚口部幅78cm。　**重複**　H－6と重複しており、新旧関係はH－6→本遺構　**出土遺物**　土師器43点、須恵器11点、縄文土器17点、鉄製品1点。そのうち鉄製品1点を図示。　**時期**　覆土からAs-C降下以降から、Hr-FP降下以前と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.33・72・84）

位置　X35・36、Y164・165グリッド　**主軸方向**　N－84°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.48）m、南北（2.27）m、壁現高12.0cm。　**面積**　（4.27）㎡　**床面**　平坦な床面。　**炉**　長軸方向N－25°－E。長軸41cm、短軸35cm、深さ4cm。　**重複**　H－5と重複しており、新旧関係は本遺構→H－5　**出土遺物**　土師器15点、縄文土器2点、鉄製品1点、石製品1点。そのうち土師器甕1点、鉄製品1点、石製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から4世紀代と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.34・61・72、PL.19）

位置　X37・38、Y163・164グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（5.80）m、南北（2.14）m、壁現高58.0cm。　**面積**　（11.06）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－3と重複しており、新旧関係は本遺構→H－3　**出土遺物**　土師器88点、須恵器10点、縄文土器26点、石製品1点。そのうち土師器坩1点・土師器甕2点、縄文土器1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から6世紀後半から7世紀前半と考えられる。

(2) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.35）

位置　X32・33、Y159～163グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**形状等**　逆台形。　**長さ**　16.9m　**深さ**　34.0cm　最大上幅90cm、最大下幅30cm　**出土遺物**　土師器26点、須恵器18点、瓦2点、縄文土器5点、灰釉陶器3点、鉄製品1点。　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－2号溝跡（Fig.35）

位置　X37・38、Y163～165グリッド　**主軸方向**　N－45°－E　**形状等**　U字形。　**長さ**　6.0m　**深さ**

33.5cm　最大上幅80cm、最大下幅40cm　**重複**　H－7、H－3、A－1、W－3と重複しており、新旧関係はH－7→H－3→A－1→本遺構→W－3　**出土遺物**　土師器40点、須恵器10点、瓦2点、縄文土器2点、石製品1点、灰釉陶器3点。　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－3号溝跡（Fig.35）

位置　X36・37、Y163～165グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　U字形。　**長さ**　6.1m　**深さ**　43.0cm　最大上幅155cm、最大下幅88cm　**重複**　H－7、H－3、A－1、W－2と重複しており、新旧関係はH－7→H－3→A－1→W－2→本遺構　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

(3)　道路状遺構

A－1号溝跡（Fig.35）

位置　X37、Y163～165グリッド　**主軸方向**　N－5°－W　**長さ**　6.0m　**最大幅**　18.3cm　**時期**　覆土や重複から8世紀後半以降As-B降下以前と考えられる。

(4)　土坑（Fig.35・61・72・74・84、PL.19・29）

土坑については、Tab.4　土坑・ピット・井戸跡・落ち込み計測表を参照のこと。

(5)　グリッド等出土遺物（Fig.74・61・80、PL.19・29）

土師器762点、須恵器219点、瓦22点、縄文土器327点、灰釉陶器3点、緑釉陶器2点、土製品1点、石製品19点を出土。そのうち土師器甕3点、緑釉陶器2点、縄文土器6点、土製品1点を図示。

6区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.36・74・85、PL.9・29）

位置　X200、Y138グリッド　**主軸方向**　N－104°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.96）m、南北（3.59）m、壁現高7.0cm。　**面積**　（4.86）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－111°－E。全長109cm、最大幅74cm、焚口部幅14cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**重複**　H－2、6と重り、新旧関係はH－6→H－2→本遺構　**出土遺物**　土師器108点、須恵器34点、瓦2点、灰釉陶器1点、鉄製品1点。そのうち須恵器羽釜1点・須恵器小型坏2点・須恵器高台椀1点、鉄製品1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.36、PL.10）

位置　X200、Y137・138グリッド　**主軸方向**　N－125°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（2.38）m、南北（3.42）m、壁現高14.0cm。　**面積**　（9.45）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－1、3、6と重り、新旧関係はH－6→本遺構→H－1、3　**出土遺物**　土師器47点、須恵器10点、瓦1点。　**時期**　覆土や出土遺物から9世紀代と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.36、PL.10）

位置　X200、Y137グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（0.92）m、南北（2.50）m、壁現高18.0cm。　**面積**　（1.70）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－2と重り、新旧関係は→H－2→本遺構　**出土遺物**　土師器10点、須恵器4点、瓦2点。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.37・74、PL.10・29）

位置　X200・201、Y140グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（4.23）m、南北（2.40）m、壁現高18.0cm。　**面積**　（8.81）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**出土遺物**　土師器147点、須恵器15点。そのうち土師器坏1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.37・74、PL.10）

位置　X200・201、Y137グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.32）m、南北（3.00）m、壁現高11.0cm。　**面積**　（2.72）㎡　**床面**　平坦な床。　**重複**　H－6と重り、新旧関係はH－6→本遺構　出土遺物　土師器2点、須恵器27点。そのうち須恵器小型坏2点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から8世紀前半から中葉と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.37）

位置　X200・201、Y137・138グリッド　**主軸方向**　N－60°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.90）m、南北（3.30）m、壁現高22.0cm。　**面積**　（10.83）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**重複**　H－1、2、5と重り、新旧関係は本遺構→H－2→H－1、5　**出土遺物**　須恵器3点。　**時期**　覆土や重複関係から7世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.37・74・85、PL.29）

位置　X200・201、Y137・138グリッド　**主軸方向**　N－60°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西（3.20）m、南北（3.10）m、壁現高20.0cm。　**面積**　（8.48）㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁中央に位置する。主軸方向N－90°－E。全長62cm、最大幅70cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－8と重り、新旧関係は本遺構→H－8　**出土遺物**　土師器239点、須恵器25点、瓦1点、鉄製品2点。そのうち土師器甕2点、鉄製品2点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.74）

位置　X200・201、Y136グリッド　**主軸方向**　不明　**形状等**　不明　**面積**　（4.86）㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**重複**　H－7と重り、新旧関係はH－7→本遺構　**出土遺物**　須恵器2点。そのうち須恵器小型坏1点を図示。　**時期**　重複関係や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

(2)　土坑、ピット、落ち込み、井戸跡（Fig.38・74・85、PL.10・29・30）

土坑、ピット、落ち込み、井戸跡については、Tab.4土坑、ピット、井戸跡等計測表を参照のこと。

(3)　グリッド等出土遺物

土師器390点、須恵器38点、瓦4点、縄文土器1点を出土。

7区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.39）

位置 X59·60、Y85·86グリッド **主軸方向** N－93°－E **規模** 東西3.70m、南北（1.94）m、壁現高17cm。**面積** (5.95)㎡ **床面** 平坦な床面。貼り床有り。周溝有り。 **竈** 竈検出されず。 **出土遺物** 土師器37点、須恵器7点、瓦3点、石類1点。 **時期** 埋土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.39・75、PL.30）

位置 X58～60、Y83·84グリッド **主軸方向** N－92°－E **規模** 東西3.90m、南北3.98m、壁現高52cm。**面積** 14.42㎡ **床面** 平坦で堅緻な貼り床。周溝有。 **竈** 東壁中央やや南と北壁やや西寄りに位置する。東竈 主軸方向N－100°－E。全長94cm、最大幅98cm、焚口部幅42cm。北竈 主軸方向N－2°－E。全長160cm、最大幅90cm、焚口部幅22cm。構築材に粘土を用いる。 **重複** H－11・W－2と重複しており、新旧関係は、H－11→本遺構→W－2の順である。 **出土遺物** 土師器601点、須恵器42点、瓦10点、鉄製品1点。そのうち土師器坏4点、須恵器坏2点、土師器甕1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.40・75、PL.30）

位置 X60、Y83·84グリッド **主軸方向** N－112°－E **規模** 東西3.32m、南北3.32m、壁現高は37.5cm。**面積** 10.56㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－116°－E。全長72cm、最大幅62cm、焚口部幅30cm。構築材に粘土を用いる。 **重複** H－5・9・11と重複しており、新旧関係はH－11・H－5→H－9→本遺構の順である。 **出土遺物** 土師器295点、須恵器47点、瓦52点。そのうち土師器甕1点、カワラケ1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡 欠番

H－5号住居跡（Fig.40）

位置 X60·61、Y84グリッド **主軸方向** N－90°－E **規模** 東西（1.92）m、南北（1.92）m、壁現高は24.0cm。 **面積** (2.92)㎡ **床面** 平坦な床面。周溝有。 **竈** 不明。 **重複** H－3・9・W－1と重複しており、新旧関係は、本遺構が一番古い。 **出土遺物** 土師器67点、須恵器1点、瓦4点。 **時期** 覆土や出土遺物からHr-FP降下以降から8世紀と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.41・75、PL.30・31）

位置 X60·61、Y81·82グリッド **主軸方向** N－85°－E **規模** 東西［2.94］m、南北3.80m、壁現高34.0cm。**面積** ［10.73］㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁に位置する。主軸方向N－90°－E。、W－1により焚口部は削られている。 **重複** W－1と重複しており、新旧関係は、本遺構→W－1の順である。 **出土遺物** 土師器91点、須恵器6点、瓦3点。そのうち土師器坏1点、土師器甕1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世紀中葉と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.41・76、PL.31）

位置 X61·62、Y82·83グリッド **主軸方向** N－85°－E **規模** 東西3.30m、南北［4.50］m、壁現高28.5cm。**面積** ［13.89］㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁に位置する。主軸方向N－84°－E。全長112cm、最大幅

100cm、焚口部幅42cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **重複** H－8と重複しており、新旧関係は、H－8→本遺構の順である。 **出土遺物** 土師器227点、須恵器15点。そのうち土師器坏2点、土師器甕1点、須恵器蓋1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀中葉と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.41・75、PL.31）

位置 X61·62、Y81·82グリッド **主軸方向** N－96°－E **規模** 東西3.00m、南北［2.28］m、壁現高29.0cm。**面積** (5.19)㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁に位置する。主軸方向N－79°－E。全長（52)cm、最大幅（70)cm、焚口部幅［－］cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **重複** H－7と重複しており、新旧関係は、本遺構→H－7の順である。 **出土遺物** 縄文土器1点、土師器214点、須恵器2点、灰釉陶器1点、瓦7点。そのうち土師器坏1点、須恵器坏1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀前半と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.42・76、PL.31）

位置 X60·61、Y83·84グリッド **主軸方向** N－87°－E **規模** 東西3.88m、南北5.24m、壁現高57.5cm。**面積** 19.16㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向［N－80°－E］。全長－cm、最大幅（110)cm、焚口部幅（46)cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **重複** H－3・H－5・H－11・W－1と重複しており、新旧関係は、H－11・H－5→H－9→H－3→W－1の順である。 **出土遺物** 土師器1027点、須恵器65点、灰釉陶器2点、瓦11点、鉄製品1点、石類2点。そのうち土師器坏3点、須恵器坏2点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀中葉と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.42・76、PL.31・32）

位置 X63·64、Y80·82グリッド **主軸方向** N－75°－E **規模** 東西4.38m、南北5.60m、壁現高44.0cm。**面積** 19.27㎡ **床面** 平坦な床面。張り出し床有り。 **竈** 東壁やや南寄りに位置する。主軸方向N－75°－E。全長100cm、最大幅116cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、凝灰岩を用いる。 **出土遺物** 縄文土器1点、土師器389点、須恵器5点、瓦3点、剥片1点。そのうち土師器坏8点、土師器長胴甕1点、須恵器蓋1点を図示。**時期** 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.43）

位置 X59·60、Y83·84グリッド **主軸方向** N－75°－E **規模** 東西（2.90）m、南北（4.34）m、壁現高16.5cm。 **面積** (7.53)㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。 **竈** 不明。 **重複** H－2・3・9・W－2と重複しており、新旧関係は、本遺構が一番古い。 **出土遺物** 土師器72点、須恵器6点、瓦3点、石類1点。 **時期** 覆土や出土遺物、重複関係から8世紀初頭と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.40）

位置 X63・64、Y84·85グリッド **主軸方向** N－80°－E **規模** 東西（2.64）m、南北（3.84）m、壁現高12.5cm。**面積** 9.41㎡ **床面** 平坦な床面。 **竈** 不明。 **重複** D－2と重複しており、新旧関係は、本遺構→D－2の順である。 **出土遺物** 土師器314点、須恵器29点、石類1点。 **時期** 埋土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。

(3) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.43・76、PL.32）

位置　X61、Y79～84グリッド　**主軸方向**　N－3°－W　**長さ**　20.90m　**最大幅**　上幅190.0cm、下幅148.0。**深さ**　74.0cm　**形状等**　逆台形　**重複**　H－5～9と重複しており、新旧関係は本遺構が一番新しい。　**出土遺物**　縄文土器1点、土師器956点、須恵器144点、瓦245点、須恵器1点を図示。　**時期**　埋土から9世紀以降As-B降下以前と考えられる。

W－2号溝跡（Fig.43）

位置　X59、Y82･85グリッド　**主軸方向**　N－5°－E　**長さ**　12.24m　**最大幅**　上幅66.0cm、下幅48.0cm　**深さ**　32cm　**形状等**　U字形　**重複**　H－2・H－11と重複し、新旧関係はH－11→H－2→本遺構の順である。**出土遺物**　土師器38点、須恵器10点、灰釉陶器2点、瓦2点。　**時期**　覆土や出土遺物、重複関係からAs-B降下以降と考えられる。

(4) 道路状遺構

A－1号道路状遺構（Fig.43）

位置　X68･69、Y90グリッド　**主軸方向**　N－42°－W　**長さ**　4.04m　**最大幅**　上幅220.0cm、下幅200.0cm　**高さ**　15.0cm　**出土遺物**　灰釉陶器2点、瓦10点。　**時期**　覆土と出土遺物からAs-B降下以前と考えられる。

(5) 土坑・ピット（Fig.44～46・77・87・88・90～92、PL.32・37・38）

土坑・ピットについては、Tab.4　土坑・ピット計測表を参照のこと。遺物は、縄文土器1点、土師器134点、須恵器95点、灰釉陶器2点、瓦2,809点が出土した。そのうち瓦10点を図示した。

(6) グリッド等出土遺物（Fig.86～88、PL.36・38）

土師器571点、須恵器214点、灰釉陶器14点、石26点、瓦3，375点、剥片1点、鉄製品1点、銭貨1点、陶器11点。そのうち瓦19点、鉄製品1点を図示。

8区

(1) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.47、PL.14）

位置　X117、Y141グリッド　**主軸方向**　N－20°－E　**形状等**　逆台形。　**長さ**　4.4m　**深さ**　36.5cm　最大上幅114cm、最大下幅49cm　**出土遺物**　土師器1点。　**時期**　覆土からHr-FP降下以降As-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

(2) 土坑、ピット（Fig.47、PL.14）

土坑、ピットについては、Tab.4　土坑、ピット計測表を参照のこと。

(3) グリッド等出土遺物

土師器13点、須恵器1点、瓦1点を出土。

9区

(1) 竪穴住居跡

H－1号住居跡（Fig.48・77、PL.14・32）

位置 X73・74、Y151・152グリッド **主軸方向** N－65°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.96）m、南北（4.42）m、壁現高37.0cm。 **面積** （14.11）㎡ **床面** 平坦で堅緻な貼り床。 **竈** 東壁中央に位置する。主軸方向N－68°－E。全長86cm、最大幅106cm、焚口部幅33cm。 構築材に粘土を用いる。 **重複** W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器35点、須恵器6点、瓦1点。そのうち土師器坏1点・土師器甕1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.48・77、PL.14・32）

位置 X68～70、Y152・153グリッド **主軸方向** N－76°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（4.95）m、南北（3.95）m、壁現高36.0cm。 **面積** （16.08）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－65°－E。全長140cm、最大幅80cm、焚口部幅20cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。 **重複** W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器60点、瓦1点。そのうち土師器坏1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.49・77・78、PL.15・32・33）

位置 X68・69、Y152・153グリッド **主軸方向** N－75°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（2.60）m、南北（2.12）m、壁現高29.0cm。 **面積** （4.08）㎡ **床面** 平坦で堅緻な貼り床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－90°－E。全長96cm、最大幅80cm、焚口部幅44cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。 **重複** H－10と重り、新旧関係は本遺構→H－10 **出土遺物** 土師器176点、須恵器12点、縄文土器1点。そのうち土師器坏4点・土師器甕2点、須恵器坏2点・須恵器高台椀1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.49・77・79、PL.15・33）

位置 X59・60、Y152・153グリッド **主軸方向** N－68°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.20）m、南北（2.25）m、壁現高35.0cm。 **面積** （4.46）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **出土遺物** 土師器82点、須恵器18点、瓦1点、縄文土器1点。そのうち土師器坏1点・土師器甕1点、須恵器坏1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.50・77、PL.15・33）

位置 X64・65、Y152・153グリッド **主軸方向** N－93°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.53）m、南北（2.36）m、壁現高27.0cm。 **面積** （6.65）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 北壁中央に位置する。主軸方向N－11°－W。全長60cm、最大幅66cm、焚口部幅32cm。構築材に粘土、袖部に川原石を用いる。 **重複** W－1、4と重り、新旧関係は本遺構→W－4→W－1 **出土遺物** 土師器261点、須恵器28点、瓦1点、縄文土器8点。そのうち土師器坏1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.50・61・77・89、PL.15・19・33）

位置 X61・62、Y152グリッド **主軸方向** N－85°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（2.62）m、南北（1.45）m、壁現高32.0cm。 **面積** （3.41）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－

96°－E。全長70cm、最大幅66cm、焚口部幅34cm。構築材に粘土、支脚石に瓦を用いる。 **重複** W－1、3と重り、新旧関係は本遺構→W－3→W－1 **出土遺物** 土師器102点、須恵器44点、瓦10点、縄文土器5点、石製品2点。そのうち土師器甕1点、須恵器高台椀2点、瓦1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.51・77・86、PL.16・33）

位置 X60・61、Y152グリッド **主軸方向** N－92°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.28）m、南北（1.31）m、壁現高21.0cm。 **面積** （3.43）㎡ **床面** 平坦な床。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－95°－E。全長36cm、最大幅36cm、焚口部幅27cm。構築材に粘土を用いる。 **重複** W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器23点、須恵器9点、瓦5点、縄文土器1点、鉄製品2点。そのうち須恵器高台椀1点、鉄製品2点、縄文土器1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から9世紀後半と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.51、PL.16）

位置 X72・73、Y151グリッド **主軸方向** N－92°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.70）m、南北（1.64）m、壁現高32.0cm。 **面積** （3.52）㎡ 床面 平坦な貼り床。 **竈** 東壁中央南寄りに位置する。主軸方向N－85°－E。全長128cm、最大幅56cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土を用いる。 **重複** W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器31点。 **時期** 覆土からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。

H－9号住居跡（Fig.51・78、PL.16・33）

位置 X68・69、Y151グリッド **主軸方向** N－79°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（5.72）m、南北（3.22）m、壁現高31.0cm。 **面積** （15.59）㎡ **床面** 平坦で堅緻な貼り床。 **竈** 東壁南寄りに位置する。主軸方向N－85°－E。全長128cm、最大幅56cm、焚口部幅24cm。構築材に粘土を用いる。 **重複** W－1と重り、新旧関係は本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器565点、須恵器59点、縄文土器9点、灰釉陶器4点。そのうち土師器坏4点・土師器甕4点、須恵器甕1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

H－10号住居跡（Fig.49、PL.15）

位置 X68・69、Y152グリッド **主軸方向** N－83°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.64）m、南北（2.40）m、壁現高33.0cm。 **面積** （5.43）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **重複** H－3、W－1と重り、新旧関係はH－3→本遺構→W－1 **出土遺物** 土師器15点、須恵器1点、瓦1点。 **時期** 覆土や重複関係から9世紀代と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.52・79、PL.16・33・34）

位置 X66・67、Y150・151グリッド **主軸方向** N－68°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（3.70）m、南北（2.12）m、壁現高51.0cm。 **面積** （4.43）㎡ **床面** 平坦な貼り床。 **竈** 東壁南に位置する。主軸方向N－122°－E。全長150cm、最大幅49cm、焚口部幅40cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。 **出土遺物** 土師器224点、須恵器12点。そのうち土師器坏5点・土師器甕2、須恵器高台椀1点を図示。 **時期** 覆土や出土遺物から7世紀後半と考えられる。

(2) 溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.54・55・79・84・85・89、PL.16・34・36）

位置　X60～75、Y151・152グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　逆台形。　**長さ**　63.0m　**深さ**　82.0cm　最大上幅280cm、最大下幅170cm　**重複**　H－1，2，5，6，7，8，9，10と重なり、新旧関係はH－1，2，5，6，7，8，9，10→本遺構　**出土遺物**　土師器1200点、須恵器532点、瓦59点、縄文土器24点、灰釉陶器6点、石製品2点、銭貨点。そのうち土師器坏1点、土師器甕1点、須恵器高台椀1点、瓦1点、石製品2点を図示。**時期**　覆土や出土遺物からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－2号溝跡（Fig.53・78、PL.34）

位置　X60、Y151グリッド　**主軸方向**　N－80°－E　**形状等**　U字形。　**長さ**　2.6m　**深さ**　15.0cm　最大178cm、最大下幅108cm　**出土遺物**　土師器30点、須恵器27点、瓦3点、縄文土器10点、石2点。そのうち須恵器坏2点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－3号溝跡（Fig.53・78、PL.34）

位置　X61、Y151～154グリッド　**主軸方向**　N－4°－W　**形状等**　逆台形。　**長さ**　7.8m　**深さ**　41.0cm　最大上幅226cm、最大下幅146cm　**重複**　H－6、W－3と重なり、新旧関係はH－6→本遺構→W－1　**出土遺物**　土師器280点、須恵器125点、瓦8点、縄文土器7点。そのうち須恵器坏1点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－4号溝跡（Fig.50）

位置　X64・65、Y152・153グリッド　**主軸方向**　N－63°－E　**形状等**　U字形。　**長さ**　6.0m　**深さ**　23.0cm　最大上幅80cm、最大下幅49cm　**重複**　H－5、W－1と重なり、新旧関係はH－5→本遺構→W－1　**出土遺物**　土師器32点、須恵器6点、瓦1点。　**時期**　覆土や出土遺物からHr-FP降下以降からAs-B降下以前と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

(3)　土坑（Fig.52・53・79・86、PL.16・19・34）

土坑については、Tab.4　土坑、ピット計測表を参照のこと。

(4)　グリッド等出土遺物（Fig.61・86、PL.19）

土師器335点、須恵器45点、瓦7点、縄文土器21点、石製品1点を出土。そのうち縄文土器3点、鉄製品1点を図示。

10区

(1)　溝　　跡

W－1号溝跡（Fig.56、PL.17）

位置　X243・244、Y151～153グリッド　**主軸方向**　N－12°－E　**形状等**　逆台形。　**長さ**　8.0m　**深さ**　86.0cm　最大上幅256cm、最大下幅100cm　**時期**　覆土からAs-B降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡無し。

W－2号溝跡（Fig.57、PL.17）

位置　X245・246、Y152～154グリッド　**主軸方向**　N－12°－E　**形状等**　逆台形。　**長さ**　7.5m　**深さ**

23.0cm　最大上幅280cm、最大下幅220cm　**時期**　覆土や出土遺物から As-B 降下以降と考えられる。　**備考**　流水の痕跡あり。

(2)　土坑、ピット (Fig.56・79、PL.17)

土坑、ピットについては、Tab.4　土坑、ピット、井戸跡計測表を参照のこと。

(3)　グリッド等出土遺物 (Fig.86、PL.36)

土師器148点、須恵器39点、瓦 9 点、縄文土器 2 点、鉄製品 1 点、石製品 1 点を出土。そのうち鉄製品 2 点を図示。

11区

(1)　竪穴住居跡

H－1号住居跡 (Fig.58)

位置　X46・47、Y164・165グリッド　**主軸方向**　N－88°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 (4.88) m、南北 (2.50) m、壁現高18.0cm。　**面積**　(10.98) ㎡　**床面**　平坦な床面。　**出土遺物**　土師器85点、須恵器19点、瓦 1 点、縄文土器 5 点、石 1 点。　**時期**　覆土や出土遺物から Hr-FP 降下以降から As-B 降下以前と考えられる。

H－2号住居跡 (Fig.58・61・80、PL.19・34・35)

位置　X45・46、Y163・164グリッド　**主軸方向**　N－83°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 (2.50) m、南北 (2.90) m、壁現高30.0cm。　**面積**　(5.28) ㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－84°－E。全長139cm、最大幅114cm、焚口部幅70cm。構築材に粘土、袖部に凝灰岩を用いる。　**重複**　H－3と重り、新旧関係は本遺構→H－3　**出土遺物**　土師器65点、須恵器 8 点、縄文土器 6 点。そのうち土師器坏 1 点・土師器甕 1 点、縄文土器 1 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から 9 世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡 (Fig.58・61・79・84～86、PL.19・34・35)

位置　X44・45、Y163・164グリッド　**主軸方向**　N－89°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 (3.96) m、南北 (4.43) m、壁現高32.0cm。　**面積**　(15.86) ㎡　**床面**　平坦で堅緻な貼り床。　**竈**　東壁南寄りに位置する。主軸方向N－94°－E。全長129cm、最大幅63cm、焚口部幅53cm。構築材に粘土を用いる。　**重複**　H－2、4、T－1と重り、新旧関係はH－4→H－2→本遺構→T－1　**出土遺物**　土師器284点、須恵器133点、瓦10点、縄文土器30点、灰釉陶器 6 点、鉄製品 2 点、石製品 2 点。そのうち須恵器坏 2 点・須恵器高台椀5点、灰釉陶器 1 点、縄文土器 1 点、鉄製品 2 点、石製品 2 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡 (Fig.59・80・84・86、PL.35)

位置　X45・46、Y164・165グリッド　**主軸方向**　N－85°－E　**形状等**　長方形と推定される。東西 (5.44) m、南北 (2.68) m、壁現高74.0cm。　**面積**　(11.66) ㎡　**床面**　平坦な貼り床。　**重複**　H－3と重り、新旧関係は本遺構→H－3　**出土遺物**　土師器517点、須恵器175点、瓦10、縄文土器39点、鉄製品 2 点、石 4 点。そのうち須恵器蓋 1 点・須恵器坏 6 点・須恵器高台椀 2 点、鉄製品 2 点を図示。　**時期**　覆土や出土遺物から 8 世紀後半と考えられる。

(2) 竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.59）

位置 X44、Y164・165グリッド **主軸方向** N－2°－E **形状等** 長方形と推定される。東西（4.06）m、南北（1.84）m、壁現高56.0cm。 **面積** （6.81）㎡ **床面** 平坦な床。 **重複** H－3と重り、新旧関係はH－3→本遺構 **出土遺物** 土師器42点、須恵器27点、縄文土器11点、灰釉陶器2点。 **時期** 覆土からAs-B降下以降と考えられる

(3) 土坑、ピット（Fig.60・61、PL.19）

土坑、ピットについては、Tab.4 土坑、ピット計測表を参照のこと。

(4) グリッド等出土遺物（Fig.61・80、PL.19）

土師器251点、須恵器47点、瓦4点、縄文土器12点、鉄製品1点、石製品3点、銭貨1点を出土。そのうち土師器坏1点、須恵器坏2点、灰釉陶器高台椀1点、縄文土器3点、鉄製品1点を図示。

Tab. 2　住居跡等一覧表

1区

遺構名	位　置	規模(m)			面積(㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X151 Y127・128	[3.22]	[3.12]	46	[11.55]	N－91°－E	東壁南寄り	粘土、瓦			小型坏	瓦

2区

遺構名	位　置	規模(m)			面積(㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X155・156 Y140	[3.26]	[1.68]	9	[3.17]	N－94°－E	東壁南寄り	凝灰岩、粘土	－	甕		
H－2	X155 Y141	[0.52]	[3.82]	11	[1.4]	N－91°－E			－			
H－3	X160・161 Y140・141	4.74	4.30	27	17.36	N－127°－W	西壁中央北寄り	瓦、川原石、粘土	－		小型坏	瓦
H－4	X161・162 Y140・141	[3.3]	[1.40]	38	[4.78]	N－101°－E			－	甕		
H－5	X162・163 Y140・141	(4.00)	[3.71]	27	(11.16)	N－108°－E	東壁中央	粘土	－		高台椀	
H－6	X166・167 Y140・141	(4.30)	[2.20]	30	(11.85)	N－93°－E	東壁中央南寄り	瓦、粘土	－		小型坏、甕	瓦
H－7	X164・165 Y141	(2.02)	[1.50]	29	(2.62)	N－91°－E			－	甕	高台椀	
H－8	X165 Y141	[2.99]	[1.80]	28	[3.72]	N－99°－E			－			
H－9	X165～167 Y140・141	(2.24)	(4.90)	45	(8.88)	N－95°－E			－	坏	蓋、甕	
H－10	X162・163 Y140	[2.40]	[1.60]	11	[2.76]	N－102°－E			－			
H－11	X106 Y141	[2.20]	[1.70]	21	[2.97]	N－106°－E			－			

3区

遺構名	位　置	規模(m)			面積(㎡)	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高(cm)			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X283 Y135・136	(1.00)	(2.20)	－	(1.22)	N－65°－E	東壁		－			
H－2	X283・284 Y135・136	5.16	(3.11)	56	(10.56)	N－65°－E	東壁		有			
H－3	X283・284 Y134・135	(2.64)	(3.22)	33	[7.96]	N－65°－E	東壁南		－			
H－4	X283・284 Y126	4.72	2.90	37	12.72	N－87°－E	東壁やや南寄り		－	坏		円筒埴輪
H－5	X284・285 Y134・135	(3.46)	(4.30)	49	(13.19)	N－92°－E			－	高坏		
H－6	X283・284 Y127～129	6.98	7.00	73	(36.57)	N－69°－E	東壁南寄り		有	坏・甕		
H－7	X283・284 Y135・136	2.65	(2.34)	17	(5.67)	N－88°－E			－	坏		
H－8	X283・284 Y132・133	3.57	3.66	26	(5.79)	N－101°－E	東壁南寄り		－			
H－9	X283・284 Y134～136	(5.82)	(3.70)	25	(9.49)	N－76°－E			有	坏		
H－10	X284・285 Y132・133	3.13	3.73	41	10.68	N－95°－E	東壁南寄り		有			
H－11	X284・285 Y129・130	3.88	4.90	14	17.64	N－97°－E	東壁南寄り		－		小型坏	灰釉陶器
H－12	X283・284 Y129～131	5.78	3.20	33	(6.62)	N－53°－E			－			
H－13	X283～285 Y129・130	5.64	4.17	46	(21.71)	N－89°－E	南東壁角		有	坏		
H－14	X284・285 Y131・132	3.24	(2.80)	38	(7.07)	N－95°－E	東壁		有			
H－15	X284・285 Y129・130	3.50	4.10	29	13.25	N－96°－E	東壁南寄り		－		坏	

5区

遺構名	位置	規模(m) 東西	南北	壁現高(cm)	面積(㎡)	主軸方向	竈 位置	構築材	周溝	主な出土遺物 土師器	須恵器	その他
H－1	X32・33 Y159	3.22	2.29	23	5.92	N－97°－E	東壁中央	粘土、凝灰岩		坏・甕	坏	
H－2	X39・40 Y164	2.46	3.41	39	10.63	N－92°－E				甕		
H－3	X31・32 Y163・164	4.20	3.20	40	10.35	N－72°－E	東壁中央南寄り	粘土		坏・甕	壺・甕	
H－4	X32・33 Y160							粘土、甕		坏	坏	
H－5	X34・35 Y164・165	4.40	3.32	36	7.30	N－59°－E						鉄製品
H－6	X35・36 Y163・164	2.48	2.27	12	4.27	N－84°－E	東壁中央南寄り	粘土		甕		
H－7	X37・38 Y163・164	5.80	2.14	58	11.06	N－85°－E				坏・甕		

6区

遺構名	位置	規模(m) 東西	南北	壁現高(cm)	面積(㎡)	主軸方向	竈 位置	構築材	周溝	主な出土遺物 土師器	須恵器	その他
H－1	X200 Y138	[1.96]	[3.59]	7	[4.86]	N－104°－E	東壁中央南寄り	粘土	－		小型坏、羽釜	
H－2	X200 Y137・138	[2.38]	[3.42]	14	[9.45]	N－125°－E			－			
H－3	X200 Y137	(0.92)	[2.50]	18	(1.70)	N－100°－E			－			
H－4	X200・201 Y140	[4.23]	[2.40]	18	[8.81]	N－85°－E			有	坏		
H－5	X200・201 Y137	[1.32]	(3.00)	11	(2.72)	N－78°－E			－		小型坏	
H－6	X200・201 Y137・138	[3.90]	[3.30]	22	[10.83]	N－60°－E			有			
H－7	X200・201 Y136・137	[3.20]	[3.10]	20	[8.48]	N－72°－E	東壁中央	粘土	－	甕		
H－8	X200・201 Y136								－		小型坏	

7区

遺構名	位置	規模(m) 東西	南北	壁現高(cm)	面積(㎡)	主軸方向	竈 位置	構築材	周溝	主な出土遺物 土師器	須恵器	その他
H－1	X59・60 Y85・86	3.70	(1.94)	17	(5.95)	N－93°－E			－			
H－2	X58～60 Y83・84	3.90	3.98	52	14.42	N－92°－E	東壁南寄り・北壁西寄り	粘土・凝灰岩	○	坏・甕	坏・甕	刃子
H－3	X60Y83・84	3.32	3.32	37.5	10.56	N－116°－E	東壁南寄り	粘土・瓦	－	甕	甕	
H－4	X－ Y－	欠番										
H－5	X60・61 Y84	(1.92)	(1.92)	24	(2.92)	N－90°－E			○	坏		
H－6	X60・61 Y81・82	[2.94]	3.80	34	[10.73]	N－85°－E	東壁	－	－	坏・甕		
H－7	X61・62 Y82・83	3.30	[4.50]	28.5	[13.89]	N－84°－E	東壁	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	甕・蓋	
H－8	X61・62 Y81・82	3.00	[2.28]	29	(5.19)	N－79°－E	東壁南寄り	粘土	－	坏・甕	甕・蓋	砥石
H－9	X60・61 Y83・84	3.88	5.24	57.5	19.16	N－80°－E	東壁南寄り	粘土	－	坏・甕	台付埦	刃子
H－10	X63・64 Y80～82	4.38	5.60	44	19.27	N－75°－E	東壁南寄り	粘土・凝灰岩	－	坏・甕	蓋	
H－11	X59・60 Y83・84	(2.90)	(4.34)	16.5	(7.53)	N－75°－E			－	坏		
T－1	X94 Y84・85	2.64	3.84	12.5	9.41	N－80°－E			－	坏・甕	蓋	

9区

遺構名	位　置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高（cm）			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X73・74 Y151・152	[3.96]	(4.42)	37	(14.11)	N－65°－E	東壁中央	粘土	有	坏、甕		
H－2	X68～70 Y152・153	(4.95)	(3.95)	36	(16.08)	N－76°－E	東壁中央南寄り	粘土、凝灰岩		坏		
H－3	X68・69 Y152・153	[2.60]	[2.12]	29	[4.08]	N－75°－E	東壁中央南寄り	粘土、凝灰岩		坏、甕	坏、高台椀	
H－4	X59・60 Y152・153	[3.20]	(2.25)	35	(4.46)	N－68°－E			－	坏、甕	坏	
H－5	X64・65 Y152・153	[3.53]	[2.36]	27	[6.65]	N－93°－E	北壁中央	粘土、川原石	－	坏		
H－6	X61・62 Y152	[2.62]	[1.45]	32	[3.41]	N－85°－E	東壁南寄り	粘土、瓦	－	甕	高台椀	
H－7	X60・61 Y152	[3.28]	[1.31]	21	[3.43]	N－91°－E	東壁南寄り	粘土	－		高台椀	
H－8	X72・73 Y151	[3.70]	[1.64]	32	[3.52]	N－92°－E	東壁中央南寄り	粘土				
H－9	X68・69 Y151	[5.72]	[3.22]	31	[15.59]	N－79°－E	東壁南寄り	粘土		坏、甕	甕	
H－10	X68・69 Y152	(3.64)	[2.40]	33	(5.43)	N－83°－E			－			
H－11	X66・67 Y150・151	[3.70]	[2.12]	51	[4.43]	N－68°－E	東壁南	粘土、凝灰岩		坏、甕	高台椀	

11区

遺構名	位　置	規　模（m）			面積（㎡）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
		東西	南北	壁現高（cm）			位　置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X46・47 Y164・165	(4.88)	[2.50]	18	(10.98)	N－88°－E			－			
H－2	X45・46 Y163・164	[2.50]	[2.90]	30	[5.28]	N－83°－E	東壁南寄り	粘土、凝灰岩	－	坏・甕		
H－3	X44・45 Y163・164	3.96	4.43	32	15.86	N－89°－E	東壁南寄り	粘土	有		坏・高台椀	灰釉陶器
H－4	X45・46 Y164・165	(5.44)	[2.68]	74	(11.66)				有		坏・高台椀	
T－1	X44 Y164・165	4.06	1.84	56.0	6.8	N－2°－E			有			

Tab. 3　溝跡・道路跡計測表

1区

遺構名	位　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X150・151 Y127・128	6.0	87.0	69.5	270.0	236.0	82.0	72.0	N－5°－W	逆台形	古代
W－2	X151・152 Y127・128	6.4	129.5	89.5	406.0	370.0	140.0	110.0	N－6°－E	逆台形	古代

2区

遺構名	位　置	長さ（m）	深さ（cm）		上幅（cm）		下幅（cm）		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X156 Y140・141	2.8	17.0	3.0	80.0	65.0	54.0	37.0	N－1°－E	U字形	古代
W－2	X157 Y140・141	2.9	13.5	6.0	74.0	69.0	56.0	50.0	N－45°－E	U字形	古代
W－3	X157～160 Y141	11.5	29.5	9.0	160.0	50.0	100.0	50.0	N－88°－E	U字形	古代
W－4	X163・164 Y140・141	4.8	69.5	20.0	323.0	224.0	54.0	33.0	N－18°－W	逆台形	古代

3区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X284・285 Y124～129	23.0	31.0	7.5	120.0	70.0	35.0	15.0	N－182°－E	U字形	中世
W－2	X283～285 Y124～	14.2	51.0	35.5	95.0	72.0	36.0	20.0	N－147°－E	逆台形	古代
W－3											
W－4	X283～285 Y131	7.0	23.5	11.0	76.0	35.0	36.0	15.0	N－93°－E	逆台形	古代
W－5	X283～285 Y132	(3.2)	28.5	18.0	90.0	84.0	60.0	50.0	N－94°－E	U字形	中世

5区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X32・33 Y159～163	16.9	34.0	19.5	90.0	30.0	90.0	20.0	N－5°－W	逆台形	中世
W－2	X37・38 Y163～165	6.0	33.5	27.5	80.0	68.0	40.0	24.0	N－45°－E	逆台形	中世
W－3	X36・37 Y163～165	6.1	43.0	18.0	155.0	136.0	88.0	68.0	N－88°－E	逆台形	中世
A－1	X32・33 Y159～163	16.9	34.0	－	90.0	30.0	－	－	N－5°－W	－	古代

7区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X61 Y79～84	20.9	74	56	190	148	142	102	N－3°－E	逆台形	古代
W－2	X59 Y82～85	12.2	66.0	58.0	48.0	38.0	32.0	3.0	N－5°－E	U字形	中世
A－1	X68・60 Y90	4.04	15.0	－	22.0	－	20.0	－	N－42°－W	－	古代

8区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X117 Y141	4.4	36.5	31.0	114.0	97.0	49.0	38.0	N－20°－E	逆台形	中世以降

9区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X60～75 Y151・152	63.0	82.0	77.0	280.0	180.0	170.0	40.0	N－85°－E	逆台形	中世
W－2	X60 Y151	2.6	15.0	11.0	178.0	108.0	108.0	70.0	N－80°－E	U字形	中世
W－3	X61 Y151～154	7.8	41.0	32.0	226.0	174.0	146.0	96.0	N－4°－W	U字形	中世
W－4	X64・65 Y152・153	6.0	23.0	2.5	80.0	69.0	49.0	38.0	N－63°－E	逆台形	古代

10区

遺構名	位　置	長さ (m)	深さ (cm)		上幅 (cm)		下幅 (cm)		主軸方向	断面形	時　期
			最大	最小	最大	最小	最大	最小			
W－1	X243・244 Y151～153	8.0	86.0	58.5	256.0	200.0	100.0	56.0	N－12°－E	逆台形	中世
W－2	X245・246 Y152～154	7.5	23.0	21.0	280.0	260.0	220.0	80.0	N－12°－E	逆台形	中世以降

Tab. 4　土坑・ピット・井戸跡等　計測表

1区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X151　Y128	58	27	37.5	楕円形		
D－2	X151　Y127・128	72	54	52.0	楕円形	瓦1	
D－3	X151　Y128	90	60	33.5	楕円形		
D－4	X152　Y127	76	48	57.0	楕円形	瓦1	
D－5	X152　Y127	88	58	－	楕円形		
I－1	X152　Y128	97	91	－	円形	土1・須1	

※土…土師器、須…須恵器

2区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X157　Y140・141	110	110	53.0	円形	土2・須2	
D－2	X157　Y141	100	80	29.0	楕円形	土18・須3	

※土…土師器、須…須恵器

3区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X283・284　Y134・135	400	280	51.5	楕円形		
D－2	X283　Y132	246	196	31.5	楕円形		
D－3	X284・285　Y135	210	135	46.5	楕円形		
D－4	X285　Y135	92	(68)	43.0	円形		
D－5	X284　Y135	138	124	52.0	不定形		
D－6	X283　Y132・133	138	120	56.0	隅丸方形		
D－7	X284　Y135	86	75	14.0	円形		
D－8	X285　Y135	(60)	(40)	14.0	不明		
P－1	X283　Y131	76	62	13.5	円形		
P－2	X283　Y126	38	34	69.5	円形		
I－1	X283　Y127	122	122	268.0	円形		

※土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、縄…縄文土器、石…石製品

5区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X39　Y163・164	111	103	9.0	円形		
D－2	X39　Y163	80	62	3.0	楕円形		
D－3	X33・34　Y162～164	510	470	149.0	円形	土279・須88・灰1・瓦4・縄30・石7	
D－4	X33　Y159	82	61	28.0	楕円形		
P－1	X39　Y163	52	52	29.0	円形		
P－2	X33　Y159	44	25	20.0	楕円形		
P－3	X33　Y159	68	56	30.0	円形		

※土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器、縄…縄文土器、石…石製品

6区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X200　Y140	116	54	31.5	楕円形	土2	
D－2	X200・201　Y137・138	278	78	24.5	楕円形	土39・須2	
D－3	X200　Y136	54	44	29.5	円形	土9	
D－4	X200　Y136	60	46	10.0	楕円形		
D－5	X200　Y138	78	70	12.0	円形		
D－6	X200　Y138	68	44	17.0	楕円形	土12・須23	
P－1	X200　Y139	30	30	17.0	円形		
P－2	X200　Y139	28	28	8.0	円形		
P－3	X200　Y137	30	24	－	円形		
O－1	X200・201　Y138・139	380	220	33.5	楕円形	土1	
I－1	X200　Y136	76	74	162.5	円形	土1・須2・瓦1・石2・その他6	
I－2	X200　Y136	116	89	85.5	円形		

※土…土師器、須…須恵器、石…石製品

7区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X58　Y85	192	(70)	43.5	楕円形		
D－2	X64　Y85	180	124	23.5	楕円形	土20・須3・瓦3	
D－3	X65・66　Y79～81	678	570	131.5	楕円形	縄1・土71・須72・瓦2786	
D－4	欠　番						
D－5	欠　番						
D－6	X74　Y78・79	270	224	62.0	隅丸方形	平瓦1	1・2トレンチ中間
D－7	X74　Y78・79	434	70	50.0	隅丸方形	土1・須10・平瓦20・丸瓦1	1トレンチ
D－8	X59・60　Y79	490	450	75.0	楕円形	土41、須20、灰2、瓦18	
D－9	X72・73　Y78・79	135	120	21.0	－	土1・須7・灰1・平瓦21・丸瓦1	3トレンチ
D－10	X71・72　Y79・80	532	245	58.0	－	土10・須12・灰1・平瓦255・丸瓦2・軒瓦4	3トレンチ
D－11	X71・72　Y79	124	96	15.0	－	平瓦6	旧2トレンチ
D－12	X74　Y78・79	280	56	39.0	－	平瓦6	2トレンチ
D－13	X71　Y80	192	110	58.0	－	土2・須12・平瓦630・丸瓦6・軒瓦20	旧2トレンチ
D－14	X70・71　Y79	260	60	65.0	－	須1・平瓦19	4トレンチ
D－15	X71　Y79・80	166	48	67.0	－		4トレンチ

※土…土師器、須…須恵器、灰…灰釉陶器

8区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X118　Y141	76	63	22.5	円形	土1	
D－2	X118　Y141	72	58	50.0	円形		
D－3	X117　Y141	59	44	13.0	円形		
D－4	X115　Y141	56	54	33.0	円形		
D－5	X116　Y140・141	59	57	13.0	円形		
D－6	X115・116　Y140	63	41	11.0	楕円形	土1	
P－1	X115　Y141	25	25	38.0	円形		
P－2	X116　Y140	37	37	16.5	円形		
P－3	X116　Y140	30	29	21.5	円形		

※土…土師器

9区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X60　Y152・153	160	150	39.0	長方形		
D－2	X64　Y152・153	96	78	75.0	隅丸方形	鉄3	
DB－1	X65・66　Y150	210	170	13.0	円形	鉄1	

※鉄…鉄製品

10区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X242　Y151	150	80	40.0	楕円形		
D－2	X241・242　Y152	100	70	12.0	楕円形		
P－1	X241・242　Y152	24	24	16.0	円形		
P－2	X241　Y152	32	24	39.0	円形		
P－3	X241・242　Y152	36	34	21.0	円形		
P－4	X242　Y152	36	32	35.0	楕円形		
P－5	X241　Y152	34	34	17.0	円形		
P－6	X241　Y151・152	38	32	22.0	楕円形		
P－7	X241・242　Y152	34	32	22.0	円形		
P－8	X241　Y151	36	32	27.5	楕円形		
P－9	X242　Y152	20	16	15.5	円形		
P－10	X242　Y151	50	40	16.0	楕円形		
P－11	X242　Y151	26	26	16.0	円形		
P－12	X242　Y152	42	40	26.0	円形		
P－13	X242　Y152	30	24	41.0	楕円形		
P－14	X242　Y152	30	30	14.5	円形		
P－15	X242　Y152	34	32	15.0	円形		
P－16	X242　Y151・152	50	40	17.0	楕円形		
P－17	X242　Y151	34	30	15.0	円形		
P－18	X242　Y151	30	30	25.0	円形	羽釜1	

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
P－19	X242　Y152	36	34	21.5	円形		
P－20	X242　Y152	44	36	14.0	楕円形		
P－21	X242　Y151	28	24	15.0	円形		
P－22	X242　Y151	40	36	22.5	円形		
P－23	X243　Y152	40	36	13.5	円形		

11区

遺構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形　状	出土遺物	備　考
D－1	X45　Y164	112	84	13.5	長方形		
P－1	X46　Y164・165	62	58	52.0	円形		
P－2	X47　Y165	26	22	75.0	円形		
P－3	X47　Y164	32	28	78.0	円形		
P－4	X47　Y164	43	32	21.0	楕円形		
P－5	X47　Y164	48	30	32.0	楕円形		
P－6	X47　Y164	28	25	39.0	円形		
P－7	X44　Y164	29	24	11.0	楕円形		
P－8	X45　Y164	18	18	19.0	円形		
P－9	X45　Y164	14	12	15.0	円形		
P－10	X45　Y164	19	16	22.0	円形		
P－11	X45　Y164	27	22	48.5	楕円形		
P－12	X44　Y165	32	26	28.0	楕円形		

Tab. 5　縄文土器観察表

5区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
5-縄1	H－2	深鉢	①　－　②（5.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④口縁片	外面に半裁竹管による横位の平行沈線を施文、棒状粘土を縦に貼付し、その間にボタン状貼付文を2個貼付。口唇部内面に半裁竹管による斜位の平行沈線を施文、外面から続く棒状粘土の延長にボタン状貼付文を２個貼付し、その間に幅広の棒状粘土を２個貼付。	32	諸磯c
5-縄2	H－2	深鉢	①　－　②（10.5） ③　－	①中粒 ②良好 ③橙　④口縁片	口縁文様は隆帯による渦巻きを施し、区画内縄文RLを充填。	43	加曽利E3
5-縄3	H－3	深鉢	①　－　②（4.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	口唇部に貼付されたと思われる円盤状の突起。やや間隔をあける連続爪形文が横走する。	115	諸磯bか
5-縄4	H－3	深鉢	①　－　②（6.6） ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④口縁片	口縁部文様帯を沈線でが構成し、区画内に縄文RLを施文。	カマド フクド	加曽利E3
5-縄5	H－7	深鉢	①　－　②（5.7） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁片	外面に半裁竹管による横位の平行沈線を施文。棒状粘土を縦に貼付し、その間にボタン状貼付文を貼付。口唇部内面に半裁竹管による斜位の平行沈線を施文、外面から続く棒状粘土の延長にボタン状貼付文を貼付、その間に幅広の棒状粘土を1個貼付。	2	諸磯c
5-縄6	D－3	深鉢	①　－　②（3.7） ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁片	外面に半裁竹管による横位の平行沈線を施文し、棒状粘土を2条貼付する。口唇部内面に半裁竹管による斜位の平行沈線を施文、棒状粘土を３条貼付、うち２条は破損している。	10	諸磯c
5-縄7	X35Y165 覆土	深鉢	①　－　②（5.1） ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④口縁片	半裁竹管による横位の集合沈線を施文。地文に縄文RLを施文。口唇部も同様。		諸磯b
5-縄8	X39Y164 覆土	深鉢	①　－　②（13.3） ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい褐 ④口縁片	波状口縁。口縁文様は隆帯で渦巻きを施し、区画内縄文RLを充填。	33	加曽利E3
5-縄9	X39Y164 覆土	深鉢	①　－　②（5.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④口縁片	波状口縁。口唇部に突起を形成。幅広の沈線の区画内に縄文LRを施文。	57	加曽利E3
5-縄10	X36Y164 覆土	深鉢	①　－　②（6.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④口縁片	波状口縁。口唇部に環状把手が貼付され、円形刺突で上部に穴が２つ、下部に穴が３つ。口唇部内面に円形刺突の穴が３つ。	4	加曽利B
5-縄11	X36Y164 覆土	深鉢	①　－　②（4.9） ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④口縁片	隆帯により渦巻きを施文。	1	加曽利E3
5-縄12	X40Y164 覆土	深鉢	①　－　②（5.5） ③　－	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁片	口縁文様は隆帯で渦巻きを施し、区画内縄文LRを充填。	11	加曽利E3

9区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-縄1	H－6 覆土	深鉢	①　－　②（6.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④胴部片	隆帯に連続刺突文を巡らせる。その下に二本一組の沈線で楕円を描きその中に刺突文を施す。		勝坂系
9-縄2	D－1 覆土	深鉢	①　－　②（2.8） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④口縁片	半裁竹管による斜位の平行集合沈線を施文後、ボタン状貼付文を貼付。		諸磯c
9-縄3	X68Y151 覆土	深鉢	①　－　②（6.8） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④胴部片	口唇部：斜位の平行集合沈線を施文。その後幅約1.5cmの棒状粘土を縦位に貼付。棒状粘土の間にはボタン状貼付文を貼付。		諸磯c
9-縄4	X68Y151 覆土	深鉢	①　－　②（2.7） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④胴部片	半裁竹管による横位の連続する平行沈線を施文。その後断面三角形の棒状粘土を縦位に貼付。棒状粘土の間にボタン状貼付文を貼付。		諸磯c
9-縄5	X71Y153 覆土	深鉢	①　－　②（4.6） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④胴部片	隆帯と平行沈線による渦巻文か？		

11区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
11-縄1	H－2	深鉢	①　－　②（4.3） ③　－	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④口縁片	隆帯で口縁部文様を構成。区画内に縄文RLを施文。	5	加曽利E3
11-縄2	H－3	深鉢	①　－　②（6.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④破片	隆帯のにそって指頭圧痕を施文。	6	加曽利E3
11-縄3	H－4 覆土	深鉢	①　－　②（5.5） ③　－	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	円形状刺突文を二段に施文。		加曽利E3
11-縄4	表採覆土	深鉢	①　－　②（5.5） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④口縁片	口唇部を丁寧に研磨する。半裁竹管による平行沈線で口縁部に文様を構成。		諸磯b
11-縄5	表採覆土	浅鉢	①　－　②（4.3） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁片	棒状の粘土を外面に巡らして口唇部を形成。		加曽利E？

注）① 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
竈内の検出については「竈内」と記載した。
② 長さ、厚さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③ 胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④ 焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

Tab. 6　古墳・奈良・平安時代出土土器観察表

1区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
1-1	H－1 床直	須恵器 小型坏	① 8.9 ② 2.0 ③ 5.4	①粗粒 ②良好 ③橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部中位に膨らみを持ち外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。	10	酸化焔
1-2	H－1 竈内	須恵器 甕	① [2.4] ②(10.5) ③ －	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/8	口縁部:外傾、内外面横撫で。胴部:やや膨らみを持つ、内面横撫で、外面縦位の篦削り。底部:欠損。	カマド3	酸化焔
1-3	W－2 覆土	土師器 坏	①[12.8] ② 3.6 ③ [9.3]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部:やや直立から外傾、内外面横撫で。体部:外傾、内面横撫で、外面篦削横位の篦削り。底部:平底、内面撫で、外面篦削り。	22他	
1-4	W－2 覆土	須恵器 蓋	①[17.8] ② 4.2 ③ 5.7(摘み)	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	轆轤整形。天井部:水平から緩やかに傾斜、内面轆轤撫で、外面回転篦削り、轆轤撫で。返り有。摘み:ボタン状。	14, 24	

2区

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
2-1	H－1 床直	土師器 甕	①[25.3] ②(14.9) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から短く外反。内外面横撫で。胴部:やや膨らみを持つ。内面撫で、外面上部横位、中部斜位の篦削り。底部:欠損。	2, 8	
2-2	H－1 竈内	土師器 甕	①[24.0] ② (6.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から短く外反。内外面横撫で。胴部:やや膨らみを持つ。内面撫で、外面横位の篦削り。底部:欠損。	11, 12	
2-3	H－1 竈内	土師器 甕	①[27.0] ②(10.4) ③ －	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④破片	口縁部:やや直立から短く外反。内外面横撫で。胴部:やや膨らみを持つ。内面撫で、外面横位の篦削り。底部:欠損。	13	
2-4	H－3 竈内	須恵器 小型坏	①[10.2] ② 2.1 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部中位に膨らみを持ち外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。	54	酸化焔
2-5	H－3 竈内	須恵器 小型坏	① 8.8 ② 2.0 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部中位に膨らみを持ち外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。	55	酸化焔
2-6	H－4 覆土	土師器 甕	①[21.1] ② (6.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部:内面撫で、外面横位の篦削り。底部:欠損。	6	
2-7	H－5 覆土	須恵器 高台椀	①[13.4] ② (5.0) ③ 7.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部に膨らみを持ち轆轤痕が顕著で外反、内・外面轆轤撫で。内面に十文字の線刻有り。底部:内面撫で、外面回転糸切り後、雑な付け高台。		酸化焔
2-8	H－6 竈内	土師器 甕	①[27.1] ②(18.2) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から短く外反。内外面横撫で。胴部:やや膨らみを持つ。上部内面撫で、外面篦削り、中部内外面篦削り。底部:欠損。	54	酸化焔
2-9	H－6 竈内	土師器 土釜	①[29.0] ②(22.7) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から短く外反。内外面轆轤撫で。胴部:やや膨らみを持つ。内面撫で、外面縦位の篦削り。底部:欠損。	55	酸化焔
2-10	H－6 竈内	土師器 土釜	①[28.8] ②(10.6) ③ －	①中粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部:轆轤整形後内面撫で、外面篦削り。底部:欠損。	57	酸化焔
2-11	H－6 床直	土師器 土釜	①[32.0] ②(15.8) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④破片	轆轤整形。口縁部:やや直立から短く外反。内外面轆轤撫で。胴部:やや膨らみを持つ。内面撫で、外面撫で。底部:欠損。	94他	酸化焔
2-12	H－6 覆土	須恵器 小型坏	① 10.2 ② (2.0) ③ 5.4	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾で直線的に外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。	19, 20	酸化焔
2-13	H－6 覆土	須恵器 小型坏	① [9.1] ② 1.3 ③ 4.2	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部中位に膨らみを持ち外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。浅い皿に近い。	28	酸化焔
2-14	H－6 床下	須恵器 小型坏	① 9.6 ② 1.8 ③ 4.8	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部:外傾、体部中位に膨らみを持ち外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整。	H－9 71	酸化焔
2-15	H－7 床直	土師器 甕	①[20.4] ②(15.5) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	口縁部:やや直立し、外反。内外面横撫で。胴部:中位よりやや上で最大径の膨らみをもつ。内面撫で、外面上位に横位、中下位に斜縦位の篦削り。底部:欠損。	2	
2-16	H－7 床直	須恵器 高台椀	①[13.8] ② 5.4 ③ 6.4	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り後、やや雑な高台を取り付け。	1	内面は燻し焼成か？
2-17	H－7 竈内	須恵器 高台椀	①[13.6] ② (5.8) ③ 6.8	①細粒 ②良好 ③灰 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部:外傾から口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。		墨書あり
2-18	H－9 床直	土師器 坏	① 11.4 ② 4.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部:短く内傾。内面横撫で・外面篦削り。体部:外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	7, 15, 19	
2-19	H－9 床直	土師器 坏	①[14.0] ② (4.7) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部:短く内傾。内面横撫で・外面篦削り。体部:外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	47	
2-20	H－9 床直	土師器 坏	① 10.0 ② 3.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④完形	口縁部:短く直立。内面横撫で・外面篦削り。体部:外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部:やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	49他	
2-21	H－9 床直	土師器 坏	①[14.0] ② (4.5) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部:短く内傾。内面横撫で・外面篦削り。体部:外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部:丸底、内面撫で、外面篦削り。	63	
2-22	H－9 床直	土師器 坏	① 10.3 ② 3.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④2/3	口縁部:短く直立。内面横撫で・外面篦削り。体部:外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部:やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	77	
2-23	H－9 床直	須恵器 蓋	① 8.8 ② 3.0 ③ －	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	轆轤整形。天井部:やや水平から緩やかに傾斜、内面轆轤撫で、外面回転篦削り、轆轤撫で、返り有。摘み:無。	48	
2-24	H－9 貯蔵穴	須恵器 甕	① 21.3 ② (7.0) ③ －	①細粒 ②良好 ③灰白 ④口縁のみ	轆轤整形。口縁部:やや直立気味から大きく外反、内面轆轤撫で、外面轆轤撫で後縦位の刷毛目。体部:上位内外面轆轤撫で後叩き。底部:欠損。	3	
2-25	W－4 覆土	土師器 小甕	①[10.2] ② (5.6) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:直立からやや外傾。内外面横撫で。胴部:内面撫で、外面横位に篦削り。底部:欠損。	108 109	
2-26	W－4 覆土	土師器 甕	①[13.2] ②(14.2) ③ 4.2	①細粒 ②良好 ③橙 ④破片	口縁部:やや直立からやや外反。内外面横撫で。胴部:内面撫で、外面縦位に篦削り。底部:平底、内面撫で、外面篦削り。	70他	
2-27	W－4 覆土	土師器 甕	①[17.8] ②(19.4) ③ 4.2	①細粒 ②良好 ③ ④1/2	口縁部:直立から外反。内外面横撫で。胴部:膨らみがなく、縦位の篦削り。底部:欠損。	76他	

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2-28	W－4 覆土	土師器 高坏	①[13.5] ② (6.4) ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/2	坏部：大きく外傾、内・外面撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。脚部：内面撫で、外面篦削り。	33, 83	口縁部に墨書？
2-29	W－4 覆土	須恵器 坏	①[10.2] ② 3.4 ③ [9.0]	①細粒 ②良好 ③灰　④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾から直立気味で口縁部やや内傾。内外面轆轤撫で。底部：平底、内面撫で、外面静止糸切り後撫で調整。		
2-30	W－4 覆土	須恵器 大甕	①[25.8] ② 43.6 ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④3/5	轆轤整形。口縁部：大きく外反、内面轆轤撫で、外面口唇部に波状文、その下に篦書きで波状文。胴部：内面轆轤撫で後叩き、外面轆轤撫で後叩き。底部内外面撫で。	19他	
2-31	W－4 覆土	須恵器 壺	①　9.6 ② (6.9) ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④1/2	轆轤整形。口縁部：直立。内・外面轆轤撫で。体部に膨らみを持ち内傾。内面轆轤撫で、外面上部に横位の櫛描き、中部に轆轤撫で、下部は篦削り。底部：やや丸底、内・外面撫で。	71他	
2-32	W－4 覆土	須恵器 壺	①　3.0 ②(12.4) ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④1/3	轆轤整形。口縁部：ほぼ直立。内外面撫で。体部：上部で最大径、内面撫で、外面上部で叩き、中部から撫で。底部：欠損。	105 106	
2-33	グリッド 覆土	須恵器 甕	①　－ ② (9.4) ③ 11.0	①細粒 ②良好 ③灰　④底部片	轆轤整形。口縁部：欠損。体部：内・外面轆轤撫で、直立に外反。底部：底部：内面撫で、外面回転糸切り後、篦削り及び撫で。		

3区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-1	H－1 床直	須恵器 坏	① 10.9 ② 3.7 ③ 4.8	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙 ④2/3	小形器形。体部膨らみ、口縁部若干外反。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	5	一部吸炭
3-2	H－1 床直	灰釉陶 器瓶	①　－ ②　－ ③　－	①細粒 ②良好 ③明オリーブ灰 ④胴部片	肩部丸み。外面肩部に施釉痕。器肉やや薄い。	2, 4 他	
3-3	H－2 床直	土師器 坏	① 12.6 ② 5.0 ③　－	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐 ④1/2	肉厚。底部～体部扁球形。口縁部変換点で稜形成。口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。内面放射状へら磨き。	5, 6	内外吸炭
3-4	H－2 床直	土師器 坏	① 13.3 ② 4.9 ③　－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④2/3	肉厚。底部～体部扁平。口縁高やや高く、外傾して開く。口縁部横撫で。底部篦削り。内面横・放射状篦磨き。	4	底部吸炭
3-5	H－2 床直	土師器 小型丸 底	① 13.3 ② 4.9 ③　－	①粗粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④2/3	底部丸底。体部丸く内湾、口縁部短く外傾。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。内面撫で。やや肉厚。	10, 11	一部吸炭
3-6	H－2 覆土	土師器 高坏	①[17.3] ②　－ ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④2/3	体部やや扁平。口縁部くの字に折れ、強く外反して開く。口縁部横撫で。体部篦削り。	3	胎土緻密
3-7	H－2 床直	須恵器 坏	① 10.8 ② 3.6 ③ 4.2	①粗粒 ②酸化焔 ③にぶい橙 ④完形	小形器形。小さい底部。体部緩く湾曲、口縁部で開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	18	一部吸炭
3-8	H－3 床直	須恵器 坏	① 10.9 ② 4.4 ③ 4.9	①中粒 ②酸化焔 ③橙　④ほぼ完形	小形器形。小さい底部。体部変換点くびれ。体部下半膨らみ、口縁部外傾。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	9, 13	
3-9	H－3 床直	内黒高 台坏	①[14.7] ② 6.4 ③ 8.3	①中粒 ②酸化焔 ③橙　④3/4欠	脚端部膨らむ。体部丸く内湾、口縁部外傾して開く。轆轤整形。底部回転撫で。内面内黒処理、篦磨き調整。	1, 2	
3-10	H－3 床直	須恵器 羽釜	①[18.2] ② 23.8 ③ 9.0	①中粒 ②酸化焔 ③褐　④1/2	つくり丁寧。口縁部内傾、唇部平坦。鍔部上向きに張る。底部若干上げ底。体部上半回転撫で、下半縦・斜位篦削り。内面回転撫で。	20, 21	
3-11	H－3 床直	須恵器 羽釜	①[18.2] ②(21.3) ③　－	①中粒 ②酸化焔 ③明赤褐 ④1/2	口縁部若干内傾、唇部平坦。鍔部ほぼ水平に張る。胴部上半部膨らむ。口縁部～体部上半回転撫で、下半部縦・斜位篦削り。	24, 28	
3-12	H－4 床直	土師器 坏	①[10.4] ② 3.5 ③　－	①中粒 ②良好 ③明褐 ④1/3	小形器形。底部～体部丸く内湾、口縁部で短く直立する。口縁部横撫で。体部～底部篦削り。内面撫で。	5	器肉薄い
3-13	H－4 床直	土師器 小型丸 底	①　8.0 ② 7.2 ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④5/6	底部～体部丸く内湾。口縁部短く直立。口縁部横撫で。体部外面篦削り。内面指撫で。	6, 8, 9	
3-14	H－4 覆土	土師器 小型甕	① 10.2 ② 8.6 ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④完形	底部～体部丸く内湾。口縁部内傾後唇部で外反気味。口縁部強い横撫で。体部～底部篦削り。内面指・篦撫で。	11	底部吸炭
3-15	H－4 床直	土師器 甕	①[18.2] ② (5.0) ③　－	①中粒 ②良好 ③褐灰 ④口縁部1/4	胴部上半部膨らむ。口縁部強く外反して開く。口縁部横撫で。胴部斜・縦位篦削り。内面指・篦撫で。	2, 3	
3-16	H－4 竈内	円筒 埴輪	基部径[19.2] 凸帯幅0.9厚0.6	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	17に同。(同一個体か)内面斜位指撫で痕。	13	
3-17	H－4 竈内	円筒 埴輪	基部径[18.6] 凸帯幅1.0厚0.6	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	凸帯断面短い台形状。体部細かい縦位刷毛目。凸帯貼付け後横撫で調整。(やや粗雑)内面指・篦撫で調整。内面輪積み痕顕著。	14	
3-18	H－5 覆土	土師器 坏	① 13.2 ② 4.7 ③　－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	底部～体部扁球形。口縁部短く折れ、内側でくの字状形成。口縁部横撫で。外面指撫で後篦削り。内面放射状篦磨き。	30	D－5内
3-19	H－5 覆土	土師器 高坏	① 13.8 ② 9.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	体部丸く内湾、口縁部で短く折れる。脚部外反気味に開く。口縁部横撫で。体部指撫で、篦削り。内面放射状篦磨き。脚部横撫で。	58	D－3内
3-20	H－5 覆土	須恵器 甕	①[41.8] ②(48.5) ③　－	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2	口縁部緩く外傾。肩部付近で最大径。頸部2条1組の沈線区画を挟み8本単位波状紋3段。胴部平行叩き目、内面同心円状当て目痕。	40他	D－3, 4, 5 内
3-21	H－5 床直	須恵器 甕	①[24.0] ②(45.6) ③	①細粒 ②良好 ③灰　④1/2	頸部短く外反、口縁部段形成。胴部内湾して立上り、上半部に最大径。口縁部回転撫で。胴部外面平行・格子目。内面同心円当て目。	105他	
3-22	H－5 覆土	須恵器甕	①　－ ②　－ ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④口縁部小片	口縁部段形成。内外面回転撫で。	D－47	
3-23	H－5 覆土	須恵器 甕	①　－ ②　－ ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④頸部小片	上半沈線区画下に波状文。	D－44	
3-24	H－5 覆土	須恵器 甕	①[21.0] ②(37.2) ③　－	①細粒 ②良好 ③灰　④1/2	頸部短く外反、上端で屈曲。肩部で最大径をなす。口縁部回転撫で。胴部外面平行叩き目後横撫で。内面不整円形状当て目。	33他	D－3, 5内
3-25	H－6 床直	手ずくね 土器	①　9.1 ② 3.6 ③ 3.2	①中粒 ②やや不良 ③にぶい橙 ④2/3	底部小さい。体部外傾して開き、唇部直立気味。口縁部横撫で。体部外面指・篦撫で。内面指撫で。	127	138, 床面, 竈内
3-26	H－6 床直	土師器 坏	① 10.6 ② 6.3 ③　－	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④5/6	肉厚。体部内湾気味に立上り、口縁部でわずかに内傾。口縁部篦撫で。体部指撫で。上半部輪積み痕残。底部篦削り。	85 293	
3-27	H－6 覆土	土師器 坏	① 13.0 ② 5.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④完形	底部～体部扁球形。口縁部内面くの字に外折。唇部若干丸み。口縁部横撫で。体部外面指撫で、篦削り。内面放射状篦磨き。	232	内外吸炭
3-28	H－6 覆土	土師器 坏	① 13.6 ② 5.0 ③　－	①中粒 ②良好 ③橙　④4/5	27に同。口唇部27より若干厚い。	114	

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-29	H－6 床直	土師器 坏	① 13.7　② 5.5 ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④完形	底部～体部扁球形。口縁部短く外折、内面稜やや摩滅。口縁部横撫で。外面指撫で・篦削り。内面放射状篦磨き。	224	
3-30	H－6 覆土	土師器 坏	① 13.8　② 5.3 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④完形	底部～体部扁球形。口縁部短く外傾、内面部分丸く湾曲。口縁部横撫で。同外面括れ部篦磨き。体部外面篦削り。内面放射状篦磨き。	207	
3-31	H－6 床直	土師器 坏	① 13.5　② 4.9 ③ －	①中粒 ②良好 ③灰褐 ④2/3	底部～体部扁球形。口縁部短く外折、唇部わずかに直立する。口縁部横撫で。体部外面篦削り。内面放射状篦磨き。	123	
3-32	H－6 床直	土師器 坏	①[13.6] ② 5.4 ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④1/4	底部～体部扁球形。口縁部短く外折。同内面稜丸み。唇部わずかに丸み。口縁部横撫で。体部篦削り。内面篦磨き。器面摩滅する。	305他	一部吸炭
3-33	H－6 床上	土師器 坏	①[13.6] ② 4.3 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	底部～体部深く、丸く内湾。口縁部短く外折、唇部わずかに丸み。口縁部横撫で。体部外面指撫で後、篦削り。内面放射状篦磨き。	34, 86	
3-34	H－6 床直	土師器 坏	① 13.5　② 5.9 ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④完形	底部～体部深く、丸く内湾。口縁部短く外折、唇部わずかに丸み。口縁部横撫で。体部外面指撫で後、篦削り。内面放射状篦磨き。	133	つくり丁寧
3-35	H－6 床直	土師器 坏	①[13.7] ② (5.2) ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④1/3	体部深く、丸み。口縁部短く折れ、内面稜丸み。口縁部横撫で。体部外面撫で後、篦削り。内面撫で調整。磨き痕の有無不明。	191	
3-36	H－6 床直	土師器 坏	①[13.1] ② (5.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	体部深く、丸み。口縁部短く外折、内面わずかに稜をもつ。口縁部横撫で。体部外面撫で後、篦削り。内面放射状篦磨き。	130	
3-37	H－6 床直	土師器 坏	①[13.5] ② (5.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/5	36に同。	144	
3-38	H－6 覆土	土師器 椀	① 15.6　② 8.4 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	体部深く、丸く内湾。口縁部短く外折。唇部丸み。口縁部横撫で。体部外面指撫で、篦削り。内面放射状篦磨き。	209	
3-39	H－6 床上	土師器 椀	①[14.3] ② (7.9) ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④1/3	体部内湾、上半部丸み。口縁部短く外折。傾斜度38よりやや直立気味。口縁部横撫で。体部外面撫で・篦削り。内面横・斜位篦磨き。	230	
3-40	H－6 床直	土師器 椀	①[16.0] ② (7.2) ③ －	①中粒 ②良好 ③赤褐 ④1/4	体部深く、丸く内湾。口縁部短く折れる。口縁部横撫で。体部外面撫で・篦削り。内面放射状篦磨き。	125	
3-41	H－6 床直	土師器 椀	①[15.2] ② (7.2) ③ －	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/2弱	40に同。口縁部傾斜度40よりやや直立気味。口縁部横撫で。体部外面指撫で後、篦削り。内面横・斜位篦磨きされるが、痕跡不鮮明。	140	内面吸炭
3-42	H－6 床直	土師器 椀	①[15.2] ② 8.0 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	器形41に同。口縁部横撫で。体部外面指撫で・篦削り。内面篦磨きされるが、不鮮明。	276	
3-43	H－6 床直	土師器 壺	①[12.0] ②頸4.0 ③ －	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④頸部1/4	頸部短く外反。口唇部沈線状。口縁部横撫で。内面篦磨き。	257	
3-44	H－6 床直	須恵器 甕	①[12.0] ②頸4.0 ③ －	①細粒 ②良好 ③灰　④頸部1/3	頸部外方へ直線的に外傾。唇部平坦面形成。口縁部と頸部の境に一条の凹線を施し、上下に柳描波状文。内面自然付着。	P_5	
3-45	H－6 床直	土師器 壺	① 21.8　②(15.8) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	器肉やや厚い。胴部上半部で最大径。口縁部外傾して開く。口縁部上半横撫で。同下半～胴部縦位刷毛目。内面刷毛目・篦撫で痕。	406	
3-46	H－6 床直	土師器 壺	①[18.2] ②(12.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい褐 ④1/2	胴部上半に最大径。口縁部外傾して開く。胴部輪積みによる凹凸顕著。口縁部横撫で。外面縦位指撫で。内面篦撫で。	145	
3-47	H－6 床上	土師器 壺	① －　② (5.5) ③ (7.6)	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	底部平底気味。胴部下端で括れ、外傾して開く。底部肉厚。外面篦撫で・篦磨き。内面篦撫で痕。	451	
3-48	H－6 竈内	土師器 甕	①[18.2] ②(12.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/8	胴部中位に最大径。口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。胴部外面縦位篦削り。内面篦撫で。	442	
3-49	H－6 床直	土師器 甕	①[17.8] ②(13.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③橙　④2/3	胴部中位付近に最大径をもつか。口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。胴部外面肩部以下篦削りか。内面篦撫で。	21 194	
3-50	H－6 床直	土師器 甕	① 16.6　② 33.0 ③ 5.7	①粗粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部直立気味。胴部中位下半に最大径。底部に向かいすぼまる。口縁部横撫で。胴部縦位篦削り。内面篦撫でされるが輪積み痕残。	160	
3-51	H－6 床直	土師器 甑	① 22.2　② 28.5 ③幅10.2	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	底部～胴部直線的に緩く湾曲、上位に最大径。口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。口縁部直下～胴部縦位篦削り。内面篦撫で。	403	
3-52	H－6 覆土	土師器 坏	①[10.1] ② (3.7) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	小形の器形。底部～体部緩く内湾、口縁部で短く内傾する。口縁部横撫で。体部篦削り。内面指撫で。	3	
3-53	H－9 床直	土師器 坏	①[10.6] ② (3.1) ③ －	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④1/3	小形の器形。底部～体部扁平。口縁部変換点に稜、口縁部外傾して開く。口縁部横撫で。体部篦削り。内面撫で。	6	
3-54	H－9 P_5	土師器 坏	① 14.2　② 5.5 ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	やや肉厚。底部～体部緩く内湾、口縁部変換点に稜形成。口縁部外反気味に開く。口縁部横撫で。体部篦削り。内面横位篦磨き。	P_5	
3-55	H－10 竈内	須恵器 坏	①[12.7] ② 3.7 ③ [6.4]	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	底部上げ底。体部直線的に外傾、口縁部外反する。唇部丸まる。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	34	
3-56	H－10 竈内	須恵器坏	① 12.8　② 3.6 ③ 6.3	①細粒 ②酸化焔 ③にぶい橙 ④2/3	器肉薄い。底部平底。体部は下端でわずかに括れ、外傾して開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	25	
3-57	H－10 床直	須恵器 坏	①[12.8] ② 3.4 ③ 5.8	①細粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙 ④2/3	器形56に似。底部やや上げ底。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	60	
3-58	H－10 床上	須恵器 高台椀	①[12.8] ② 4.8 ③ 5.6	①中粒 ②酸化焔気味 ③灰オリーブ ④1/3	高台部だれた短い台形状。体部直線的に外傾、口縁部わずかに外反。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	68	
3-59	H－10 床直	須恵器 高台椀	①[12.8] ② 4.4 ③ [5.4]	①粗粒 ②良好 ③黄灰 ④1/3	高台部58よりだれる。体部丸く膨らみ、口縁部でわずかに外反気味。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部高台貼付後、回転撫で調整。	P_5, 44	
3-60	H－10 竈内	須恵器 高台椀	①[13.6] ② (5.0) ③ 6.5	①中粒 ②やや不良 ③浅黄 ④1/2	高台部欠。貼付け後調整雑。体部直線的に外傾して開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転撫で調整。器面剥落。	54	
3-61	H－10 竈内	須恵器 高台椀	① 13.2　② (4.2) ③ 6.6	①細粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙 ④2/3	高台部剥落。体部外傾して開き、口縁部外反。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り、外周回転撫で調整。	52	
3-62	H－10 竈内	須恵器 高台椀	① 13.4　② (4.5) ③ 7.8	①中粒 ②酸化焔気味 ③にぶい黄橙 ④5/6	底部欠。体部外傾して開き、口縁部わずかに外反。轆轤整形。口縁部回転撫で。	40, 59	
3-63	H－10 竈内	須恵器 高台椀	① 15.0　② (5.2) ③ [6.0]	①中粒 ②酸化焔 ③赤褐 ④2/3	高台貼付極めて雑。体部ハの字に外傾して開く。轆轤整形。外面篦撫で調整。内面煤状付着物。高台内面回転篦撫でか。	48	
3-64	H－10 竈内	須恵器 高台椀	①[17.4] ② (6.0) ③ (8.0)	①中粒 ②酸化焔気味 ③灰黄 ④2/5	大形器形。底部欠。体部丸く内湾、口縁部で外傾気味に開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。内外面一部煤状。	65	
3-65	H－10 竈内	須恵器 高台椀	①[14.4] ② 5.9 ③ [8.1]	①中粒 ②酸化焔 ③灰黄 ④2/5	断面方形状のやや高めの高台。体部外傾して開く。器肉若干厚い。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部高台貼付後、回転撫で調整。	33	
3-66	H－10 覆土	須恵器 高台椀	①[14.1] ② 5.4 ③ [8.5]	①中粒 ②酸化焔 ③灰　④1/3	断面台形状のやや幅広の高台。体部外傾して開く。器肉やや厚い。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り、外周回転撫で。		

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
3-67	H－10 竈前	灰釉陶器 皿	①[12.4] ② 2.9 ③ 7.3	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	小さい器形。短い断面台形状の高台。腰部わずかに膨らみ、体部外傾して開く。轆轤整形。口縁部・底部回転撫で。漬掛け施釉。	11, 35	
3-68	H－10 竈内	灰釉陶器 輪花皿	① 13.6 ② 3.1 ③ 7.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	口縁部4ヵ所に指押さえによる輪花形成。高台部外面稜。体部外傾して開く。轆轤整形。底部回転糸切り。漬掛け施釉。	22	
3-69	H－10 竈内	灰釉陶器 碗	①[16.0] ② 5.5 ③ [8.0]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/5	高台側面わずかに稜形成。体部緩く湾曲、口縁部で開く。轆轤整形。底部回転撫で。漬掛け施釉。	56	
3-70	H－10 竈内	須恵器 土釜	① 18.5 ② 16.8 ③ 7.3	①中粒 ②酸化焔気味 ③褐灰 ④4/5	やや小形。底部平底。体部下半直線的に外傾、上半でわずかに膨らむ。口縁部短く外反。上半部回転撫で。下半縦・斜位篦削り。	28, 46	
3-71	H－10 竈内	須恵器 土釜	①[17.4] ②(17.0) ③ －	①中粒 ②酸化焔気味 ③にぶい褐 ④1/2	体部下半細身、上半～口縁部で緩く内湾する。唇部平坦、わずかに内傾する。上半部回転撫で。下半部縦位篦削り。	45, 46	
3-72	H－10 竈内	須恵器 甑	① － ② (7.4) ③脚径[22.5]	①中粒 ②酸化焔気味 ③黄灰 ④3/4	羽釜形甑。細身の胴部下半から大きく外反、端部短く直立する。内面二ヶ所に爪あと。内外面回転撫で。	1, 12	
3-73	H－11 覆土	須恵器 坏	① 8.8 ② 2.3 ③ 4.8	①中粒 ②酸化焔 ③橙 ④1/3	小形器形。底部平底。体部短く外傾。器肉厚い。轆轤整形。底部回転糸切り。		
3-74	H－11 床直	灰釉陶器 段皿	① 12.2 ② 2.4 ③ 6.8	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台断面短い三角形。腰部～体部直線的に外傾して開く。唇部4ヵ所に輪花形成。腰部・底部回転撫で。漬掛け施釉。	1, 2	
3-75	H－13 床上	土師器 坏	① 12.6 ② 3.9 ③ －	①中粒 ②良好 ③黒褐 ④1/2	底部～体部扁平。口縁部変換点で稜、口縁部直立する。口縁部横撫で。底部～体部撫で後篦削り。内面撫で。	1	
3-76	H－14 竈内	須恵器 坏	① 10.6 ② 3.3 ③ 6.0	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	小形器形。底部ほぼ平底気味。体部緩く湾曲、口縁部で開く。内・外面煤状付着物。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	19	
3-77	H－14 竈内	須恵器 坏	① 10.5 ② 3.1 ③ 4.3	①中粒 ②酸化焔 ③灰黄褐 ④2/3	小形器形。底部小さい平底。体部下端括れ、中位膨らむ。口縁部外反気味に開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	2, 3	
3-78	H－14 覆土	須恵器 坏	①[12.4] ② 2.9 ③ [5.8]	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい橙 ④1/4	底部若干上げ底。体部中位膨らみ、口縁部で外傾する。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。		
3-79	H－14 覆土	須恵器 坏	①[12.1] ② 2.7 ③ [5.8]	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい橙 ④1/4	底部平底。体部ハの字状に開き、口縁部で短いくの字状をなす。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	12	
3-80	H－14 竈内	でずくね 高台椀	①[14.8] ② (4.3) ③ －	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙 ④1/4	体部ハの字に外傾して開く。口縁部接合痕。体部上半部指頭調整、下端部撫で。内面撫で調整。	21	
3-81	H－14 床上	須恵器 高台碗	① 11.6 ② 4.9 ③ 7.0	①中粒 ②やや不良 ③灰黄 ④5/6	小形の器形。高台部短い台形状。体部中位に膨らみ、口縁部でわずかに外反する。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。	16	
3-82	H－14 床上	須恵器 高台碗	① 11.6 ② 5.1 ③ 5.9	①中粒 ②燻し焼成 ③黒 ④ほぼ完形	小形の器形。高台だれた短い台形状。体部丸みをもち、口縁部で外傾する。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転撫で。	15	つくり雑
3-83	H－14 覆土	内黒高 台坏	①[15.1] ② 5.8 ③ [7.0]	①中粒 ②酸化焔 ③黄橙 ④5/6	高台断面U字状。体部やや深く丸みをもつ。口縁部外傾して開く。唇部丸み。轆轤整形。内面内黒処理後篦削り。底部回転糸切り。		
3-84	H－14 床上	灰釉陶器 皿	① 12.8 ② 3.5 ③ 6.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台部側面外部に稜。腰部張り、口縁部でハの字状に開く。内面重ね焼痕。轆轤整形。腰部回転撫で。底部回転糸切り。漬掛け施釉。	13	
3-85	H－14 床上	灰釉陶器 碗	①[15.4] ② 4.7 ③ 8.4	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	高台低く断面三角形状。腰部やや張り、口縁部でハの字に開く。轆轤整形。腰部・底部回転撫で。漬掛け施釉。	17	
3-86	H－14 竈内	須恵器 羽釜	①[18.3] ②(16.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/3	胴部下半部直立気味、上半でわずかに湾曲する。鍔上向きに張り、口縁部直立する。唇部平坦。上半部回転撫で。下半部縦位篦削り。	1, 24	
3-87	H－15 覆土	須恵器 坏	①[12.5] ② 4.6 ③ 6.2	①中粒 ②酸化焔 ③橙 ④1/4	底部平底。体部下半直線的に外傾、中位で膨らみをもつ。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。切り離し後調整雑。		
3-88	H－15 床直	須恵器 坏	①[12.6] ② 3.7 ③ [6.0]	①中粒 ②酸化焔気味 ③褐灰 ④1/2	底部若干上げ底。体部下端括れ、腰部張りをもつ。口縁部大きく外傾して開く。轆轤整形。口縁部回転撫で。回転糸切り。	5	
3-89	O－1 F区	須恵器 坏	①[11.0] ② 3.7 ③ 4.0	①中粒 ②酸化焔 ③褐灰 ④1/4	小形の器形。底部小さく、下半部膨らみ外傾して開く。口縁部若干外反する。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。		
3-90	O－1 F区	須恵器 坏	① 9.8 ② 3.6 ③ 4.0	①中粒 ②酸化焔 ③灰黄 ④4/5	小さい器形。体部下半直線的に外傾、中位で若干膨らむ。口縁部外反。内外面煤付着。轆轤整形。口縁部回転撫で。回転糸切り。		
3-91	O－1 C区	須恵器 坏	① [9.8] ② 3.6 ③ 4.0	①中粒 ②酸化焔気味 ③にぶい黄橙 ④1/4	小さい器形。体部下半やや膨らみ、外傾して開く。口縁部若干外反気味。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り。		一部吸炭
3-92	O－1 D区	須恵器 高台椀	① [9.6] ② 4.6 ③ [6.5]	①中粒 ②酸化焔 ③橙 ④1/5	小さい器形。高台断面U字状。体部丸みをもって外傾する。轆轤整形。口縁部回転撫で。底部回転糸切り、撫で調整。		
3-93	O－1 D区	灰釉陶器 碗	①[15.1] ② 5.0 ③ [7.2]	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/4	高台側面外側わずかに稜。体部緩く湾曲して開く。轆轤整形。体部下半・底部回転篦削り。漬掛け施釉。		
3-94	O－1 C区	土師器 台付甕	① － ② (4.0) ③ －	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④台部片	古墳前期(石田川期)のS字状口縁をもつ甕形態。外面刷毛目。内面指撫で。		
3-95	D－1 床直	須恵器 高台椀	① － ② (3.3) ③ [9.6]	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④2/3	器肉厚い。外傾して開くやや高めの高台。轆轤整形。底部高台貼付け後回転撫で調整。	2	
3-96	D－1 覆土	須恵器 羽釜	①[19.4] ② 6.0 ③ －	①中粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐 ④1/5	鍔部小形で、断面丸い台形状。口縁部内傾気味に立上る。唇部平坦。内外面回転撫で。		
3-97	I－1 覆土	かわらけ	① [8.6] ② 2.5 ③ 4.4	①中粒 ②酸化焔 ③灰黄褐 ④1/2	底部突出気味。体部直線的に外傾、口縁部丸い。唇部内外面煤付着。灯明具に使用。轆轤整形。底部回転糸切り。		
3-98	I－1 覆土	焼締陶器 甕	① － ② － ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④肩部片	常滑焼。肩部上端外面撫で。内面紐つくり痕。		
3-99	I－1 覆土	焼締陶器 甕	① － ② － ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④肩部片	常滑焼。胴部外面押印文。		

5区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
5-1	H－1 床直	土師器 坏	① 12.0 ② 3.5 ③ 8.0	①粗粒 ②良好 ③明赤褐 ④完形	口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面指押さえ、撫で、外面篦削り。底部：やや丸みを持った平底、内面撫で、外面篦削り。	2	
5-2	H－1 竈内	土師器 甕	①[19.8] ②(16.0) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/5	口縁部：「コ」の字状、内面外面撫で。胴部：内面撫で、外面上部横位の篦削り、外面下部縦位の篦削り。底部欠損。	カマド4	

番　号	出土遺構 層　　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
5-3	H－1 床直	須恵器 坏	① 14.6　② 4.0 ③ 6.8	①中粒 ②良好 ③黄橙 ④2/3	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみをもって外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸きり未調整。	5、22他	酸化焔
5-4	H－2 床直	土師器 甕	①　－　②(20.1) ③　－	①細粒 ②良好 ③明褐灰 ④1/2	口縁部欠損。胴部：イチジク形、内面撫で、外面上部横位の篦削り、外面下部斜位の篦削り。脚部：ほとんど欠損している。内面撫で、外面胴部末端から刷毛撫で。	15	石田川式
5-5	H－2 床直	土師器 甕	① 14.4　②(16.0) ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：「S」の字状、内面・外面撫で。胴部：イチジク形、内面刷毛撫で、外面横位の篦削り。底部欠損。	15	石田川式
5-6	H－2 床直	土師器 台付甕	①　－　②(7.5) ③ 10.2	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④脚部のみ	脚部：内面撫で後、縄による施紋、外面撫で後、刷毛撫で。接地部分末端を内側に折り返して調整。	17	石田川式
5-7	H－3 覆土	土師器 坏	①[11.0]　②　3.1 ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内、外面撫で。胴部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	10	
5-8	H－3 覆土	土師器 坏	① 13.0　② 4.2 ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④2/3	口縁部：やや直立から外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内面撫で、外面横位の篦削り。底部：やや平底、内面撫で、外面篦削り。内面に放射状暗文、渦巻状暗文有り。	62	暗文
5-9	H－3 床直	土師器 坏	①[16.6]　②　3.3 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/2	口縁・体部：外反、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	68	
5-10	H－3 床直	土師器 坏	①[11.8]　②　3.5 ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁・体部：やや膨らみをもって直立、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	80	
5-11	H－3 床直	土師器 坏	①[18.0]　②　3.9 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁・体部：やや外反、内外面指押さえ、撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	12, 86	
5-12	H－3 床直	土師器 坏	①[16.4]　②　3.6 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	口縁・体部：外反、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	96他	
5-13	H－3 覆土	土師器 坏	① 12.4　② 3.6 ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④5/6	口縁・体部：やや膨らみを持って直立、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、指圧痕有り、外面篦削り。	97	
5-14	H－3 覆土	土師器 坏	①[18.3]　②　6.8 ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁・体部：やや外傾、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	39, 42他	
5-15	H－3 覆土	土師器 坏	①[15.6]　②　4.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁・体部：やや外傾、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	5,6	
5-16	H－3 床直	土師器 坏	① 15.2　② 3.1 ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	58, 87他	
5-17	H－3 床直	土師器 坏	①[20.1]　②　(8.1) ③　－	①中粒 ②良好 ③橙　④1/3	口縁・体部：短く直立、内外面撫で、底部との境に篦削りの線が二条有り。 底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	65, 69, 79	
5-18	H－3 床直	土師器 坏	①[16.2]　②　4.5 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/2	口縁・体部：外反、内外面撫で。底部：丸底。内面撫で。外面篦削り。	カマド 2、7、8	
5-19	H－3 床直	土師器 甕	① 22.0　② 35.5 ③ 4.5	①細粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁部：大きく外反、内指撫で、外面指撫で後刷毛撫で。胴部中位にやや膨らみを持つ、内面撫で、外面上部横位の篦削り、外面中・下部縦位の篦削り。底部：平底：内面撫で、外面篦削り。	117	
5-20	H－3 覆土	土師器 甕	①[22.0]　②(19.8) ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④1/6	口縁部：外反、内外面撫で、中部に接合痕有り。胴部：内面撫で、外面横位の篦削り。口縁と胴部の境に接合痕有り。	15, 29他	
5-21	H－3 覆土	土師器 甕	①[25.0]　②　(9.5) ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/8	口縁部：大きく外反、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面横位の篦削り。口縁部と胴部の境に接合痕。	59, 16	
5-22	H－3 床直	須恵器 長頸瓶	①　－　②(11.2) ③	①細粒 ②良好 ③灰白 ④2/3	轆轤整形。肩部：内外面撫で、二条の沈線、4列の刺突文。胴部：内外面撫で。底部：内外面撫で、高台貼付。	90, 99	
5-23	H－3 床直	須恵器 甕	①(27.2)　②　(7.2) ③　－	①粗粒 ②良好 ③灰　④1/8	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。胴部以下欠損。	26, 27, 104	
5-24	H－4 竈内	土師器 坏	① 12.6　② 3.4 ③　－	①中粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④5/6	口縁部：外傾、内面撫で、外面指押さえ後撫で。体部：外傾、内面指押さえ後撫で、外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	14	
5-25	H－4 竈内	須恵器 坏	① 12.6　② 3.8 ③ 6.8	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④3/4	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	17, 18	酸化焔
5-26	H－6 床直	土師器 甕	①[12.0]　②　(4.2) ③　－	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/10	口縁部：「S」の字状、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面斜位の刷毛撫で。胴部中位以下欠損。	1	石田川式
5-27	H－7 床直	土師器 坩	① 10.6　② 15.9 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	口縁部：外傾、内外面縦位の篦磨き。頸部：内面撫で、外面横位の篦磨き。底部：平底。内外面撫で。	24	
5-28	H－7 床直	土師器 小甕	①[18.0]　②　10.3 ③　4.1	①粗粒 ②良好 ③浅黄橙 ④1/2	口縁部：大きく外傾、内撫で、外面刷毛撫で後、指撫で。胴部：上位に膨らみを持ち底部に向けて窄まる、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	23	
5-29	H－7 床直	土師器 甕	①　－　②(10.0) ③　6.8	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④下部のみ	胴部：膨らみを持ち、底部に向けて窄まる、内面撫で、外面縦位の篦削り後、横位の篦削り。底部：内面指押さえ後撫で、外面篦削り。	8、9他	
5-30	D－3 覆土	土師器 坏	①[11.0]　②　3.5 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁・体部：ほぼ直立、内外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
5-31	D－3 覆土	土師器 甕	①[22.6]　②(11.1) ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙　④1/8	口縁部：わずかに外反するややコの字の形状、内面撫で、外面刷毛撫で、篦書きによる線が三条有り。胴部：内面横位の篦撫で、外面横位の篦削り。	14, 21	
5-32	D－3 覆土	須恵器 蓋	①[18.0]　②　4.0 ③ [8.2](摘み)	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。天井部：やや水平から緩やかに傾斜、内面撫で、外面回転篦削り、撫で。返り有。摘み：環状。	覆土	
5-33	D－5 覆土	須恵器 高台皿	① 13.6　② 2.9 ③ 6.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外反、内外面撫で。底部：内面撫で。外面回転糸切り後付け高台。	2	
5-34	X34 Y160	緑釉陶器 稜椀	①　－　②　(2.2) ③　－	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 ④破片	轆轤整形。素地は灰白。体部に稜有り。高台は断面四角形。		
5-35	X39 Y164	土師器 台付甕	①[14.2]　②　(4.4) ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④破片	口縁部「S」の字状、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面縦位の刷毛撫で。胴部中位以下欠損。	3	石田川式
5-36	X40 Y163	土師器 甕	①[14.8]　②(10.1) ③　－	①細粒 ②良好 ③灰褐 ④1/8	口縁部：「S」の字状、内面撫で、外面刷毛撫で後、指撫で。胴部：内面指圧痕有り、刷毛撫で、外面刷毛撫で。底部欠損。	7	石田川式

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
5-37	X40 Y164	土師器 甕	①　－　②(16.0) ③　5.6	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2	口縁部：欠損。胴部：球形、内面撫で、外面上部横位の刷毛撫で、外面中・下部斜位の刷毛撫で。底部：平底、内外面撫で。	9	石田川式
5-38	X40 Y164	土師器 甕	①[14.0] ②（5.7） ③　－	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④1/8	口縁部：外傾からやや外反、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面斜位左右両方向からの刷毛撫で。胴部中位以下欠損。	18	石田川式
5-39	表採覆土	緑釉陶器 椀	①　－　②　－ ③　－	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 ④破片	轆轤整形。素地は灰白。内外面ともに緑釉が施される。		調査区北西

6区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
6-1	H－1 床直	須恵器 小型坏	①　8.8　②　1.9 ③　6.0	①細粒 ②良好 ③橙　④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾で直線的に外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	25	酸化焔
6-2	H－1 床直	須恵器 小型坏	①［9.6］②　2.2 ③　5.6	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾でわずかに膨らみを持ちながら小さく外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	18	酸化焔
6-3	H－4 覆土	土師器 坏	①[11.9] ②　3.1 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/2	口縁部：ほぼ直立。内面横撫で・外面篦削り。体部：外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
6-4	H－5 床直	須恵器 小型坏	①　8.8　②　2.3 ③　6.1	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾で直線的に外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	7，8	軟質酸化焔
6-5	H－5 床直	須恵器 小型坏	①　9.9　②　3.0 ③　6.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾で直線的に外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	9	軟質酸化焔
6-6	H－7 床直	土師器 甕	①[22.0] ②（8.1） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	口縁部：やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部：ほぼ直立、内面撫で、外面斜位に篦削り。底部：欠損。	4	
6-7	H－7 床直	土師器 甕	①[22.4] ②（5.1） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④破片	口縁部：やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部：やや膨らみを持ち、内面撫で、外面斜位に篦削り。底部：欠損。	9	
6-8	H－8 覆土	須恵器 小型坏	①　9.0　②　2.6 ③　4.4	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾でわずかに膨らみを持ちながら小さく外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。		酸化焔油煙付着
6-9	D－6 覆土	須恵器 羽釜	①[27.2] ②(17.5) ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④完形	轆轤整形。口縁部：やや内傾、内外面撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。胴部：上位に器最大径、内外面轆轤撫で。胴部：欠損。	1	
6-10	I－1 覆土	軟質陶器 焙烙	①[15.4] ②　5.1 ③[32.8]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	粘土紐形成、轆轤整形。口縁・体部：やや外傾。底部：平底。内耳は不明。		
6-11	O－1 覆土	土師器 坏	①11.4　②　3.7 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：ほぼ直立。内面横撫で・外面篦削り。体部：外傾で浅い。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		口縁部欠損は故意か？
6-12	O－1 覆土	土師器 坏	①[22.4] ②（5.1） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④破片	口縁部：外傾。内外面横撫で。体部：外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		口縁部欠損は故意か？
6-13	O－1 覆土	土師器 甕	①[20.2] ②（8.4） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	口縁部：やや直立から外反。内外面横撫で。胴部：やや膨らみを持つ。内面撫で、外面縦位の篦削り。底部：欠損。		
6-14	O－1 覆土	須恵器 高台椀	①[17.0] ②（7.2） ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。		酸化焔

7区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-1	H－2 床直	土師器 坏	①13.6　②　4.1 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい褐色 ④ほぼ完形	口縁・体部：外傾から口縁端部ほぼ直立、内・外面撫で外面篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り。丸底	70	
7-2	H－2 覆土	土師器 坏	①12.8　②　3.7 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口の部分欠落	口縁部：やや内反、内・外面撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	68	
7-3	H－2 床直	土師器 坏	①15.2　②　4.9 ③　9.6	①細粒 ②良好 ③橙色 ④3/4	口縁・体部：外反。内面撫でた後に放射線状に暗文。外面横篦削り。底部：平底気味。内面撫でた後に渦巻状に暗文。外面篦削り。	69	
7-4	H－2 覆土	土師器 坏	①12.3　②　3.6 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④3/4	口縁部：ほぼ直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	31	
7-5	H－2 床直	土師器 甕	①(23.0) ② 24.5 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/4	口縁部：器最大径、直立気味から外反、内・外面撫で。胴部：上位に膨らみをもつ、内面撫で、中位篦削り。外面斜位の篦削り。底部欠損。	64ほか	
7-6	H－2 貯蔵穴	須恵器 坏	①13.0　②　3.6 ③　8.1	①細粒 ②良好 ③暗灰黄色 ④9/10	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや外反、内・外面撫で下位部回転篦削り。底部：外部に削り出し高台、内面撫で、外面回転篦切り後篦撫で	61	
7-7	H－2 覆土	須恵器 坏	①[11.2] ②　3.8 ③［7.5］	①細粒 ②良好 ③灰色 ④1/3	口縁部：やや外傾気味、内・外面撫で。体部：下部篦削り。底部：篦お越し、浅い平底、内面撫で、外面篦削り。	10ほか	
7-8	H－3 竈	土師器 甕	①[21.0] ②(15.0) ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④胴～底部欠損	口縁：直立から外傾、内・外面撫で。胴部：上位に膨らみをもち、内面・外面斜位の篦削り。中位以下欠損。	8ほか	
7-9	H－3 床直	カワラケ	①　9.7　②　2.1 ③　4.2	①細粒 ②良好 ③灰黄褐 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや外反、外・内面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	30	酸化焔
7-10	H－6 覆土	土師器 坏	①[12.2] ②　4.1 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④2/5	口縁・体部：外傾からやや外傾、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。		
7-11	H－6 覆土	土師器 甕	①24.8　②32.0 ③　－	①粗粒 ②良好 ③橙色 ④1/2	口縁部：外反、内・外面撫で、指圧痕。胴部：上位に膨らみをもち器最大径、内面撫で、外面上位横位の篦削り、下位斜位の篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	4	
7-12	H－7 床直	土師器 坏	①[13.6] ②　2.9 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2	口縁部：やや外傾、内面撫で、外面篦削り。体部：内面撫で、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	16	
7-13	H－7 竈	土師器 坏	①12.1　②　3.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④完形	口縁部：やや外傾、内・外面撫で。体部：内面撫で、外面篦削り。底部：浅丸底、内面撫で、外面篦削り。	17	

番　号	出土遺構 層　　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-14	H－7 竈	土師器 甕	①[15.2] ② (9.9) ③　－	①中粒 ②良好 ③橙色 ④口縁～体部	口縁部：外反、内・外面撫で。胴部：上位に膨らみをもち器最大径、内面撫で、外面斜位の篦削り。	18	
7-15	H－7 床直	土師器 甕	①(26.0) ②(16.0) ③　－	①中粒 ②良好 ③橙色 ④胴～底部欠損	口縁部：器最大径、大きく外傾、内・外面撫で、上部に刷毛目。胴部：内面撫で、外面斜位の篦削り。中位以下欠損。	19	
7-16	H－7 床直	須恵器 蓋	① 13.0 ② 2.2 ③ 4.0(摘み)	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④完形	轆轤整形。天井部：水平、外面篦削り。体部：穏やかに傾斜。内面撫で・外面撫で。環状の摘みを付す。	20	
7-17	H－8 床直	土師器 坏	① 15.0 ② 4.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④5/6	口縁部：やや外傾、内面撫で、外面篦削り。体部：内面撫で、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	17ほか	
7-18	H－8 床直	須恵器 坏	①[11.7] ② [3.6] ③ [6.8]	①細粒 ②良好 ③灰色 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から口縁端部やや外反、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。	9	
7-19	H－9 覆土	土師器 坏	① 13.2 ② 3.3 ③ 4/5	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	口縁部：やや外傾、内・外面撫で。体部：内面撫で、外面篦削り。底部：浅丸底、内面撫で、外面篦削り。	69ほか	
7-20	H－9 床直	土師器 坏	① 13.3 ② 3.1 ③ 2/3	①細粒 ②良好 ③橙色 ④2/3	口縁・体部：やや外傾、内面撫で、外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	78ほか	
7-21	H－9 覆土	土師器 坏	①[16.1] ② (2.3) ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/4	口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：ほぼ平底、内面撫で、外面篦削り。		
7-22	H－9 覆土	須恵器 坏	① 13.1 ② 3.9 ③ 9.7	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面篦で起こして篦で調整。	71ほか	酸化焔
7-23	H－9 覆土	須恵器 坏	①[12.6] ② 3.9 ③ 9.3	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、外・内面撫で。底部：内面撫で、篦で起こして篦で調整。	79ほか	酸化焔
7-24	H－10 床直	土師器 坏	① 11.3 ② 3.2 ③口・欠損あり	①細粒 ②良好 ③橙色 ④口縁欠損有り	口縁・体部：外傾から口縁部で内湾、外面篦削り、内面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	25ほか	
7-25	H－10 床直	土師器 坏	① 13.4 ② 4.2 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5強	口縁・体部：外傾から口縁部で内湾、外面篦削り、内面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	27ほか	
7-26	H－10 床直	土師器 坏	① 11.3 ② 3.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④完形	口縁・体部：外傾から口縁部で内湾、外面篦削り、内面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	40ほか	
7-27	H－10 床直	土師器 坏	① 15.3 ② 5.2 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	口縁・体部：外傾から口縁端部で内傾、外面篦削り、内面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	44ほか	
7-28	H－10 覆土	土師器 坏	① 11.5 ② 3.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	口縁・体部：外傾から口縁端部で内湾、外面篦削り、内面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	26ほか	
7-29	H－10 床直	土師器 坏	① 10.0 ② 3.9 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2強	口縁部：外傾からやや直立、内面撫で、外面篦削り。体部：内面撫で、外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	2 ほか	
7-30	H－10 覆土	土師器 坏	① 11.4 ② 3.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④4/5	口縁・体部：外傾から口縁端部で内傾、外面篦削り、内面撫で後篦で調整。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	3 ほか	
7-31	H－10 覆土	土師器 坏	①[12.3] ② 3.3 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙色 ④1/2	口縁・体部：外傾から口縁端部で直立、外面篦削り、内面撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	1 ほか	
7-32	H－10 床直	土師器 長胴甕	①(24.0) ② 35.3 ③ 3.7	①細粒 ②良好 ③にぶい橙色 ④3/4	口縁部：器最大径、大きく外傾、内・外面撫で。胴部：内面撫で、外面斜位の篦削り。	33ほか	
7-33	H－10 覆土	須恵器 蓋	①摘み3.5 ② 5.6 ③ 18.2	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④完形	轆轤整形。天井部：水平。体部：穏やかに傾斜。垂直折れる口縁端部。、内面撫で・外面撫で、口縁部篦削り。ボタン状の摘みを付す。	16ほか	
7-34	W－1 覆土	須恵器 坏	① 13.0 ② 4.2 ③ 8.0	①細粒 ②良好 ③灰色 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、篦調整。	113ほか	
7-35	D－3 覆土	須恵器 坏	①[12.4] ② 4.1 ③ 7.6	①細粒 ②良好 ③灰色 ④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り。		
7-36	D－3 床直	須恵器 長頸壺	① [8.0] ② 22.9 ③ 5.0	①細粒 ②良好 ③明褐灰 ④口1/2欠	まとめ「3 壺Gについて」にて観察。	613	花瓶か
7-37	D－3 覆土	須恵器 長頸壺	①　－　②(15.7) ③ 5.9	①細粒 ②良好 ③灰黄 ④口～頸上部欠損	まとめ「3 壺Gについて」にて観察。	612	花瓶か
7-38	D－3 床直	須恵器 短頸壺	① 6.5 ② 8.7 ③ 7.4	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④胴一部・脚1/2欠損	まとめ「3 壺Gについて」にて観察。	370	薬壺

9区

番　号	出土遺構 層　　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-1	H－1 覆土	土師器 坏	①[14.0] ② 4.1 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/4	口縁部：やや外反、内外面横撫で。交換点に稜有。底部：丸底。内面撫で、外面篦削り。		
9-2	H－1 覆土	土師器 坏	①[11.5] ② 3.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：やや内傾、内外面横撫で。底部：ほぼ平底。内面撫で、外面篦削り。		
9-3	H－1 覆土	土師器 小甕	①[18.4] ② (9.8) ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/3	口縁部：直立からやや外反、内外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上部横位、下部斜位に篦削り。底部：欠損。		
9-4	H－2 覆土	土師器 坏	① 13.4 ② 3.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④4/5	口縁部：外傾、内外面横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。	X69 Y163	燻し焼成
9-5	H－3 床直	土師器 坏	① 14.9 ② 4.3 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④ほぼ完形	口縁部：外傾、内面横撫で後暗文を施す、外面横撫で。底部：平底。内面撫で、外面篦削り。	9，28他	暗文
9-6	H－3 床直	土師器 坏	① 14.8 ② 4.0 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④2/3	口縁部：直立からやや内傾。内外面横撫で。底部：ほぼ平底。内面撫で、外面篦削り。	19	
9-7	H－3 床直	土師器 坏	① 12.7 ② 3.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④4/5	口縁部：やや直立、内外面横撫で。底部：やや丸底。内面撫で、外面篦削り。	20	
9-8	H－3 床直	土師器 坏	①[14.0] ② 3.4 ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/2	口縁部：やや外傾、内外面横撫で。底部：ほぼ平底。内面撫で、外面篦削り。	23他	
9-9	H－3 覆土	土師器 甕	①　－　②(7.2) ③ 7.6	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④底部	口縁部・胴部上中位：欠損。胴部下位：内面横撫で、外面斜位に篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り。	26他	
9-10	H－3 床直	土師器 甕	①　－　②(14.6) ③ 10.8	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④底部	口縁部・胴部上中位：欠損。胴部下位：内面横撫で、外面斜位に篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り。	29他	

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-11	H－3 覆土	須恵器 坏	① 15.1 ② 3.3 ③ 10.8	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持ちながら外傾、口縁部やや外反、内外面轆轤撫で。底部：外縁に削り出し高台を付す。内面撫で、外面回転篦撫で調整。	17	
9-12	H－3 覆土	須恵器 坏	①[12.9] ② 3.6 ③ 7.8	①細粒 ②良好 ③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転篦切り撫で調整	24	
9-13	H－3 床直	須恵器 高台椀	① 13.4 ② 3.2 ③ 10.0	①細粒 ②良好 ③灰白 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。	18	
9-14	H－4 床直	土師器 坏	①[12.1] ② 2.8 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：やや内傾、内外面横撫で。体部：外傾、内面撫で、外面篦削り。底部：やや丸底。内面撫で、外面篦削り。	4，5 他	
9-15	H－4 床直	土師器 甕	①[23.4] ② (3.7) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 ④口縁破片	口縁部：外傾。内面横撫で、外面横撫で後篦削り。胴部・底部：欠損。	2 他	
9-16	H－4 床直	須恵器 坏	①[12.8] ② 3.9 ③ [5.8]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持ちながら外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	1	
9-17	H－5 床直	土師器 坏	① 12.6 ② 3.8 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④2/3	口縁部：やや外傾、内面横撫で、外面篦削り。交換点に稜有。底部：浅い丸底。内面撫で、外面篦削り。	4，9， 13	
9-18	H－6 覆土	土師器 甕	① 15.0 ②(11.3) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/3	口縁部：直立から外反。内外面横撫で。胴部：上位がやや膨らみを持つ。内面撫で、外面横位の篦削り。底部：欠損。	W－3 覆土	
9-19	H－6 覆土	須恵器 高台椀	①[14.3] ② 4.6 ③ 6.5	①細粒 ②良好 ③暗灰 ④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや丸みを帯びて口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	4	外面燻し焼成
9-20	H－6 覆土	須恵器 高台椀	①[17.2] ② 7.4 ③ 7.2	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや丸みを帯びて口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	5	
9-21	H－7 床直	須恵器 高台椀	①[12.8] ② 4.7 ③ [6.3]	①細粒 ②良好 ③暗灰 ④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾からやや丸みを帯びて口縁端部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。	5	燻し焼成
9-22	H－9 覆土	土師器 坏	① 11.0 ② 3.3 ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く内傾。内外面横撫で。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	8，9 他	内黒
9-23	H－9 覆土	土師器 坏	① 15.5 ② 4.6 ③ 10.0	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁部：短く内傾。内外面横撫で。体部：外傾。内面横撫で後暗文を施す・外面篦削り。底部：平底、内面撫で後暗文を施す、外面篦削り。	3 他	
9-24	H－9 床直	土師器 坏	①[13.5] ② 3.7 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：短く内傾しやや外反。内面横撫で・外面横撫で、篦削り。体部：外傾。内面横撫で後暗文を施す・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	52	
9-25	H－9 覆土	土師器 坏	①[10.6] ② 3.1 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く内傾。内外面横撫で。体部外傾。内面横撫で。外面篦削り。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	13, 17	
9-26	H－9 覆土	土師器 甕	①[20.7] ② (9.3) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④口縁破片	口縁部：やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部：ほぼ直立、内面撫で、外面斜位に篦削り。底部：欠損。	4 他	
9-27	H－9 覆土	土師器 甕	①[23.6] ② (5.1) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁破片	口縁部：やや直立から外反。内外面横撫で。胴部・底部：欠損。		
9-28	H－9 覆土	土師器 甕	①[21.6] ② (5.7) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④口縁破片	口縁部：直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部・底部：欠損。		
9-29	H－9 覆土	土師器 甕	①[26.6] ② (6.2) ③ －	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 ④口縁破片	口縁部：直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部・底部：欠損。		
9-30	H－9 覆土	須恵器 甕	①[14.6] ② (6.7) ③ －	①細粒 ②良好 ③灰 ④口縁	轆轤整形。口縁部：やや直立から外反、短く内傾。内外面轆轤撫で。胴部・底部：欠損。	5	
9-31	H－11 床直	土師器 坏	①[12.0] ② 3.4 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④4/5	口縁部：短く内傾。内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	1，4	
9-32	H－11 覆土	土師器 坏	①[16.3] ② 3.2 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/2	口縁部：短く内傾。内外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	7	
9-33	H－11 床直	土師器 坏	① 13.3 ② 4.1 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④ほぼ完形	口縁部：短く内傾。内面横撫で・外面横撫で、篦削り。体部：外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	11	
9-34	H－11 床直	土師器 坏	①[13.2] ② 3.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：短く内傾。内面横撫で・外面横撫で、篦削り。体部：外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。	3 他	
9-35	H－11 覆土	土師器 坏	①[12.3] ② 2.9 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/4	口縁部：短く内傾。内面横撫で・外面横撫で、篦削り。体部：外傾。内面横撫で・外面篦削り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
9-36	H－11 覆土	土師器 甕	① － ② (5.1) ③ 6.4	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④底部	口縁部・胴部上中位：欠損。胴部下位：内面撫で、外面斜位に篦削り。底部：内面撫で、外面篦削り、煤付着。		
9-37	H－11 床直	土師器 甕	①[23.4] ②(12.5) ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④1/3	口縁部：やや直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部：内面横撫で、外面斜位に篦削り・底部：欠損。	10, 15	
9-38	H－11 覆土	須恵器 高台椀	① 18.0 ② 5.6 ③ 14.1	①細粒 ②良好 ③灰 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持ちながら外傾、口縁部やや外反、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転篦切り、高台を付けた後回転篦撫で調整。	17	
9-39	W－1 覆土	土師器 坏	①[11.8] ② 4.2 ③ －	①細粒 ②良好 ③橙 ④3/4	口縁部：やや外傾。内面横撫で、外面横撫で篦削り。交換点に稜有り。底部：やや丸底、内面撫で、外面篦削り。		
9-40	W－1 覆土	土師器 甕	①[24.0] ② (9.8) ③ －	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	口縁部：直立から大きく外反。内外面横撫で。胴部：内面横撫で、外面縦位に篦削り・底部：欠損。		
9-41	W－1 覆土	陶器 天目茶碗	①[11.8] ② 6.7 ③ 4.0	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持ちながら外傾、内外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後付け高台。内外面に付着物有り。		
9-42	W－2 床直	須恵器 坏	① 11.6 ② 3.3 ③ 6.0	①細粒 ②良好 ③灰 ④完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って口縁部やや外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後未調整。	1	酸化焔
9-43	W－2 覆土	須恵器 坏	① 10.8 ② 3.3 ③ 5.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後未調整	4	酸化焔
9-44	W－3 覆土	須恵器 坏	①[11.0] ② 3.4 ③ 5.2	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/2	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って口縁部大きく外反、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後未調整。		酸化焔

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-45	W－3 覆土	須恵器 坏	①[10.8] ②　3.5 ③ [5.5]	①細粒 ②良好 ③灰黄 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後撫で調整		酸化焔
9-46	D－1 覆土	須恵器 坏	① 12.5 ②　3.8 ③　6.2	①細粒 ②良好 ③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って口縁部やや外反、内・外面轆轤撫で口縁部に油煙。底部：内面撫で、外面回転糸切り後未調整。意図的に体部一部を破損させたか？	1	酸化焔

10区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
10-1	P－18 覆土	須恵器 羽釜	①　－　②（6.1） ③　－	①細粒 ②良好 ③　　④口縁破片	轆轤整形。口縁部：やや内傾、内外面轆轤撫で。鍔部：断面三角形でほぼ水平に付く。		酸化焔

11区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①口径　②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
11-1	H－2 竈内	土師器 坏	① 13.4 ②　3.5 ③　－	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	口縁・体部：やや膨らみを持って直立、内面篦撫で後、指撫で、外面指撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	カマド2	
11-2	H－2 床直	土師器 甕	① 20.1 ②（5.8） ③　－	①細粒 ②良好 ③橙　④1/10	口縁部：外反、内外面撫で。胴部：内面撫で、外面篦削り。ほとんどが欠損。底部欠損。	4	
11-3	H－3 床直	須恵器 坏	① [6.6] ②　3.0 ③　4.2	①粗粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から外反、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	2	酸化焔
11-4	H－3 床直	須恵器 坏	①[11.1] ②　3.5 ③　5.8	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整。	17	酸化焔
11-5	H－3 床直	須恵器 高台椀	① 18.6 ②（5.7） ③　－	①細粒 ②良好 ③暗赤灰 ④1/3	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部欠損。	28	酸化焔
11-6	H－3 覆土	須恵器 高台椀	①[13.2] ②（3.7） ③（5.9）	①粗粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、付け高台。高台欠損。	10	酸化焔
11-7	H－3 床直	須恵器 高台椀	① 12.4 ②　4.9 ③　6.6	①細粒 ②良好 ③灰白 ④3/4	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、付け高台、撫で調整。	13	酸化焔
11-8	H－3 床直	須恵器 高台椀	①[13.6] ②　5.8 ③　5.4	①粗粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④2/3	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：外傾、内外面撫で。高台の接合痕有り。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台。外面に口縁部から底部にかけてぶつけた痕があり、高台が変形している。	20	酸化焔
11-9	H－3 床直	須恵器 高台椀	①[13.0] ②　3.9 ③ [6.2]	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、付け高台、撫で調整。	24	酸化焔
11-10	H－3 床直	灰釉陶器 高台皿	①[12.6] ②　2.3 ③ [6.6]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面篦削り後、付け高台、撫で調整。釉薬は漬けがけ。	9	
11-11	H－4 覆土	須恵器 蓋	①[13.8] ②　2.4 ③　5.2(摘み)	①粗粒 ②良好 ③灰　④1/2	轆轤整形。天井部：水平から傾斜し、端部垂下、内面撫で、外面回転篦削り後、小さい環状の摘みを付けている。	7	
11-12	H－4 床直	須恵器 坏	①[13.8] ②　3.5 ③　8.6	①細粒 ②良好 ③黄灰 ④1/6	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後、撫で調整。	17	
11-13	H－4 床直	須恵器 坏	① 14.2 ②　4.0 ③　7.5	①中粒 ②良好 ③灰　④5/6	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、撫で調整。全体が楕円に歪む。	24	
11-14	H－4 覆土	須恵器 坏	① 14.6 ②　3.9 ③　8.2	①中粒 ②良好 ③灰黄褐 ④3/4	轆轤整形。口縁部：外反、体部：やや膨らみを持って外傾、下部にも膨らみ有り、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、篦撫で調整。	27	酸化焔
11-15	H－4 床直	須恵器 坏	① 13.4 ②　3.5 ③　8.2	①粗粒 ②良好 ③黄灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：やや外反、内外面撫で。体部：膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り後、外周部分のみ篦削り調整。	1，3，12	
11-16	H－4 床直	須恵器 坏	① 13.6 ②　4.1 ③　7.0	①粗粒 ②良好 ③灰白 ④4/5	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り未調整。	22, 23	
11-17	H－4 床直	須恵器 坏	①[13.4] ②　4.4 ③　6.8	①細粒 ②良好 ③褐灰 ④1/2	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：外傾、内面撫で。外面上部撫で、外面下部に膨らみが有り篦削り。底部：回転糸切り未調整。	D－21	
11-18	H－4 覆土	須恵器 坏	① 13.7 ②　3.8 ③　7.8	①粗粒 ②良好 ③灰　④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で。底部：回転篦削り。		
11-19	H－4 覆土	須恵器 坏	①[12.6] ②　3.5 ③　7.5	①細粒 ②良好 ③灰　④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内外面撫で、下部に篦削り。底部：内面撫で、外面回転糸切り、外周のみ篦調整。		
11-20	H－4 覆土	須恵器 高台椀	①[12.1] ②　4.5 ③ [7.4]	①粗粒 ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/4	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台。	14	酸化焔
11-21	H－4 床直	須恵器 高台椀	①[11.1] ②　4.2 ③　6.6	①中粒 ②良好 ③灰　④1/2	轆轤整形。口縁部：外傾、内外面撫で。体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：回転糸切り後付け高台、撫で調整。	32, 33	
11-22	H－4 覆土	灰釉陶器 高台皿	①[13.6] ②　2.1 ③ [7.6]	①細粒 ②良好 ③灰白 ④1/3	轆轤整形。口縁・体部：やや膨らみを持って外傾、内外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り後、付け高台。釉薬は漬けがけ。		
11-23	表採覆土	土師器 坏	①[12.8] ②　3.4 ③ [7.7]	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/3	口縁部：外傾、内面下部に煤付着、内外面撫で。体部：外傾、内面撫で、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。放射状紋有り。		暗文

注）① 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
竈内の検出については「竈内」と記載した。
② 口径、器高の単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③ 胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④ 焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

Tab. 7　石器・石製品観察表

3区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
3-石1	H－4　覆土	砥石	8.0	4.5	9.0	260 g	安山岩	片側小口残		表面中央使用により凹む。
3-石2	H－6　床上	蔌編石	14.0	6.4	4.0	730 g	安山岩	完形	S－1	断面楕円形。片面被熱痕。
3-石3	H－6　床直	蔌編石	13.6	6.2	4.0	720 g	安山岩	一部剥落	S－5	器面剥離。断面楕円形。側面擦痕。
3-石4	H－6　床直	蔌編石	12.7	4.8	2.3	350 g	安山岩	完形	S－18	被熱により黒ずみ。断面楕円形。
3-石5	H－6　床上	蔌編石	13.9	4.1	3.3	350 g	安山岩	完形	S－4	被熱により黒ずみ。断面楕円形状。
3-石6	H－6　床直	蔌編石	17.3	5.3	3.3	610 g	安山岩	一部剥落	S－12	被熱により器面剥離。断面楕円形。
3-石7	H－6　床直	蔌編石	17.5	5.9	4.5	820 g	安山岩	完形	S－7	片面被熱痕。断面方形状。
3-石8	H－6　床上	蔌編石	17.7	4.7	4.4	660 g	安山岩	完形	S－2	断面方形状。
3-石9	H－6　床直	蔌編石	17.6	5.8	3.8	740 g	安山岩	完形	S－10	断面方形状。
3-石10	H－6　床直	蔌編石	15.2	6.7	3.8	610 g	安山岩	完形	S－8	側面擦れ痕。断面長円形
3-石11	H－6　床上	蔌編石	14.4	6.9	3.7	670 g	安山岩	完形	S－3	一部被熱。断面方形状。
3-石12	H－6　床直	蔌編石	14.8	5.5	5.0	670 g	安山岩	大半剥落	S－9	器面剥落顕著。断面楕円形か。
3-石13	H－6　床上	蔌編石	16.0	6.4	4.9	860 g	安山岩	完形	S－6	被熱により黒ずみ。断面楕円形。
3-石14	H－6　床直	蔌編石	17.0	5.9	4.7	800 g	安山岩	完形	S－19	器面剥落。断面楕円形。
3-石15	H－6　床直	蔌編石	8.7	4.9	4.7	280 g	安山岩	1/2程度	S－20	被熱顕著。器面剥落。断面三角形。
3-石16	H－6　床直	磨り石	5.6	4.5	3.9	150 g	安山岩	完形	S－15	円形状。器面滑らか。
3-石17	H－6　床直	台石？	16.7	10.5	7.9	2410 g	安山岩	1/3程度か	S－13	大形礫。器面滑らか。
3-石18	H－6　竈材	竈天井石	34.2	13.3	11.0	3200 g	凝灰岩	ほぼ完形		器面鑿状の加工痕顕著。
3-石19	H－6　床直	砥石	27.6	13.1	7.9	3280 g	安山岩	小口面欠	S－21	器面研磨痕顕著。7面に使用痕。
3-石20	H－9　床直	蔌編石	14.4	7.5	5.1	850 g	安山岩	完形	14	小口面敲痕。断面楕円形。
3-石21	H－9　床直	蔌編石	12.9	8.6	3.7	680 g	安山岩	片側小口欠	15	器面扁平。断面楕円形。
3-石22	H－9　床直	蔌編石	18.3	8.9	5.4	1350 g	安山岩	完形	9	断面楕円形。
3-石23	H－9　床直	蔌編石	18.6	7.5	4.2	900 g	安山岩	完形	11	片側面被熱で剥離。断面楕円形。
3-石24	H－9　床直	蔌編石	14.3	5.6	5.1	820 g	安山岩	完形	13	断面不整楕円形状。
3-石25	H－9　床直	蔌編石	14.0	7.7	4.8	730 g	安山岩	片側小口欠	12	断面三角形。
3-石26	H－9　P_5内	蔌編石	14.5	6.2	3.2	680 g	安山岩	完形	P_5内	断面方形状。
3-石27	H－9　床直	蔌編石	15.3	6.0	4.1	780 g	安山岩	完形	10	断面方形状。
3-石28	H－10　床直	凹石	15.7	15.7	7.5	1330 g	安山岩		66	孔径8.7×8.5深2.6　鑿状加工痕。
3-石29	H－10　床直	凹石	17.5	13.2	8.8	1175 g	安山岩		64	孔径10.0×8.0深5.9
3-石30	H－10　床直	凹石	19.6	14.3	14.6	2940 g	安山岩		69	孔径10.2×8.3

5区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
5-石1	H－3	石鏃	3.8	1.8	0.8	1.3	黒曜石	ほぼ完形		
5-石2	H－6	石斧	4.2	8.3	1.2	40.0	黒色安山岩	完形		
5-石3	D－3	打製石斧	18.3	9.6	3.1	580.0	頁岩	完形		
5-石4	D－3	打製石斧	7.1	6	1.7	80.0	黒色頁岩	完形		

9区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
9-石1	W－1　覆土	石臼	(10.6)	(10.7)	(7.6)	2160.0	安山岩	破片		
9-石2	W－1　覆土	板碑	(30.0)	(10.9)	(2.9)	1450.0	緑色片岩	破片		

11区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	石　材	遺存度	登録番号	備　　考
11-石1	H－3　覆土	砥石	3	7.7	1.8	60.0	流紋岩	完形	18	
11-石2	H－3　覆土	石製紡錘車	4.6	4.6	1.35	40.0	滑石	完形	30	
11-石3	H－4　覆土	砥石	4.1	3.8	1.7	40.0	流紋岩	完形		
11-石4	H－4　覆土	敲石	15	3.5	2.5	220.0	細粒輝石結晶凝灰岩	ほぼ完形		

注）① 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
　　② 最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）で示した。

Tab. 8　鉄器・鉄製品観察表

1区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
1-鉄1	W－2　覆土	刀子	(6.2)	1.6	0.4	2.6	破片	3	
1-鉄2	W－2　覆土	刀子	10.0	1.4	1.0	5.2	破片	3	
1-鉄3	W－2　覆土	釘	10.6	0.8	0.6	6.4	ほぼ完形	8	
1-鉄4	グリッド　覆土	刀子	14.6	1.2	0.6	5.8	2/3	62	
1-鉄5	グリッド　覆土	不明	4.0	3.2	0.6	2.7	ほぼ完形	63	

2区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
2-鉄1	H－3　覆土	釘	(8.8)	0.4	0.3	6.3	1/3	39	
2-鉄2	H－6　床直	釘？	(15.8)	0.9	0.7	38	ほぼ完形	1	

5区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
5-鉄1	H－3　覆土	鎌	22.0	8.0	0.6	37	完形		
5-鉄2	H－5　覆土	刀子	(11.1)	1.4	0.6	11.8	不明		

6区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
6-鉄1	H－1　覆土	不明	(22.0)	0.5	0.7	31.8	ほぼ完形		
6-鉄2	H－7　覆土	釘？	(7.0)	0.9	0.4	12	1/2		
6-鉄3	H－7　覆土	不明	(3.1)	1.7	0.5	11.8	1/3		
6-鉄4	I－2　覆土	不明	(3.7)	1.4	1.2	7.4	破片		付着物あり
6-鉄5	O－1　覆土	刀子	(4.4)	1.9	0.2	14.4	1/2		

7区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
7-鉄1	X70 Y96　覆土	釘？	(7.0)	0.4	0.5	7.8	ほぼ完形		

9区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
9-鉄1	H－7　床直	釘？	(6.5)	0.5	0.6	12.6	2/3	6	
9-鉄2	H－7　床直	釘？	(4.8)	0.5	0.6	7.6	1/3		
9-鉄3	D－1　覆土	鉄鏃	(7.8)	3.1	0.5	19.2	ほぼ完形		
9-鉄4	D－1　覆土	鉄鏃	(6.8)	2.2	0.5	15.6	ほぼ完形		
9-鉄5	D－1　覆土	釘？	(5.2)	0.8	0.2	1.9	2/3		
9-鉄6	DB－1　覆土	刀	31.8	2.7	0.7	160	完形	1	
9-鉄7	表採　覆土	刀子	(5.9)	1.0	0.4	11.6	1/3		

10区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
10-鉄1	表採　覆土	不明	(9.4)	1.2	0.5	31.2	2/3		
10-鉄2	表採　覆土	不明	(5.5)	1.9	1.2	35.2	破片		

11区

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
11-鉄1	H－3　覆土	釘	27.6	3.8	0.9	31.8	ほぼ完形	5	
11-鉄2	H－3　覆土	釘	13.2	1.4	1.2	12.4	ほぼ完形		
11-鉄3	H－4　覆土	刀子	(9.7)	2.8	0.3	9.1	破片		
11-鉄4	H－4　覆土	鉈尾	2.2	2.3	0.3	4.1	1/2	31	

注）① 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
② 最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Tab. 9　土製品・銅銭観察表

番　号	出土遺構／層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重　さ	遺存度	登録番号	備　　考
5-土1	X39 Y165　覆土	耳飾	4.3	4.3	1.0		ほぼ完形		
9-銭1	W－1　覆土	古銭	名称	不明					
9-銭2	W－1　覆土	古銭	名称	不明					
11-銭1	X46 Y164　覆土	古銭	名称	不明					

Tab.10　瓦観察表

1区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
1-瓦1	H－1 竈内	丸瓦	① 37.5 ② 2.3	①粗粒 ②良好 ③灰　④完形	玉縁式。凹面：布目有り、布袋の継ぎ目有り。凸面：縄目を撫で消す。側面：面取り2回。竈構築材に使用。	カマド17	
1-瓦2	H－1 竈内	丸瓦	① 38.0 ② 2.0	①粗粒 ②良好 ③灰　④1/2	行基式。凹面：布目有り、粘土板の継ぎ目を指撫でで消している。凸面：縄叩き後、撫で。側面：面取り2回。竈構築材に使用。	カマド15	
1-瓦3	H－1 竈内	丸瓦	①(25.0) ② 2.3	①中粒 ②良好 ③黄橙 ④破片	行基式。凹面：布目有り、布袋の継ぎ目有り、部分的に撫で。凸面：撫で。粘土板の継ぎ目有り。側面：面取り2回。竈構築材に使用。		

2区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
2-瓦1	H－3 竈内	平瓦	①(19.5) ② 2.4	①細粒 ②良好 ③青灰 ④破片	凹面：布目有り。模骨痕と思われる痕有り。凸面：叩き目有り。側面：面取1回。	43	
2-瓦2	H－3 床直	平瓦	①(16.0) ② 2.6	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で。煤付着。側面：面取2回。	9	
2-瓦3	H－3 床直	平瓦	①(12.3) ② 2.5	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で後に斜位の叩き目か？側面：面取2回。	28	
2-瓦4	H－6 床直	平瓦	① (9.0) ② 1.5	①細粒 ②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で。側面：面取2回。	63	

7区

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-瓦1	D－3 覆土	軒丸瓦	①(17.4) ② 1.9	①細粒 ②良好 ③暗灰色 ④1/2	内区：三重弁五弁蓮華紋（五葉単弁蓮花文鐙瓦）。瓦文様は高句麗系。中房：1＋4の蓮子。外区：内圏紋1本。凸面：撫で。凹面：丸瓦部布目有り。	637	
7-瓦2	D－3 覆土	軒丸瓦	①(18.2) ② 1.6	①細粒 ②良好 ③淡茶灰色 ④1/2	子葉のある二重弁。文様を隆起線によってあらわす。蓮弁は丸みが少なく直線的で、方向がやや不規則。中房・1＋4の蓮子。瓦当裏面：無紋り布目あり。国分寺軒丸瓦B101と同笵。B－2技法。B101のなかでは最も瓦当文様の打ち込みが浅い。	526	
7-瓦3	D－3 覆土	軒丸瓦	①(18.3) ② 1.5	①細粒 ②良好 ③暗灰色 ④縁一部欠損	内区：三重弁五弁蓮華紋（五葉単弁蓮花文鐙瓦）。瓦文様は高句麗系。中房：1＋4の蓮子。外区：内圏紋1本。凸面：撫で。凹面：丸瓦部布目有り。	553	
7-瓦4	D－3 覆土	軒丸瓦	① 17.1 ② 1.4	①細粒 ②良好 ③灰色～暗灰色 ④2/3	重弁四弁蓮華紋軒丸瓦。中房：圏線の中に1＋4の蓮子（中央の蓮子が大、他は小、割付は不正確）。内区：二重四弁の華弁（割付は不正確）。外区：内圏一本。凹面：布目有り。凸面：撫で。瓦笵：C型、打ち込みによる施紋と推定される。	295	
7-瓦5	D－3 覆土	軒丸瓦	①(16.0) ② 1.8	①細粒 ②良好 ③茶橙灰色 ④1/2	子葉のある二重弁。文様を隆起線によってあらわす。中房・1＋4の蓮子。瓦当側面：篦削り。一部に剥離痕。瓦当裏面：空帯部分が大きく削られている。布目あり。国分寺軒丸瓦B101と同笵。B－2技法。	678	
7-瓦6	D－3 覆土	軒平瓦	①(15.2) ② 2.3	①細粒 ②良好 ③暗橙灰色 ④1/2	瓦当面：極小の蓮深紋。凹面：布目有り。凸面：篦削り。側面：面取り2回。瓦傷が左端で2転目の唐草の尾から外区上帯にかけて見られる。	506	
7-瓦7	D－3 覆土	軒平瓦	①(10.9) ② 3.3	①細粒 ②良好 ③暗灰色 ④破片	瓦当面：極小の蓮深紋。一枝の界線。凹面：布目有り。削り出し整形して撫で仕上げ。側面：面取り2回。2枚1組の右偏行唐草。尾が長いのでB。	623	
7-瓦8	D－3 覆土	平瓦	①(10.5) ② 2.2	①細粒 ②良好 ③暗橙色 ④四側欠損	凹面：布目有り。凸面：撫で、燻し仕上げ。篦書きで「武子了」文字有り。	647	
7-瓦9	D－3 覆土	丸瓦	① 38.0 ② 15.5	①細粒 ②良好 ③暗灰色 ④一部破損	行基式。凹面：布筒痕。布目有り。凸面：広端近くには縦の削り痕跡が残る。全体回転台土での撫で仕上げ。。側面：面取り2回。	681	
7-瓦10	D－3 覆土	平瓦	①(25.1) ② 2.8	①細粒 ②良好 ③暗灰色 ④狭端及び右側面	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：縦方向の削り後撫で。篦書きで「八日乙」文字が有り。側面：面取り2回。	315	
7-瓦11	D－3 覆土	平瓦	① 24.0 ② 2.7	①細粒 ②良好 ③橙灰色 ④1/3	幅の分かる瓦。桶巻き作り。凸面：網目縦方向の削り、痕撫で仕上げ。凹面：枠板痕、布符痕が残る。広端撫で。指撫で痕有り。側面：刃物による削り落とし、面取り2回。	645	
7-瓦12	D－10 覆土	鬼瓦	①(11.0) ② 4.0	①細粒 ②褐灰 ③良好 ④破片	笠懸系。鬼面鬼瓦の左脚破片。界線が一重。紋様の取り付けと関係があると思われる突起あり。	D－10 瓦1	
7-瓦13	D－10 覆土	軒丸瓦	① 12.6 ② 1.8	①中粒 ②淡灰 ③良好 ④1/4	単弁八弁蓮華紋。界線と素紋帯の間は無紋。瓦当面では連弁の中央が一番高い。胎土には石英粒が多量に混ざる。僧寺E103。国分僧寺創建期と考えられる。	D－10 瓦2	
7-瓦14	D－10 覆土	軒丸瓦	①(19.6) ② 1.9	①細粒 ②灰黒 ③良好 ④瓦当のみ	三重弁五弁蓮華紋。中房：線刻の界線の中に1＋4の蓮子、さらに棒状の傷？有り。横置き型の製作台を使用したと考えられる。瓦当側面：横位に篦削り。裏面：粗い布目。	D－10 瓦3	
7-瓦15	D－10 覆土	軒丸瓦	① (7.6) ② 1.8	①細粒 ②褐灰 ③良好 ④瓦当破片	僧寺三重弁五弁蓮華紋の類。裏面：布目、端部篦削りだが布目残る。全体的に紋様が浅い。	D－10 瓦4	
7-瓦16	D－10 覆土	軒瓦	① (5.3) ② 1.3	①細粒 ②褐灰白 ③良好 ④破片	二重弁の小破片。砂粒の少ない良質の粘土が用いられる。尼寺中門出土S44第7図Bに近い。	D－10 瓦5	
7-瓦17	D－10 覆土	丸瓦	① (7.8) ② 1.6	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凸面：撫で、刻線叩き具で彫り込まれた文字「薗」有り。文字は格子目の中に組み込まれている。凹面：布目有り。国分僧寺創建期と思われる。	D－10 瓦6	
7-瓦18	D－10 覆土	丸瓦	① (4.0) ② －	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凸面：記銘文字「林」有り。凹面：剥離。	D－10 瓦7	

番　号	出土遺構 層　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-瓦19	D－10 覆土	平瓦	① (3.5) ② 1.2	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凹面：布目有り。凸面：判読不明文字有り。	D－10 瓦8	
7-瓦20	D－10 覆土	平瓦	①(10.4) ② 1.9	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凹面：布目。凸面：撫で。記銘文字「久井」？あり。僧寺にも同様な例有り。山王廃寺では「人井」である。尼寺周辺では初出と思われる。	D－10 瓦9	
7-瓦21	D－10 覆土	平瓦	① (7.7) ② 2.0	①細粒 ②灰 ③良好 ④破片	桶作りの平瓦か？凹面：回転撫で、記銘文字「井」有り。側面：調整２回、篦削り。凸面：回転撫で。笠懸系。胎土にやや石英混じる。	D－10 瓦10	
7-瓦22	D－10 覆土	平瓦	① 19.2 ② 2.8	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で、記銘文字「八上」？判読不明あり。藤岡・吉井系と思われる。	D－10 瓦11	
7-瓦23	D－10 覆土	平瓦	① ② 1.7	①中粒 ②オリーブ灰 ③良好 ④破片	凹面：撫で。布目痕僅かに残る。凸面：撫で。凹面、凸面、側面の一部に燃焼時の煤や釉薬がアスファルト状に付着。	D－10 瓦13	
7-瓦24	D－10 覆土	平瓦	① (8.2) ② 2.1	①中粒 ②褐灰 ③良好 ④破片	凹面：粗い布目。二重方形有り。枠の溝は鋭利で鮮明。凸面：撫で。側面：調整２回。	D－10 瓦12	
7-瓦25	D－13 覆土	軒丸瓦	① 37.5 ② 13.7	①粗粒 ②暗灰 ③良好 ④ほぼ完形	二重弁四弁蓮華紋。中房：圏線の中に１＋４の蓮子。外区：圏線の外側は溝状となり瓦笵の端を示す。瓦笵は瓦当面の直径より小さいC型。凹面：一つに連なった布目痕、断面際は篦削り。凸面：判読不明の篦書き有り。縦位の篦削り後撫で仕上げ。瓦当面に降灰が付着。藤岡・吉井系。尼寺S7トレンチでも同様な瓦が出土。僧寺A101。	D－13 瓦1	
7-瓦26	D－13 覆土	丸瓦	①(13.8) ② 1.8	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	行基式。凹面：布目に布筒痕、布筒の縫い目あり。凸面：撫で。側面：調整3回。内面狭端木口から刃物をいれ広端部へ向けて分割している。	D－13 瓦2	
7-瓦27	D－13 覆土	軒丸瓦	① (6.8) ② 2.0	①中粒 ②灰橙 ③良好 ④瓦当破片	五弁三重弁蓮華紋。蓮子は１＋５。瓦当側面：撫で。裏面：布目痕が一部残る。僧寺B207A。石英粒子を多く含む。	D－13 瓦3	
7-瓦28	D－13 覆土	軒丸瓦	① (9.7) ② 2.8	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	砂粒を多く含む胎土。藤岡・吉井系。僧寺A302と同様、尼寺では出土例はない。凸面：篦削りの後撫で、半球形の記号？あり。凹面：連続する布目。	D－13 瓦4	
7-瓦29	D－13 覆土	軒平瓦	①(21.2) ② 1.5	①細粒 ②褐灰 ③良好 ④4/5	包み込み技法。右偏唐草紋。瓦当上部撫で。凹面：糸切り痕と布目痕有り。凸面：撫で。僧寺P002B。	D－13 瓦5	
7-瓦30	D－13 覆土	軒平瓦	①(10.0) ② 2.9	①細粒 ②灰 ③良好 ④1/3	右偏行唐草軒平瓦、二葉一対、11単位の唐草。凸面：篦削り、側面に近づくほど削りこまれ暑さが減る。凹面：一部窯内の灰が付着。僧寺P002B。	D－13 瓦6	
7-瓦31	D－13 覆土	軒平瓦	①(14.6) ② 2.3	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④2/5	右偏唐草紋軒平瓦の右側面が残存。凹面：布目有り。凸面：縦方向に篦削り。僧寺P002Bに近い。	D－13 瓦7	
7-瓦32	D－13 覆土	軒平瓦	① (8.8) ② 1.7	①中粒 ②褐灰 ③良好 ④瓦当破片	二重の界線。釘状の向き合う唐草の瓦当面。凹面：瓦当面直上まで布目。凸面：撫で。約１cm幅の朱線が横に続く。額を付けるための叩き痕有り。瓦当近くは篦削り。	D－13 瓦8	
7-瓦33	D－13 覆土	軒平瓦	① (3.8) ② (2.7)	①細粒 ②褐灰 ③良好 ④瓦当破片	僧寺右偏行唐草紋P001と同様と思われる。尼寺では講堂周辺確認調査で出土。僧寺創建期と思われる。	D－13 瓦9	
7-瓦34	D－13 覆土	軒平瓦	① (5.9) ② 1.9	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④瓦当破片	紋様は判読不可。凹面：瓦当部まで布目。一枚作り。制作台上で瓦笵が打ち込まれた可能性有り。凸面：横撫で。	D－13 瓦10	
7-瓦35	D－13 覆土	軒平瓦	① (5.6) ② (1.9)	①中粒 ②灰 ③良好 ④瓦当破片	瓦当の外側の破片。凹面：布目。凸面：撫で。	D－13 瓦11	
7-瓦36	D－13 覆土	平瓦	①(16.6) ② 1.9	①細粒 ②橙灰 ③良好 ④破片	凹面：布目あり。凸面：斜行する整形痕、細かい斜格子目が２カ所有り。側面：調整２回。	D－13 瓦15	
7-瓦37	D－13 覆土	平瓦	①(15.5) ② 2.6	①中粒 ②青灰 ③良好 ④破片	凹面：粗い布目。凸面：篦削り痕を撫で仕上げ、叩押されたと思われる縄目跡あり。篦による記号有り。藤岡・吉井系と思われる。	D－13 瓦12	
7-瓦38	D－13 覆土	平瓦	①(16.9) ② 1.7	①中粒 ②橙灰 ③良好 ④破片	凹面：布目痕有り。凸面：斜行する整形痕、細かい斜格子目有り。側面：篦削りによる調整２回。	D－13 瓦13	
7-瓦39	D－13 覆土	平瓦	①(23.3) ② 2.6	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④2/3	凹面：布目有り。糸切り痕あり。凸面：撫で、判読不明の記銘文字有り。側面：調整３回。藤岡・吉井系。	D－13 瓦14	
7-瓦40	D－13 覆土	平瓦	① (8.5) ② 1.8	①細粒 ②褐灰 ③良好 ④破片	凹面：布目。二重方形枠内に文字有り、「方」と思われる。枠の溝は鋭利で鮮明、金属製の印判の可能性がある。笠懸系。	D－13 瓦16	
7-瓦41	D－13 覆土	平瓦	① 40.0 ② 2.5	①粗粒 ②灰 ③良好 ④7/8	一枚作り。凹面：撫で、布目痕僅かに有り。凸面：撫で、斜格子目の叩き目有り。側面：調整２回。	D－13 瓦17	
7-瓦42	D－13 覆土	平瓦	① 30.0 ② 1.6	①粗粒 ②明褐灰 ③良好 ④1/2	一枚作り。凹面：布目有り。凸面：撫で。斜格子目の叩き目有り。側面：調整２回。	D－13 瓦18	
7-瓦43	D－13 覆土	平瓦	① 42.0 ② 2.0	①粗粒 ②にぶい赤褐 ③良好 ④3/5	一枚作り。凹面：撫で、布目痕残る。凸面：撫で。斜格子目の叩き目有り。側面：調整２回。	D－13 瓦19	
7-瓦44	D－13 覆土	平瓦	① 41.5 ② 2.0	①粗粒 ②灰 ③良好 ④1/2	凹面：布目痕有り、模骨痕有り。縄での調整痕有り。凸面：撫で。側面：調整２回。	D－13 瓦20	
7-瓦45	D－13 覆土	平瓦	① 39.0 ② 2.3	①粗粒 ②灰 ③良好 ④4/5	凹面：布目痕僅かに残る。凸面：撫で。斜格子目の叩き目有り。斜行する整形痕有り。側面：調整２回。	D－13 瓦21	
7-瓦46	X68Y80 覆土	平瓦	① (5.0) ② 2.1	①細粒 ②青灰 ③良好 ④破片	凹面：布目有り。凸面：判読不明の記銘有り。	X68Y80-1	
7-瓦47	X69Y79 覆土	平瓦	① (2.5) ② －	①細粒 ②灰黄褐 ③良好 ④瓦当破片	三重弁蓮華紋。瓦当裏に布目がない、A技法か？	X69Y79-1	
7-瓦48	X69Y79 覆土	平瓦	① (2.7) ② －	①細粒 ②灰 ③良好 ④瓦当破片	一本作り。裏面：布目、段有り。B技法。	X69Y79-2	
7-瓦49	X69Y79 覆土	平瓦	① (9.3) ② 1.6	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凹面：布目一部残る、篦撫で。凸面：撫で。叩き板斜格子紋の隣に「人」？の刻印有り。尼寺S7トレンチに同様な例があり。	X69Y79-3	
7-瓦50	X69Y80 覆土	軒平瓦	① (5.9) ② 3.1	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④瓦当破片	右偏行唐草紋、主葉と子葉２枚が１対。瓦当端部篦削り。凹面：撫で。凸面撫で。僧寺P002。尼寺S7トレンチ、中門跡に出土例有り。	X69Y80-5	

番　号	出土遺構 層　　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
7-瓦51	X69Y80 覆土	軒丸瓦	①（4.9） ②　1.6	①細粒 ②灰褐 ③良好 ④瓦当破片	蓮華紋の外側に球紋が付く。裏面撫で。山王廃寺軒丸瓦Ｘ１式、僧寺M002と同様。尼寺ではＳ7トレンチ、南門１トレンチで出土。秋間産。	X69Y80-1	
7-瓦52	X69Y80 覆土	軒丸瓦	①（9.1） ②　1.8	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④瓦当破片	二重弁五弁蓮華紋、素紋の外縁。裏面：篦削り、鉄分の付着が目立つ。僧寺Ｂ104、尼寺Ｓ7トレンチに出土例有り	X69Y80-4	
7-瓦53	X69Y80 覆土	平瓦	①（11.4） ②　2.1	①細粒 ②暗褐 ③良好 ④破片	凹面：布目。凸面：撫で。篦による判読不明の文字か記号あり。側面：調整2回。	X69Y80-2	
7-瓦54	X69Y80 覆土	平瓦	①（2.5） ②　2.6	①細粒 ②灰 ③良好 ④破片	凹面：模骨痕有り。布目痕僅かに残る。凸面：叩き具による調整痕有り、撫で。凹面の布目が端部に僅か残る。側面：篦削りによる調整１回。	X69Y80-6	
7-瓦55	X69Y80 覆土	平瓦	①（11.1） ②　2.1	①中粒 ②暗灰 ③良好 ④破片	凹面：粗い布目。凸面：撫で。記銘文字「長」有り。側面：調整２回。	X69Y80-3	
7-瓦56	X69Y82 覆土	軒丸瓦	①（5.0） ②　2.4	①中粒 ②灰 ③良好 ④破片	一本作り。瓦当裏の窓帯が小さい、横置き型の製作台が用いられたと推定する。Ｂ－２技法。	X69Y82-1	
7-瓦57	X70Y79 覆土	軒平瓦	①（11.0） ②　2.7	①細粒 ②暗灰 ③良好 ④瓦当破片	瓦笵は比較的深い。二重の界線円で右行する唐草紋。凹面：布目痕有り。凸面：撫で仕上げ。一枚作りか、笠懸産と思われる。僧寺Ｐ008の可能性有り。	X70Y79-1	
7-瓦58	X70Y80 覆土	軒丸瓦	①（0.9） ②（2.9）	①細粒 ②灰黄 ③良好 ④瓦当破片	重弁と界線は確認できる。瓦当裏剥離。技法の判定は不可。	X70Y80-1	
7-瓦59	X72Y81 覆土	平瓦	①（6.3） ②　1.8	①細粒 ②灰褐 ③良好 ④破片	凹面：布目。二重方形枠内に文字有り、「方」と思われる。笠懸系。	X72Y81-1	
7-瓦60	サンプルA 覆土	平瓦	①（9.5） ②　1.7	①細粒 ②灰褐 ③良好 ④破片	凹面：粗い布目。凸面：撫で、格子目の中に文字「蘭田」有り。側面：面取１回。笠懸系。	サンプル Ａ－１	サンプルＡ
7-瓦61	全体 覆土	軒丸瓦	①（10.7） ②　1.8	①細粒 ②良好 ③淡茶灰色 ④1/4	子葉のある二重弁を持つ。文様を隆起線によってあらわす。隆起線が高く鋭い。細砂粒を含み表面がザラザラした感じ。Ｂ－２技法。		
7-瓦62	全体 覆土	軒丸瓦	①（17.3） ②　1.9	①細粒 ②良好 ③灰白色 ④4/5	鳥足状蓮弁文。蓮子は瓦当中央に１子。蓮文外縁にそって７子。蓮弁は棒状のもの３本１組構成され、被弁七弁蓮華文様が祖形となった。		
7-瓦63	全体 覆土	平瓦	①（7.5） ②　2.3	①細粒 ②良好 ③淡橙色 ④破片	凸面：撫で仕上げ、方形二重枠の中に「方」が押引くされている。。凹面：布目有り。		
7-瓦64	全体 覆土	丸瓦	①（7.1） ②　1.7	①細粒 ②良好 ③茶灰色 ④破片	凹面：布目有り。凸面：撫で。篦書きで「羊」と読める文字有り。記録部位から考えて貼上円筒の状態で記銘された可能性あり。石英・雲母などの破片を含む。		

9区

番　号	出土遺構 層　　位	器種名	①長さ ②厚さ	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録 番号	備考
9-瓦１	Ｈ－６ 竈内	平瓦	①　5.0 ②　2.4	①細砂 ②良好 ③灰　④破片	一枚作り。凹面：撫で。凸面：撫で。格子目の叩き目有り。側面：面取３回。	9	
9-瓦２	Ｗ－１ 覆土	平瓦	① 14.0 ②　2.7	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	一枚作りか、凹面：布目有り。凸面：撫で。篦書き文字「十」？有り。側面：面取２回。		

注）① 層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の２段階に分けた。
竈内の検出については「竈内」と記載した。
② 長さ、厚さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③ 胎土は、細粒（0.9mm 以下）、中粒（1.0～1.9mm 以下）、粗粒（2.0mm 以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④ 焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

Ⅵ　まとめ

本遺跡の主な遺構・遺物の検出成果としては、４世紀～11世紀までの集落跡、７区と呼んだ国分尼寺南面における瓦敷や硬化面、所謂「須恵器壷Ｇ」と「小型短頸壷」の共伴出土が挙げられる。本章ではまとめとして、以上の事柄について記述する。

１　竪穴住居跡について

ここでは調査区ごとに特徴ある住居跡を紹介する。また、本遺跡が区画整理域内に点在することから調査区を３地域に分類し、検出住居軒数などのデータを掲載する。

(1) 特徴的な住居跡

１区からは住居跡を１軒検出した。Ｈ－１号住居跡は、Ｗ－１・２号溝跡を切っていることから、二条の溝跡が10～11世紀以前に存在していたことが分かる。竈は国分寺瓦を再利用して構築しており、丸瓦を垂直に立てて袖の土留めとして使用する。

２区からは住居跡11軒を検出した。そのうち９～10世紀代の住居跡が10軒である。国府の最盛期～衰退期にかけて多くの人々が居住した様子が窺える。

３区からは15軒の住居跡を検出した。住居跡の時期は5世紀後半～11世紀前半までであるが、８～９世紀代の間は住居跡の数が極端に少なく、５～７世紀代、10～11世紀代に集中している。住居が減少する時期は国府の最盛期にも重なり、居住制限があったことも考えられる。特徴的な住居跡としてはＨ－６号住居跡が挙げられる。この住居跡の床面や、壁近くからは炭化物が多く検出し、住居が燃えたことを想定できる。また覆土に黄褐色ブロックが多く含まれており、人為的に埋められたことも想定できる。竈、遺物の残存状態も良く、住居廃棄の様子が窺える貴重な資料となった。

４区は試掘調査のみであり、住居跡の検出はなかった。

５区からは住居跡７軒を検出した。各調査区の中では唯一石田川式土器を持つ住居跡を検出した。他には総社砂層の岩盤層まで掘り込んで竈を構築しているＨ－４号住居跡や、床に間仕切りを持つＨ－７号住居跡が特徴的な住居跡として挙げられる。

７区における８世紀前半～中葉の住居跡

６区は８軒の住居跡を検出した。しかし、地表から遺構確認面までが浅く、住居跡同士の重複も激しいため、住居跡の残存状態は良いものとはいえかなった。

７区は国分尼寺南面に位置し、10軒の住居跡を検出した。そのうち８軒は８世紀代と偏りがあり、特に８世紀前半～中葉に集中する。特徴的な住居跡としては、Ｈ－２・10号住居跡が挙げられる。Ｈ－２号住居跡は竈を二つ持っており、東側の竈を使用した後に北に新しく竈を構築したと考えられる。Ｈ－10号住居跡は壁に張り出しを持つ住居である。

8区からは住居跡を検出しなかった。

9区からは11軒の住居跡を検出した。時期はいずれも7世紀後半～9世紀代までである。ほかに中世の溝跡が西から東に走行しているため住居跡の多くはその溝に切られ破壊されていた。

10区からは住居跡の検出はなかった。

11区からは住居跡を4軒検出した。特徴的な住居跡としては床下土坑を持つH－4号住居跡が挙げられ、深い掘り込みを持つために残存状態は良好であった。また、この住居跡から銙帯金具の鉈尾が1点出土している（註1）。

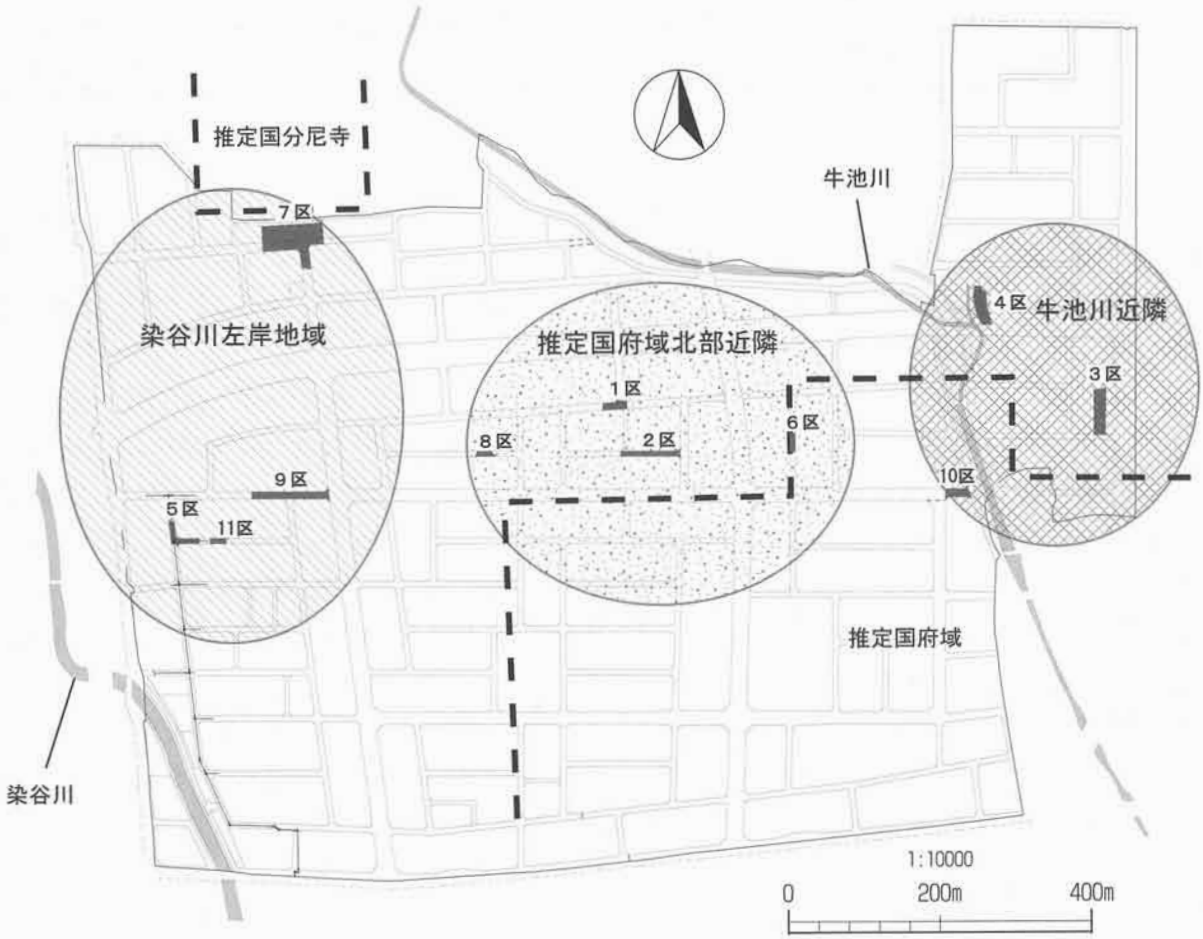
(2) まとめ－3地域ごとの住居軒数集計と住居密度

ここでは、各調査区を染谷川左岸地域、牛池川近隣地域、推定国府域（木津1998）北部近隣地域の3地域に分類してデータをまとめる。分類は以下のとおり。

○染谷川左岸地域　…　5・7・9・11区

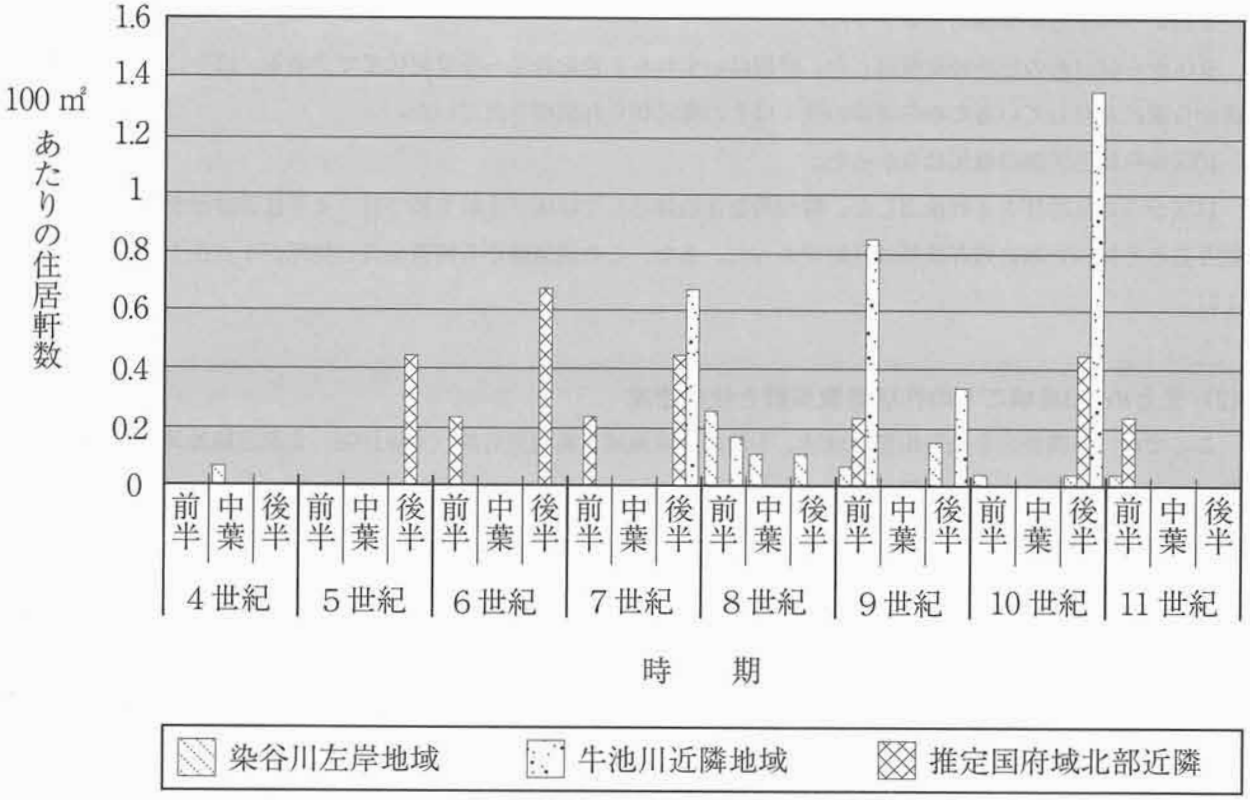
○牛池川近隣地域　…　3・4・10区

○推定国府域北部近隣　…　1・2・6・8区



3地域の分類図

なお、地域ごとに調査面積が異なることから、比較のために100㎡あたりの住居軒数を計算し、時期別に分類する。Hr-FP降下以後からAs-B降下以前までと判定した詳しい時期判定が不可能であった住居は分析対象としない。以上のような条件の下、次項のグラフを作成した。



100㎡ごとの住居軒数グラフ

グラフの分析から、3地域の特徴は以下のとおりである。

染谷川左岸地域は、8～9世紀代の住居跡が集中している。これは国府の最盛期にも重なっている。国府と連動するかのように、この地域に集落が展開された。

牛池川近隣地域は5～7世紀代、10～11世紀代の住居跡が集中する。5～7世紀代に多くの住居が集中するのは牛池川近隣地域のみである。近隣で同時期のものと思われる田畑が検出されており、国府成立以前から人々がこの地域で耕作を行って生活してきた様子が窺える（註2）。また、8～9世紀代の国府の最盛期には住居が減少しているため、居住制限の可能性も考えられよう。

推定国府域北部近隣地域は7～10世紀代の住居跡が集中する。特に10世紀後半の住居密度の増加が著しく、国府が衰退した後に多くの人々がこの地域に流入してきた様子が窺える。「元総社蒼海遺跡群(6)、(13)」で指摘した国府による居住制限に関連があるものと思われる（註3）。

本遺跡全体では、4～11世紀代の住居跡を検出することができ、幅広い時期の住居跡の資料を得ることができた。しかしながら、あくまでも限定的な範囲を調査にすぎず、今回得た資料のみでは集落全体を把握するのは難しい。今後も調査を続け、情報の蓄積によって元総社蒼海遺跡群における集落の変遷を捉えていきたい。

2　7区 国分尼寺南側での調査について

(1) 平成12年度調査について

平成12年度に国分尼寺寺域南限を確定するために試掘調査が行われ、1～6トレンチが設定された。この調査では尼寺の南限が解明され、東西の大溝とそれに並行する南側に側溝が付設された道路状遺構が確認された。（上野国分尼寺寺域確認調査 2000. 3. 前橋市埋蔵文化財発掘調査団）報告書では、東西の大溝とそれに並行する道路状遺構について以下のようにまとめてある。

①溝底より１ｍ高いローム上面を平坦にし、幅５ｍほどの路面を持つ。その南限には幅2.4m、深さ30cmのＶ字状の側溝を設けている（３トレンチ）。

②路面状には部分的に瓦片を敷き詰めている部分があり、地面に食い込むように踏み固められている。これは路面の荒廃を補修するための所作と考えられる。

③路面幅は必ずしも一定していないが、路肩面の崩落などの影響によるものと考えられる。路面が硬化していない部分が多かったが、これは後の攪乱により表面が削平を受けたためと考えられる。

④最も東の第1トレンチでは、道路面を破壊してローム面が削られた10世紀初頭頃の竪穴住居跡が検出された。よってこの時期には道路の機能は失われていたと考えられる。

Fig.1　推定国分尼寺及び調査区位置図

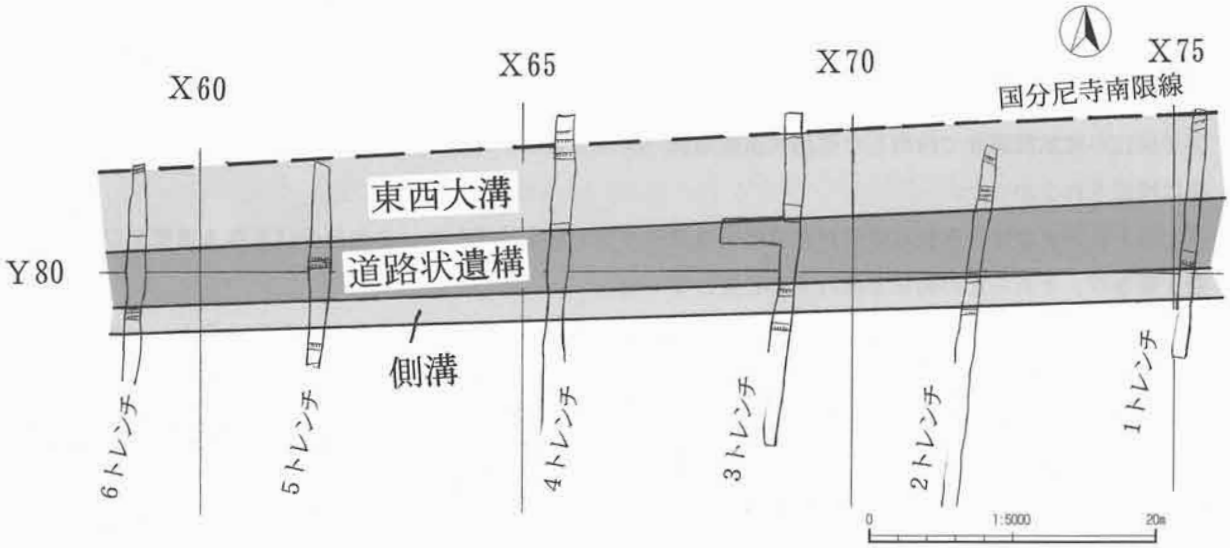


Fig.2　平成12年度調査トレンチ位置図及び道路状遺構想定図

(2) 本年度調査について

今年度行われた本調査区の北限は平成12年度調査での東西方向の大溝の位置から５m程南になる。よって道路状遺構が東西に走っていることが確認できる場所であった。遺構確認の段階では平成12年度調査の３号トレンチ付近から東側で瓦が多く出土し、遺構確認面でも多く瓦が含まれていた。また瓦と共に鉄分凝集層が広がっており、そこでこれらの範囲確認と平成12年度調査の２～６号トレンチの再調査を行った。

調査によって明らかになったことは、

①瓦敷部分及び鉄分凝集層はX69Y80付近からX73Y82付近へと南東方向へ幅６m、長さ30mにわたって検出された。特にX69Y80付近からX72Y82付近までは瓦片を密に敷き詰めてあった。瓦片は３cm以下の小片が中心で、他に小礫や砂利を敷き詰めてあった。瓦を敷き詰めた部分は周りより低く凹んでおり、その凹みを修復するために敷き詰めたと考えられる。瓦敷の下は鉄分凝集層になっていた。瓦敷部分は凹んで水が溜まっていたことも考えられる。

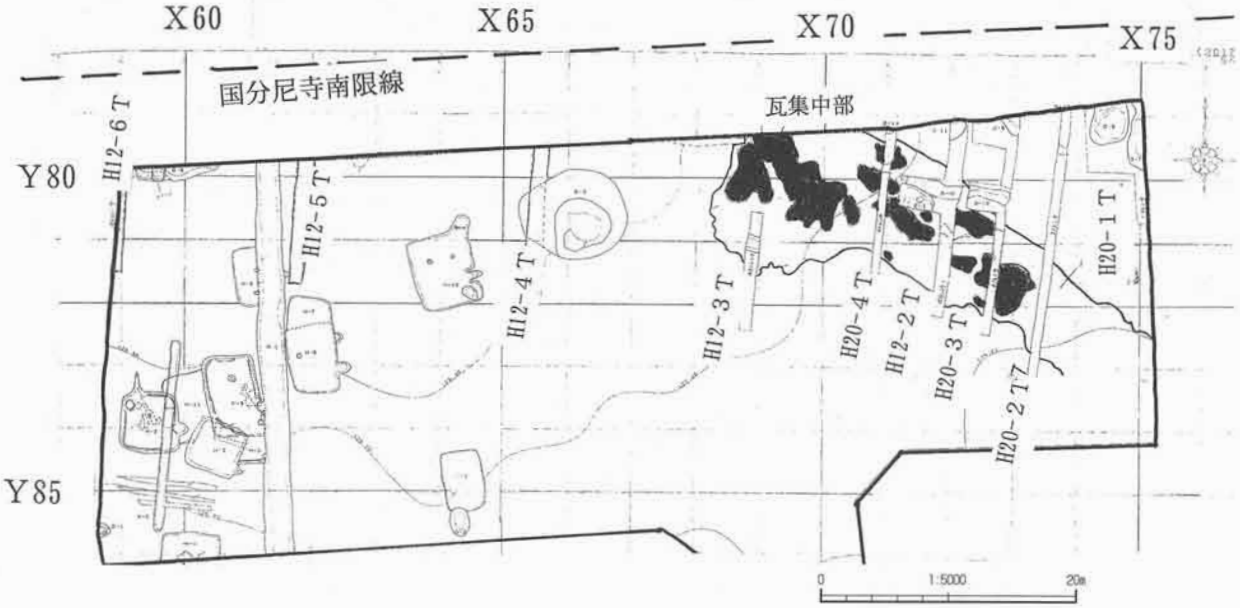


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群(20) ７区　全体図

②平成12年度試掘調査で検出した道路状遺構南側の溝は３号トレンチではやや下がる部分があったがV字状の溝は検出されなかった。

③２号トレンチでは、南側は傾斜が急で北側は緩やかな土坑を検出した。この部分は瓦敷き遺構及び鉄分凝集層と重なり、それらとの関係を検討する必要となった。

④土坑の広がりを確認するために、東から４本のトレンチ（以下H20-1号トレンチから４号トレンチ）を設定した。結果、H20-3号トレンチでは２号トレンチと同様な土坑を確認し、この土坑では底部よりやや上から軒丸瓦や軒平瓦を含めて大きな瓦が多く出土した。H20-2号トレンチでは土坑は検出せず東側への広がりはないことが明らかになった。H20-4号トレンチでは調査区北壁近くで南側の立ち上がりの急な土坑を確認した。

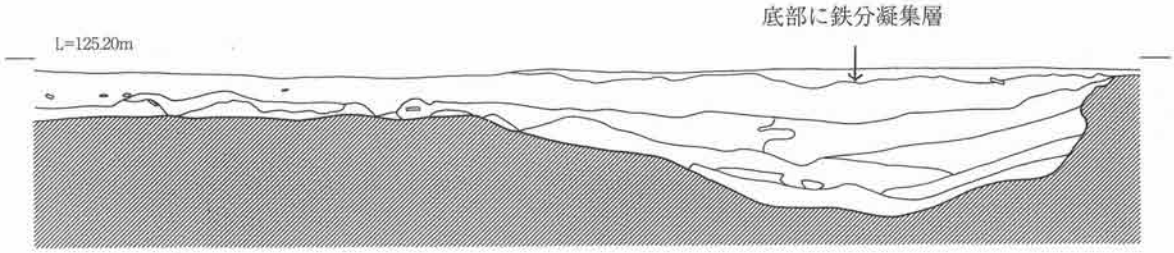


Fig. 4　2号トレンチ東壁セクション図　0　1:60　2m

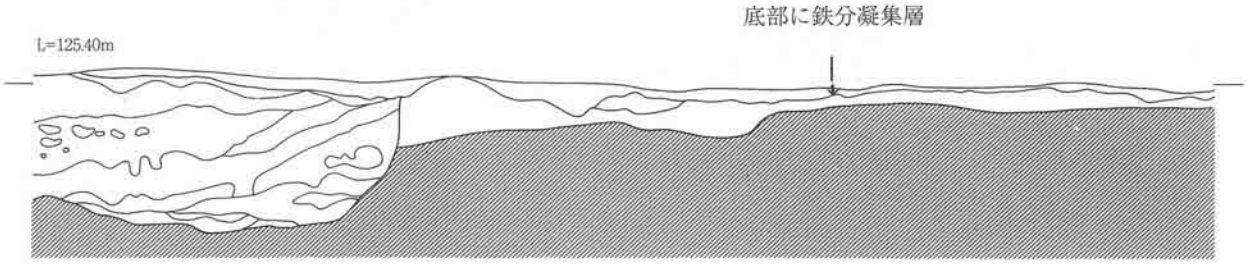


Fig. 5　H－20 4号トレンチ東壁セクション図　0　1:60　2m

⑤この範囲以外では調査区西側 X61付近では南北に走る溝が1条検出された。また尼寺中軸線やや東の X66Y80付近では須恵器壺Gや短頸壷、凝灰岩切石、扁平な川原石や瓦を含んだ土坑（D－3）を検出した。この土坑には水性堆積した痕跡があった。

以上の結果、平成12年度試掘調査で考えられた道路状遺構と南側の側溝は存在しないと考えられる。またこの遺構の性格としては国庁方向へ延びる道路としての機能が考えられる。

(3) 出土瓦について

本調査では多くの瓦が出土した。その瓦から考えられることは、瓦敷部分の瓦は、国分僧寺と同様に笠懸産、藤岡・吉井方面の瓦窯で生産されたものと思われる。ただし時期を示唆するような瓦片はない。また瓦敷部分と重なる土坑（D－10, 13）から出土する瓦では、国分寺創建期（尼寺が僧寺と平行したと考えられれば、8世紀後半の早い時期）の軒瓦（A101, E103, B207A, P001, P002）や修造期の軒瓦（A101）なども見られる。なお上野国分寺跡調査報告書では、修造期軒瓦の使用された時期について明確に記されていないが、今回出土した修造期軒瓦は9世紀後半頃と考えられる。文字瓦では、国分寺創建期から比較的新しいものまで存在する。これらのことから瓦敷部分の形成は、国分尼寺創建期から9世紀後半の広い時期が考えら、時期を断定するまでには至っていない。ただし国分尼寺南面という場所から考えると、かなり早い時期に広場として作られ、南大門の前面に瓦の小片を意識的に敷き込んで堅緻面を作ったことも考えられる。

なお、瓦の分析は栗原和彦（前橋市教育委員会嘱託員）によるものである。

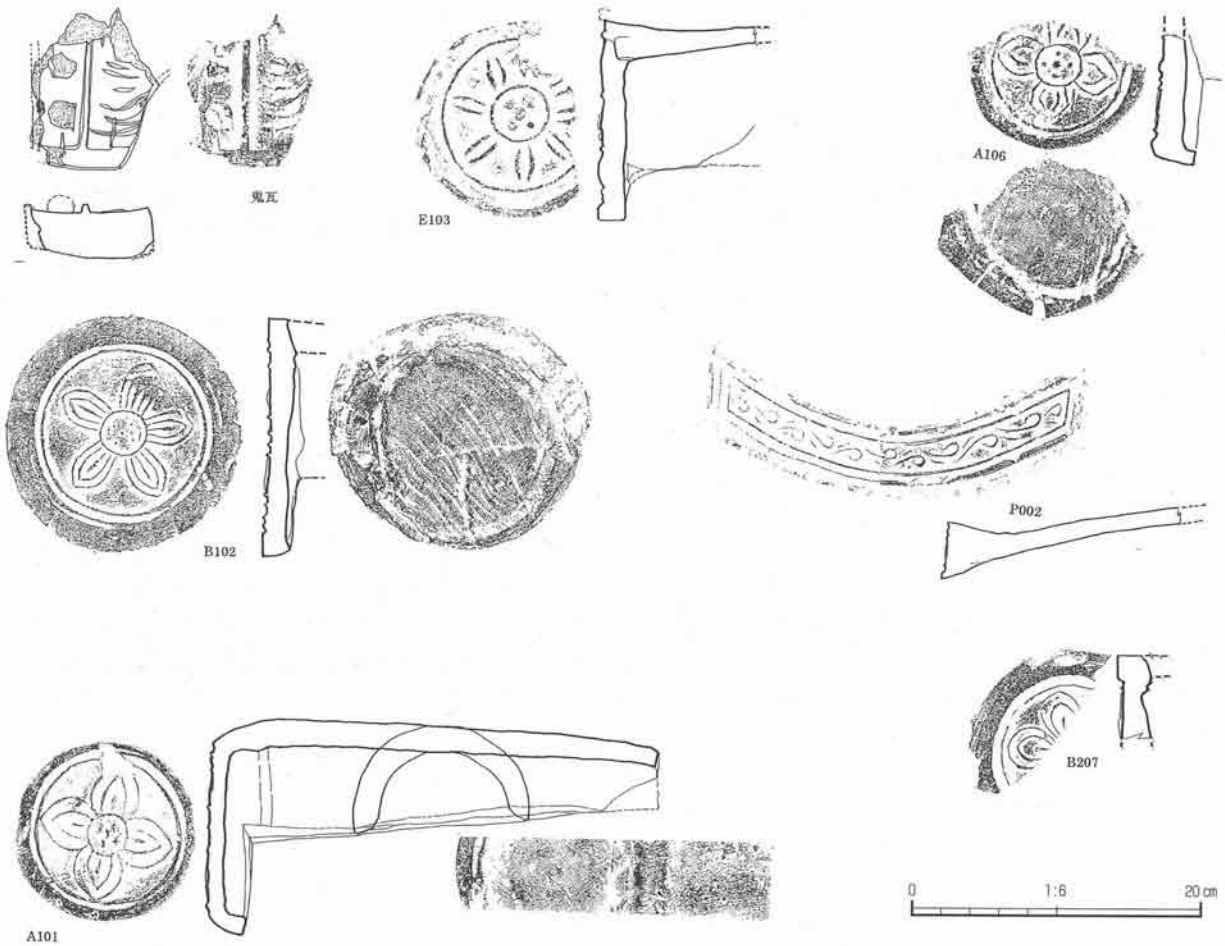


Fig. 6　D－10, 13号土坑（2号トレンチ）出土軒瓦

(4) 今後の検討課題

瓦敷や硬化面では、当初は国分尼寺の参道や国分僧寺と結ぶ東西の道と想定されたが、瓦敷遺構及び鉄分凝集層分布範囲が南東方向に延びるのでその可能性は低いと思われる。しかし国分尼寺の築地を区画する溝との関わりを含めて、国分尼寺とどのような関係あるか検討していく必要がある。また今回の調査区が国分尼寺南面の中央部（南大門付近）であることから、かなり早い時期に広場として作られ、南大門の前面に瓦の小片を意識的に敷き込んだことも考えられる。ただし、昭和44・45年の調査では南門トレンチがH12-4トレンチ付近に設定されたが、この調査では南門跡は判明していない。このことも含めて、今後検討する必要がある。

土坑については、H20-3トレンチなどにある南側の立ち上がり傾斜がきつく、北側は比較的緩やかな土坑は尼寺造営に関係する採掘土坑と考えられる。土を運びやすくするために北側の傾斜を緩くしたと考えられる。この場所は比較的浅い面でローム層になり、必要とされる土が容易に採掘できた場所だったことも関係があると思われる。ただこれらの土坑の多くは瓦敷部分及び鉄分凝集層と重なっているので、この土坑がいつ頃埋められたものか、今後の調査で解明していく必要がある。

他の国の国分僧寺・尼寺の発掘調査では、南門南側の空間が調査されている例はほとんどない。武蔵国分寺、下総国分二寺、上総国分二寺、下野国分二寺などでは、寺域が溝によって区割りされ、伽藍の南端である南大門、南面築地と寺域南限の溝との間に広い空間がある。しかしこの部分の発掘調査例はあまりなくどのように土地利用されたか不明である。今回の国分尼寺跡南側の調査では、瓦敷き遺構や土坑以外にも伽藍中軸線より西側で竪穴式住居跡を検出した。H－2・8・10・11号住居跡の4軒は国分尼寺創建以前である8世紀前半までと考えら

れる。一方H－6・7・9号住居跡は寺域でありながら国分尼寺の存在する時期と重なる。ここに国分尼寺と関わりのある人々の生活空間が存在したことも考えられる。またH－3号住居跡は11世紀前半と考えられ、国分尼寺の廃絶期を示すものと言えよう。また調査区西側X61付近で南北に走るW－1号溝跡と尼寺との関係も含めて、南門南側の空間について今後さらに調査していく必要があろう。

今回の調査では今後の調査へ向けたいくつかの課題が出てきた。しかし国分尼寺南面を広い範囲で調査を行っていく必要性を改めて痛感した。

3　壷Gについて

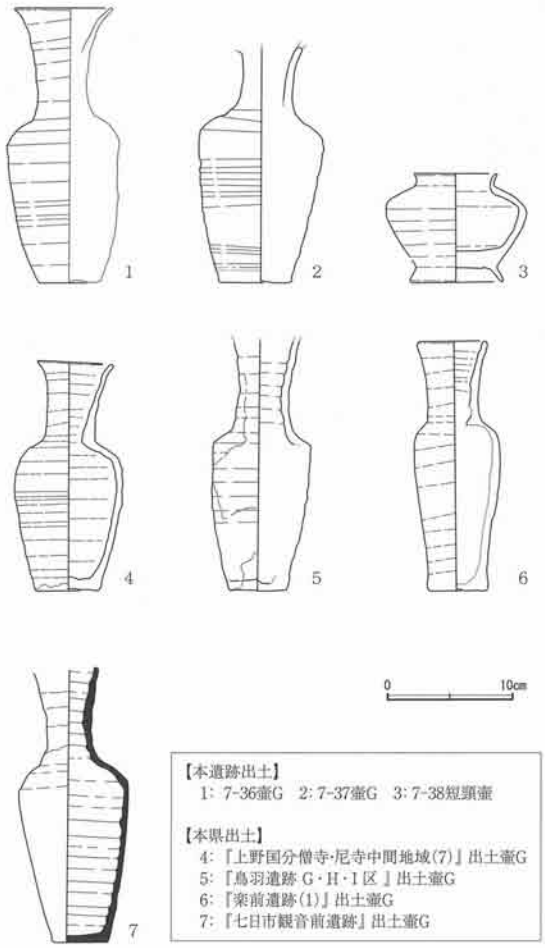
「壷G」とは国立奈良文化財研究所による平城宮土器分類における長頸壷の呼称である。分類では、各器種をアルファベット順に呼称する。須恵器壷のうち、胴部が細く、口縁がラッパ状に開く長頸壷について「須恵器壷G」と呼称している。ここでは、平城宮土器分類での「壷G」という呼称を使用する。

今回、国分尼寺南面の7区D－3号土坑から「須恵器壷G（以下壷G）」と「小型短頸壷の薬壷（以下薬壷）」が共伴して出土した。

なお、観察を行うに当たって、群馬県埋蔵文化財調査事業団の神谷佳明氏、高島英之氏、谷藤保彦氏にご指導いただいた。

(1) 壷G

さて、壷Gの製作された時期としては長岡京の前後、8世紀中葉の後期～9世紀第1四半期に分類される（註4）。本県でも本遺跡近隣の『上野国分僧寺・尼寺中間地域』や『鳥羽遺跡』、太田市の『楽前遺跡』、富岡市の『七日市観音前遺跡』などである程度残存状態のよい形で出土している（註5）。また、破片のみの出土は多くの報告がある。使用用途については、仏具として祭祀に用いたとされる花瓶説と、水筒などに利用されたとされる水瓶説がある。



壺G図①　本遺跡および本県出土の壺G

では、本遺跡から出土した壷G2個体、薬壷1固体を詳しく観察していきたい。記述に当たっては、Tab.6土器観察表における呼称に従う。

7-36壷G（壷G図①1）の胎土は明褐灰色を呈し、白色の軽石と砂礫を含む。右回転で粘土紐を積み上げ、轆轤整形で製作されている。底部より肩部に向けてやや広がる円筒形の胴部を呈し、肩部は屈曲して頸部に移行する。頸部は細長い長頸で口縁部は外反して大きく開く。口縁・頸部は胴部を製作した後に接合されており、胴部と頸部の境目には接合痕が残っている。肩部と胴部は回転篦削りの調整を施している。底部は静止糸切りである。

7-37壷G（壷G図①2）の形状、製作技法は7-36壷Gとほぼ同じ。異なった部分としては、胎土は灰黄色を呈し、7-36壷Gに比べてやや硬質な印象を受

けること、肩部の回転篦削りの痕が鮮明に残っていること、底部を回転糸切り後、外周部分のみ撫でて調整していることなどが挙げられる。また、口縁部が破損している。

(2) 薬壷

7-38薬壷（壷Ｇ図①３）の胎土は褐灰色を呈し、黒色の粒子を含み、本項で扱っている三つの須恵器の中では群を抜いて硬質である。轆轤整形で作られている。底部は回転糸切り後、付け高台で接合部分を撫で調整。高台はハの字に広がっている。底部から肩部に向かって広がる。肩部に器最大径を有し、屈曲部に回転篦削りを施している。頸部はつまみ上げによる小さなもので口唇部に向かってやや外反している。口縁と肩部に自然釉が付着している。

(3) まとめ－生産時期とその用途

壺Ｇ図②　道明寺十一面観音菩薩立像
水野　敬三郎編『カラー版日本仏像史』2001年より

今回出土した壷Ｇ２個体、薬壷１個体の製作時期については、肩部が張り出す器形であることや、国分寺創建期と考えられる軒瓦などが同じ土坑から出土しているため、８世紀後半と考えられる。壷Ｇ２個体ともに作りが粗いことや、胎土の特長から本県の藤岡で生産された可能性がある。薬壷は胎土が硬質であることや、黒い粒子を含むことから東海地方で生産され、本遺跡の地域に持ち込まれた可能性がある（註６）。

次に壷Ｇの使用用途であるが、国分尼寺南面から出土したこと、祭祀的な用途で用いられる薬壷と共伴であったこと、口縁部が外反し肩部が張り出す器形で大坂・道明寺十一面観音菩薩立像（壷Ｇ図②）などの観音菩薩が持つ花瓶のモチーフに酷似しているなどの理由から、祭祀的な目的で使用されたものと考える。

以上のような事柄から、本遺跡で出土した壷Ｇと薬壷は、国分尼寺に関連して祭祀的な目的で使用された後に、まとめて国分尼寺南面の土坑に破棄されたものと考えられる。

〈註釈〉

註１　田中広明著　「律令時代の身分表彰(Ⅱ) －腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代－」『土曜考古 第16号』土曜考古学研究会　1991年　による。なお、鉈尾の類例については、群馬県埋蔵文化財調査事業団の綿貫邦男氏にご教授をいただいた。

註２　近藤雅順・村越純子編　『元総社蒼海遺跡群(14) 元総社蒼海遺跡群(19)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008年　および　群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『総社閑泉明神Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡』㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007年 で検出。

註３　大崎和久・遠藤たか美編　『元総社蒼海遺跡群(6)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年　および　阿久澤真一・神宮　聡・清水亮介編　『元総社蒼海遺跡群 (13)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008年　による。

註４　酒井清治著　「武蔵国における須恵器年代の再検討」『研究紀要 第９号』埼玉県歴史資料館　1987年　による。

註５　群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『鳥羽遺跡 Ｇ・Ｈ・Ｉ区－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集－』 1986年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分僧寺･尼寺中間地域(7)』 1992年

富岡市教育委員会編　『七日市観音前遺跡』 1994年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『楽前遺跡(1)』 2009年

註６　時期判定や、生産地については群馬県埋蔵文化財調査事業団神谷氏にご教授をいただいた。

また、壷Ｇ、薬壷と共に出土した瓦については本章「２　７区 国分尼寺南面での調査について」で記述。

〈図版転載〉

(壷Ｇ図①) 群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『上野国分僧寺･尼寺中間地域(7)』本文編

第630図Ｉ区遺構外出土遺物

群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編

『鳥羽遺跡 Ｇ・Ｈ・Ｉ区－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集－』

本文編　Fig.165 Ｇ57号住居跡出土遺物

群馬県埋蔵文化財調査事業団編　『楽前遺跡(1)』図148　４区１号溝跡出土遺物(4)

富岡市教育委員会編　『七日市観音前遺跡』第164図　５号溝跡（ＩＡ区）出土遺物(2)

(壷Ｇ図②) 水野敬三郎編『カラー版日本仏像史』株式会社美術出版社発行　第２章古代Ⅱ奈良時代２-26図

〈引用参考文献〉

『上野国分尼寺跡発掘調査報告書（昭和44年度調査概報）』 群馬県教育委員会　1970年

『上野国分尼寺跡発掘調査報告書（昭和45年度調査概報）』 群馬県教育委員会　1971年

『上野国分寺隣接地域発掘調査報告』 群馬県教育委員会　1979年

群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編

『鳥羽遺跡 G・H・I区－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第11集－』 1986年

酒井清治著 「武蔵国における須恵器年代の再検討」『研究紀要 第9号』 埼玉県歴史資料館　1987年

群馬県教育委員会事務局 文化財保護課編 『史跡上野国分寺跡』 群馬県教育委員会　1988年

群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編

『鳥羽遺跡 I・J・K区－関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第21集－』 1988年

田中広明著 「律令時代の身分表象（I）－帯飾具の生産と変遷－」『土曜考古 第15号』 土曜考古学研究会　1990年

田中広明著 「律令時代の身分表彰（II）－腰帯をめぐる人々の奈良・平安時代－」『土曜考古 第16号』 土曜考古学研究会　1991年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(7)』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『上野国分僧寺・尼寺中間地域(8)』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992年

富岡市教育委員会編 『七日市観音前遺跡』 1994

年山武考古学研究所編 『総社閑泉明神北遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年

山武考古学研究所編 『元総社小見遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

眞塩明男・飯田祐二編 『上野国分尼寺寺域確認調査』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年

考古学から古代を考える会編 『古代仏教系遺物集成・関東－考古学の新たなる開拓をめざして－』 2000年

株式会社美術出版社発行 『カラー版日本仏像史』 2001年

鈴木雅浩・高橋一彦偏 『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

山武考古学研究所編 『元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002年

平野修著 「山梨県の奈良・平安時代におけるカミ・ホトケ関連遺構・遺物について」

『古代考古学フォーラム 古代の社会と環境 遺跡の中のカミ・ホトケ 資料集』 帝京大学山梨文化財研究所・山梨県考古学教会　2003年

高橋一彦・高坂麻子編 『元総社小見V遺跡 元総社小見内VI遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003年

勝又直人著 「古代における香炉の一形態－渦巻状の溝を有する資料についての予察－」

『財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所設立20周年記念論文集』 ㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所　2004年

岩崎琢郎・高坂麻子編 『元総社蒼海遺跡群小見内IX遺跡・総社閑泉明神北V遺跡』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005年

近藤雅順・池田史人編 『元総社蒼海遺跡群(2)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年

大崎和久・遠藤たか美編 『元総社蒼海遺跡群(6)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『総社閑泉明神IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡』

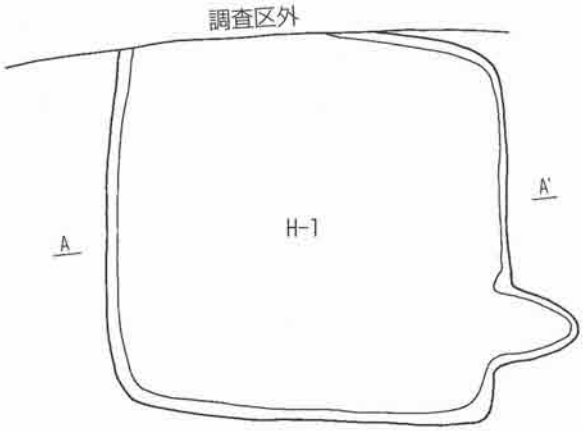
㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007年

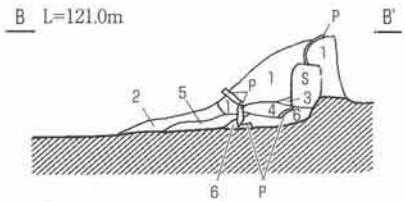
近藤雅順・阿久澤真一編 『元総社蒼海遺跡群(8)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2007年

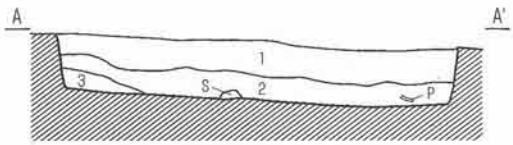
阿久澤真一・神宮　聡・清水亮介編 『元総社蒼海遺跡群(13)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008年

近藤雅順・村越純子編 『元総社蒼海遺跡群(14) 元総社蒼海遺跡群(19)』 前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008年

群馬県埋蔵文化財調査事業団編 『楽前遺跡(1)』 ㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　2009年

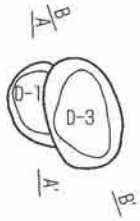


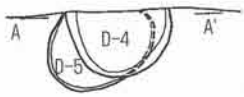


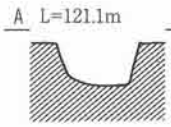


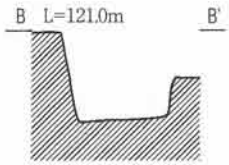
1区　H－1号住居跡　東西ベルトセクション
1　暗褐　細　○◎　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 3%
2　暗褐　細　○◎　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 3%
3　暗褐　微　△◎　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 5%

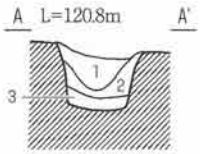
1区　H－1号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 1%、焼土ブロック(φ10mm) 1%、炭化物 2%
2　黒褐　微　△△　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 5%、灰 5%
3　暗赤褐　微　○△　焼土主体
4　極暗褐　微　△○　焼土粒 3%
5　黒褐　微　○○　にぶい黄褐色粘土 5%、灰 3%、焼土粒 1%
6　黒褐　微　×△　灰層

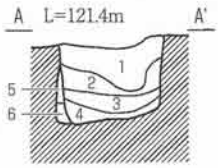


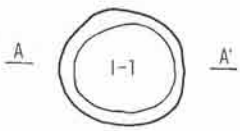


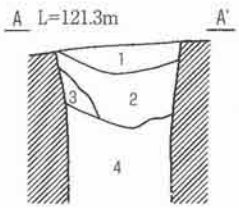












1区　D－2号土坑セクション
1　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 3%、黄橙色ブロック(φ10mm) 7%
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック(φ10mm) 5%
3　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック(φ5mm) 10%

1区　D－4，5号土坑セクション
1　黒褐　粗　○△　As-B 5%、As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 2%　(D－4)
2　黒褐　細　○△　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 3%　(D－4)
3　黒褐　微　△△　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%　(D－4)
4　黒褐　微　○△　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 7%　(D－4)
5　黒褐　細　○△　As-C・Hr-FP 3%　(D－5)
6　暗褐　微　○○　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 7%　(D－5)

1区　I－1号井戸跡セクション
1　黒褐　粗　○○　As-B 50%
2　暗褐　粗　○△　As-B 40%
3　暗褐　粗　△○　As-B 25%、黄橙色粒 5%、As-C・Hr-FP 1%
4　暗褐　粗　○○　As-B 30%、黄橙色粒 3%、As-C・Hr-FP 1%

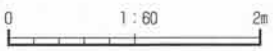
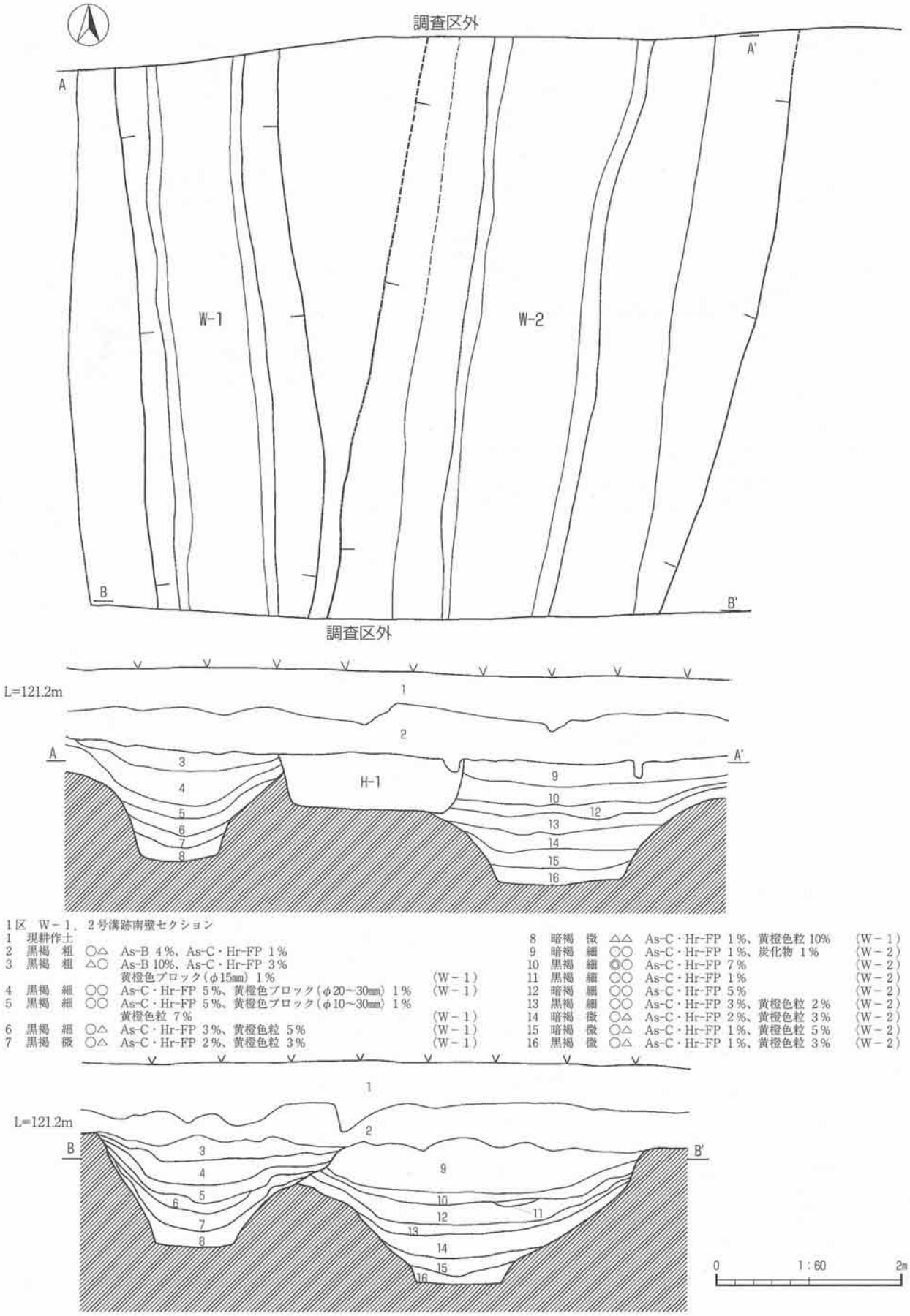


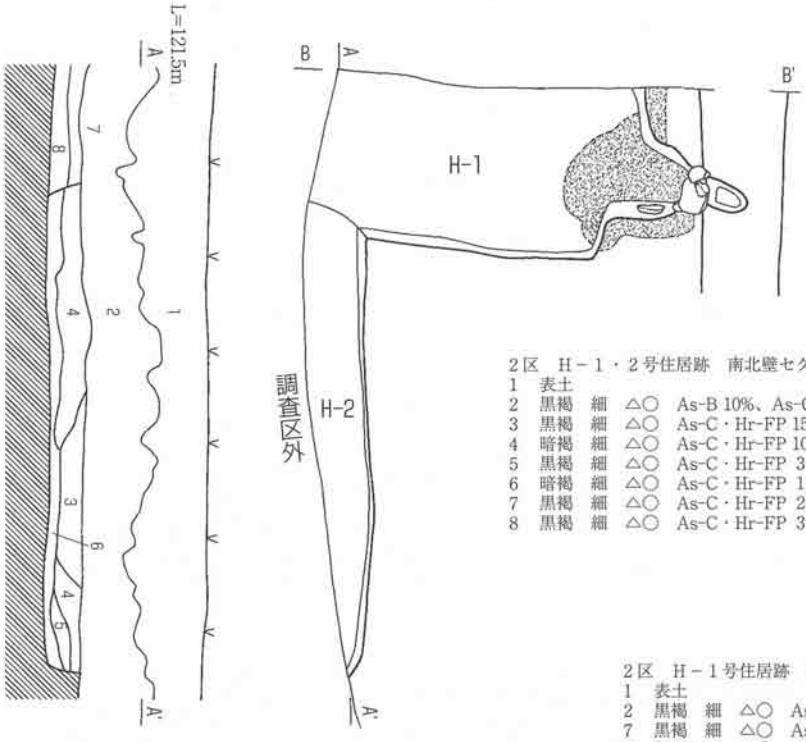
Fig.13　1区 H－1号住居跡、D－1～5号土坑、I－1号井戸跡



1区　W－1，2号溝跡南壁セクション

1	現耕作土				
2	黒褐　粗	○△	As-B 4%、As-C・Hr-FP 1%		
3	黒褐　粗	△○	As-B 10%、As-C・Hr-FP 3% 黄橙色ブロック（φ15mm）1%	（W－1）	
4	黒褐　細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ20～30mm）1%	（W－1）	
5	黒褐　細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）1% 黄橙色粒 7%	（W－1）	
6	黒褐　細	○△	As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 5%	（W－1）	
7	黒褐　微	○△	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 3%	（W－1）	
8	暗褐　微	△△	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 10%	（W－1）	
9	暗褐　細	○○	As-C・Hr-FP 1%、炭化物 1%	（W－2）	
10	黒褐　細	◎○	As-C・Hr-FP 7%	（W－2）	
11	黒褐　細	○○	As-C・Hr-FP 1%	（W－2）	
12	暗褐　細	○○	As-C・Hr-FP 5%	（W－2）	
13	黒褐　細	○○	As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 2%	（W－2）	
14	暗褐　微	○△	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 3%	（W－2）	
15	暗褐　微	○△	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 5%	（W－2）	
16	黒褐　微	○△	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 3%	（W－2）	

Fig.14　1区 W－1・2号溝跡

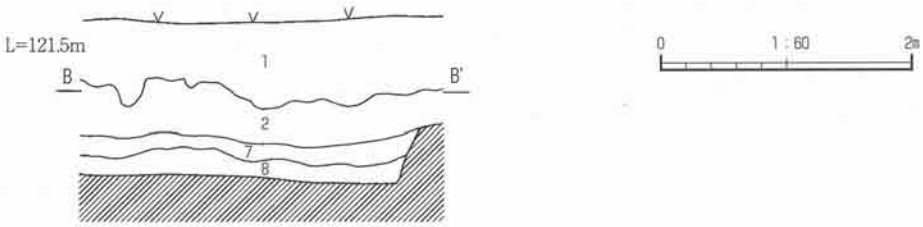


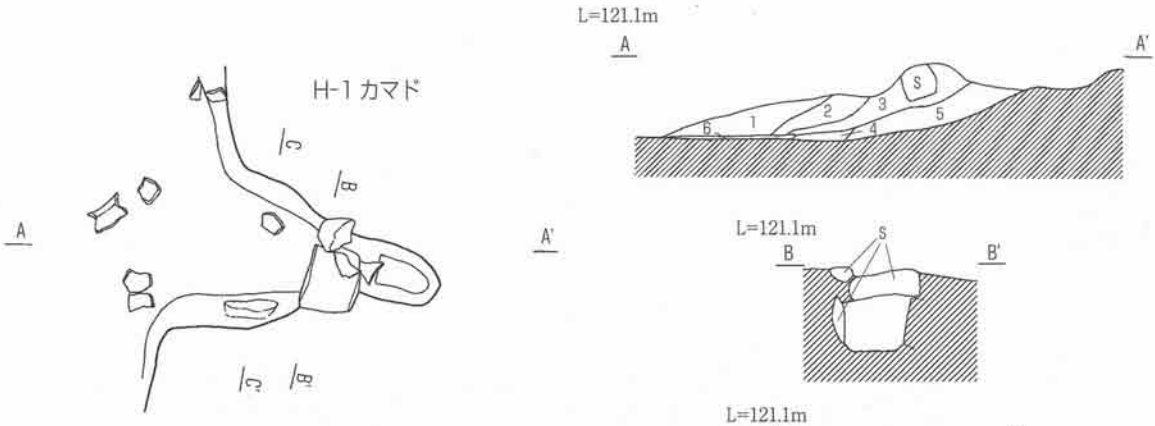
2区　H－1・2号住居跡　南北壁セクション

1	表土				
2	黒褐	細	△○	As-B 10%、As-C・Hr-FP 3%	
3	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色ブロック（φ10mm）1％	（H－2）
4	暗褐	細	△○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）3％、黄橙色粒 5％	（H－2）
5	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 3％、黄橙色粒 3％	（H－2）
6	暗褐	細	△○	As-C・Hr-FP 1％、黄橙色ブロック（φ5～20mm）5％、黄橙色粒 20%	（H－2）
7	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 2％	（H－1）
8	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ5mm）1％、黄橙色粒 1％	（H－1）

2区　H－1号住居跡　東西壁セクション

1	表土			
2	黒褐	細	△○	As-B 10%、As-C・Hr-FP 3%
7	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 2％
8	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ5mm）1％、黄橙色粒 1％



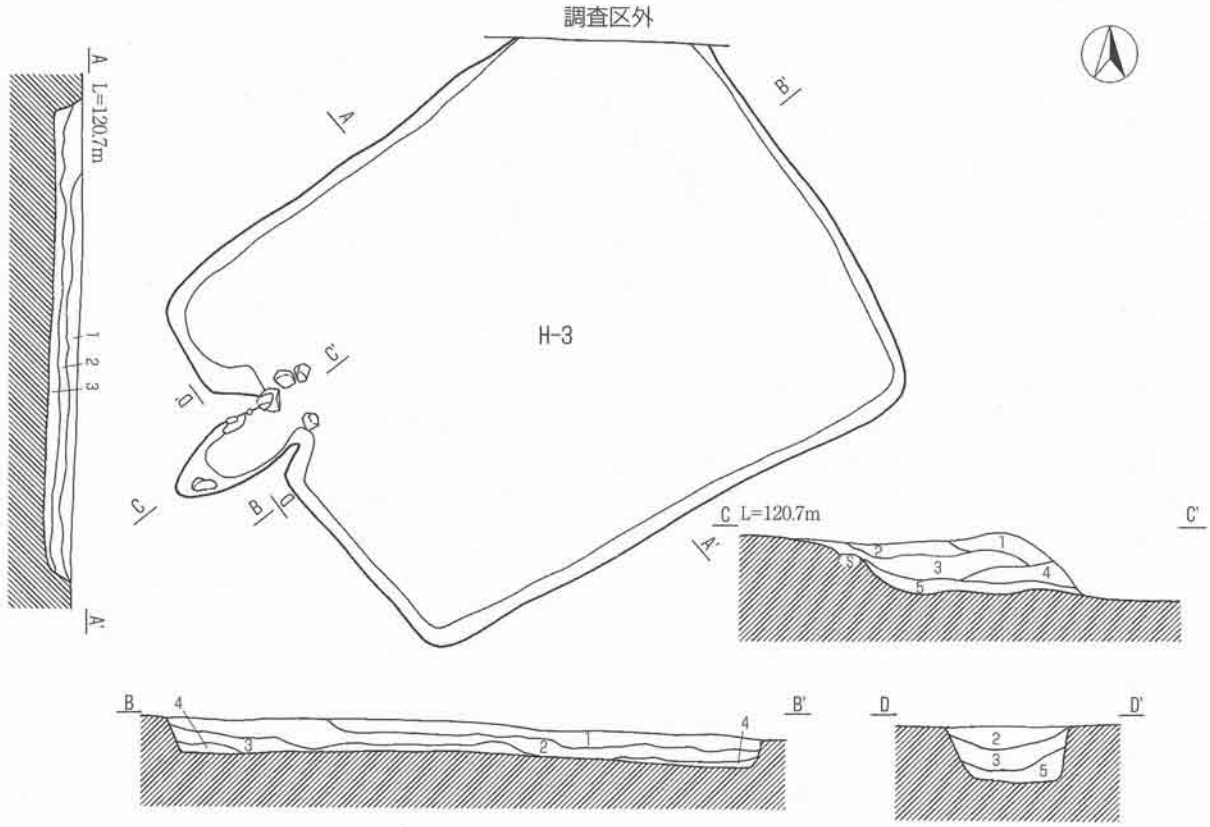


2区　H－1号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	△○	焼土ブロック（φ5mm）3％、焼土粒 3％、粘土粒 5％
2	にぶい黄褐	細	○◎	粘土ブロック主体
3	暗褐	細	△○	焼土ブロック（φ5mm）3％、焼土粒 3％、粘土粒 1％
4	赤褐	細	△○	焼土ブロック主体
5	暗褐	細	△○	焼土ブロック（φ5mm）5％、焼土粒 10%、粘土粒 5％
6	黒	微	△○	灰層

0　1：30　1m

Fig.15　2区 H－1・2号住居跡



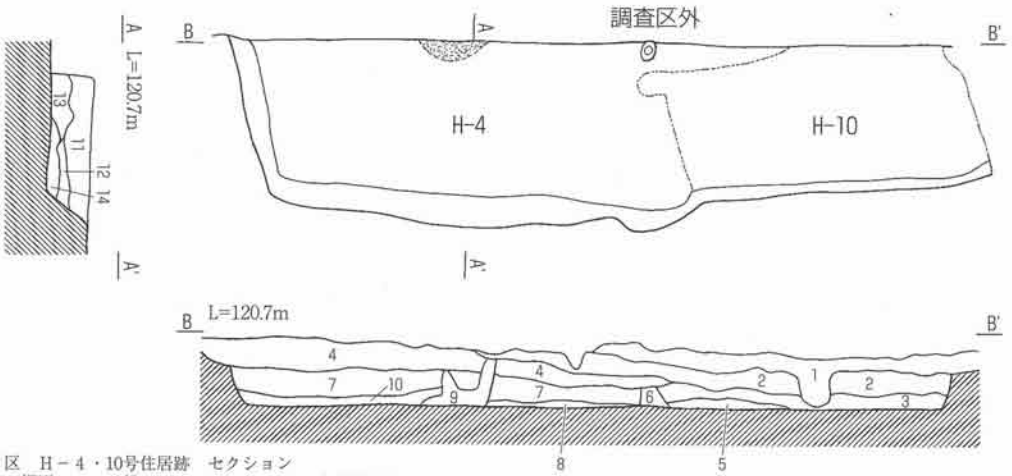
2区　H－3号住居跡　ベルトセクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、炭化物やや混じる
3	灰黄褐	細	○○	黄橙色ブロックを西側に多く含む、地山に近い
4	にぶい黄褐	細	○○	黄橙色ブロックやや混じる

2区　H－3号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
2	褐	細	○○	焼土粒 5%
3	灰褐	微	○○	焼土ブロック（φ5mm）20%、炭化物 5%
4	暗褐	微	○○	焼土粒 5%
5	暗赤褐	微	○○	焼土ブロック（φ5mm）20%、灰層

0　1：30　1m

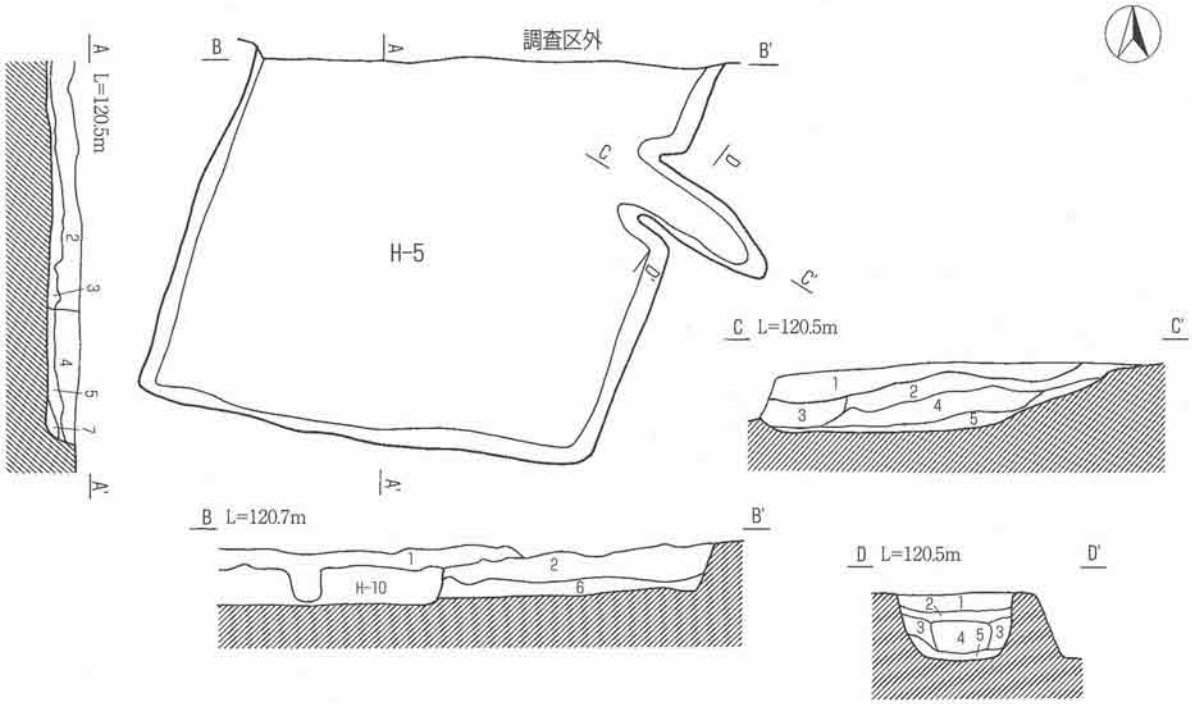


2区　H－4・10号住居跡　セクション

1	褐灰	粗	△△	As-B 50%、一部純層あり	
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%	(H－10)
3	暗褐	細	○○	黄橙色粒 5%	(H－10)
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%、炭化物 5%	(H－4)
5	褐	微	△◎	黄橙色粘土ブロック 50%、下部に灰層、竈の煙道か竈内の残骸か	(H－4)
6	にぶい黄褐	微	△○	黄橙色ブロック（φ10mm）20%、炭化物 5%	(H－4)
7	黒褐	細	○○	黄橙色粒 5%、炭化物 2%	(H－4)
8	灰黄褐	微	△△	粘土ブロック主体	(H－4)
9	にぶい黄褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）20%、炭化物 10%	(H－4)
10	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%、炭化物 5%	(H－4)
11	褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）2%	(H－4)
12	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%	(H－4)
13	にぶい黄褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 5%、炭化物 2%	(H－4)
14	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 1%	(H－4)

0　1：60　2m

Fig.16　2区 H－3・4・10号住居跡

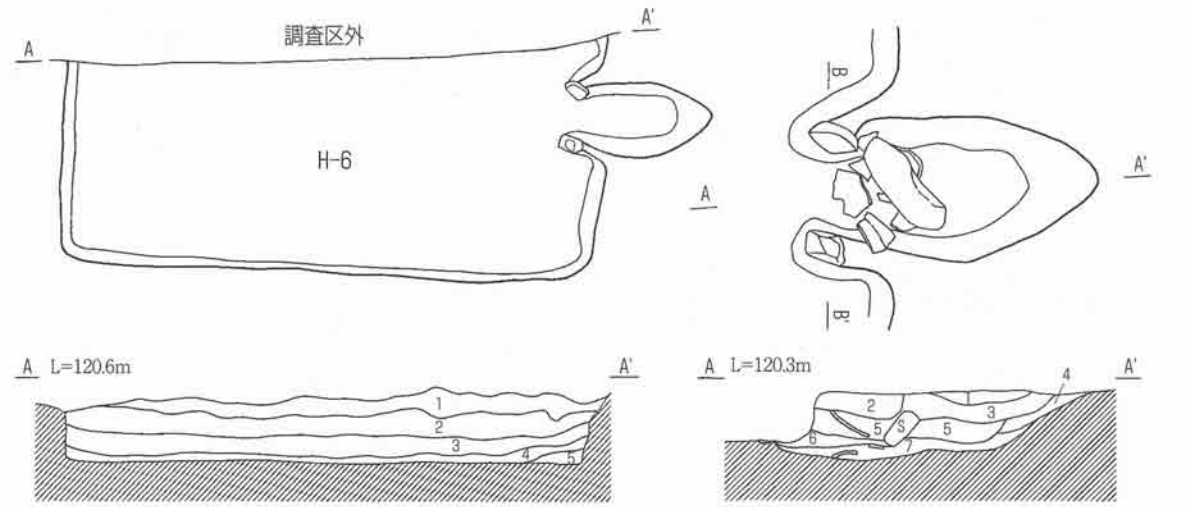


2区　H－5号住居跡　ベルトセクション

1	褐灰	粗	△△	As-B 50%、一部純層あり
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%
3	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、底部にやや炭化物が混じる
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 20%
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、炭化物 5%
6	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 10%、炭化物やや混じる
7	褐	細	○◎	地山に近い

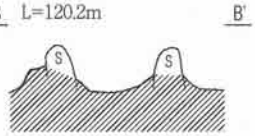
2区　H－5号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○◎	As-C・Hr-FP 10%、焼土粒 5%、炭化物 5%
2	にぶい赤褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 5%、焼土ブロック 50%
3	暗褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 5%、焼土粒 5%、炭化物 2%、黄橙色粒 5%
4	極暗褐	微	○○	焼土ブロックやや混ざる
5	極暗褐	微	○◎	焼土ブロック 10%、焼土粒 10%、黄橙色粒 2%
6	暗赤褐	微	○○	灰層　焼土粒 5%



2区　H－6号住居跡　東西壁セクション

1	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 1%、炭化物 1%	(H－6)
2	黒褐	細	○◎	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 5%	(H－6)
3	黒褐	細	○◎	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%	(H－6)
4	黒褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%	(H－6)
5	黒褐	微	○○	やや粘質土混じる（地山に近い）	(H－6)



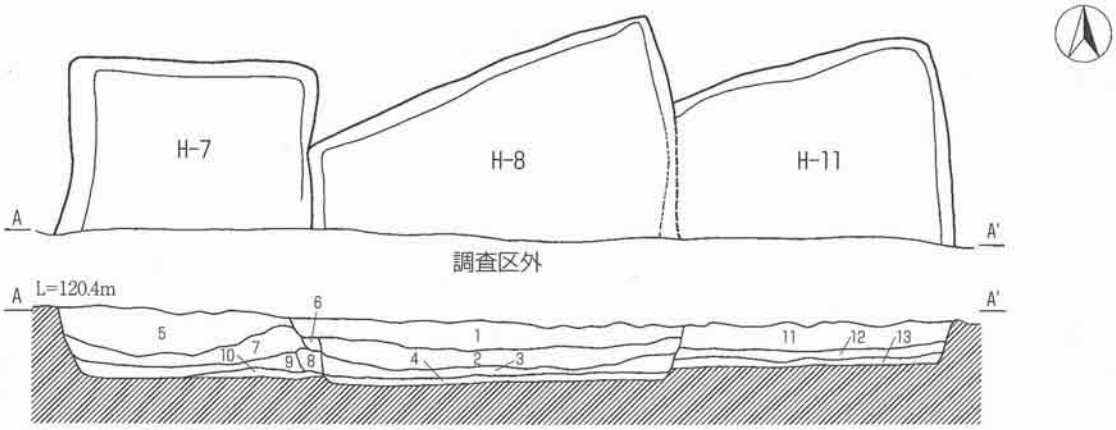
2区　H－6号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 1%
2	黒褐	細	○◎	As-C・Hr-FP 5%
3	にぶい赤褐	微	○○	焼土ブロック 50%、竈の天井部か
4	暗赤褐	微	○○	焼土粒 10%
5	暗褐	微	○○	焼土粒 5%
6	黒褐	微	○○	焼土粒 5%、やや灰混じる
7	暗赤褐	微	○△	灰層、焼土ブロック 20%

0　1：30　1m

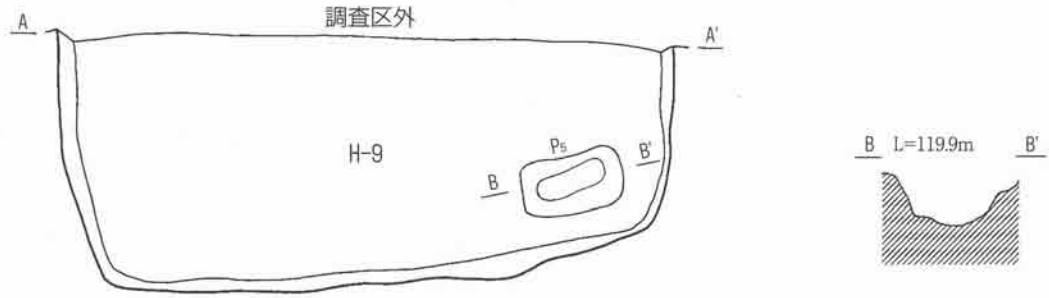
0　1：60　2m

Fig.17　2区 H－5・6号住居跡



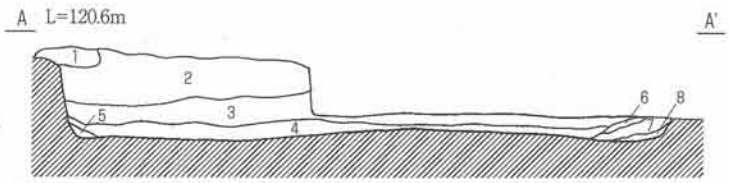
2区　H－7・8・11号住居跡　東西壁セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%	(H－8)
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%	(H－8)
3	黒褐	微	◎○		(H－8)
4	黒褐	微	◎◎	黄橙色粒 2%	(H－8)
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 5%	(H－7)
6	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 1%	(H－7)
7	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%	(H－7)
8	暗赤褐	微	△○	焼土ブロック 10%	(H－7の竈の一部か)
9	黒褐	微	◎◎		(H－7)
10	黒褐	微	△△	灰層	(H－7の竈の一部か)
11	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%	(H－11)
12	黒褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロックやや混じる	(H－11)
13	黒褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 1%、12層より粘性が強く地山に近い	(H－11)



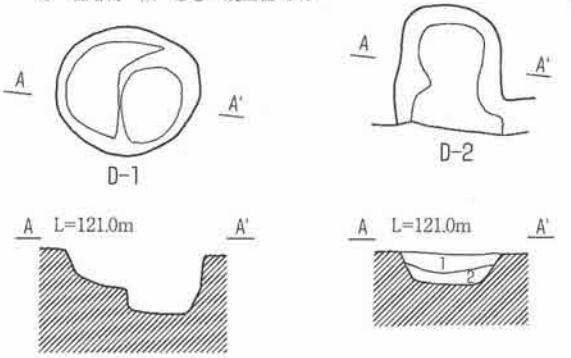
2区　H－9号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	方　形	82	45	50



2区　H－9号住居跡　東西壁セクション

1	暗褐	細	○○	As-B 20%、As-C・Hr-FP 1%	
2	黒褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 5%	
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%	
4	黒褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 1%、やや粘質土混じる	
5	黒褐	微	○○		
6	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 2%、焼土粒 5%	(H－9の竈の残骸か)
7	黒褐	微	◎○	焼土粒 10%、炭化物 10%	(H－9の竈の残骸か)
8	極暗褐	微	◎○	焼土粒 5%	(H－9の竈の残骸か)

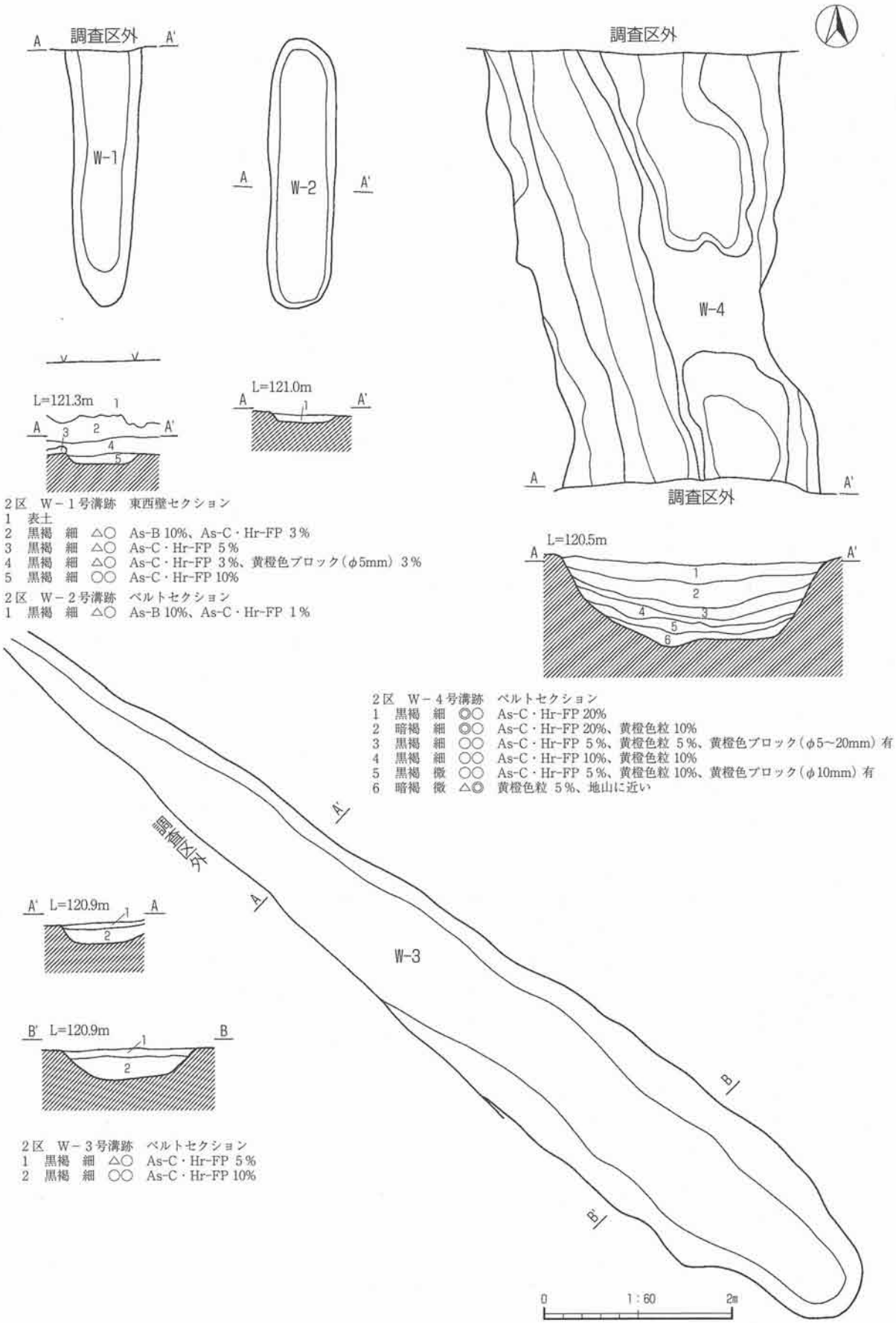


2区　D－2号土坑跡　ベルトセクション

1	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック(φ10mm) 有
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%、黄橙色ブロック(φ10mm) 5%

0　1：60　2m

Fig.18　2区 H－7～9・11号住居跡、D－1・2号土坑



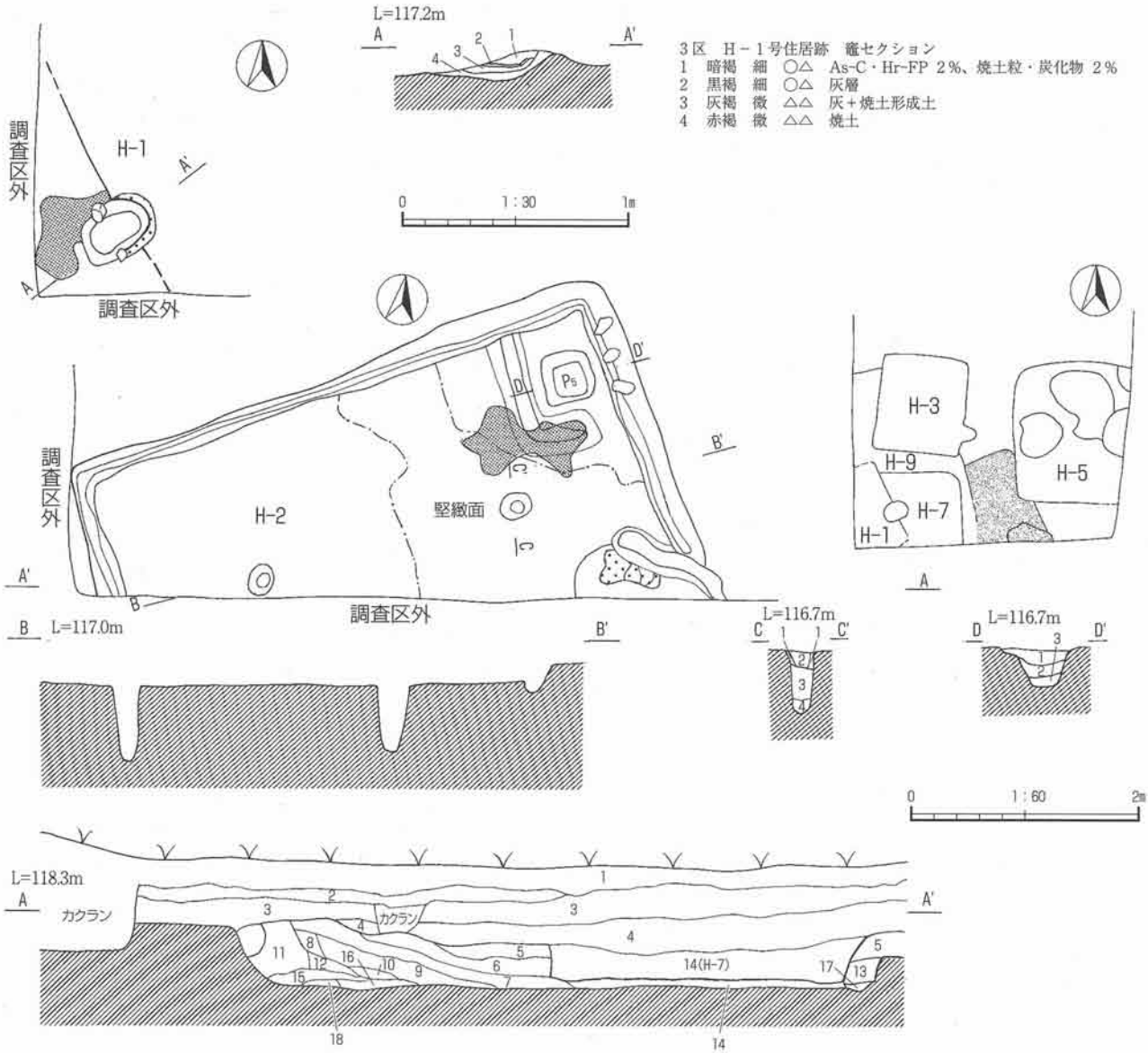
2区　W－1号溝跡　東西壁セクション
1　表土
2　黒褐　細　△○　As-B 10%、As-C・Hr-FP 3%
3　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 5%
4　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ5mm）3%
5　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%

2区　W－2号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　△○　As-B 10%、As-C・Hr-FP 1%

2区　W－4号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 20%
2　暗褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 10%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）有
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 10%
5　黒褐　微　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 10%、黄橙色ブロック（φ10mm）有
6　暗褐　微　△◎　黄橙色粒 5%、地山に近い

2区　W－3号溝跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 5%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%

Fig.19　2区 W－1～4号溝跡



3区　H－2号住居跡セクション

1	暗褐			表土
2	褐色	細	○△	酸化質土、As-C・Hr-FP 20% 黄褐粒 7%橙色粒 5%
3	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 30%、炭化物 10%、橙色粒 20%、ざらざらした土質
4	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 25%、橙粒 20%、炭化物 7%、3より暗褐味
5	黒褐	細	○△	黄褐粒・ブロックφ10～30mm 20%、灰白シルトブロックφ10mm 5%、黒色粒・ブロックφ10mm 5%
6	暗褐	微	○○	焼土＋炭化物多、一部縞状堆積 黄褐粒・ブロックφ5mm 5%、灰白粘土ブロックφ10mm 3%
7	灰褐	微	○○	焼土＋焼けた炭化材 5%、一部縞状、黄褐粒・ブロックφ10～20mm 15%、橙粒 2%、灰白粘土塊若干
8	暗褐	微	○○	灰白粘土ブロックφ10～20mm 7%、黄褐粒 2%、9より粘質
9	暗褐	微	○○	焼土・炭化物 3%、黄褐粒・ブロックφ10mm 15%、As-C 3%、6より茶色味
10	暗褐	微	○△	As-C 2%、橙粒 2%、炭化物 2%、ざらざらした土質
11	褐灰	微	◎◎	竈構築土、黄褐ブロックφ10mm 2%、炭化物 3%
12	灰褐	微	○○	袖部崩落土、灰白粘土ブロック 5%、被熱粘土ブロック 2%
13	黒褐	微	○○	As-C 2%、黄褐粒・ブロックφ10～20mm 2%、炭化物 2%、橙粒 1%
14	暗褐	微	◎△	焼土＋焼けた炭化材互層形成、黄橙ブロックφ10mm 2%
15	暗褐	微	◎△	灰＋焼土
16	褐灰	微	◎△	11に同
17	褐	微	△○	周溝覆土、黄褐粒 2%、炭化物若干
18	褐	微	○△	縞状に灰、黄褐ブロックφ10mm 2%、灰白シルトブロックφ10mm 2%、焼土・炭化物若干、竈覆土

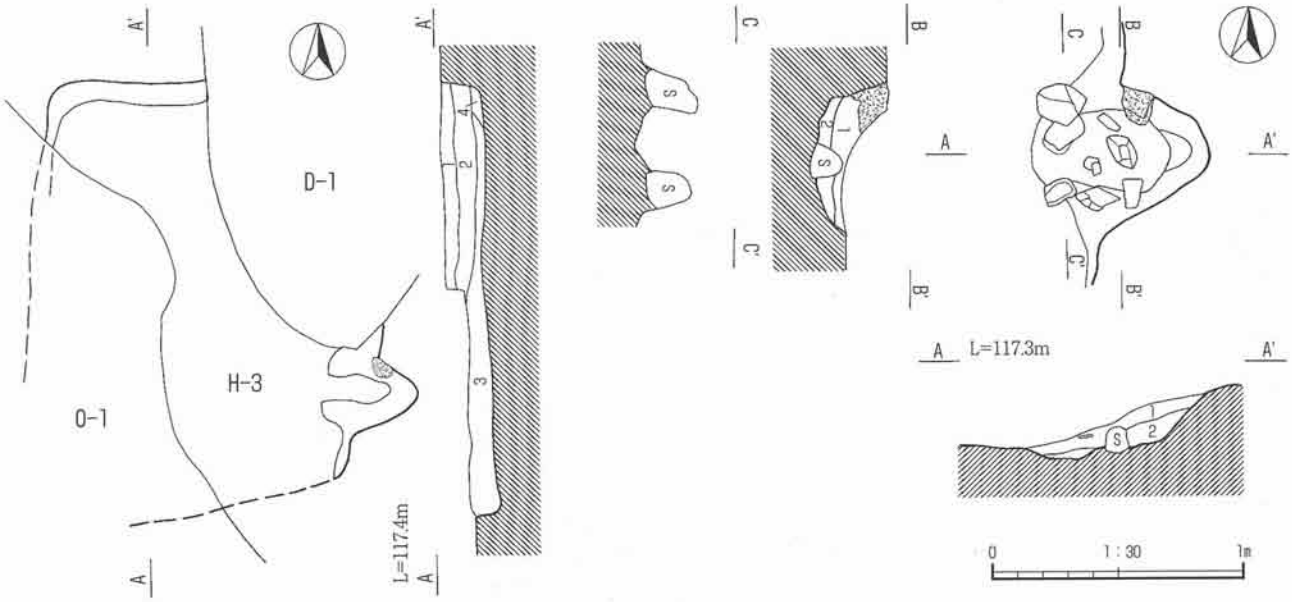
3区　H－2号住居跡 P_4 セクション

1	焼土・炭化物			
2	黒褐	微	◎○	黄褐ブロックφ5～10mm 3%
3	暗褐	微	△○	黄褐粒・ブロックφ10～20mm 7%、白粒 3%
4	にぶい黄褐	微	△△	黄褐ブロックφ10～20mm 2%、さらさらした土質

3区　H－2号住居跡 P_5 セクション

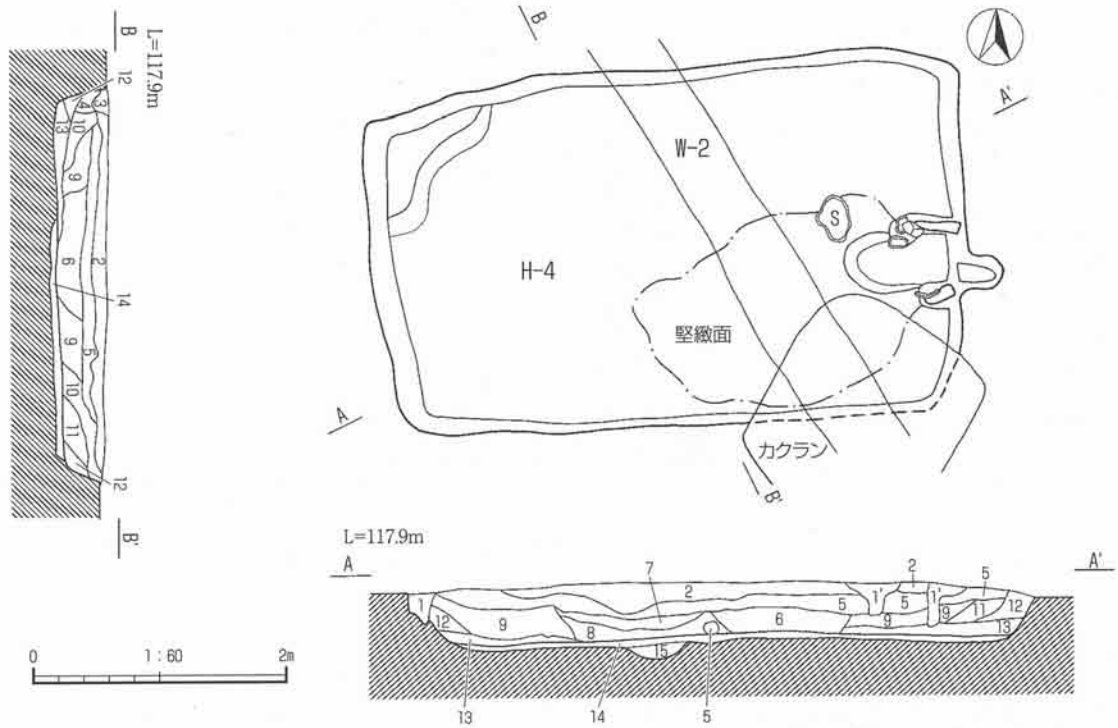
1	黒褐	微	○○	炭化物 3%、黄褐粒・ブロック 3%、灰微量縞状に堆積
2	暗褐	微	○○	炭化物 2%、黄褐ブロック 3%、焼土粒微、1より砂質
3	暗褐	微	○○	黄褐ブロック 3%、炭化物 2%、粘質土

Fig.20　3区 H－1・2号住居跡



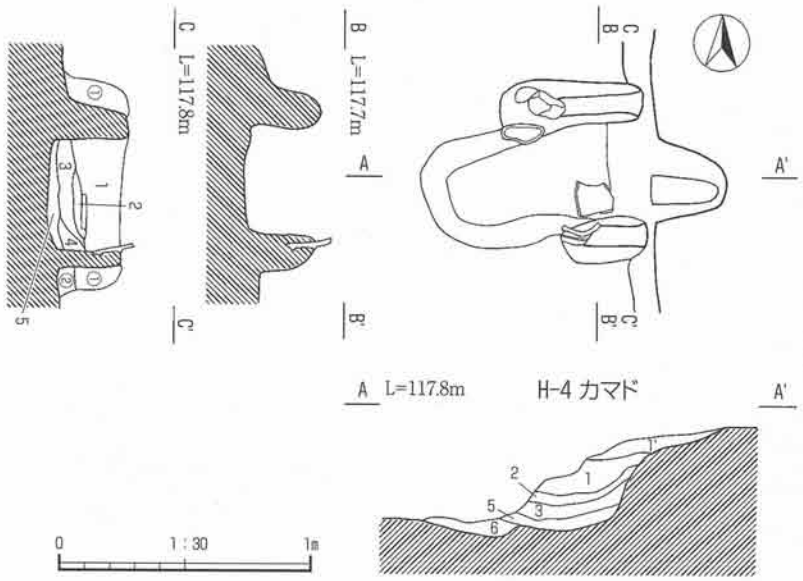
3区　H－3号住居跡セクション
1　褐　細　○△　As-C・Hr-FP 20%、黄褐粒・炭化物 3%、ざらざらした土質
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 20%、黄褐粒・炭化物 3%、ざらざらした土質
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、炭化物 3%、黄褐粒 5%、灰白シルトブロック（φ10～15mm）2%
4　暗褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2%、黄褐粒・ブロック（φ10～15mm）3%、壁崩落土

3区　H－3号住居跡竈セクション
1　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 3%、赤味、底面灰白色土灰縞状堆積
2　黒褐　細　○○　焼土粒・炭化物含、黄褐ブロックφ10mm 若干
3　黒褐　細　○○　灰＋炭化物
4　黒褐　細　○○　焼土



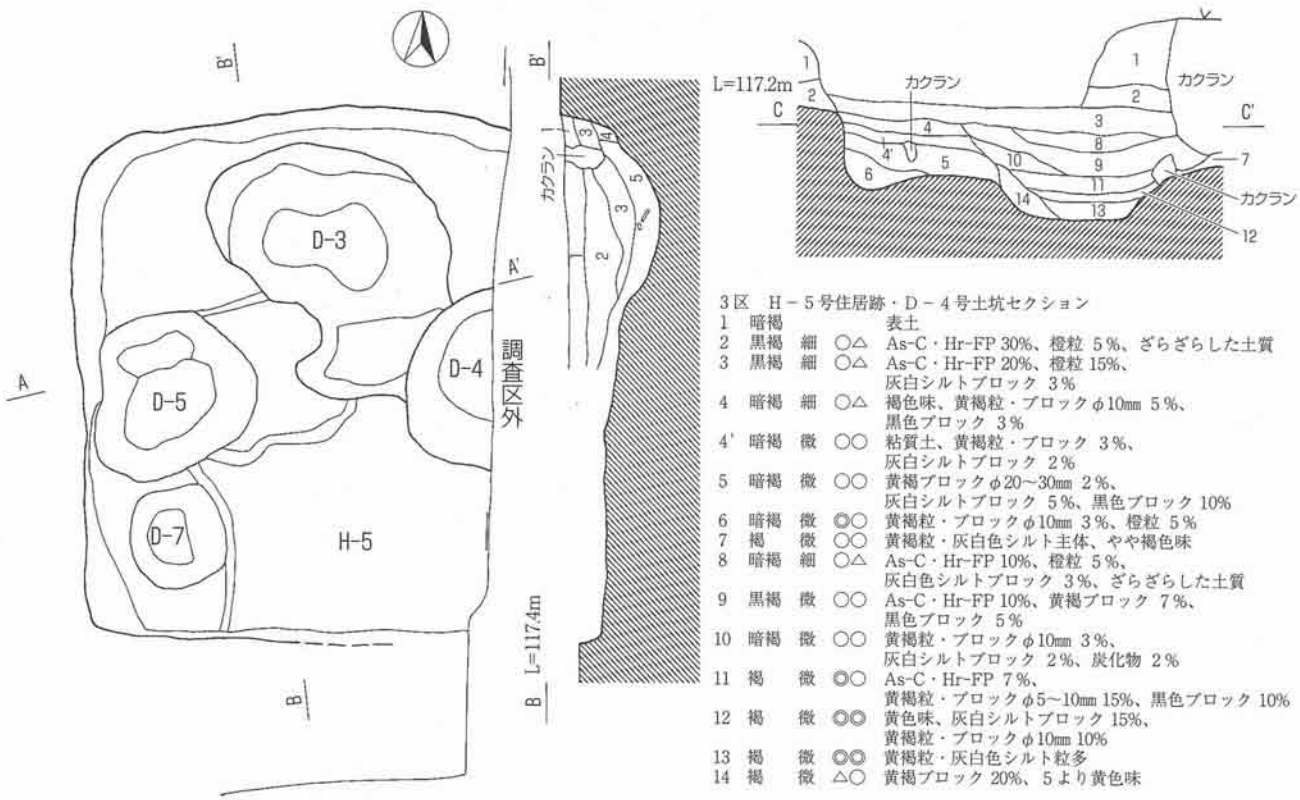
3区　H－4号住居跡セクション
1　暗褐　細　◎△　砂質土、As-C・Hr-FP 5%
1'　にぶい黄褐　細　○△　As-C・Hr-FP 3%、砂利混
2　暗褐　粗　◎×　As-C・Hr-FP 10%、黄褐ブロック（φ5～10mm）2%
部分的に砂利混
3　灰黄褐　微　○○　シルト多、As-C・Hr-FP 2%
4　暗褐　細　◎×　砂質土、As-C・Hr-FP 5%、砂利混
5　黒褐　細　○△　やや砂質土、As-CFP 5%
黄褐ブロック（φ5mm）1%
6　暗褐　微　△○　シルト混、As-C・Hr-FP 2%
7　灰黄褐　微　○○　シルト多、As-C・Hr-FP 3%
8　黒褐　微　○○　シルト混、As-C・Hr-FP 5%
黄褐ブロック（φ5～10mm）3%
9　にぶい黄褐　微　△○　As-C・Hr-FP 3% 黄褐ブロック（φ5mm）2%
焼土粒・炭化物 1%
10　黒褐　細　○△　やや砂質土、As-CFP 5%
11　黒褐　細　○○　やや砂質土、As-C・Hr-FP 10%
黄褐ブロック（φ5mm）2%、軽石多
12　暗褐　微　△△　As-C・Hr-FP 2%、黄褐粒・ブロック 5%
13　にぶい黄褐　微　○○　As-C・Hr-FP 1%、黄褐粒・ブロック 15%
14　暗褐　微　○○　黄褐粒・ブロック 20%（貼床）
15　灰黄褐　微　○○　シルト多、黄褐粒・ブロック 2%（W－2覆土）

Fig.21　3区 H－3・4号住居跡



3区　H－4号住居跡　竈セクション

1	褐	微	○○	粘土混、As-C・Hr-FP 2%、焼土粒 1%
1'	褐	微	○○	粘土混、As-C・Hr-FP 2%、焼土ブロックφ5～10mm 5%
2	黒褐	微	△○	粘土ブロックφ5～10mm 10%、焼土粒・ブロック 5%
3	暗褐	微	△○	灰混、焼土粒・ブロックφ5～10mm 10%
4	にぶい黄褐	微	△○	焼土粒 2%
5	灰黄褐	微	△△	灰層、黄褐ブロックφ10mm 5%
6	灰黄褐	微	△○	灰多、焼土粒・ブロックφ5mm 10%
①	にぶい黄褐	微	○○	粘土混、As-C・Hr-FP 3%
②	褐	微	△○	焼土粒・ブロックφ5～10mm 20%



3区　H－5号住居跡・D－4号土坑セクション

1	暗褐			表土
2	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 30%、橙粒 5%、ざらざらした土質
3	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 20%、橙粒 15%、灰白シルトブロック 3%
4	暗褐	細	○△	褐色味、黄褐粒・ブロックφ10mm 5%、黒色ブロック 3%
4'	暗褐	微	○○	粘質土、黄褐粒・ブロック 3%、灰白シルトブロック 2%
5	暗褐	微	○○	黄褐ブロックφ20～30mm 2%、灰白シルトブロック 5%、黒色ブロック 10%
6	暗褐	微	◎○	黄褐粒・ブロックφ10mm 3%、橙粒 5%
7	褐	微	○○	黄褐粒・灰白色シルト主体、やや褐色味
8	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 10%、橙粒 5%、灰白色シルトブロック 3%、ざらざらした土質
9	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄褐ブロック 7%、黒色ブロック 5%
10	暗褐	微	○○	黄褐粒・ブロックφ10mm 3%、灰白シルトブロック 2%、炭化物 2%
11	褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 7%、黄褐粒・ブロックφ5～10mm 15%、黒色ブロック 10%
12	褐	微	◎◎	黄色味、灰白シルトブロック 15%、黄褐粒・ブロックφ10mm 10%
13	褐	微	◎◎	黄褐粒・灰白色シルト粒多
14	褐	微	△○	黄褐ブロック 20%、5より黄色味

3区　D－3・5号土坑セクション

1				住居跡第4層
2	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 7%、褐ブロック 220%、黒粒・ブロックφ10～20mm 10%
2'	黒褐	細	○△	FV
3	褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 5%、黄褐ブロック 20%、黒ブロック 10%、住居跡5層に似
3'	褐	微	◎○	3より黄色味、黄褐ブロック・塊混、橙粒 3%
4	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 3%、黒粒・ブロックφ50mm 20%、崩落土か
5'	にぶい黄褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 5%、黄白シルト粒・ブロックφ5～10mm 20%、黄褐粒 5%
5	褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 3%、灰白シルトブロック 3%、黄褐粒・ブロックφ10～30mm 20% 人為的埋土
6	暗褐	微	◎○	黄褐粒・ブロックφ10～20mm 10%、黒粒 2%、粘質土

0 1:60 2m

Fig.22　3区 4・5号住居跡、D－3・4・5号土坑跡

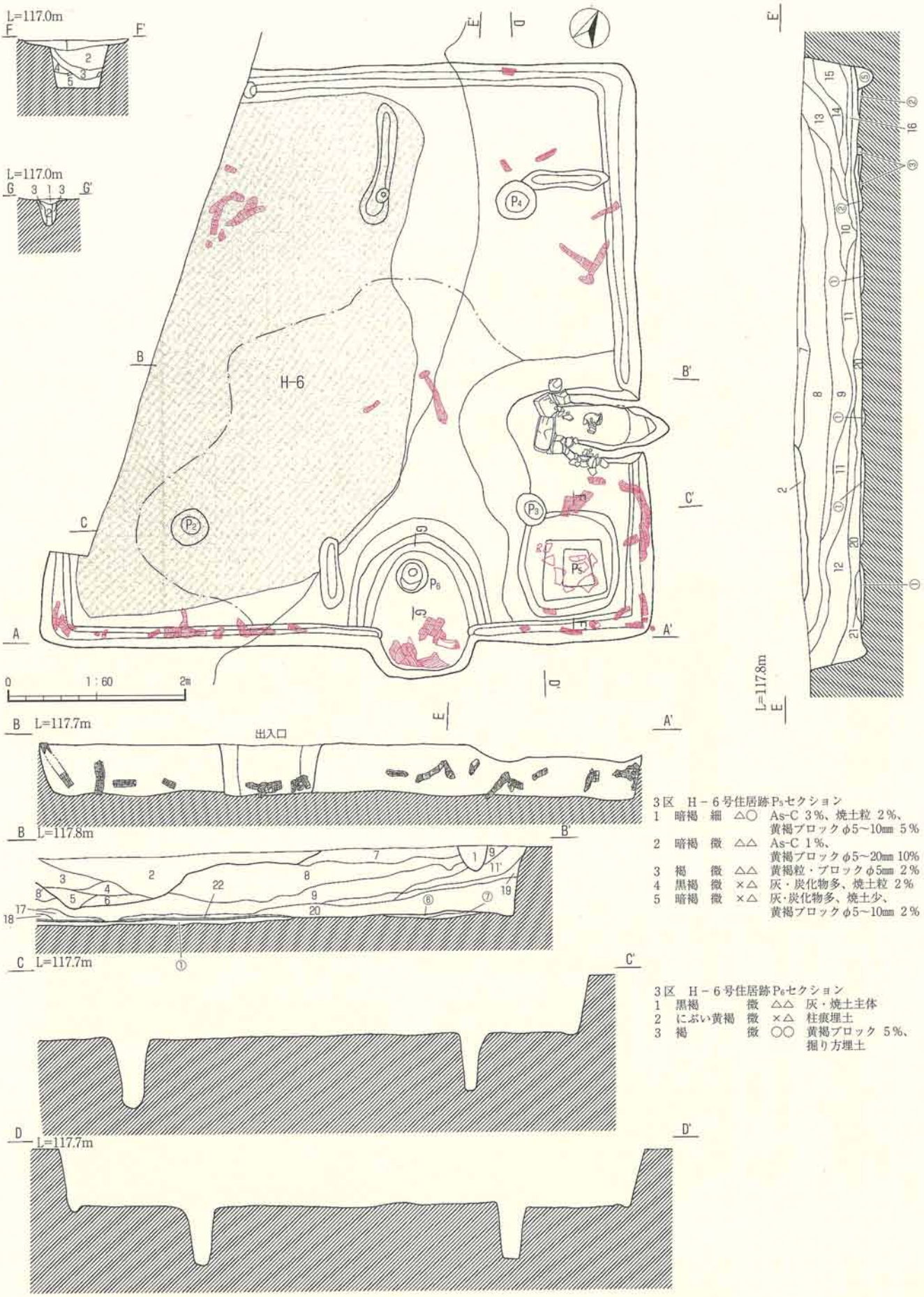
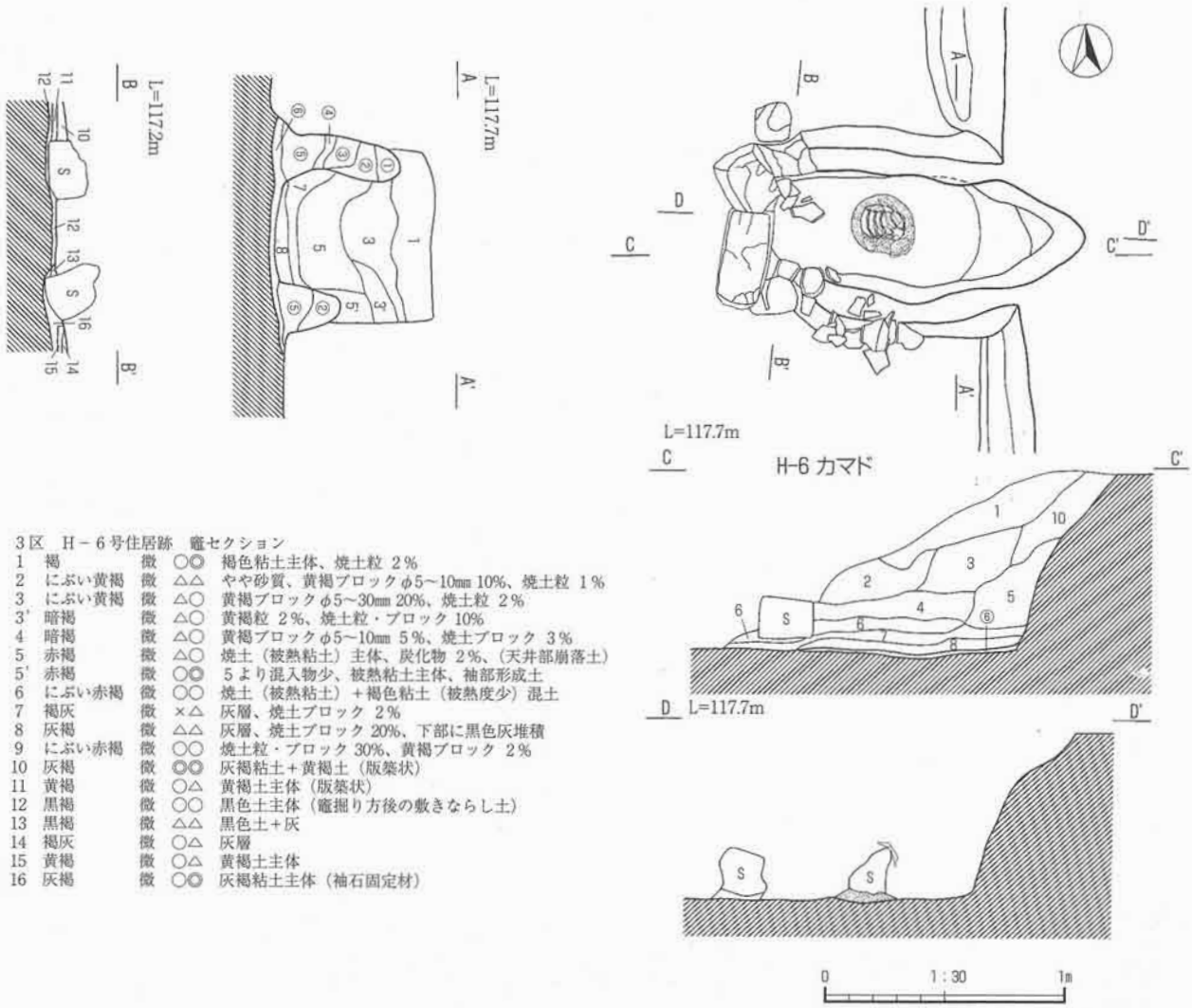


Fig.23 3区 H－6号住居跡

3区　H－6号住居跡セクション

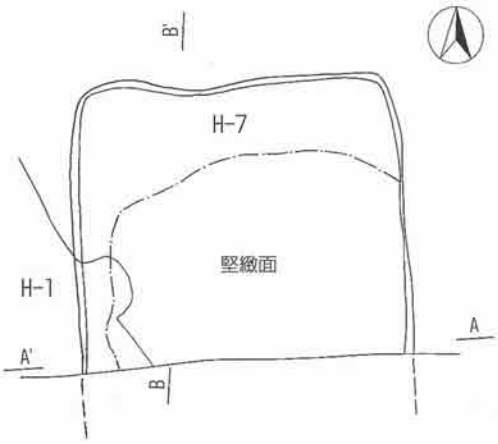
1	暗褐	微	△△	As-C・Hr-FP 2％
2	にぶい黄褐	微	△○	シルト質、As-C・Hr-FP 3％、黄褐ブロックφ5㎜ 2％（O－1覆土）
3	にぶい黄褐	微	△○	As-C・Hr-FP 2％（O－1覆土）
4	黒褐	細	○△	As-C含黒色土主体（O－1覆土）
5	にぶい黄褐	微	△△	やや砂質、As-C・Hr-FP 5％、黄褐ブロックφ5㎜ 2％（O－1覆土）
6	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 10％、黄褐ブロックφ5㎜ 2％（O－1覆土）
7	にぶい黄褐	微	△△	As-C 5％、黄褐ブロックφ5～10㎜ 5％
8	褐	微	△○	As-C 5％黄褐ブロックφ5～200㎜ 40％、遺物・炭化材ほとんど無
8'	にぶい黄褐	微	○○	黄褐粒・ブロック 10％
9	暗褐	微	△○	As-C 3％、黄褐ブロックφ5～20㎜ 10％、遺物・炭化材若干含
10	褐	微	△△	As-C 2％、黄褐粒・ブロックφ5～30㎜ 20％
11	暗褐	微	△○	As-C 2％、黄褐ブロックφ5～20㎜ 10％、土器・炭化材含
11'	にぶい褐	微	△○	褐色粘土 30％、As-C 2％（竈構築材流出土）
12	黄褐	微	△△	As-C 2％、黄褐ブロック主体、土器・炭化材含
13	黄褐	微	△△	黄褐ブロック主体、As-C 2％
14	にぶい黄褐	微	△○	As-C 2％、黄褐粒・ブロック 10％、焼土ブロック 2％
15	暗褐	微	○○	As-C 1％、黄褐ブロック 20％、焼土・炭化材含
16	黒褐	微	○○	黄褐ブロック 3％、焼土・炭化材多
17	黄褐	微	△○	黄褐粒・ブロック主体
18	にぶい黄褐	微	△△	黄褐粒 10％、焼土含
19	黒褐	微	△△	黄褐粒・ブロック 5％、焼土粒 2％
20	黄褐	微	○△	黄褐粒・ブロック主体、遺物・炭化材・焼土多（底面付近炭化材－屋根材の崩落か）
21	黒褐	微	△△	灰・焼土主体
22	黒褐	微	○△	灰層（黒色灰）
①	にぶい黄褐	微	○△	黄褐土＋黒色土（貼床）
②	明黄褐	微	◎△	黄褐土主体、黒色粒 3％
③	黒褐	微	○○	黒色土主体
④	暗褐	微	△△	黄褐粒 3％
⑤	にぶい黄褐	微	○△	黄褐粒・ブロック＋黒色ブロック混土
⑥	灰褐	微	◎○	灰褐粘土＋黄褐土混土
⑦	黒褐			竈掘り方の敷きならし土

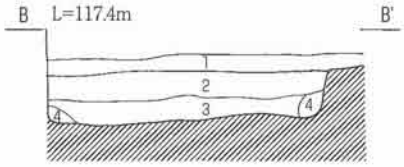


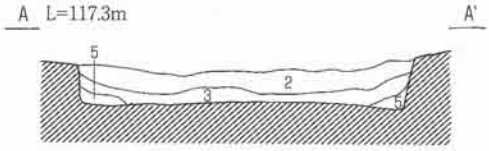
3区　H－6号住居跡　竈セクション

1	褐	微	○◎	褐色粘土主体、焼土粒 2％
2	にぶい黄褐	微	△△	やや砂質、黄褐ブロックφ5～10㎜ 10％、焼土粒 1％
3	にぶい黄褐	微	△○	黄褐ブロックφ5～30㎜ 20％、焼土粒 2％
3'	暗褐	微	△○	黄褐粒 2％、焼土粒・ブロック 10％
4	暗褐	微	△○	黄褐ブロックφ5～10㎜ 5％、焼土ブロック 3％
5	赤褐	微	△○	焼土（被熱粘土）主体、炭化物 2％、（天井部崩落土）
5'	赤褐	微	○◎	5より混入物少、被熱粘土主体、袖部形成土
6	にぶい赤褐	微	○○	焼土（被熱粘土）＋褐色粘土（被熱度少）混土
7	褐灰	微	×△	灰層、焼土ブロック 2％
8	灰褐	微	△△	灰層、焼土ブロック 20％、下部に黒色灰堆積
9	にぶい赤褐	微	○○	焼土粒・ブロック 30％、黄褐ブロック 2％
10	灰褐	微	◎◎	灰褐粘土＋黄褐土（版築状）
11	黄褐	微	○△	黄褐土主体（版築状）
12	黒褐	微	○○	黒色土主体（竈掘り方後の敷きならし土）
13	黒褐	微	△△	黒色土＋灰
14	褐灰	微	○△	灰層
15	黄褐	微	○△	黄褐土主体
16	灰褐	微	○◎	灰褐粘土主体（袖石固定材）

Fig.24　3区 H－6号住居跡

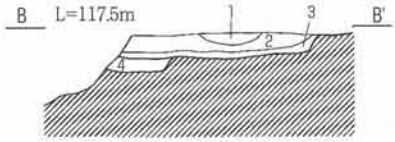






3区　H－7号住居跡セクション

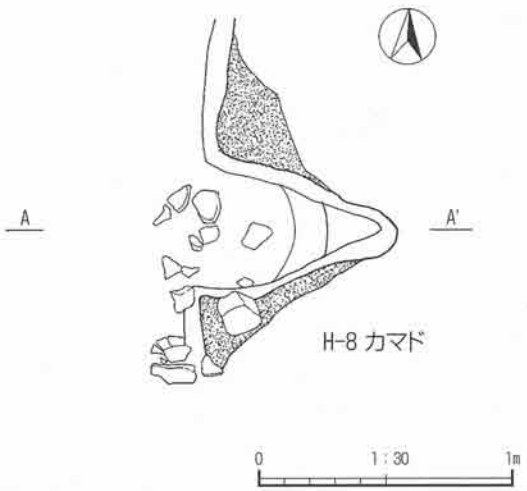
1	黒褐	細	○△	As-C・Hr-FP 25%、黄褐粒 10%、炭化物 7%、ざらざらした土質
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、炭化物 3%、黄褐粒・ブロック φ5～10mm 10%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 7%、炭化物 φ10mm 2%、黄褐粒・ブロック φ12mm 5%
4	黒褐			炭化物・焼土粒混合土、竈関連土
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 3%、黄褐粒 7%、炭化物・焼土 3%

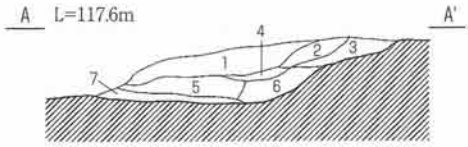


3区　H－8号住居跡セクション

1	暗褐	微	△△	As-C・Hr-FP 2%、底面に硬化面、溝状
2	にぶい黄褐	微	△○	As-C・Hr-FP 3%、炭化物 1%
3	暗褐	微	○○	炭化物 2%
4	にぶい黄褐	微	◎○	黄褐・黒褐ブロック φ5mm 2%、住居跡掘り方形成

0　1：60　2m





3区　H－8号住居跡　竈セクション

1	にぶい褐	微	△○	粘土混、焼土ブロック 5%
2	にぶい赤褐	微	△○	粘土混、焼土ブロック 30%、被熱顕著
3	黒褐	微	△○	焼土粒・ブロック 2%
4	にぶい黄橙	微	○◎	粘土主体
5	灰黄褐	微	△△	粘土混、焼土粒・炭化物 2%
6	褐	微	△○	粘土・焼土・灰混合土
7	黒褐	微	×△	灰層

Fig.25　3区 H－7・8号住居跡

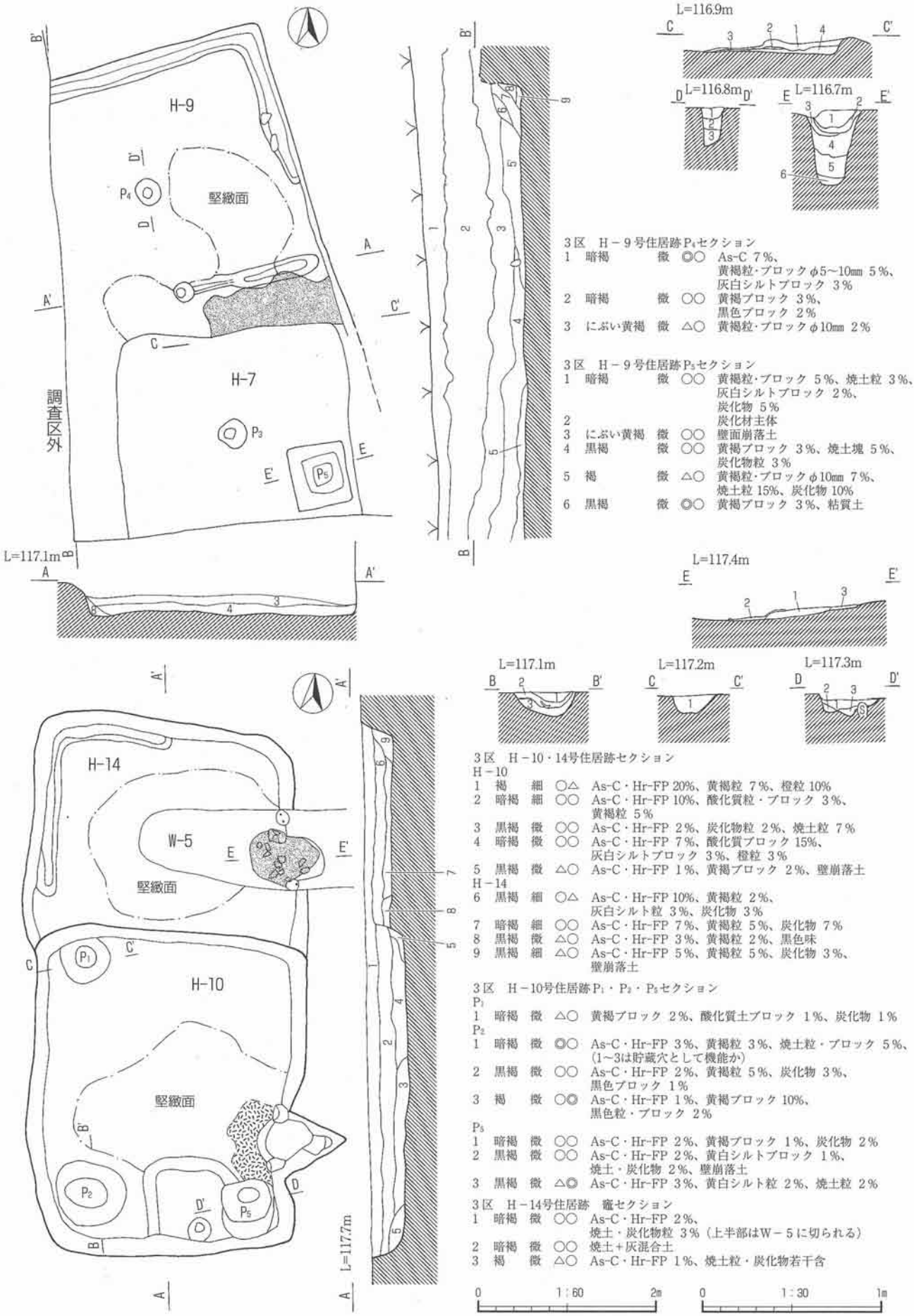
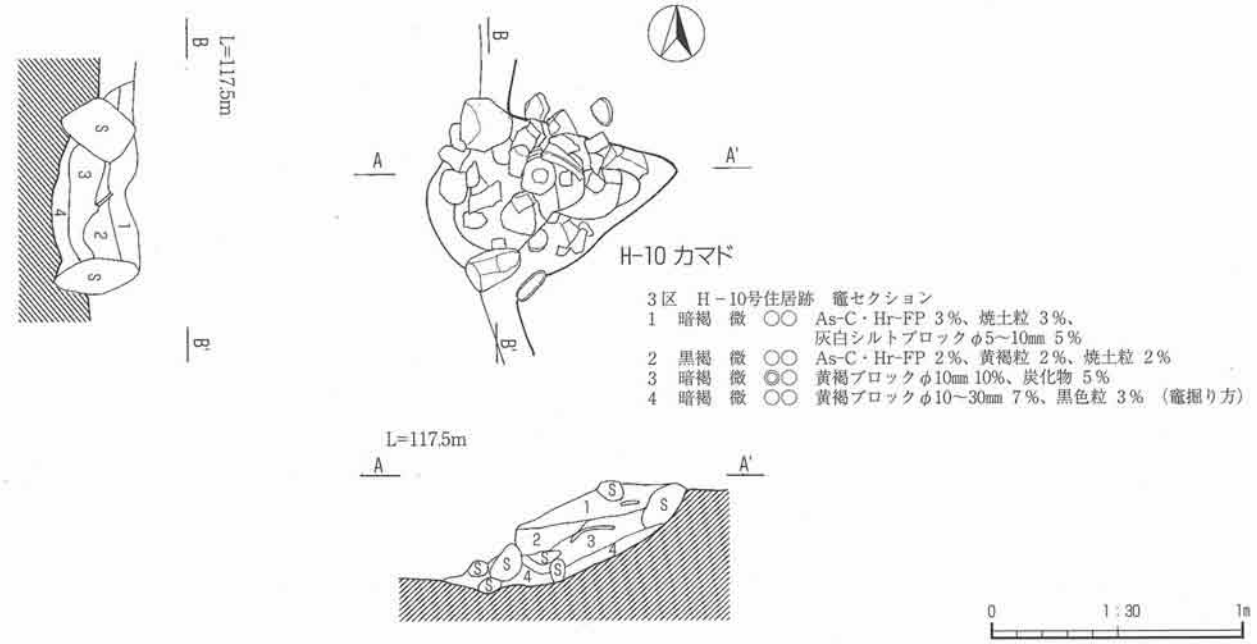


Fig.26　3区 H－9・10・14号住居跡



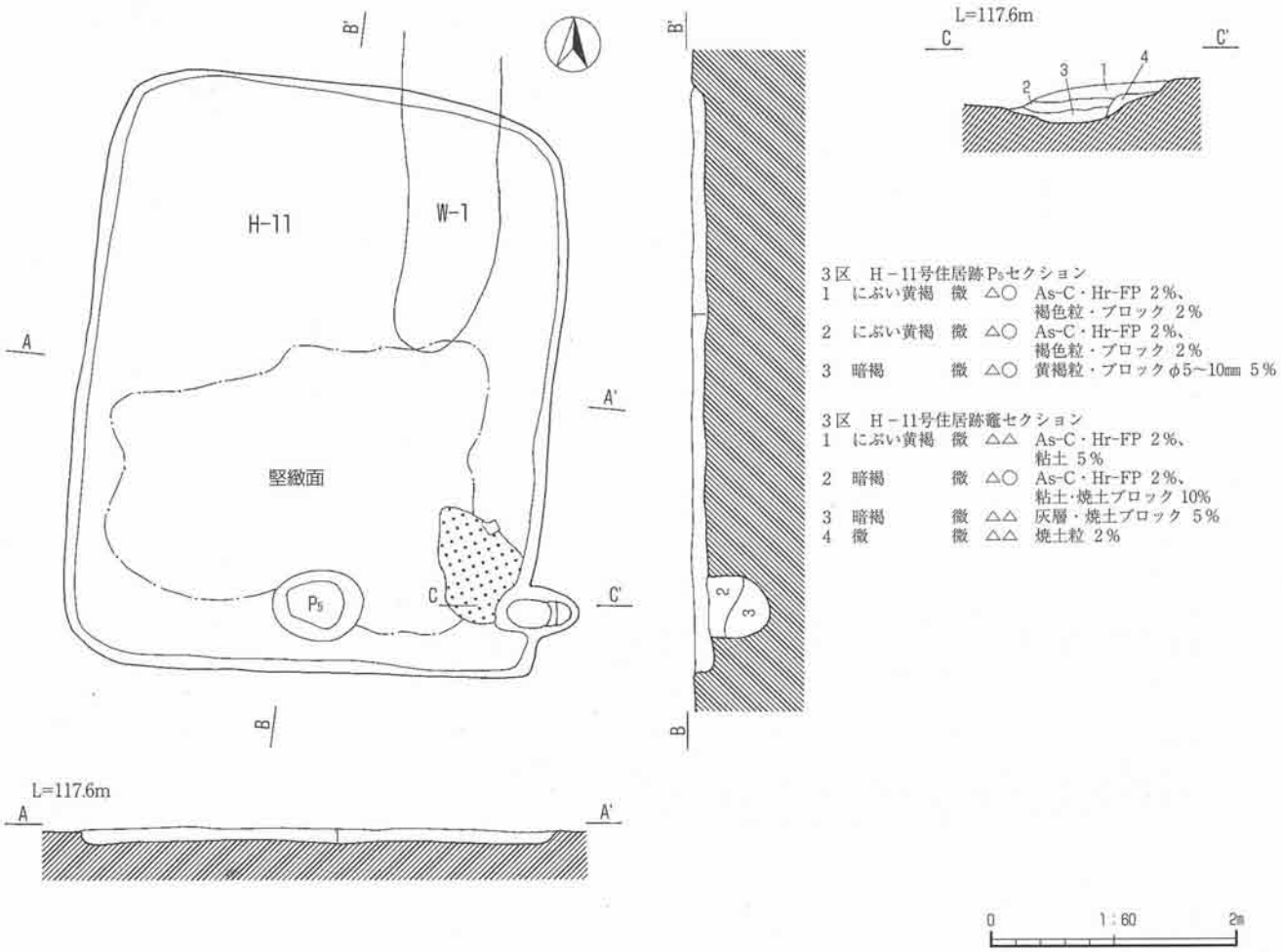
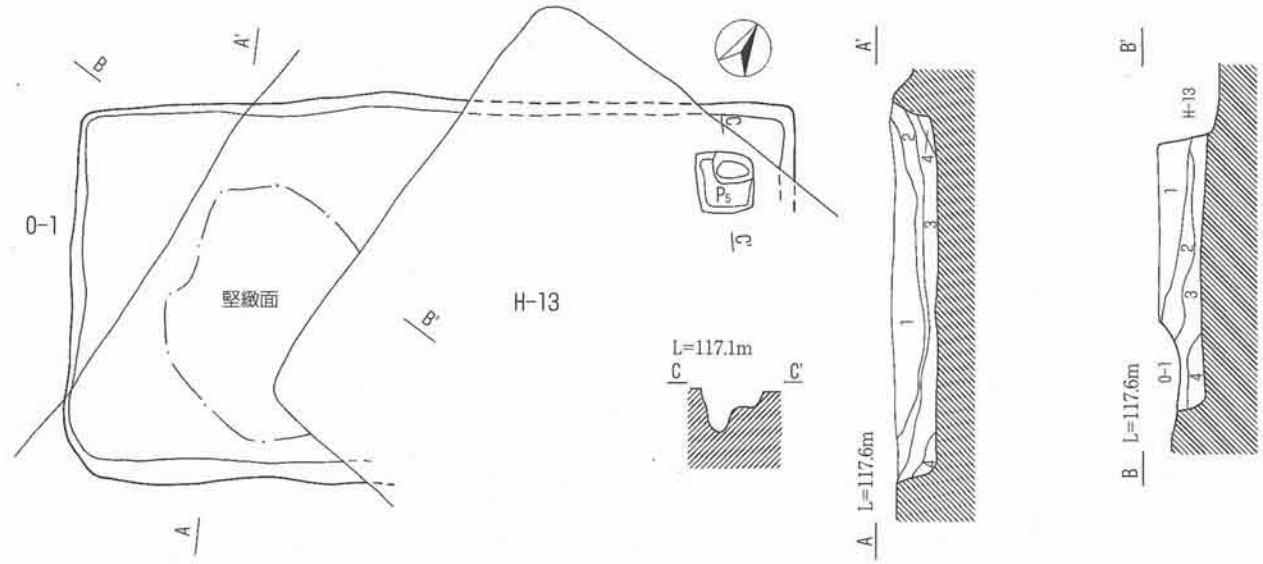
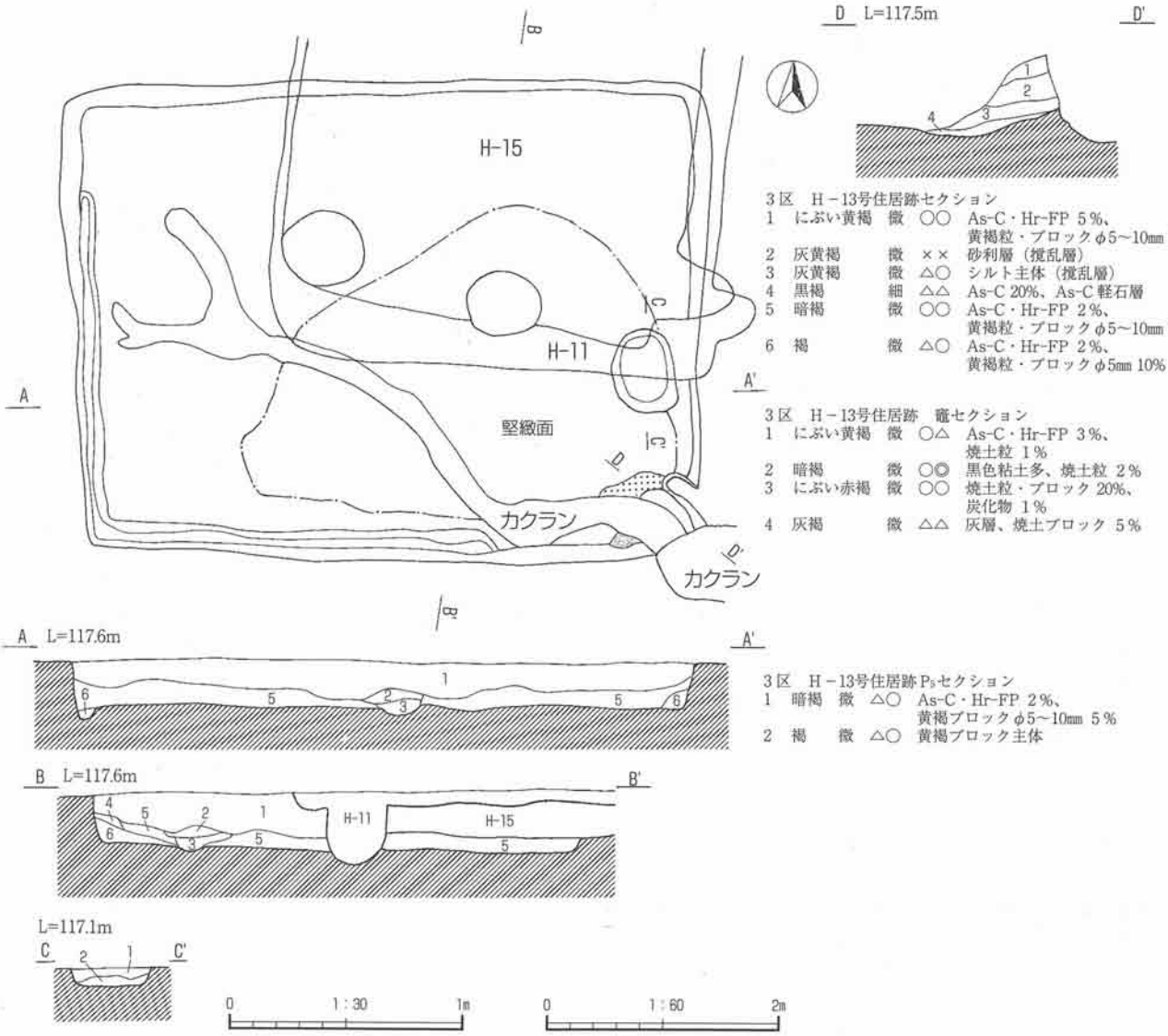


Fig.27　3区 H－10・11号住居跡



3区　H－12号住居跡セクション
1　暗褐　微　○△　As-C・Hr-FP 3％、黄褐ブロックφ5mm 1％、炭化物 1％
2　暗褐　微　△△　As-C・Hr-FP 5％、浅黄橙シルト（FA？）ブロックφ5～30mm 10%、黒色土（As-C 含）ブロック 5％
3　暗褐　微　△△　As-C・Hr-FP 2％、黄褐粒 3％
4　褐　　微　△○　黄褐粒 20%

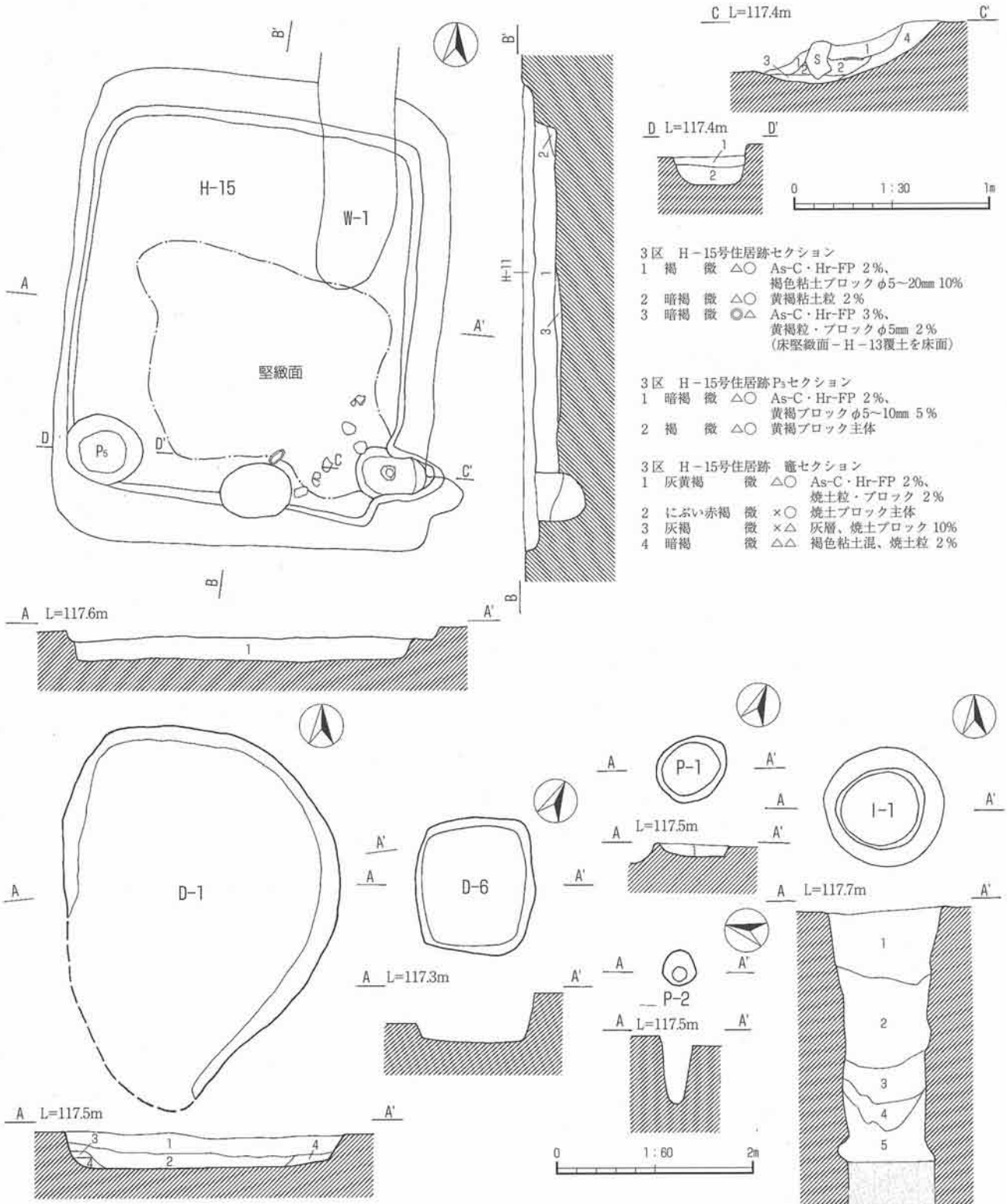


3区　H－13号住居跡セクション
1　にぶい黄褐　微　○○　As-C・Hr-FP 5％、黄褐粒・ブロックφ5～10mm 10%
2　灰黄褐　　微　××　砂利層（撹乱層）
3　灰黄褐　　微　△○　シルト主体（撹乱層）
4　黒褐　　細　△△　As-C 20%、As-C 軽石層
5　暗褐　　微　○○　As-C・Hr-FP 2％、黄褐粒・ブロックφ5～10mm 3％
6　褐　　微　△○　As-C・Hr-FP 2％、黄褐粒・ブロックφ5mm 10%

3区　H－13号住居跡　竈セクション
1　にぶい黄褐　微　○△　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒 1％
2　暗褐　　微　○◎　黒色粘土多、焼土粒 2％
3　にぶい赤褐　微　○○　焼土粒・ブロック 20%、炭化物 1％
4　灰褐　　微　△△　灰層、焼土ブロック 5％

3区　H－13号住居跡 P_5 セクション
1　暗褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2％、黄褐ブロックφ5～10mm 5％
2　褐　　微　△○　黄褐ブロック主体

Fig.28　3区 H－12・13号住居跡



3区　H－15号住居跡セクション
1　褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2%、
　　褐色粘土ブロックφ5～20mm 10%
2　暗褐　微　△○　黄褐粘土粒 2%
3　暗褐　微　◎△　As-C・Hr-FP 3%、
　　黄褐粒・ブロックφ5mm 2%
　　(床堅緻面－H－13覆土を床面)

3区　H－15号住居跡Psセクション
1　暗褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2%、
　　黄褐ブロックφ5～10mm 5%
2　褐　微　△○　黄褐ブロック主体

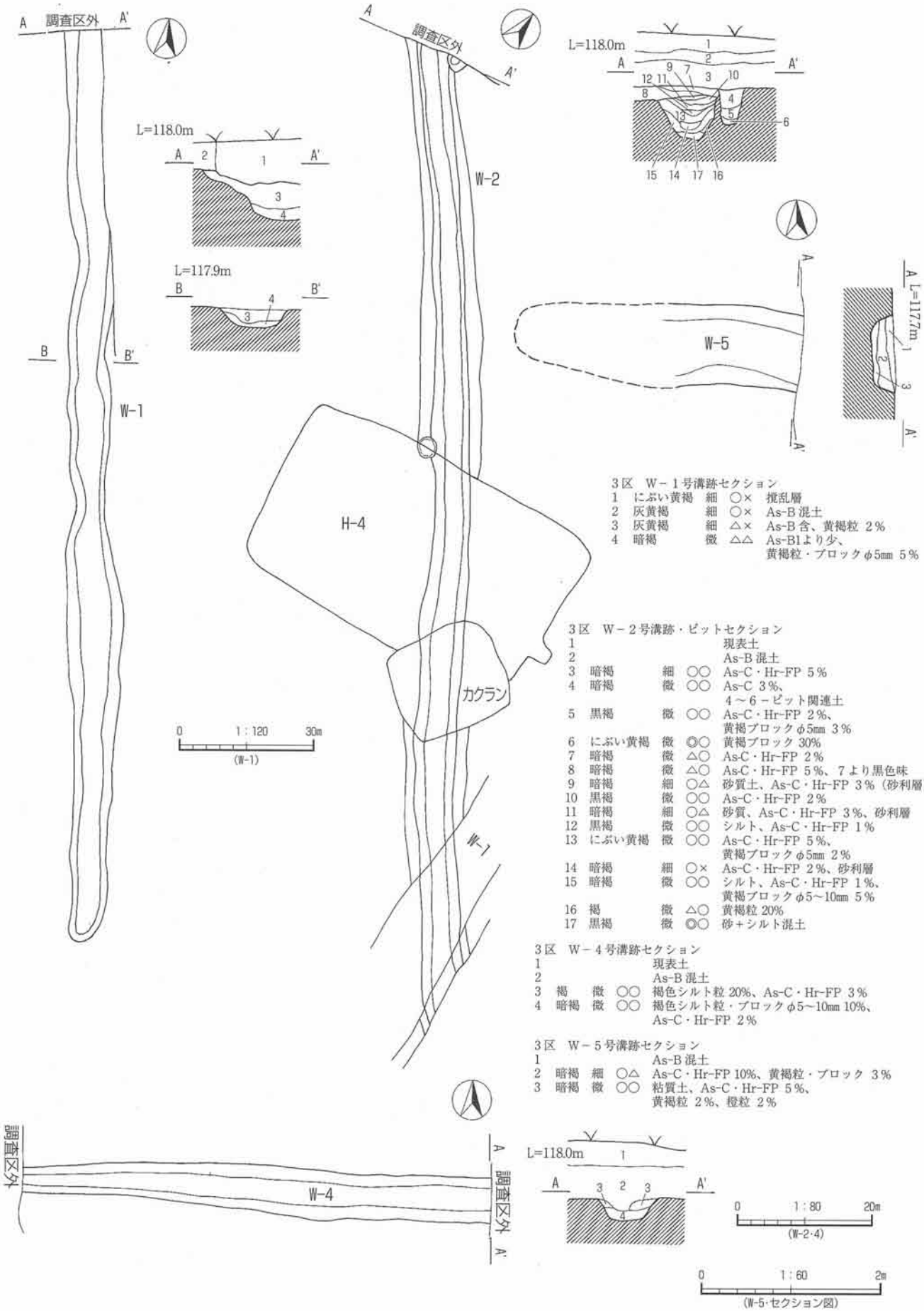
3区　H－15号住居跡　竈セクション
1　灰黄褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2%、
　　焼土粒・ブロック 2%
2　にぶい赤褐　微　×○　焼土ブロック主体
3　灰褐　微　×△　灰層、焼土ブロック 10%
4　暗褐　微　△△　褐色粘土混、焼土粒 2%

3区　D－1セクション
1　暗褐　細　○△　As-C・Hr-FP 20%、黄褐ブロック 2%、焼土粒・ブロック 3%、炭化物 3%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄褐ブロック 2%、焼土粒・炭化物 3%
3　黒褐　微　△◎　As-C・Hr-FP 1%、褐色シルトブロック 1%、壁崩落土
4　暗褐　微　○◎　黄褐粒・ブロック 2%、壁崩落土

3区　P－1ピットセクション
1　にぶい黄褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2%、シルト質

3区　I－1井戸跡セクション
1　灰黄褐　細　△×　砂質、As-B含、黄褐粘土 1%
2　灰黄褐　細　××　砂質、As-B1より多、黄褐粘土・ブロックφ5mm 3%
3　暗褐　細　△△　As-B2より少、やや砂質
4　黒褐　細　××　As-B3より多、砂質
5　暗褐　細　△△　やや粘質、As-B4より少

Fig.29　3区 H－15号住居跡、D－1・6号土坑跡、P－1・2号ピット跡、I－1号井戸跡



3区 W－1号溝跡セクション

1	にぶい黄褐	細	○×	撹乱層
2	灰黄褐	細	○×	As-B混土
3	灰黄褐	細	△×	As-B含、黄褐粒 2%
4	暗褐	微	△△	As-B1より少、黄褐粒・ブロックφ5mm 5%

3区 W－2号溝跡・ピットセクション

1				現表土
2				As-B混土
3	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
4	暗褐	微	○○	As-C 3%、4～6－ピット関連土
5	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄褐ブロックφ5mm 3%
6	にぶい黄褐	微	◎○	黄褐ブロック 30%
7	暗褐	微	△○	As-C・Hr-FP 2%
8	暗褐	微	△○	As-C・Hr-FP 5%、7より黒色味
9	暗褐	細	○△	砂質土、As-C・Hr-FP 3%（砂利層）
10	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%
11	暗褐	細	○△	砂質、As-C・Hr-FP 3%、砂利層
12	黒褐	微	○○	シルト、As-C・Hr-FP 1%
13	にぶい黄褐	微	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄褐ブロックφ5mm 2%
14	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 2%、砂利層
15	暗褐	微	○○	シルト、As-C・Hr-FP 1%、黄褐ブロックφ5～10mm 5%
16	褐	微	△○	黄褐粒 20%
17	黒褐	微	◎○	砂＋シルト混土

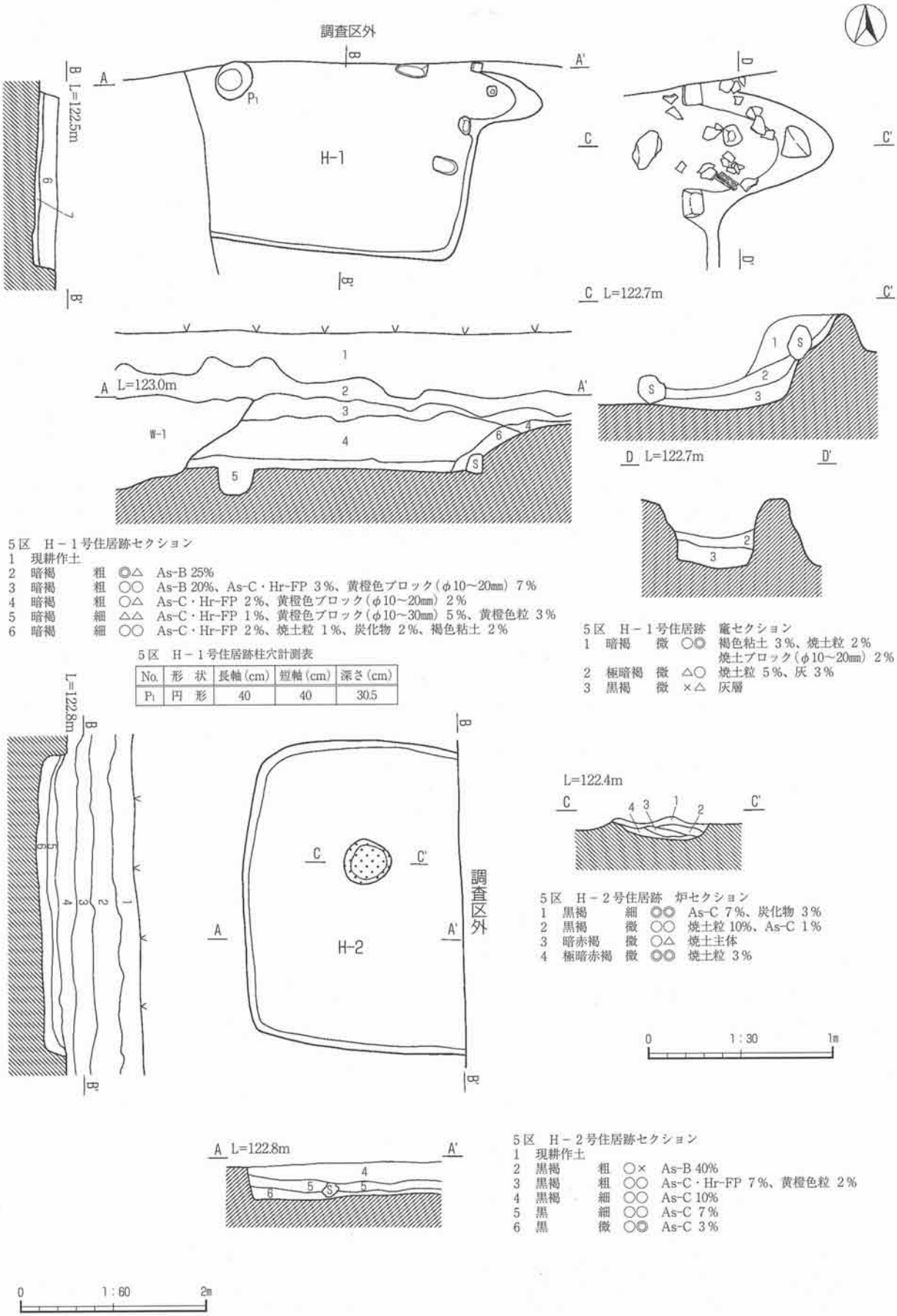
3区 W－4号溝跡セクション

1				現表土
2				As-B混土
3	褐	微	○○	褐色シルト粒 20%、As-C・Hr-FP 3%
4	暗褐	微	○○	褐色シルト粒・ブロックφ5～10mm 10%、As-C・Hr-FP 2%

3区 W－5号溝跡セクション

1				As-B混土
2	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 10%、黄褐粒・ブロック 3%
3	暗褐	微	○○	粘質土、As-C・Hr-FP 5%、黄褐粒 2%、橙粒 2%

Fig.30　3区 W－1・2・4・5号溝跡



5区　H－1号住居跡セクション
1　現耕作土
2　暗褐　粗　◎△　As-B 25%
3　暗褐　粗　○○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）7%
4　暗褐　粗　○△　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ10～20mm）2%
5　暗褐　細　△△　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック（φ10～30mm）5%、黄橙色粒 3%
6　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒 1%、炭化物 2%、褐色粘土 2%

5区　H－1号住居跡柱穴計測表

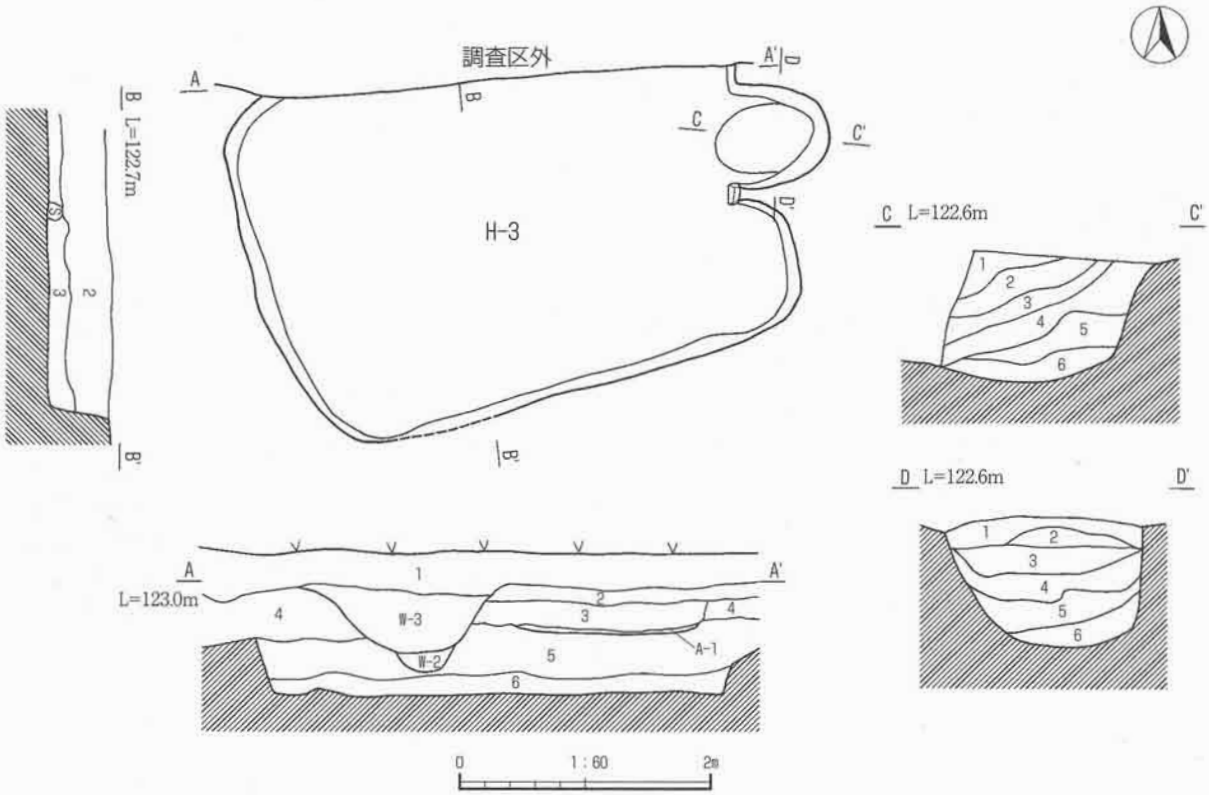
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円　形	40	40	30.5

5区　H－1号住居跡　竈セクション
1　暗褐　微　○◎　褐色粘土 3%、焼土粒 2%
　　焼土ブロック（φ10～20mm）2%
2　極暗褐　微　△○　焼土粒 5%、灰 3%
3　黒褐　微　×△　灰層

5区　H－2号住居跡　炉セクション
1　黒褐　細　◎◎　As-C 7%、炭化物 3%
2　黒褐　微　○○　焼土粒 10%、As-C 1%
3　暗赤褐　微　○△　焼土主体
4　極暗赤褐　微　◎◎　焼土粒 3%

5区　H－2号住居跡セクション
1　現耕作土
2　黒褐　粗　○×　As-B 40%
3　黒褐　粗　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 2%
4　黒褐　細　○○　As-C 10%
5　黒　細　○○　As-C 7%
6　黒　微　○◎　As-C 3%

Fig.31　5区 H－1・2号住居跡

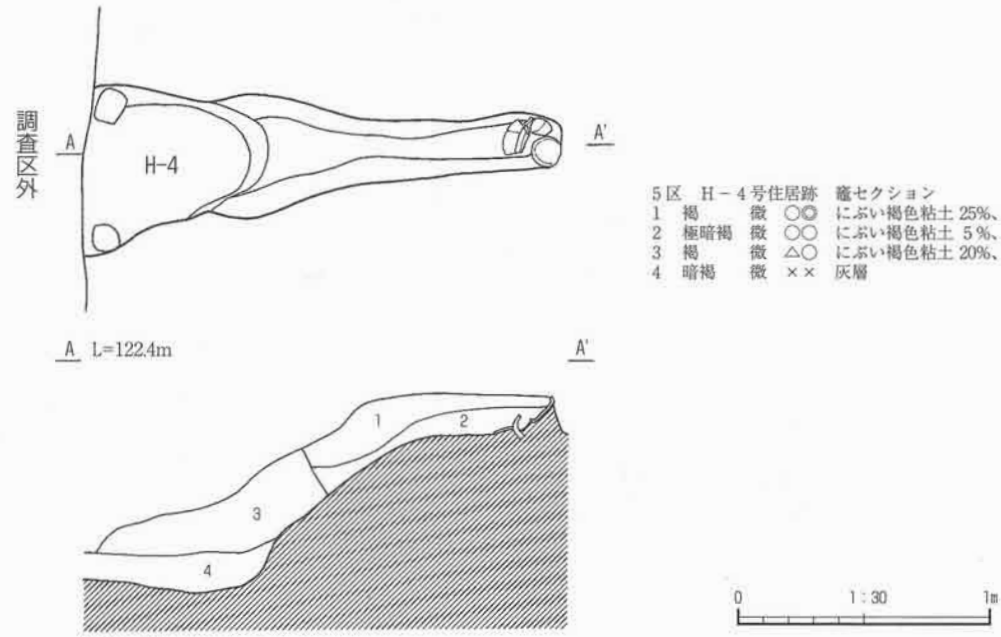


5区　H－3号住居跡セクション

1	黒褐	粗	○△	As-B 30%
2	極暗褐	粗	◎△	酸化鉄 2%、流水の痕跡あり
3	黒褐	粗	◎△	酸化鉄 2%、流水の痕跡あり
4	黒褐	粗	○◎	As-C・Hr-FP 3%、As-B 7%
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、にぶい黄褐色粒 1%、炭化物 1%
6	黒褐	微	◎◎	As-C・Hr-FP 2%、にぶい黄褐色粒 3%、炭化物 1%

5区　H－3号住居跡　竈セクション

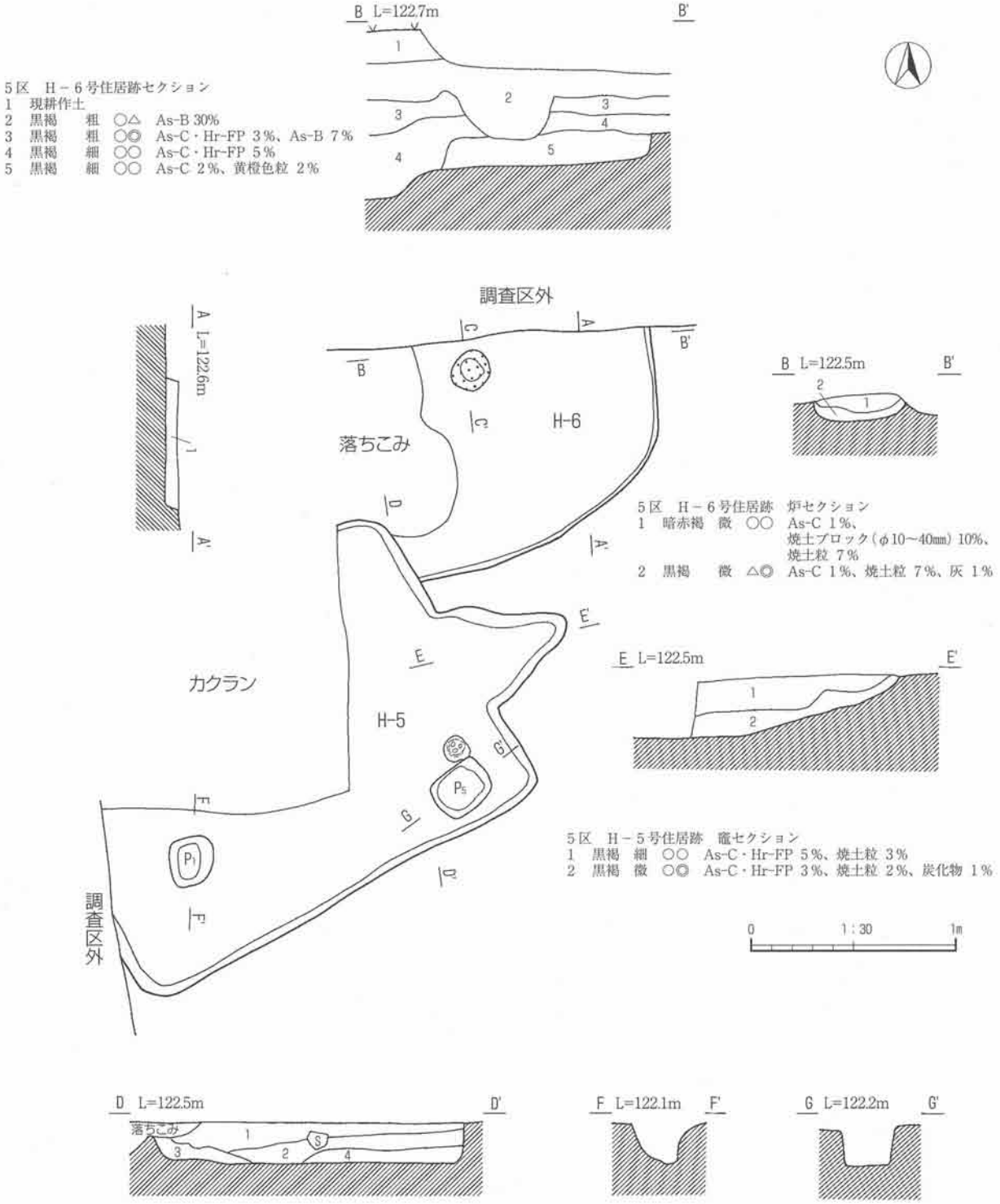
1	極暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 1%
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 2%、炭化物 2%、焼土粒 2%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、浅黄橙色粘土 5%、焼土粒 2%
4	黒褐	細	○○	焼土ブロック（φ10～50mm）7%、浅黄橙色粘土 1%
5	黒褐	微	○◎	焼土粒 3%、炭化物 1%
6	黒褐	微	△△	灰層



5区　H－4号住居跡　竈セクション

1	褐	微	○◎	にぶい褐色粘土 25%、焼土粒 2%、灰 3%
2	極暗褐	微	○○	にぶい褐色粘土 5%、焼土粒 2%、灰 5%
3	褐	微	△○	にぶい褐色粘土 20%、焼土粒 5%
4	暗褐	微	××	灰層

Fig.32　5区 H－3・4号住居跡



5区　H－6号住居跡セクション
1　現耕作土
2　黒褐　粗　○△　As-B 30%
3　黒褐　粗　○◎　As-C・Hr-FP 3%、As-B 7%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%
5　黒褐　細　○○　As-C 2%、黄橙色粒 2%

5区　H－6号住居跡　炉セクション
1　暗赤褐　微　○○　As-C 1%、焼土ブロック（φ10～40mm）10%、焼土粒 7%
2　黒褐　微　△◎　As-C 1%、焼土粒 7%、灰 1%

5区　H－5号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒 3%
2　黒褐　微　○◎　As-C・Hr-FP 3%、焼土粒 2%、炭化物 1%

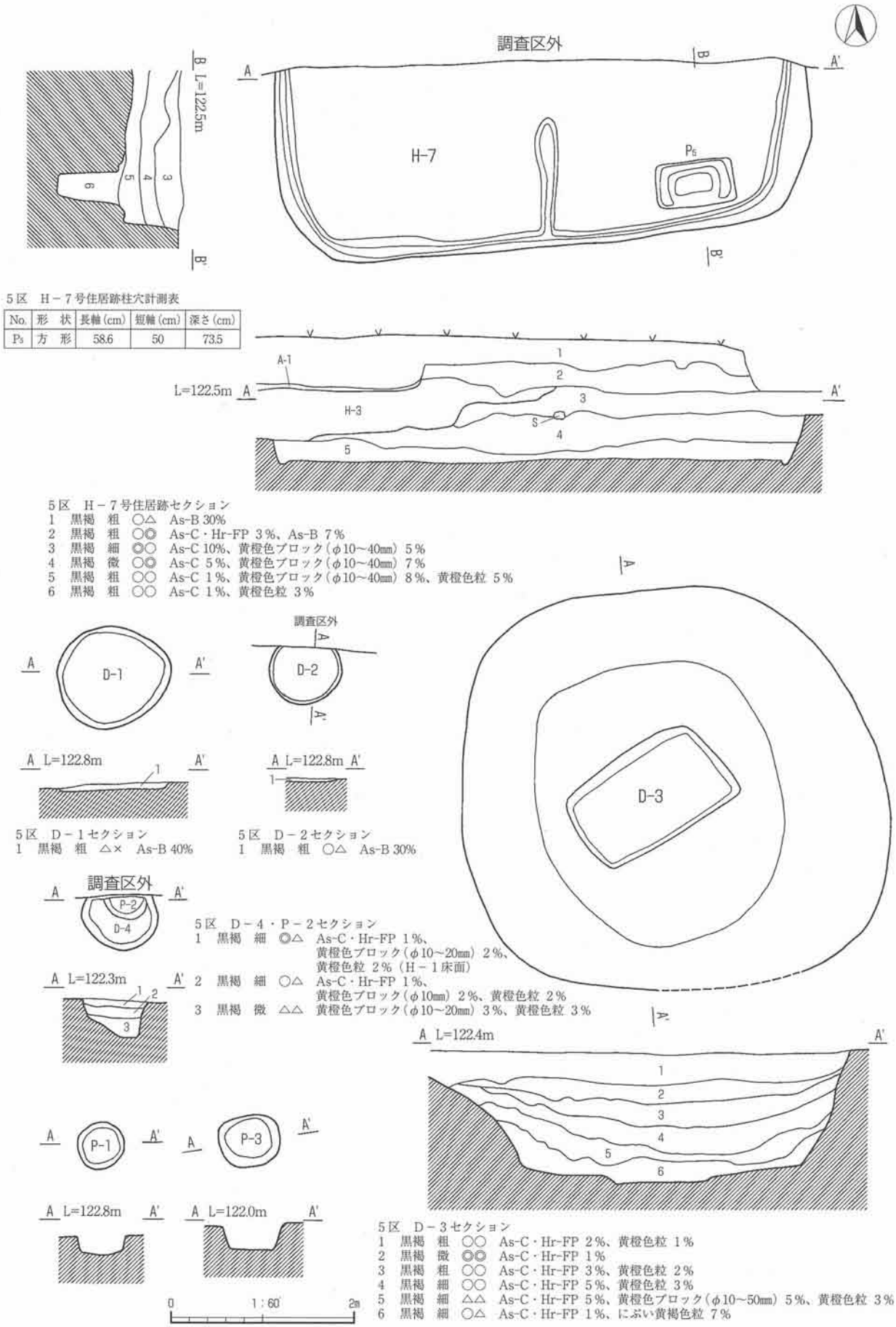
5区　H－5号住居跡　南北ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒 3%、黄橙色粒 2%
2　黒褐　細　○◎　As-C・Hr-FP 3%、焼土粒 3%、黄橙色粒 3%、焼土粒 1%
3　暗褐　微　△◎　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 5%、焼土粒 2%
4　暗褐　微　○○　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック（φ10～50mm）7%、黄橙色粒 5%

5区　H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）
P_1	円　形	56	43	35
P_5	方　形	58	46	38.5

0　1:60　2m

Fig.33　5区 H－5・6号住居跡



5区　H－7号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	方　形	58.6	50	73.5

5区　H－7号住居跡セクション
1　黒褐　粗　○△　As-B 30%
2　黒褐　粗　○◎　As-C・Hr-FP 3%、As-B 7%
3　黒褐　細　◎○　As-C 10%、黄橙色ブロック(φ10～40mm) 5%
4　黒褐　微　○◎　As-C 5%、黄橙色ブロック(φ10～40mm) 7%
5　黒褐　粗　○○　As-C 1%、黄橙色ブロック(φ10～40mm) 8%、黄橙色粒 5%
6　黒褐　粗　○○　As-C 1%、黄橙色粒 3%

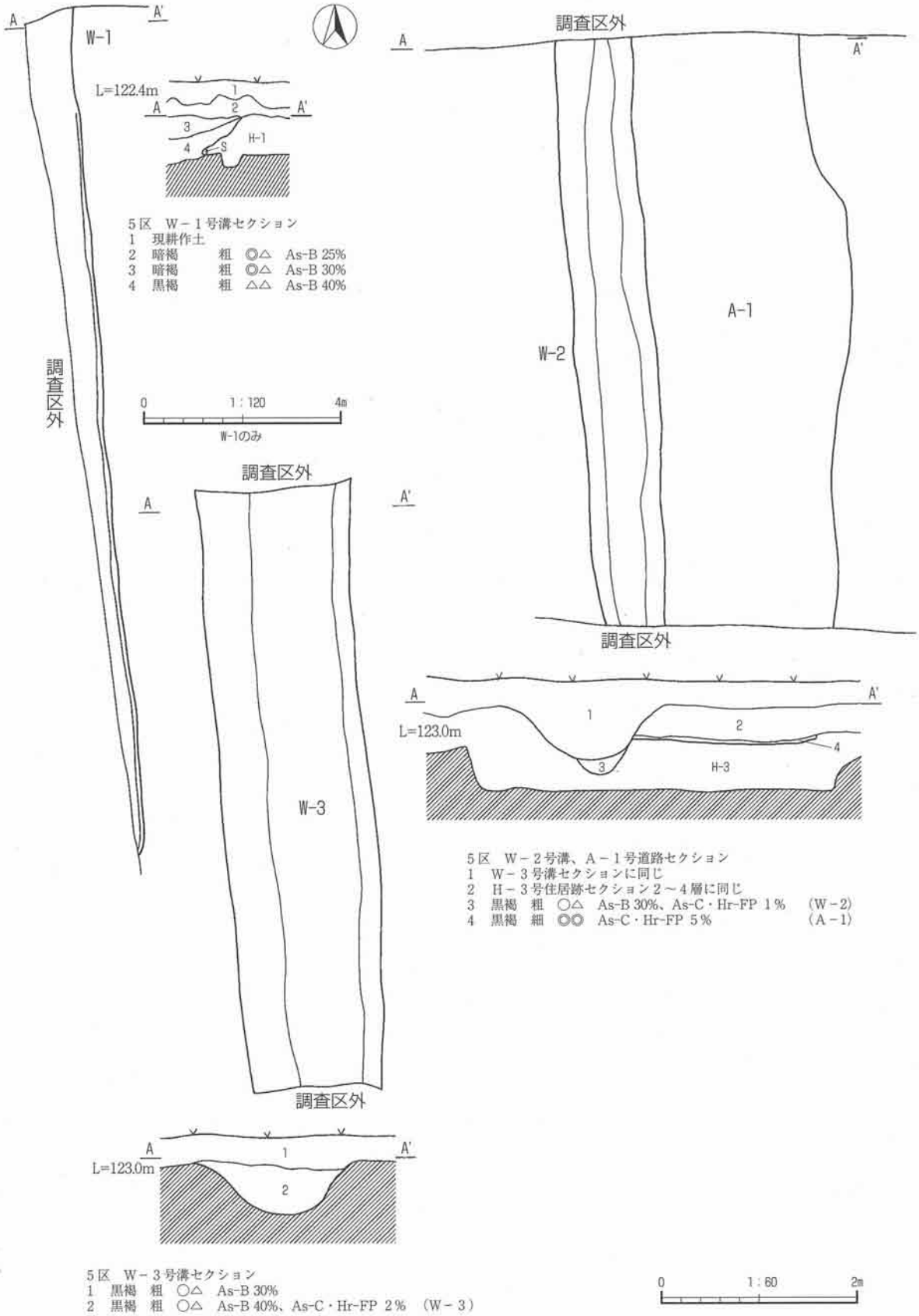
5区　D－1セクション
1　黒褐　粗　△×　As-B 40%

5区　D－2セクション
1　黒褐　粗　○△　As-B 30%

5区　D－4・P－2セクション
1　黒褐　細　◎△　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック(φ10～20mm) 2%、黄橙色粒 2%(H－1床面)
2　黒褐　細　○△　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック(φ10mm) 2%、黄橙色粒 2%
3　黒褐　微　△△　黄橙色ブロック(φ10～20mm) 3%、黄橙色粒 3%

5区　D－3セクション
1　黒褐　粗　○○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 1%
2　黒褐　微　◎◎　As-C・Hr-FP 1%
3　黒褐　粗　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 2%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 3%
5　黒褐　細　△△　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック(φ10～50mm) 5%、黄橙色粒 3%
6　黒褐　細　○△　As-C・Hr-FP 1%、にぶい黄褐色粒 7%

Fig.34　5区 H－7号住居跡、D－1～4号土坑、P－1～3号ピット



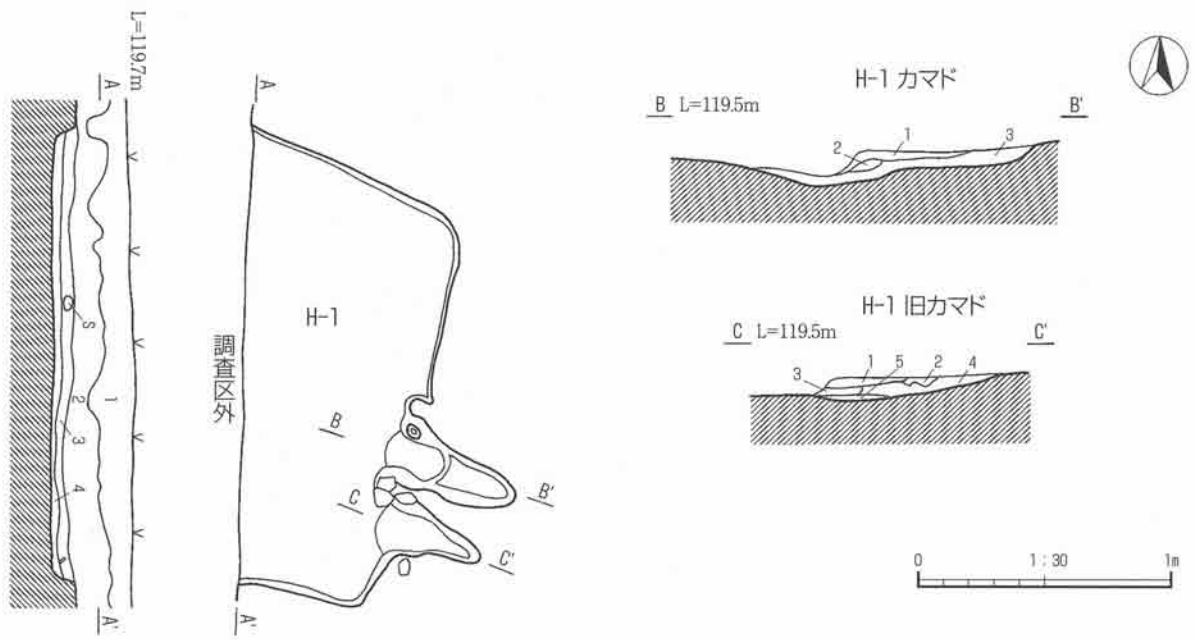
5区　W－1号溝セクション
1　現耕作土
2　暗褐　　粗　◎△　As-B 25%
3　暗褐　　粗　◎△　As-B 30%
4　黒褐　　粗　△△　As-B 40%

5区　W－2号溝、A－1号道路セクション
1　W－3号溝セクションに同じ
2　H－3号住居跡セクション2～4層に同じ
3　黒褐　粗　○△　As-B 30%、As-C・Hr-FP 1%　(W－2)
4　黒褐　細　◎◎　As-C・Hr-FP 5%　(A－1)

5区　W－3号溝セクション
1　黒褐　粗　○△　As-B 30%
2　黒褐　粗　○△　As-B 40%、As-C・Hr-FP 2%　(W－3)

0　1：60　2m

Fig.35　5区 W－1～3号溝跡、A－1号道路跡



6区　H－1号住居跡　南北壁セクション

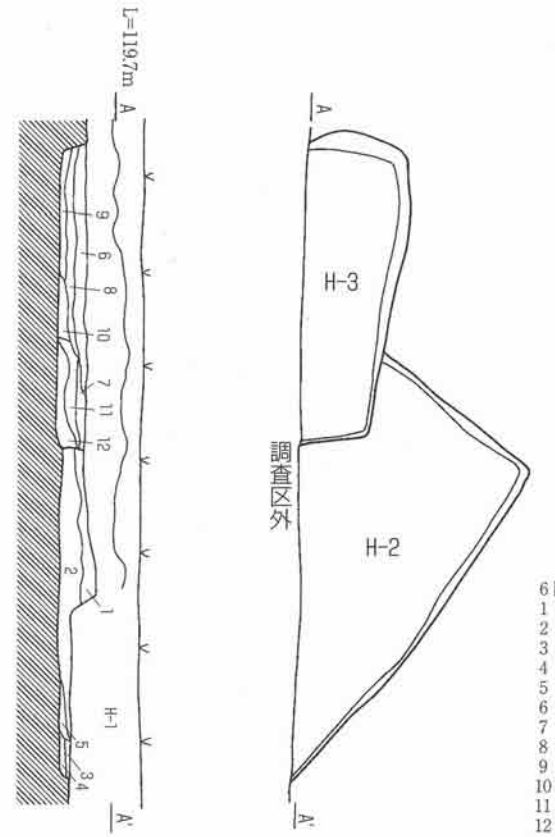
1	表土			
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 10%、炭化物 5%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 1%
4	黒褐	細	○○	黄橙色粒 1%

6区　H－1号住居跡　竈セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%、焼土粒 2%
2	褐	微	△○	焼土ブロック主体
3	暗褐	微	○○	焼土粒 10%、やや灰混じる

6区　H－1号住居跡　旧竈セクション

1	褐	細	○○	焼土粒 10%
2	にぶい赤褐	微	△○	焼土ブロック（φ5mm）10%
3	暗褐	微	△○	焼土粒 20%
4	にぶい褐	微	○○	焼土粒 10%
5	明赤褐	微	△○	灰層

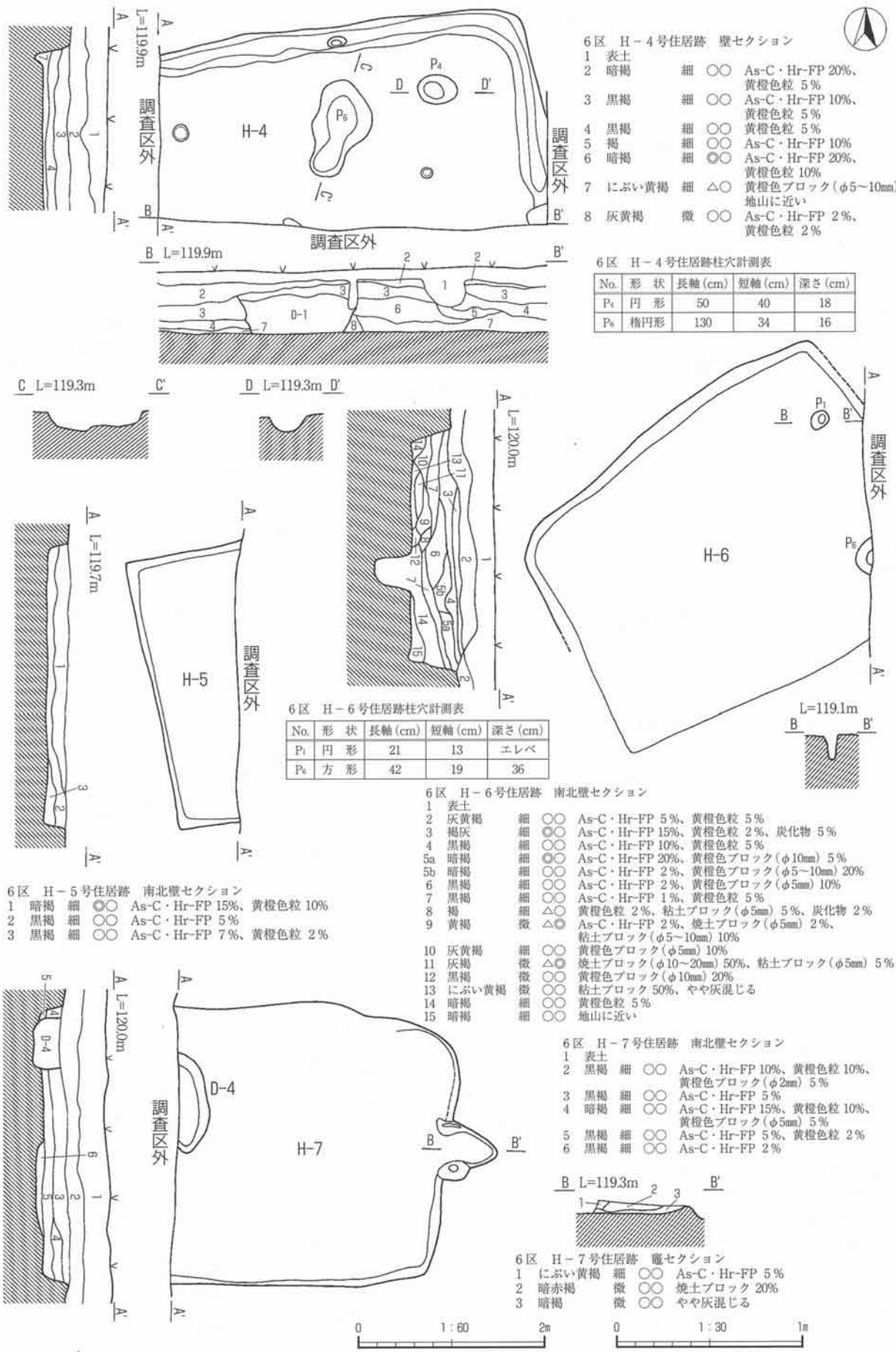


6区　H－2・3号住居跡　南北壁セクション

1	黒褐	細	△○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、炭化物 2%	（H－2）
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%	（H－2）
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 2%	（H－2）
4	黒褐	微	○○	焼土ブロック 5%、炭化物 5%	（H－2の竈の残骸か）
5	暗褐	細	○○	黄橙色粒 5%	（H－2）
6	黒褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 20%、灰が底部に混じる、焼土粒 5%	（H－3）
7	黒褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%	（H－3）
8	暗赤褐	微	△○	中央から南に焼土ブロック有	（H－3）
9	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%	（H－3）
10	黒褐	微	○○	焼土ブロック 10%、やや灰混じる	（H－3）
11	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%	（H－3）
12	褐	細	○○	地山に近い	（H－3）

0　1:60　2m

Fig.36　6区 H－1～3号住居跡



6区　H－4号住居跡　壁セクション

1	表土			
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 5%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%
4	黒褐	細	○○	黄橙色粒 5%
5	褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%
6	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 10%
7	にぶい黄褐	細	△○	黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%、地山に近い
8	灰黄褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 2%

6区　H－4号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P_4	円　形	50	40	18
P_6	楕円形	130	34	16

6区　H－6号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P_1	円　形	21	13	エレベ
P_6	方　形	42	19	36

6区　H－6号住居跡　南北壁セクション

1	表土			
2	灰黄褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%
3	褐灰	細	◎○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 2%、炭化物 5%
4	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%
5a	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色ブロック（φ10mm）5%
5b	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）20%
6	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ5mm）10%
7	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 5%
8	褐	細	△○	黄橙色粒 2%、粘土ブロック（φ5mm）5%、炭化物 2%
9	黄褐	微	△◎	As-C・Hr-FP 2%、焼土ブロック（φ5mm）2%、粘土ブロック（φ5～10mm）10%
10	灰黄褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）10%
11	灰褐	微	△◎	焼土ブロック（φ10～20mm）50%、粘土ブロック（φ5mm）5%
12	黒褐	微	○○	黄橙色ブロック（φ10mm）20%
13	にぶい黄褐	微	○○	粘土ブロック 50%、やや灰混じる
14	暗褐	細	○○	黄橙色粒 5%
15	暗褐	細	○○	地山に近い

6区　H－5号住居跡　南北壁セクション

1	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 10%
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 2%

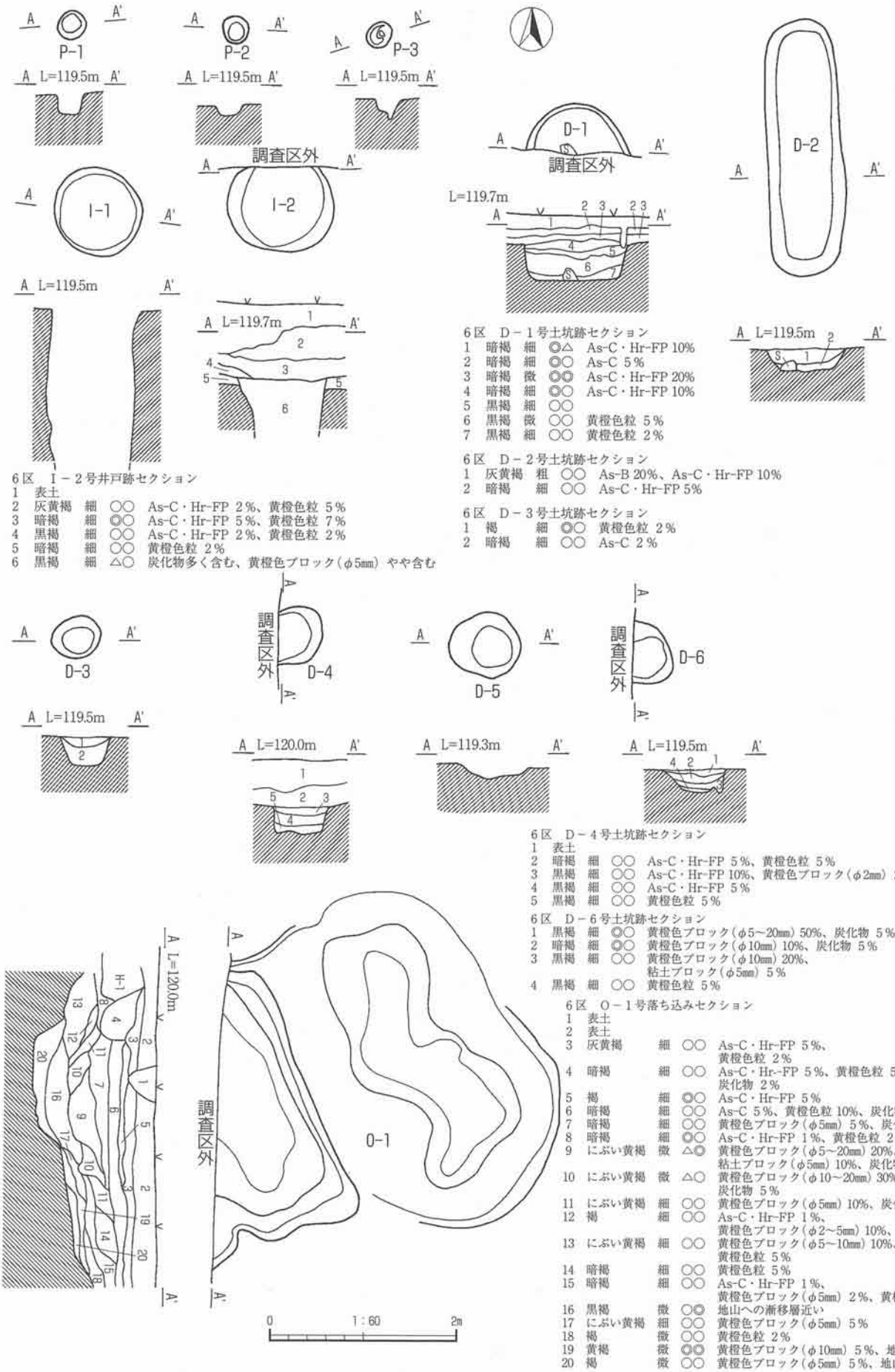
6区　H－7号住居跡　南北壁セクション

1	表土			
2	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 10%、黄橙色ブロック（φ2mm）5%
3	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）5%
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%
6	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%

6区　H－7号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
2	暗赤褐	微	○○	焼土ブロック 20%
3	暗褐	微	○○	やや灰混じる

Fig.37　6区 H－4～7号住居跡



6区　I－2号井戸跡セクション
1　表土
2　灰黄褐　細　○○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%
3　暗褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 7%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 2%
5　暗褐　細　○○　黄橙色粒 2%
6　黒褐　細　△○　炭化物多く含む、黄橙色ブロック（φ5mm）やや含む

6区　D－1号土坑跡セクション
1　暗褐　細　◎△　As-C・Hr-FP 10%
2　暗褐　細　◎○　As-C 5%
3　暗褐　微　◎◎　As-C・Hr-FP 20%
4　暗褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 10%
5　黒褐　細　○○
6　黒褐　微　○○　黄橙色粒 5%
7　黒褐　細　○○　黄橙色粒 2%

6区　D－2号土坑跡セクション
1　灰黄褐　粗　○○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 10%
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%

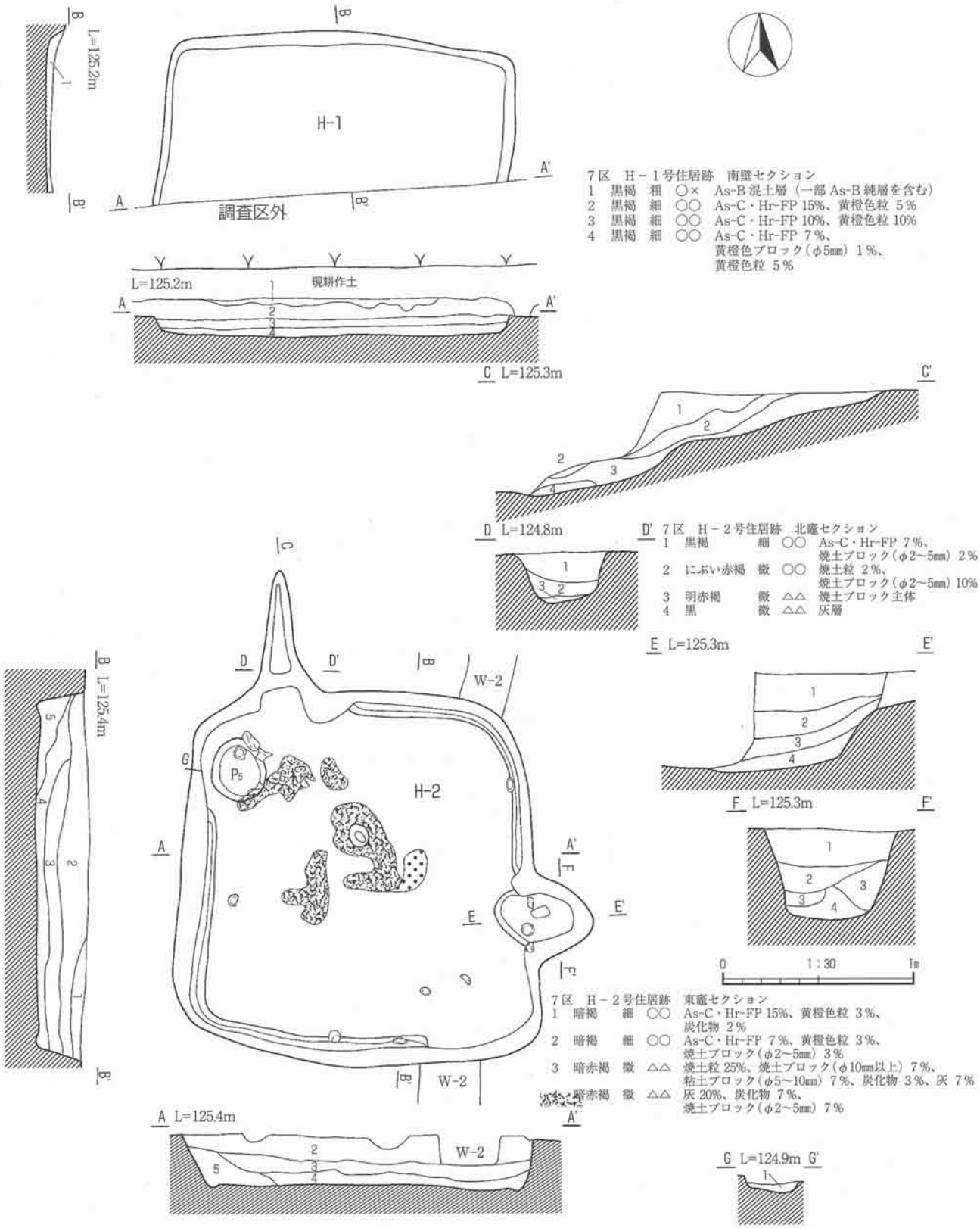
6区　D－3号土坑跡セクション
1　褐　細　◎○　黄橙色粒 2%
2　暗褐　細　○○　As-C 2%

6区　D－4号土坑跡セクション
1　表土
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ2mm）2%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%
5　黒褐　細　○○　黄橙色粒 5%

6区　D－6号土坑跡セクション
1　黒褐　細　◎○　黄橙色ブロック（φ5～20mm）50%、炭化物 5%
2　暗褐　細　◎○　黄橙色ブロック（φ10mm）10%、炭化物 5%
3　黒褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ10mm）20%、
　　粘土ブロック（φ5mm）5%
4　黒褐　細　○○　黄橙色粒 5%

6区　O－1号落ち込みセクション
1　表土
2　表土
3　灰黄褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、
　　黄橙色粒 2%
4　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%、
　　炭化物 2%
5　褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 5%
6　暗褐　細　○○　As-C 5%、黄橙色粒 10%、炭化物 5%
7　暗褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ5mm）5%、炭化物 2%
8　暗褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 2%
9　にぶい黄褐　微　△◎　黄橙色ブロック（φ5～20mm）20%、
　　粘土ブロック（φ5mm）10%、炭化物 10%
10　にぶい黄褐　微　△○　黄橙色ブロック（φ10～20mm）30%、
　　炭化物 5%
11　にぶい黄褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ5mm）10%、炭化物 2%
12　褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1%、
　　黄橙色ブロック（φ2～5mm）10%、炭化物 1%
13　にぶい黄褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%、
　　黄橙色粒 5%
14　暗褐　細　○○　黄橙色粒 5%
15　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1%、
　　黄橙色ブロック（φ5mm）2%、黄橙色粒 2%
16　黒褐　微　○◎　地山への漸移層近い
17　にぶい黄褐　細　○○　黄橙色ブロック（φ5mm）5%
18　褐　微　○○　黄橙色粒 2%
19　黄褐　微　◎◎　黄橙色ブロック（φ10mm）5%、地山に近い
20　褐　微　○○　黄橙色ブロック（φ5mm）5%、地山に近い

Fig.38　6区 D－1～6号土坑、P－1～3ピット、I－1・2井戸跡、O－1落ちこみ



7区　H－1号住居跡　南壁セクション
1　黒褐　粗　○×　As-B 混土層（一部 As-B 純層を含む）
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 5%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 10%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ5mm）1%、黄橙色粒 5%

7区　H－2号住居跡　北竈セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、焼土ブロック（φ2～5mm）2%
2　にぶい赤褐　微　○○　焼土粒 2%、焼土ブロック（φ2～5mm）10%
3　明赤褐　微　△△　焼土ブロック主体
4　黒　微　△△　灰層

7区　H－2号住居跡　東竈セクション
1　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 3%、炭化物 2%
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 3%、焼土ブロック（φ2～5mm）3%
3　暗赤褐　微　△△　焼土粒 25%、焼土ブロック（φ10mm以上）7%、粘土ブロック（φ5～10mm）7%、炭化物 3%、灰 7%
4　暗赤褐　微　△△　灰 20%、炭化物 7%、焼土ブロック（φ2～5mm）7%

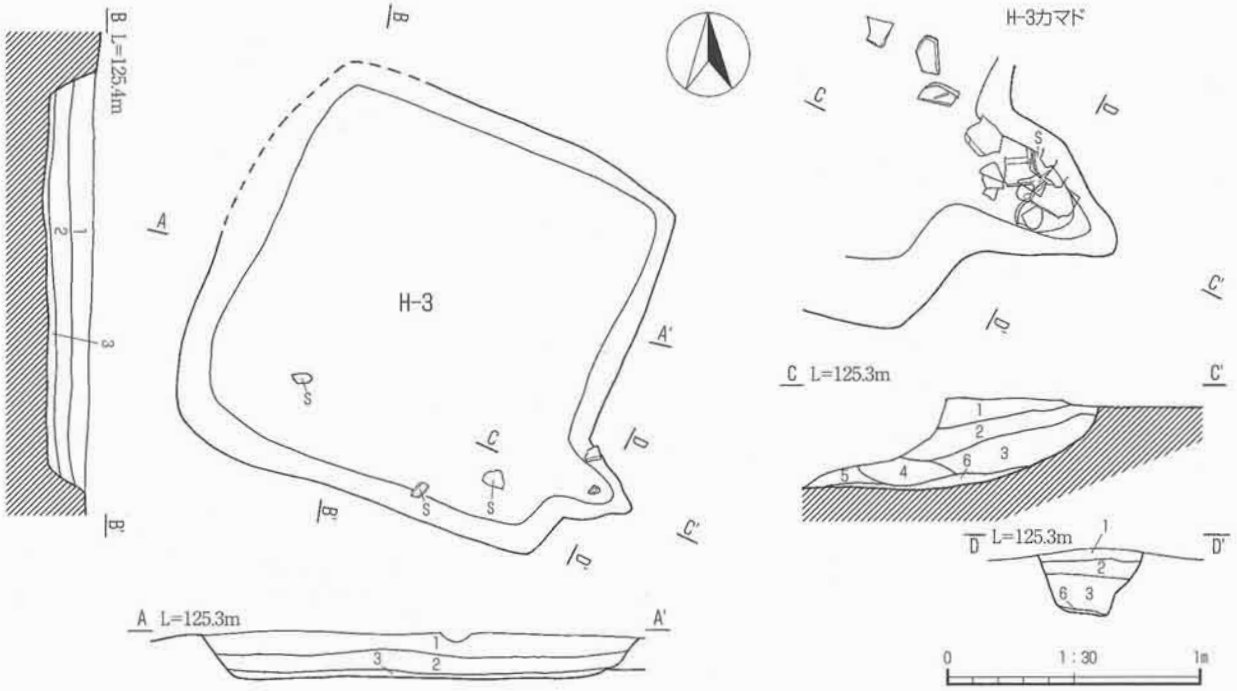
7区　H－2号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 25%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 3%、炭化物 1%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ10mm）5%、黄橙色粒 10%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）2%、焼土粒 1%、炭化物 1%、粘土ブロック（φ5～20mm）3%
5　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙粒 5%、炭化物 1%

7区　H－2号住居跡　P5セクション
1　黒褐　細　○○　焼土ブロック（φ5～10mm）3%、焼土粒 2%、炭化物 1%、灰 5%、黄橙色粒 10%、黄橙色ブロック（φ5～20mm）5%

7区　H－2号住居跡柱穴計測表

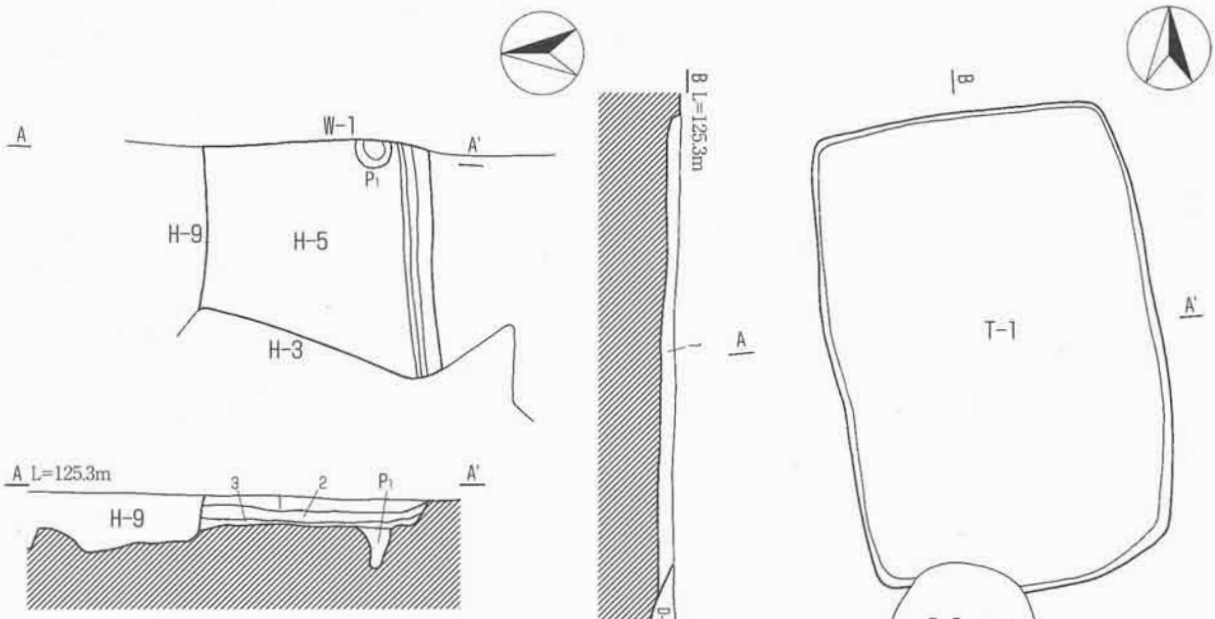
No.	形　状	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	備　考
P5	楕円形	65	56	16.0	貯蔵穴

Fig.39　7区 H－1・2号住居跡



7区　H－3号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 25%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック（φ1mm以下）、炭化物
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 3%、炭化物
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 5%

7区　H－3号住居跡　竈セクション
1　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 20%、煙道部に焼土粒 2%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、煙道部に焼土粒 15%、粘土ブロック（φ2～5mm）
3　暗褐　細　○○　焼土ブロック（φ5～10mm）5%、焼土粒 30%、粘土粒 7%、煙道部に粘土ブロック（φ5～10mm）20%、炭化物
4　黒褐　細　○○　灰の混じった土、焼土粒 10%、炭化物
5　黒褐　細　○○　焼土粒 40%、As-C・Hr-FP 5%
6　黒　微　△△　灰層



7区　H－5号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○△　As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 1%、焼土ブロック（φ1～2mm）3%、炭化物 1%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 3%、焼土ブロック（φ1～2mm）2%
3　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ5mm以上）1%、黄橙色粒 5%、焼土粒 1%

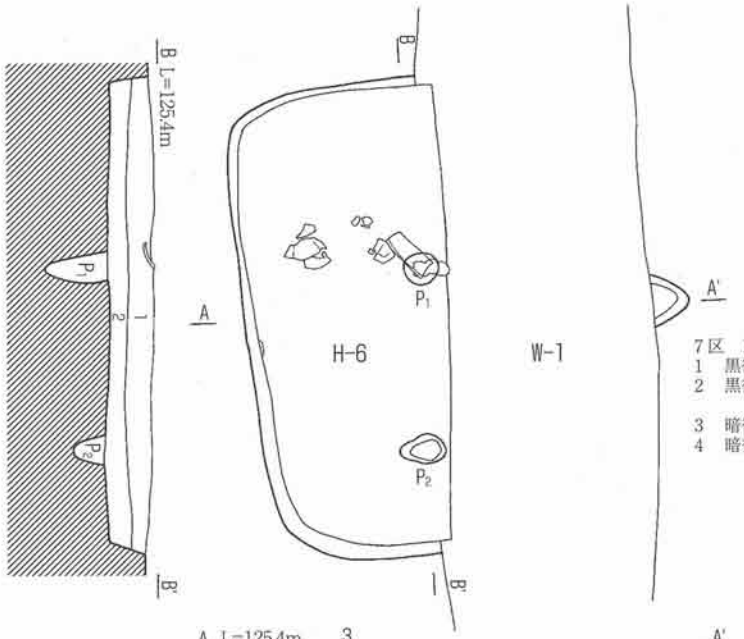
7区　H－5号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円　形	29	26	41.0

7区　T－1号　ベルトセクション
1　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP10%、黄橙色ブロック（φ10mm以上）3%、炭化物 1%

0 1:60 2m

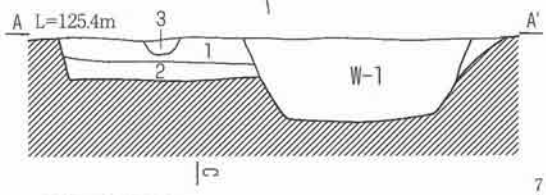
Fig.40　7区 H－3・5号住居跡、T－1号竪穴状遺構

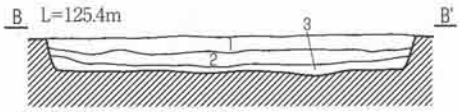


7区　H－6号住居跡柱穴計測表

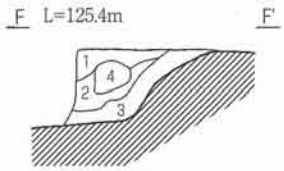
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P_1	円　形	28	24	48.0
P_2	楕円形	36	20	24.5

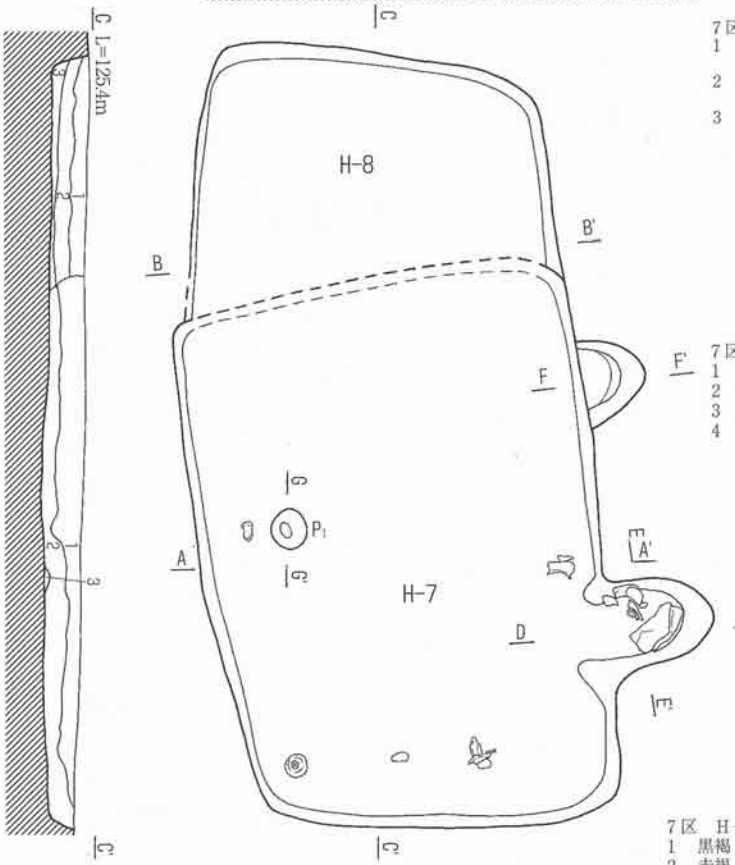
7区　H－6号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 1%、焼土粒 1%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 20%、C黒ブロック(φ10mm以上) 10%、焼土 7%、黄橙色粒 1%
3　暗褐　粗　○×　As-B 30%、(耕作痕)
4　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック(φ1～2mm) 1%、焼土ブロック(φ1～2mm) 2%、焼土粒 2%



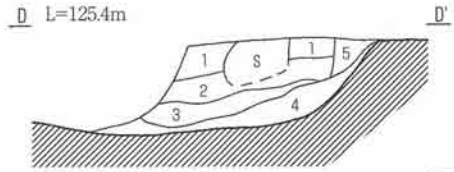


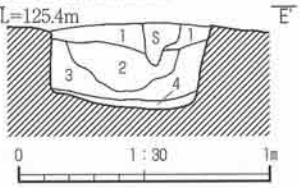
7区　H－8号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック(φ5～10mm) 2%、炭化物 1%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 3%、黄橙色ブロック(φ2～5mm) 1%、炭化物 1%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック(φ1mm) 1%、C黒 1%





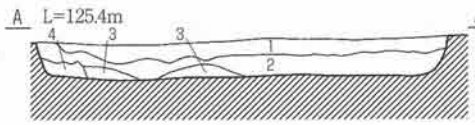
7区　H－8号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1%
2　赤褐　細　○○　焼土ブロック(φ5～30mm) 5%、焼土粒 10%、灰 10%
3　にぶい赤褐　細　○○　焼土ブロック(φ5～10mm) 10%、焼土粒 30%、灰 3%
4　灰褐　細　○◎　焼土ブロック(φ5～10mm) 2%、白色粘土主体



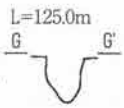


0　1:30　1m

7区　H－7号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%
2　赤褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、焼土粒 10%、粘土粒 1%
3　灰褐　細　△○　焼土ブロック(φ5～10mm) 5%、焼土粒 10%、灰 30%、粘土ブロック(φ5～20mm) 10%
4　にぶい赤褐　細　○○　焼土ブロック(φ5mm) 10%、焼土粒 10%
5　暗赤褐　細　○○　焼土ブロック(φ5～10mm) 10%、焼土粒 30%



7区　H－7号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック(φ2～5mm) 3%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 3%、黄橙色ブロック(φ2～10mm) 2%、C黒ブロックを含む
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック(φ2mm) 1%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 5%

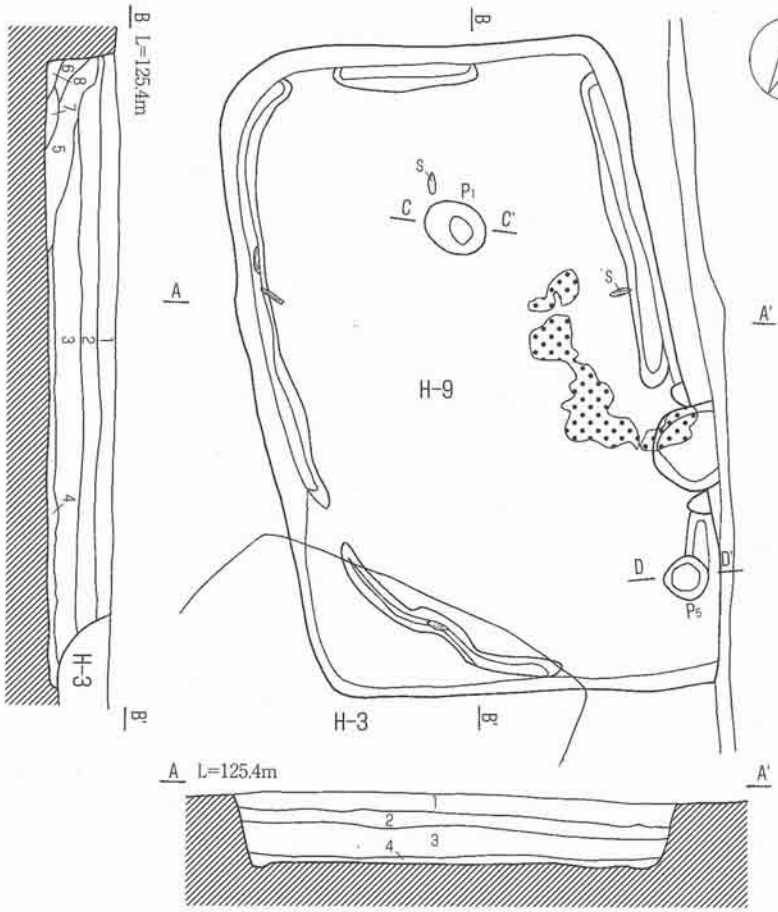


7区　H－7号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P_1	円　形	36	32	36.5

0　1:60　2m

Fig.41　7区 H－6・7・8号住居跡

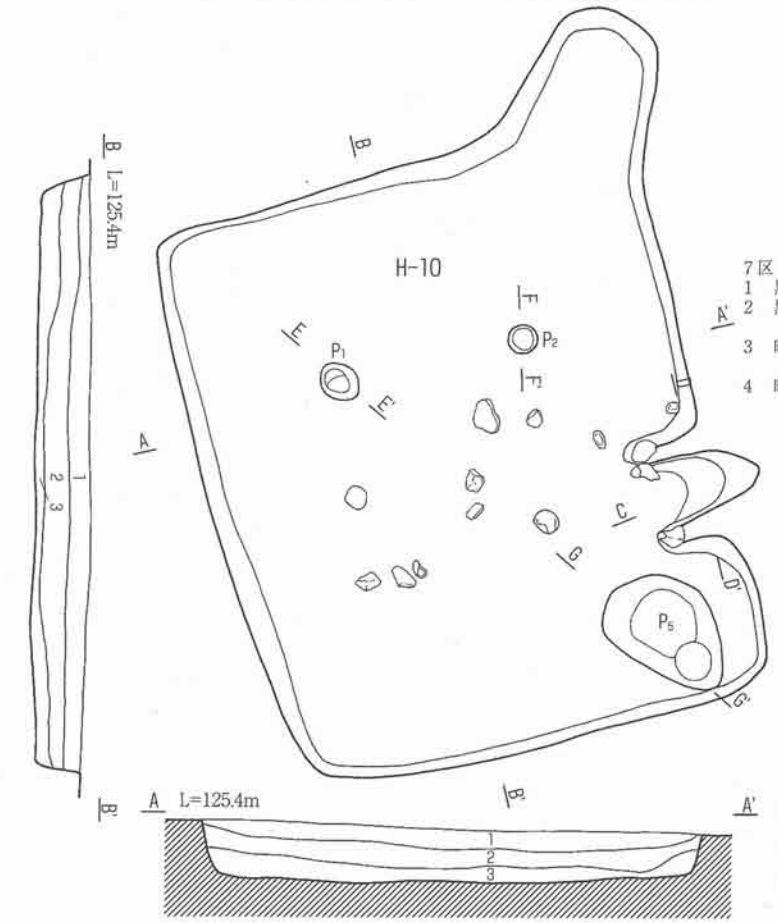


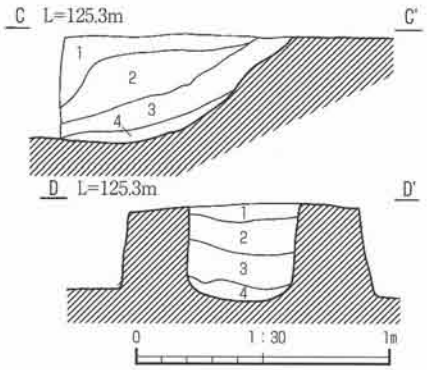
7区　H－9号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	楕円形	52	40	22.0	
P_5	円　形	36	34	21.5	貯蔵穴

7区　H－9号住居跡　ベルトセクション

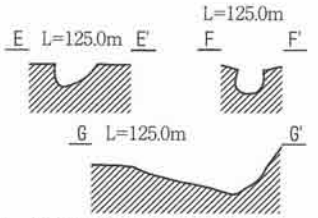
1　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 25%、黄橙色ブロック(φ1～2mm) 1%、炭化物 1%
2　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色ブロック(φ2～5mm) 2%、炭化物 1%、焼土ブロック(φ1～2mm) 2%
3　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック(φ5～10mm) 3%、焼土ブロック(φ5～10mm) 2%、焼土粒 5%、灰(東部分) 5%
4　暗褐　細　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 1%
5　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 2%、焼土ブロック(φ2～10mm) 3%、焼土粒 5%、炭化物 2%
6　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック(φ1～5mm) 2%、黄橙色粒 2%、焼土ブロック(φ1～10mm) 3%、灰 5%
7　黒褐　細　△○　焼土ブロック(φ1～5mm) 2%、灰 20%
8　暗褐　細　△○　As-C・Hr-FP 1%、焼土ブロック(φ1～2mm) 3%、焼土粒 5%、灰 3%





7区　H－10号住居跡　竈セクション

1　黒褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 25%、焼土粒 1%
2　黒褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 7%、焼土粒 5%、焼土ブロック(φ5～10mm) 10%、炭化物 1%
3　暗赤褐　微　○○　焼土粒 15%、焼土ブロック(φ5～10mm) 20%、粘土粒 10%
4　暗赤褐　微　○○　焼土粒 10%、焼土ブロック(φ5～10mm) 10%、粘土粒 10%、灰



7区　H－10号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備　考
P_1	楕円形	34	28	16.0	
P_2	円　形	22	22	21.5	
P_5	円　形	110	70	25.5	貯蔵穴

7区　H－10号住居跡　ベルトセクション

1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 25%、黄橙色粒 2%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 7%、黄橙色ブロック(φ1～2mm) 2%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 3%

0　1:60　2m

Fig.42　7区 H－9・10号住居跡

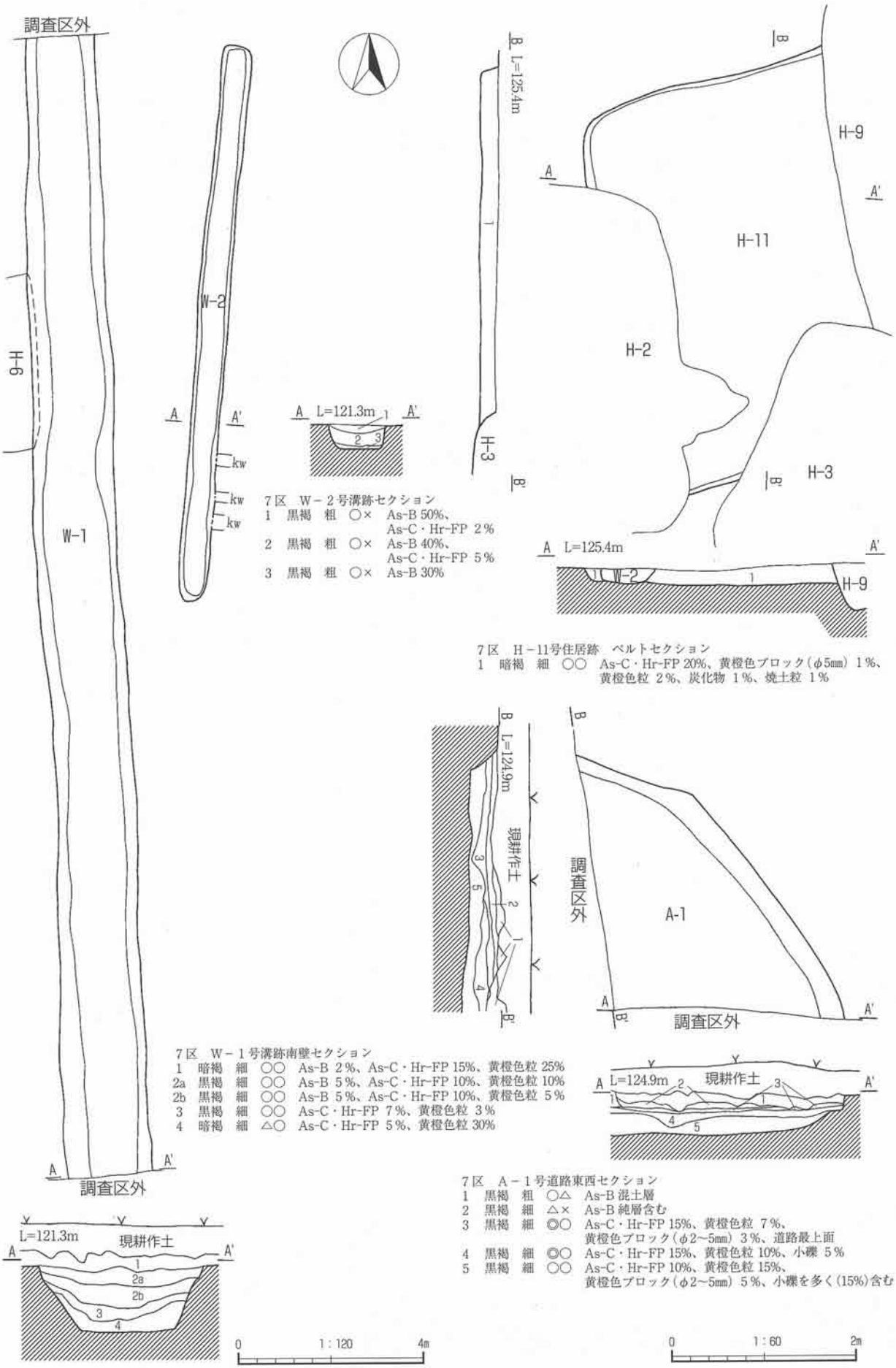


Fig.43　7区 H－11号住居跡、W－1・2号溝跡、A－1号道路跡

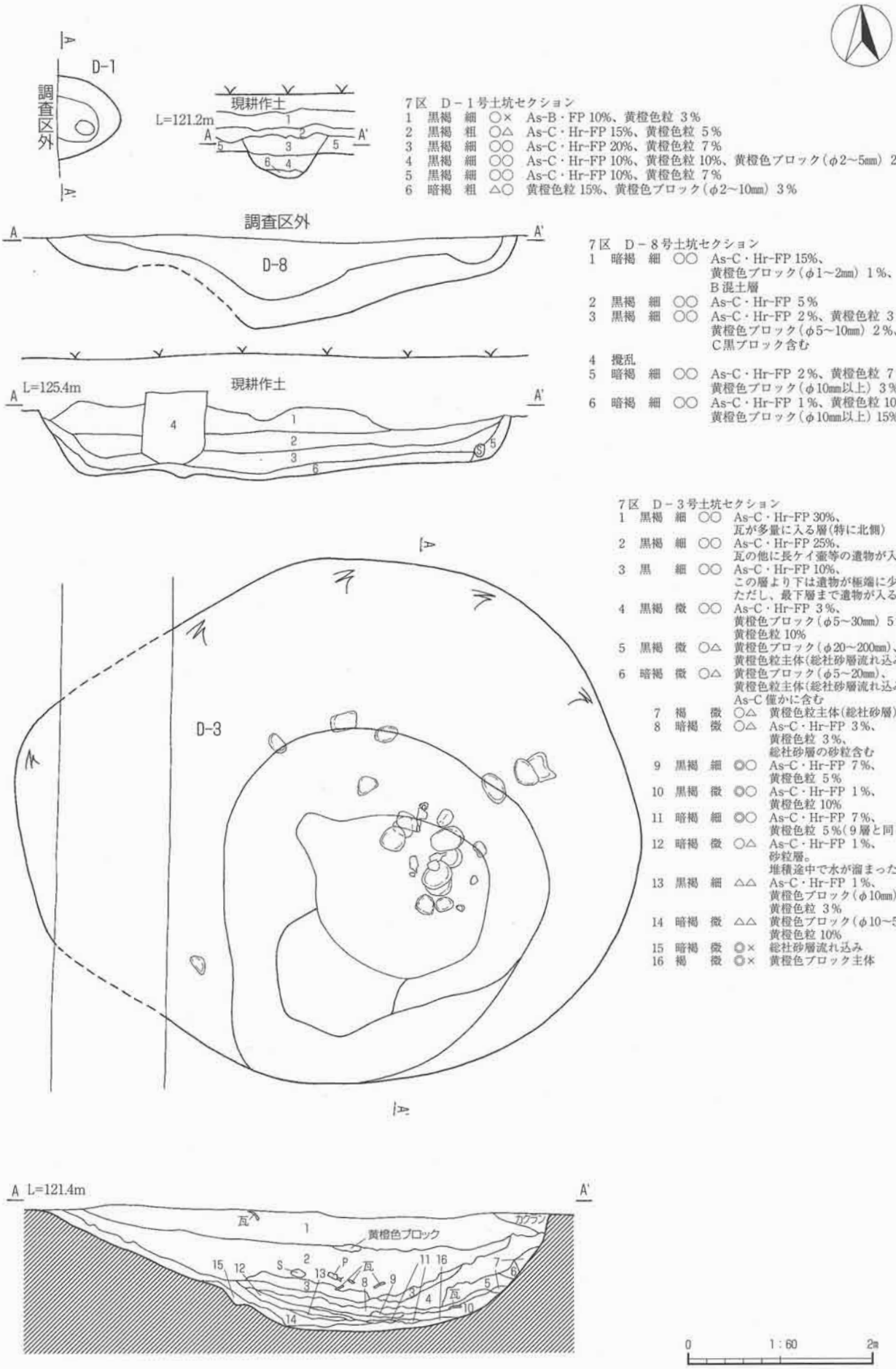
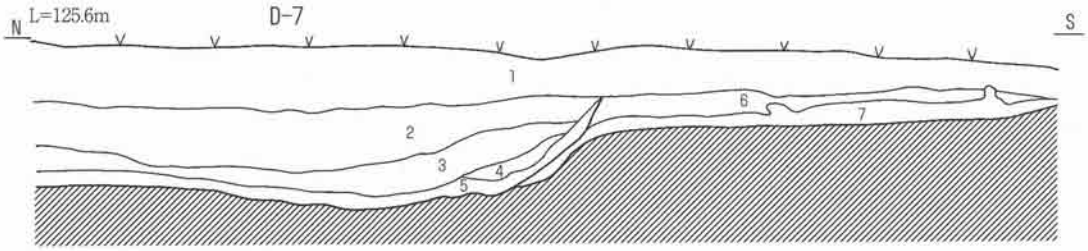
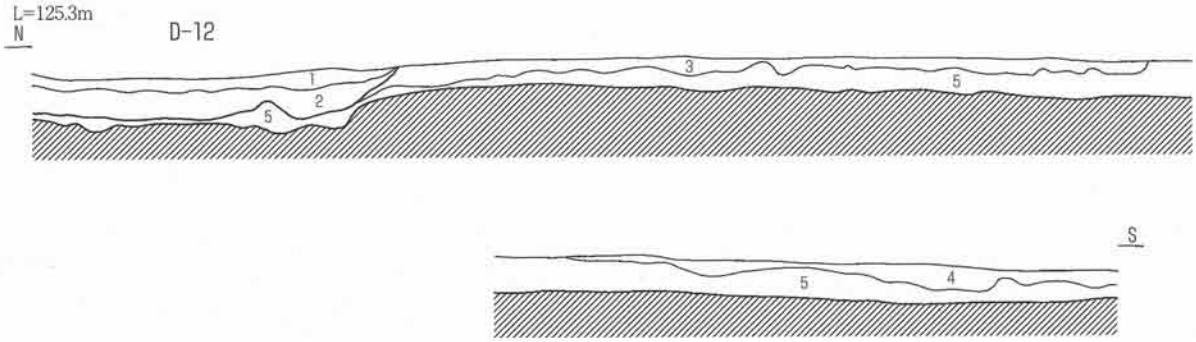


Fig.44　7区 D－1・3・8号土坑



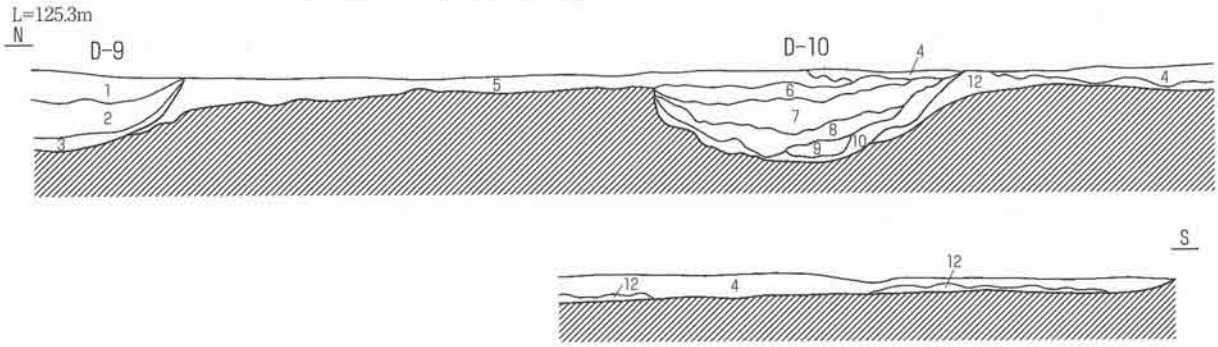
7区　H20－1トレンチ東壁セクション（D－7を含む）

1	現耕作土				
2	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 1%	(D－7)
3	黒褐	微	○○	黄橙色粒 5%	(D－7)
4	暗褐	微	○○	As-C 5%、黄橙色粒 1%	(D－7)
5	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ5mm）2%	(D－7)
6	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%	
7	褐	微	○○	地山に近い	



7区　H20－2トレンチ東壁セクション（D－12を含む）

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%　黄橙色粒 2%	(D－12)
2	暗褐	細	◎○	黄橙色粒 5%、黄橙色ブロック（φ5mm）2%	(D－12)
3	褐	微	◎○	黄橙色ブロック（φ5mm）5%	
4	にぶい黄褐	微	◎△	As-C・Hr-FP 5%、底部に鉄分凝集層、ただし北から16m以南は不鮮明	
5	黄褐	微	◎△	総社砂層	



7区　H20－3トレンチ東壁セクション（D－9・10を含む）

1	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 1%	(D－9)
2	暗褐	微	○○	黄橙色粒 2%	(D－9)
3	にぶい黄褐	微	◎○	黄橙色ブロック（φ5mm）5%	(D－9)
4	黒褐	微	◎○	底部に鉄分凝集層あり	
5	黒褐	微	○○	As-C 5%	
6	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 5%	(D－10)
7	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%	(D－10)
8	黒褐	微	○○	黄橙色粒 2%	(D－10)
9	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%　黄橙色粒 2%	(D－10)
10	にぶい黄褐	微	○◎	黄橙色ブロック（φ5mm）2%	(D－10)
11	褐	微	◎○	底部に鉄分凝集層あり	
12	褐	微	○○	総社砂層	

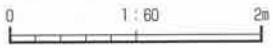
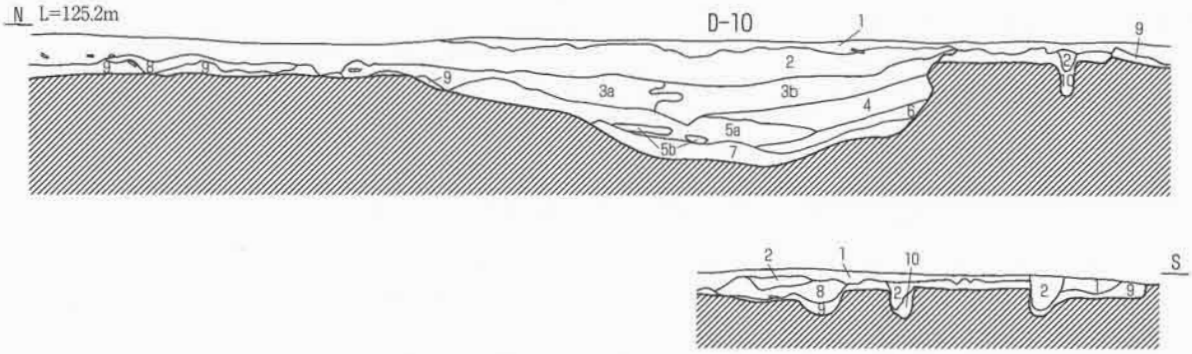
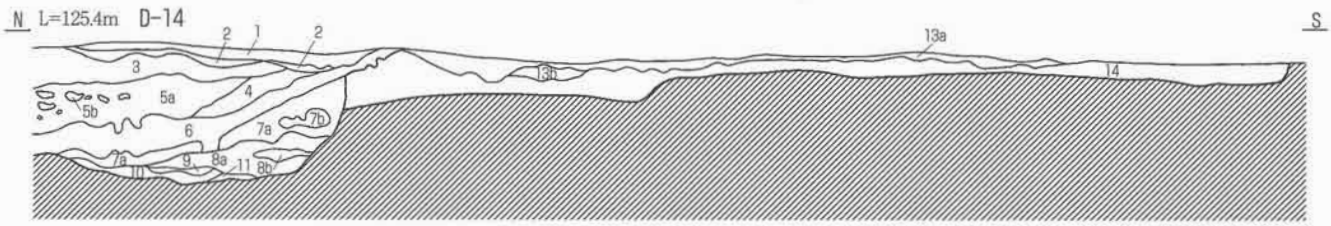


Fig.45　H20－7区 1・2・3トレンチ断面図



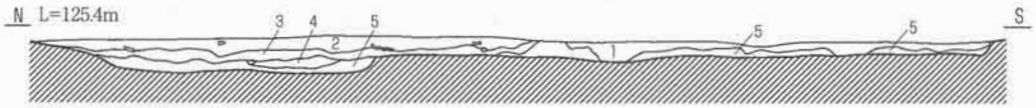
7区　H12－2トレンチ東壁セクション（D－10を含む）

1	暗褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 20%、底部に鉄分凝集層あり、北から5.5～6.5m付近で瓦を含む	
2	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 5%	
3a	灰黄褐	微	○○	黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%	（D－10）
3b	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 5％	（D－10）
4	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2％	（D－10）
5a	にぶい黄褐	微	○○	As-C・Hr-FP 1％、黄橙色ブロック（φ2mm）5％	（D－10）
5b	褐	微	○◎		（D－10）
6	黒褐	微	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）2％	（D－10）
7	褐	微	○△	地山に近い	（D－10）
8	にぶい黄褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ2～5mm）5％	
9	暗褐	細	○○		
10	褐	微	○○	総社砂層	



7区　H20－4トレンチ東壁セクション（D－14を含む）

1	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 20%、底部に鉄分凝集層あり	
2	褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 5％	（D－14）
3	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 10%	（D－14）
4	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 7％	（D－14）
5a	暗褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 2％	（D－14）
5b	暗褐	微	○○	川砂がやや混じる	（D－14）
6	黒褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色粒 1％	（D－14）
7a	にぶい黄褐	微	○○	地山の流れ込みか	（D－14）
7b	暗褐	細	○○	黄橙色粒 1％	（D－14）
8a	黒褐	微	◎○	黄橙色粒 1％	（D－14）
8b	暗褐	微	◎○	南側でやや地山が混じる	（D－14）
9	暗褐	細	○○		（D－14）
10	黒褐	細	○○		（D－14）
11	黒褐	微	◎○	黄橙色ブロック（φ5～10mm）5％	（D－14）
12	褐	微	○△	地山に近い	（D－14）
13a	暗褐	微	◎○	層底部に鉄分凝集層あり	
13b	暗褐	微	◎○	黄橙色粒 5％	
14	褐	微	○△	総社砂層	

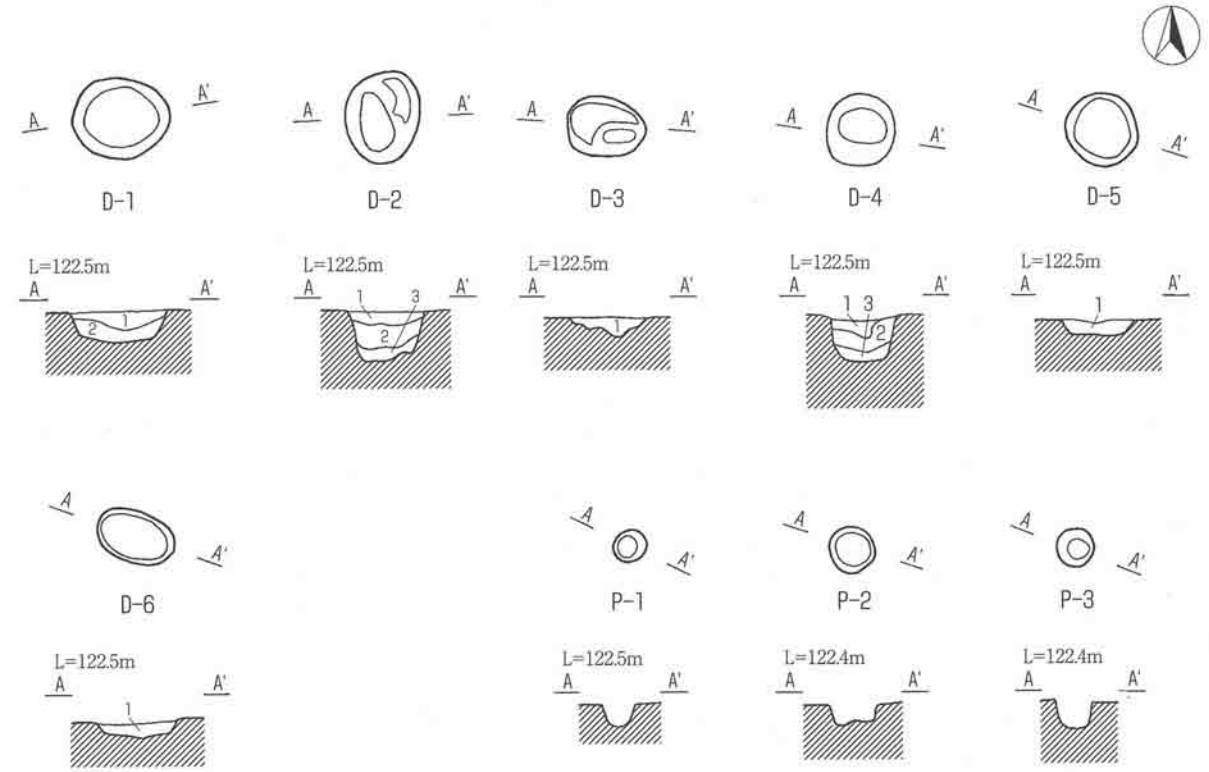


7区　H12－3トレンチ東壁セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 1％、黄橙色ブロック（φ2mm）1％
2	黒褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 10%、底部に瓦あり
3	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 2％、底部に鉄分凝集層あり
4	暗褐	微	○○	As-C・Hr-FP 1％、黄橙色ブロック（φ2mm）2％
5	褐	微	○◎	総社砂層

0　1：60　2m

Fig.46　7区 H12－2・3、H20－4トレンチ断面図



8区　D－1号土坑跡セクション
1　灰黄褐　粗　○○　As-B 50%
2　暗褐　細　○○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 1%

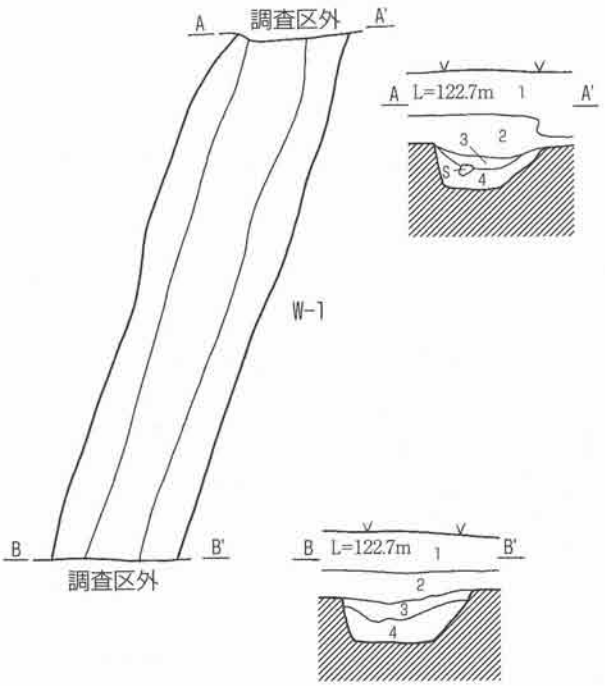
8区　D－2号土坑跡セクション
1　暗褐　細　○○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 1%
2　暗褐　細　○○
3　褐　細　○○

8区　D－3号土坑跡セクション
1　黒褐　細　○○

8区　D－4号土坑跡セクション
1　灰黄褐　粗　△○　耕作痕の一部
2　暗褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 2%
3　褐　細　○○

8区　D－5号土坑跡セクション
1　黒褐　細　○○

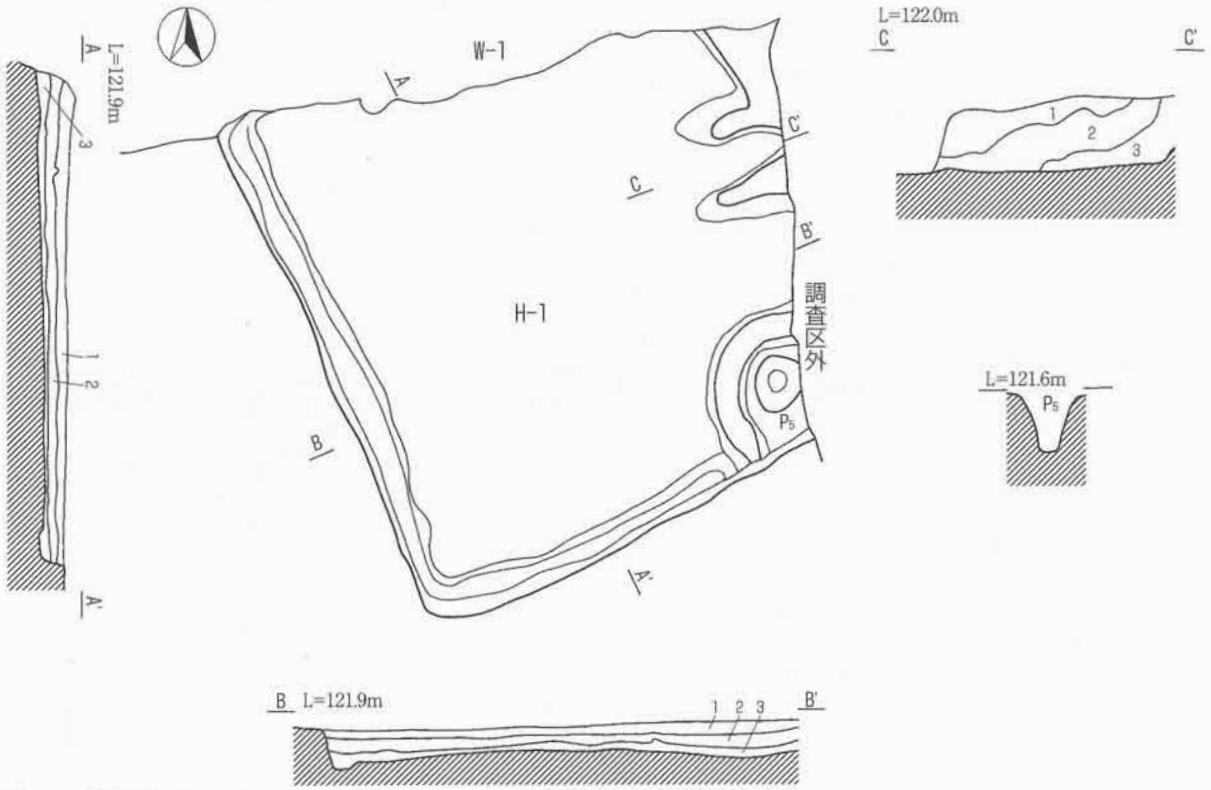
8区　D－6号土坑跡セクション
1　黒褐　細　○○



8区　W－1号溝跡　東西壁セクション
1　現耕作土
2　暗褐　粗　◎○　As-B 50%
3　暗褐　粗　◎○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 1%
4　暗褐　粗　○○　As-B 20%、As-C・Hr-FP 5%

0　1:60　2m

Fig.47　8区 D－1～6号土坑、P－1～3ピット、W－1号溝跡

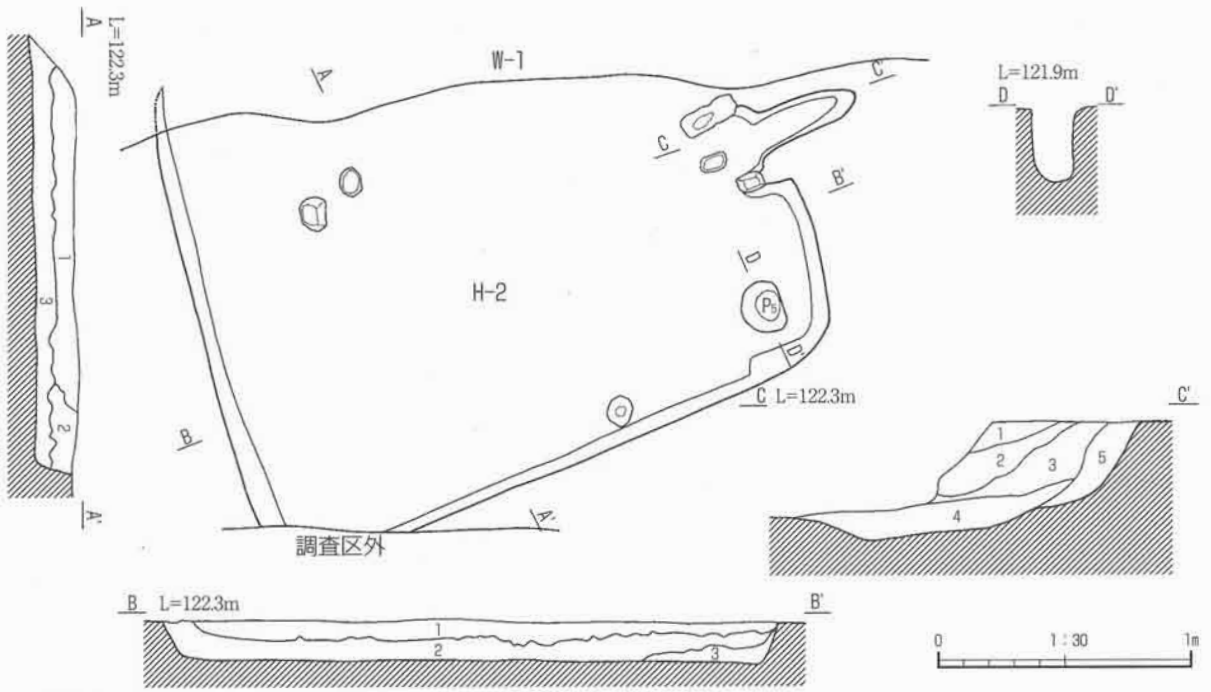


9区　H－1号住居跡　ベルトセクション

1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ2～10mm）5%、黄橙色粒 5%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ2～10mm）3%、黄橙色粒 3%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック（φ10mm）3%、黄橙色粒 7%

9区　H－1号住居跡　竈セクション

1　暗褐　細　○○　粘土ブロック（φ1～2mm）5%、粘土粒 5%、焼土粒 3%、炭化物 1%
2　暗褐　微　○○　焼土ブロック（φ10mm）7%、焼土粒 5%、粘土ブロック（φ1～2mm）2%、炭化物 3%、粘土粒 7%
3　黒　微　○○　灰多く混ざる



9区　H－2号住居跡　ベルトセクション

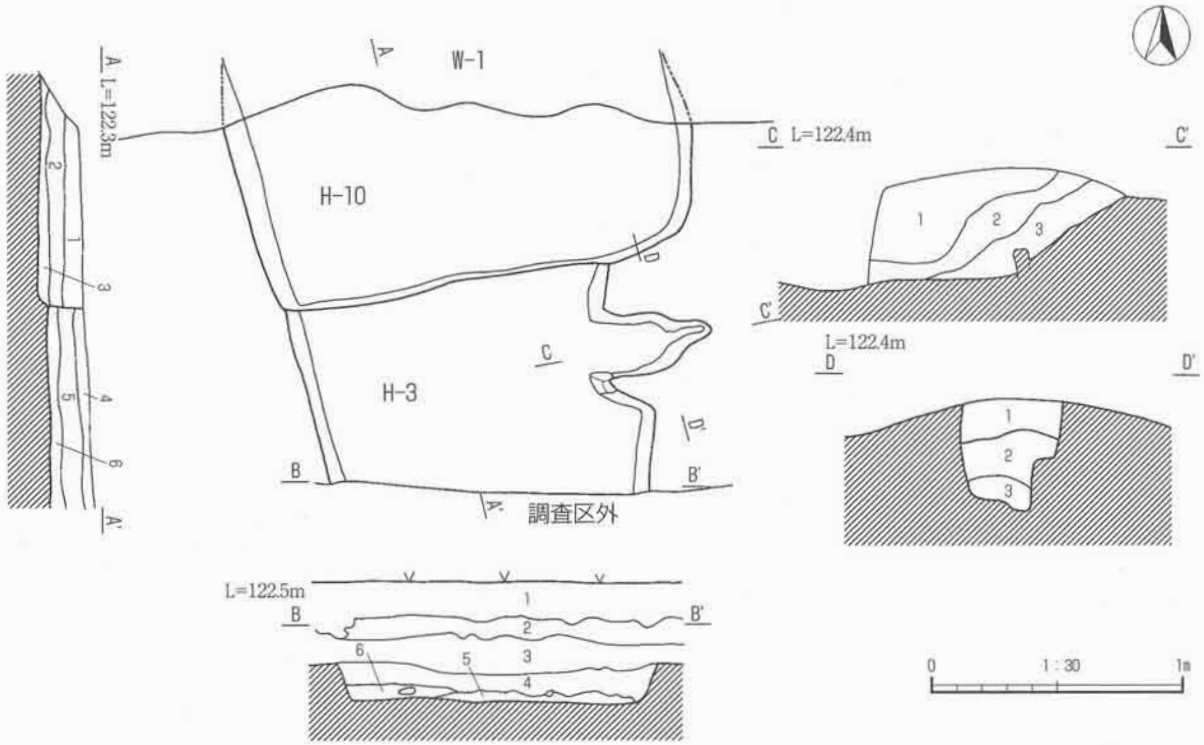
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色ブロック（φ2～5mm）3%、黄橙色粒 5%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）7%、Hr-FA 15%、炭化物 1%
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）5%、Hr-FA 3%、黄橙色粒 7%

9区　H－2号住居跡　竈セクション

1　黒褐　微　○○　焼土粒 3%　粘土粒 1%
2　暗赤褐　微　○○　焼土ブロック（φ5mm）5%、焼土粒 10%、粘土粒 1%
3　暗赤褐　微　△○　焼土ブロック（φ20～30mm）10%、焼土粒 10%
4　褐灰　微　△○　灰層
5　極暗褐　微　△○　灰わずかに混じる、焼土粒 1%

0　1:60　2m

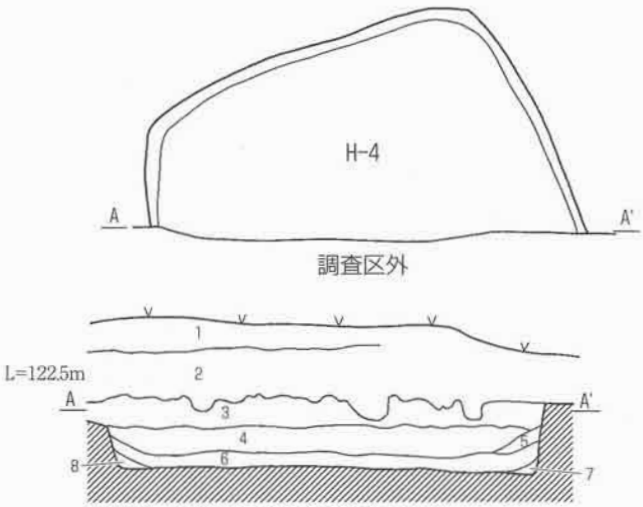
Fig.48　9区 H－1・2号住居跡



9区　H－3号住居跡　東西南壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　粗　○○　As-B 混土層
3　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ2～5mm）2％、黄橙色粒 1％
4　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3％、黄橙色粒 2％
5　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ2～5mm）3％、黄橙色粒 2％

9区　H－3・10号住居跡　南北ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15％、黄橙色ブロック（φ2～10mm）3％、黄橙色粒 2％　（H－10）
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7％、黄橙色ブロック（φ2～10mm）5％、黄橙色粒 3％　（H－10）
3　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ10mm）7％、黄橙色粒 7％　（H－10）
4　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ2～5mm）2％、黄橙色粒 1％　（H－3）
5　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 5％、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3％、黄橙色粒 2％　（H－3）
6　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3％、黄橙色ブロック（φ2～5mm）3％、黄橙色粒 2％　（H－3）

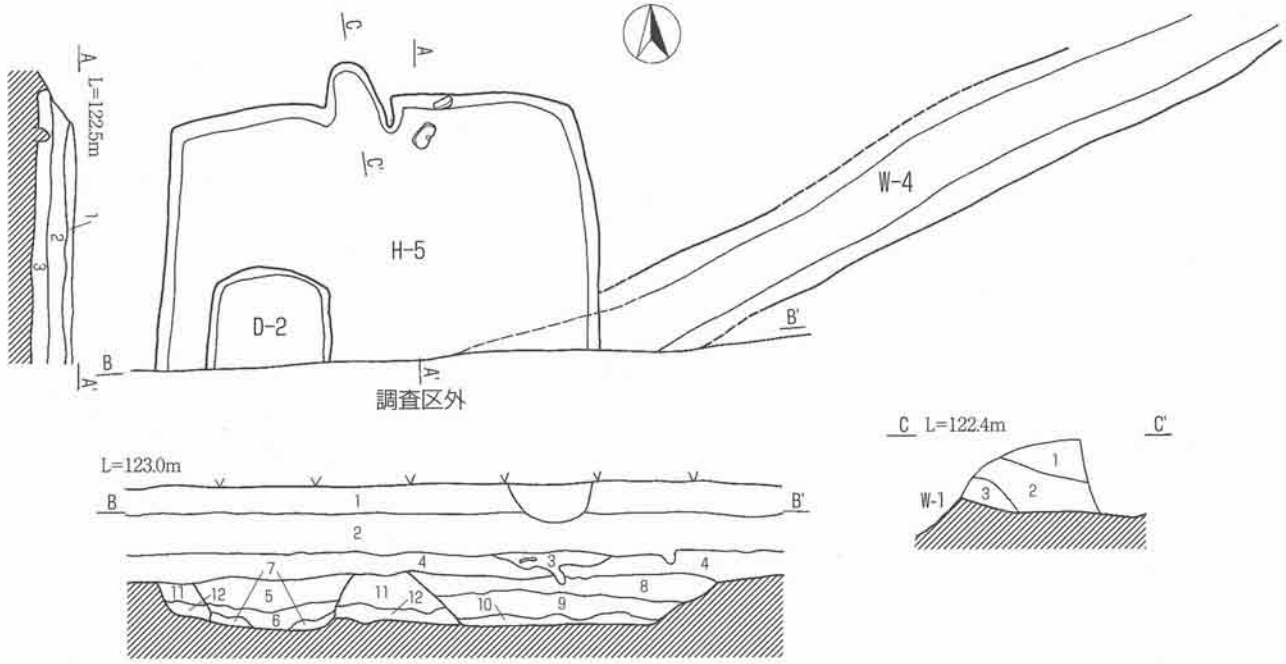
9区　H－3号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土ブロック（φ2～5mm）3％、焼土粒 5％、炭化物 2％
2　暗褐　微　△○　As-C・Hr-FP 2％、焼土ブロック（φ5～10mm）7％、焼土粒 25％
3　黒褐　微　○○　灰混じる、焼土ブロック有り



9区　H－4号住居跡　東西南壁セクション
1　現耕作土
2　黒褐　粗　○○　As-B 混土層
3　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 15％、黄橙色粒 1％　焼土粒 2％
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15％、黄橙色ブロック（φ10mm）2％、黄橙色粒 3％、焼土粒 3％
5　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5％、粘土ブロック（φ50mm）有り、粘土粒 7％
6　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10％、黄橙色ブロック（φ2～5mm）2％、黄橙色粒 3％
7　黒褐　細　○○　黄橙色粒 5％、粘土粒 7％、粘土ブロック（φ2mm）3％
8　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 1％、黄橙色粒 1％

0　1:60　2m

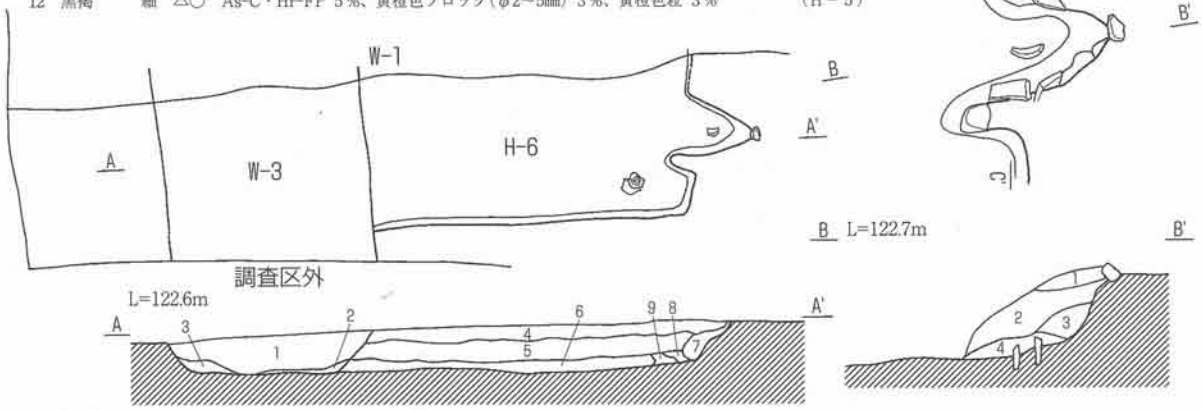
Fig.49　9区 H－3・4・10号住居跡



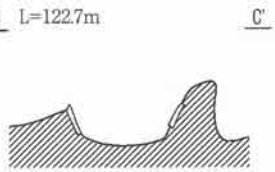
9区　H－5号住居跡　南北ベルトセクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ2～5mm）2%、黄橙色粒 2%
2　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 2%、焼土ブロック（φ2mm）1%
3　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 10%、黄橙色ブロック（φ2mm）5%、黄橙色粒 3%

9区　H－5号住居跡　竈セクション
1　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 3%、焼土ブロック（φ2mm）5%、炭化物 5%
2　暗褐　細　△○　As-C・Hr-FP 2%、焼土ブロック（φ2mm）3%、焼土粒 10%
3　黒褐　細　△○　焼土ブロック（φ2mm）2%、焼土粒 3%

9区　H－5号住居跡・W－4号溝跡・D－2号土坑　東西壁セクション
1　現耕作土
2　暗褐　細　○○　As-B 混土層
3　黒褐　細　○○　炭化物 2%
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、焼土ブロック（φ2mm）1%
5　黒褐　粗　○○　As-C・Hr-FP 15%、焼土ブロック（φ2mm）2%、炭化物 1%　（D－2）
6　黒褐　微　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%、黄橙色粒 7%　（D－2）
7　暗褐　微　○○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）5%、黄橙色粒 10%　（D－2）
8　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）2%、黄橙色粒 2%　（W－4）
9　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%、焼土ブロック（φ2mm）1%　（W－4）
10　黒褐　微　◎○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ2～5mm）5%、黄橙色粒 2%　（W－4）
11　黒褐　細　◎○　As-C・Hr-FP 10%、焼土粒 2%　（H－5）
12　黒褐　細　△○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ2～5mm）3%、黄橙色粒 3%　（H－5）



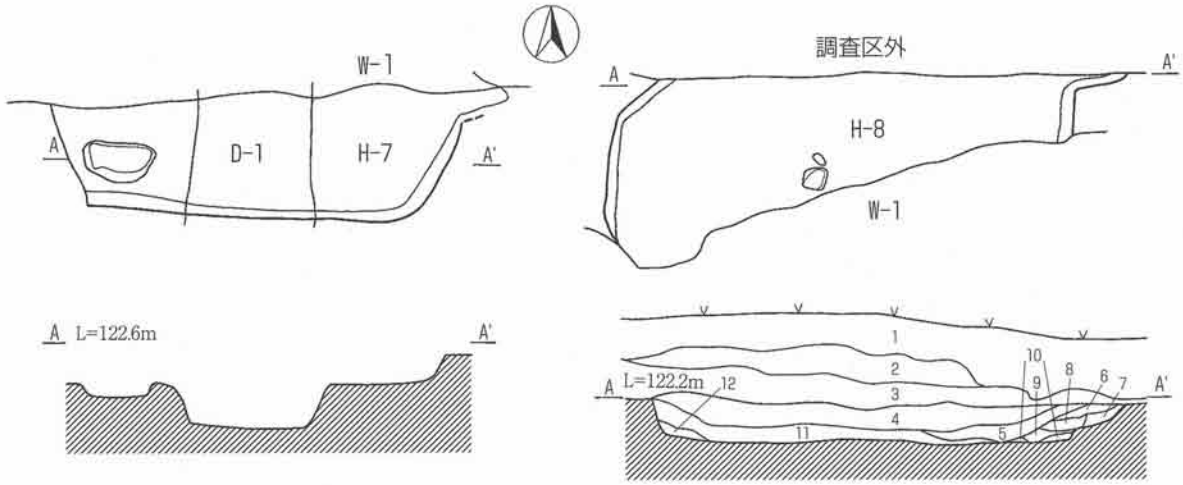
9区　H－6号住居跡・W－3号溝跡セクション
1　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 1%、黄橙色ブロック（φ5mm）2%　（W－3）
2　黒褐　粗　△○　黄橙色粒 10%、黄橙色ブロック（φ5mm）10%　（W－3）
3　にぶい黄褐　細　△○　地山に近い　（W－3）
4　黒褐　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック（φ2mm）2%　（H－6）
5　黒褐　微　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色粒 3%、黄橙色ブロック（φ5mm）3%　（H－6）
6　黒褐　微　△○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 5%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%　（H－6）
7　暗褐　細　○○　粘土ブロック有り　（H－6）
8　黒褐　細　△○　灰混じる　（H－6）
9　暗褐　細　○○　粘土ブロック（φ50mm）30%、炭化物 15%　（H－6）



9区　H－6号住居跡　竈セクション
1　黒褐　微　△○　As-C・Hr-FP 1%
2　暗褐　微　△○　粘土ブロック（φ5～20mm）5%、粘土粒 10%、炭化物 1%
3　黒褐　微　○○　焼土粒 1%、灰 1%
4　黒褐　微　△○　灰層、焼土ブロック（φ5mm）2%

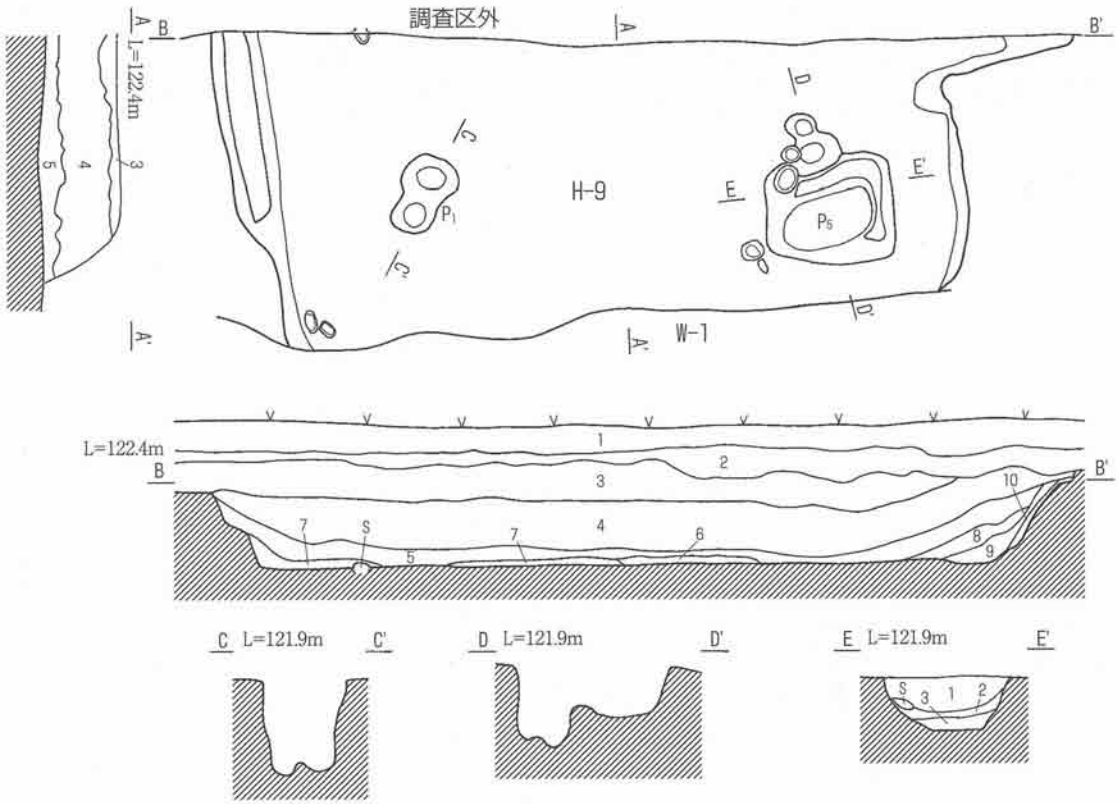
0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.50　9区 H－5・6号住居跡、W－4号溝跡



9区　H－8号住居跡　北壁セクション

1	現耕作土			
2	灰黄褐	細	◎△	As-B 50%以上
3	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 15%、黄橙色粒 2%
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5%
5	暗褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 2%、焼土粒 5%
6	暗褐	微	◎○	As-C・Hr-FP 5%、焼土粒 15%
7	にぶい赤褐	微	○○	焼土ブロック 50%
8	褐	微	○◎	As-C・Hr-FP 10%、粘土ブロック 20%、焼土ブロック 20%
9	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、焼土粒 2%
10	暗褐	細	○○	焼土粒 2%
11	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 2%、黄橙色ブロック（φ5～10㎜）10%
12	褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 2%



9区　H－9号住居跡　北壁セクション

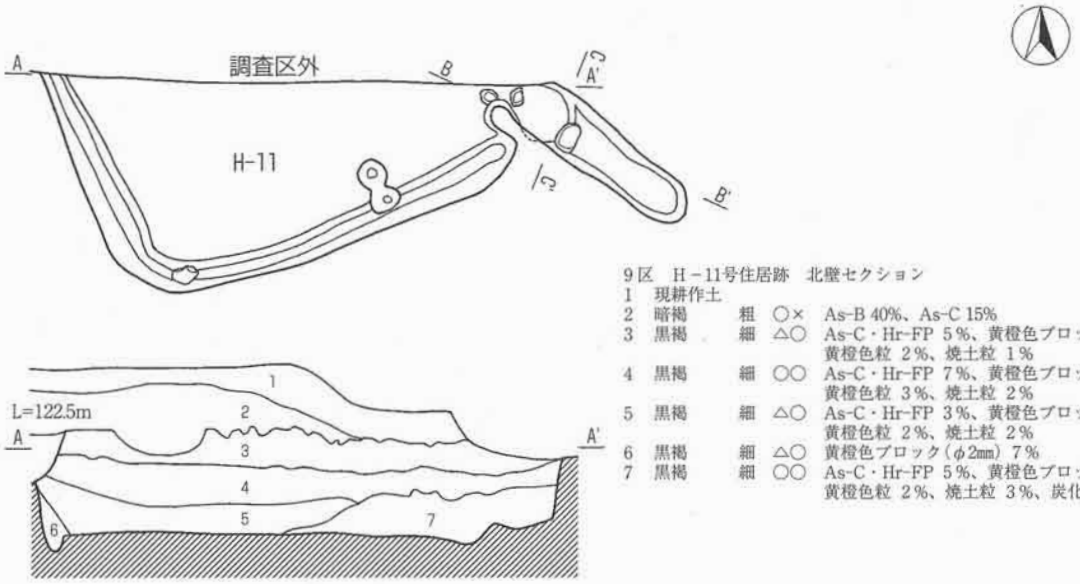
1	現耕作土			
2	灰黄褐	細	○△	As-B 20%
3	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%、焼土粒 1%
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色粒 5%、焼土粒 2%、炭化物 1%、黄橙色ブロック（φ5㎜）5%
5	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 3%、黄橙色ブロック（φ5～20㎜）5%
6	黒褐	細	○○	黄橙色粒 2%、炭化物 15%
7	黒褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5～10㎜）10%
8	褐	細	○○	焼土粒 5%
9	にぶい赤褐	微	△◎	焼土ブロック 50%、焼土粒 10%
10	灰褐	微	○◎	灰層

9区　H－9号住居跡　P_5セクション

1	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 10%、焼土粒 5%、黄橙色ブロック（φ5～10㎜）10%
2	暗褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5㎜）5%
3	にぶい黄褐	微	◎○	地山（地山を切っている）

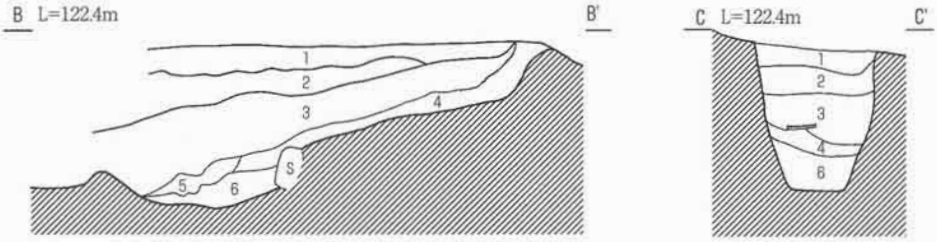
0　1：60　2m

Fig.51　9区 H－7・8・9号住居跡



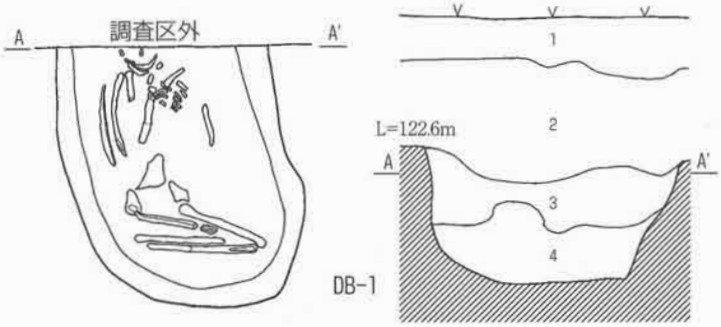
9区　H－11号住居跡　北壁セクション

1　現耕作土
2　暗褐　　粗　○×　As-B 40%、As-C 15%
3　黒褐　　細　△○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ2mm）1%、黄橙色粒 2%、焼土粒 1%
4　黒褐　　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ5～10mm）3%、黄橙色粒 3%、焼土粒 2%
5　黒褐　　細　△○　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色ブロック（φ2～5mm）2%、黄橙色粒 2%、焼土粒 2%
6　黒褐　　細　△○　黄橙色ブロック（φ2mm）7%
7　黒褐　　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色ブロック（φ2mm）2%、黄橙色粒 2%、焼土粒 3%、炭化物 2%



9区　H－11号住居跡　竈セクション

1　黒褐　　細　○○　As-C・Hr-FP 7%、黄橙色ブロック（φ2mm）2%、焼土ブロック（φ5mm）2%、焼土粒 3%
2　黒褐　　細　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土ブロック（φ5mm）3%、焼土粒 3%
3　極暗褐　細　○○　焼土ブロック（φ5mm）20%、焼土粒 15%
4　黒褐　　微　△○　焼土ブロック（φ5mm）5%、焼土粒 10%、灰混じる
5　暗褐　　細　○○　焼土ブロック（φ20mm）20%
6　黒褐　　細　○○　灰層、焼土粒 10%

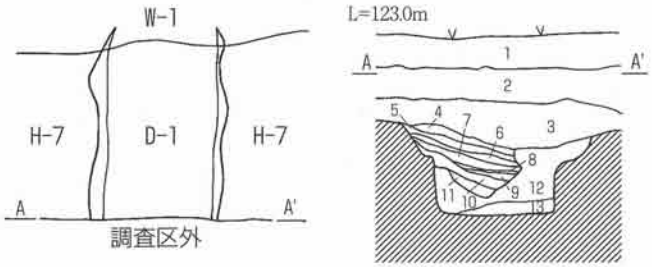


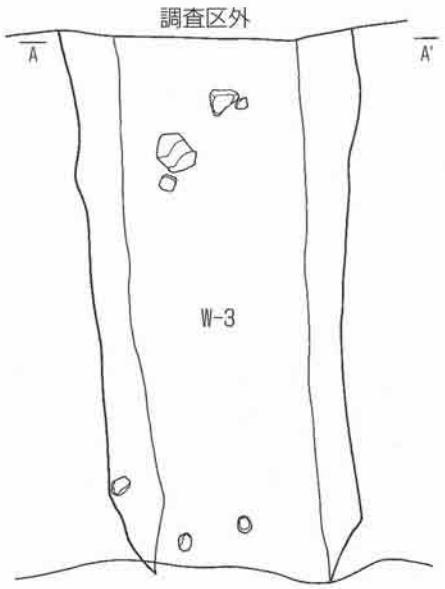
9区　DB－1号土坑墓　壁セクション

1　現耕作土
2　黒褐　　粗　○△　As-B 混土層、As-C・Hr-FP 15%
3　黒褐　　細　○○　As-C・Hr-FP 10%
4　黒褐　　微　○△　As-C・Hr-FP 3%

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.52　9区 H－11号住居跡、DB－1号土坑墓





9区　D－1号土坑　壁セクション

1	現耕作土			
2	暗褐	細	○○	As-B 混土層(As-B 20%)、黄橙色粒 5%

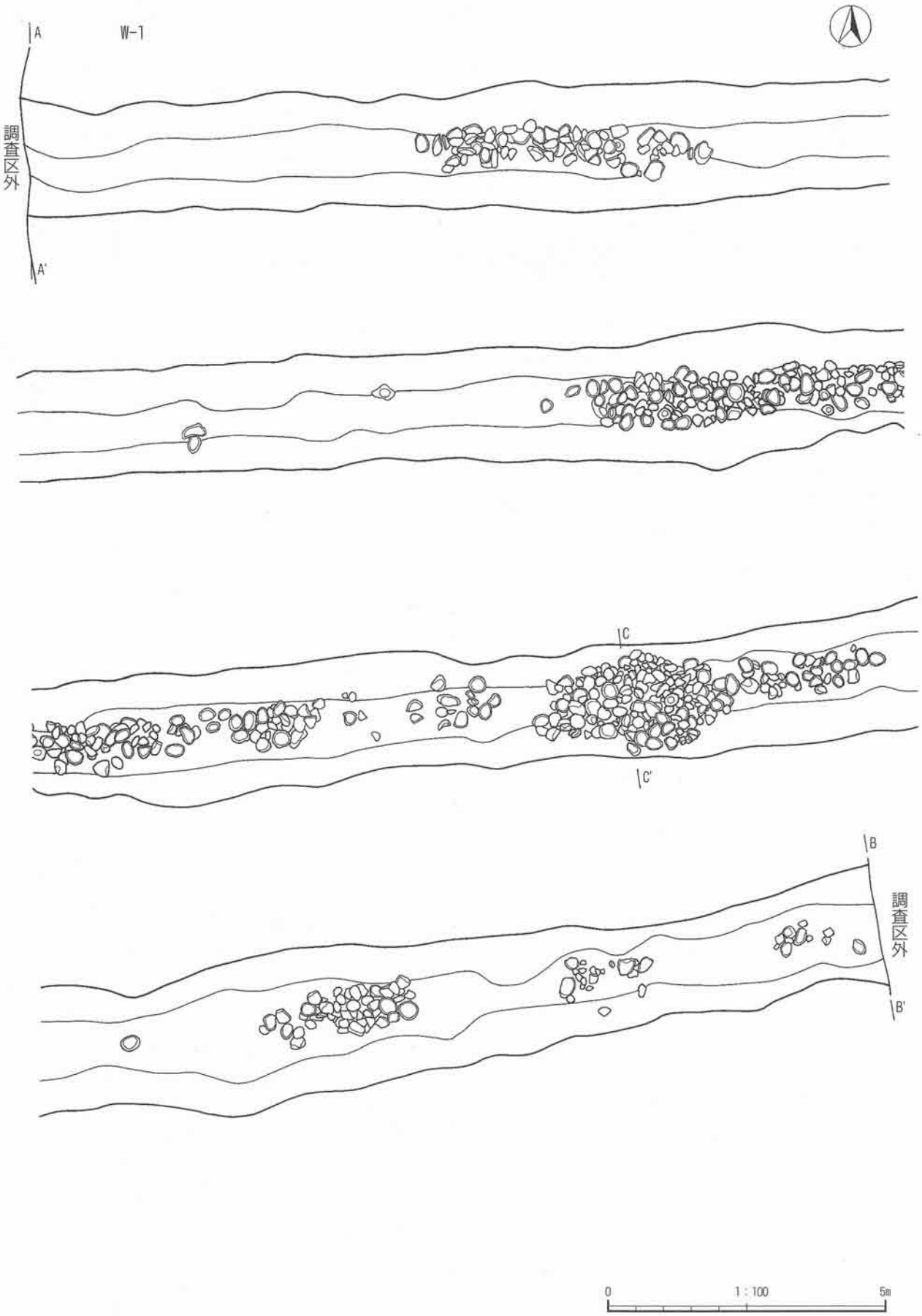
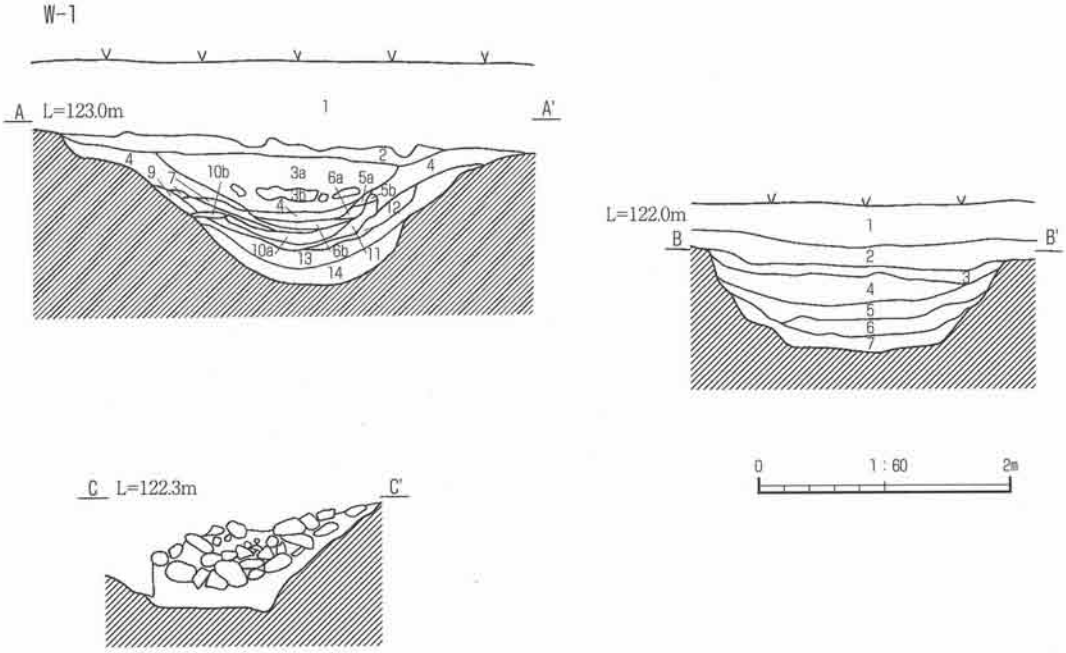


Fig.54　9区 W－1号溝平面図



9区　W－1号溝跡　東壁セクション

1	現耕作土			
2	にぶい黄褐	細	◎○	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 2%
3	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 20%、黄橙色ブロック（φ2mm）2%、シルトやや混じる
4	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 5%
5	暗褐	微	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）5%、黄橙色粒 10%、シルトやや混じる
6	黒褐	微	○○	As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 2%
7	暗褐	微	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）5%、黄橙色粒 5%

9区　W－1号溝跡　西壁セクション

1	現耕作土			
2	にぶい黄褐	細	◎△	As-B 混土層（As-B 20%）
3a	灰黄褐	細	◎△	As-B 混土層（As-B 50%）、As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%
3b	暗褐	微	○○	流水による砂層か、ややシルト混じる
4	暗褐	細	○○	As-B 混土層（As-B 20%）、黄橙色粒 2%
5a	暗褐	細	○○	黄橙色粒 2%
5b	黒褐	細	○○	
6a	暗褐	細	○○	
6b	暗褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5mm）2%、黄橙色粒 10%
7	暗褐	細	○○	黄橙色粒 1%
8	黒褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%
9	黒褐	細	○○	黄橙色粒 5%
10a	黒褐	細	○○	黄橙色粒 5%、炭化物 1%
10b	褐灰	粗	△×	流水による砂層か、ややシルト混じる
11	黒褐	細	○○	黄橙色粒 2%、炭化物 10%
12	暗褐	細	○○	As-C・Hr-FP 2%
13	暗褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ10mm）5%、黄橙色粒 2%
14	暗褐	細	○○	黄橙色ブロック（φ5～10mm）10%

Fig.55　9区 W－1号溝跡断面図

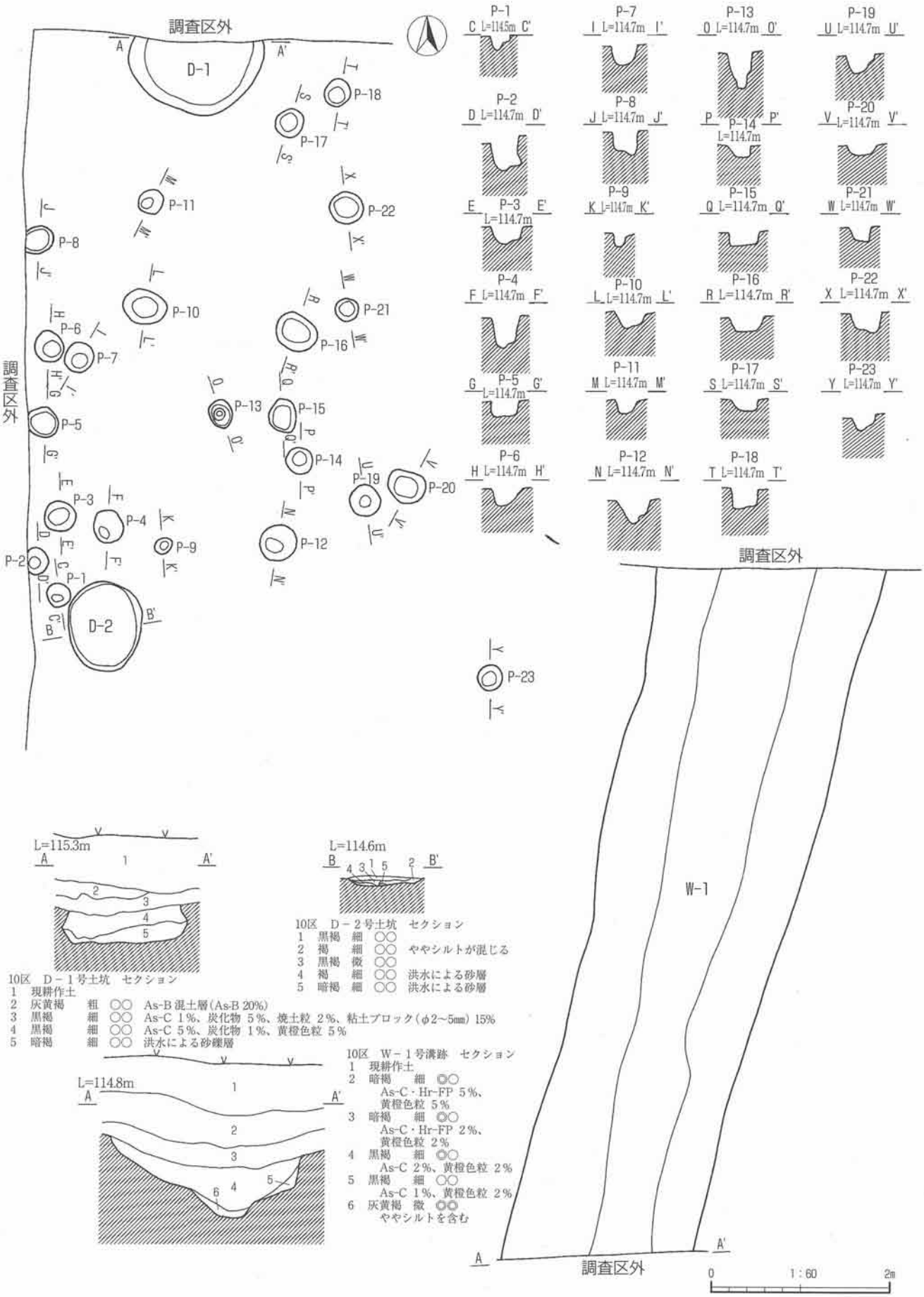
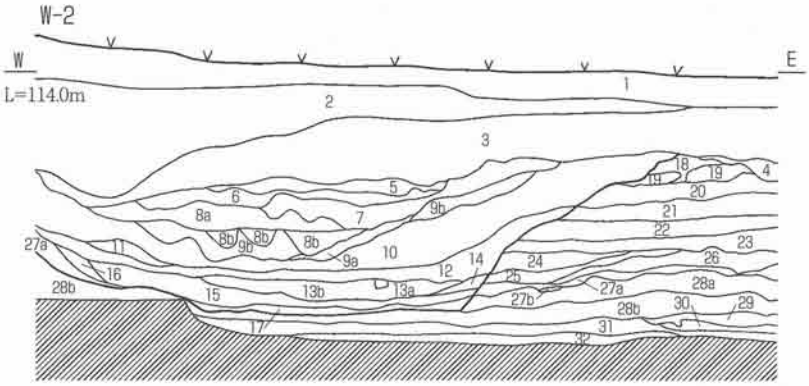


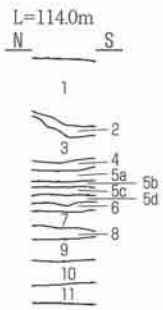
Fig.56　10区 W－1号溝跡、D－1・2号土坑、P－1～23号ピット



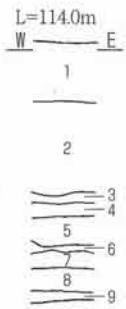
10区　W－2号溝跡及び南壁西側　セクション

1	現耕作土				
2	暗褐	細	◎○	洪水による砂礫層	
3	褐	細	○○	洪水による砂礫層	
4	にぶい黄褐	細	○△	洪水による砂礫層、小石が多く混ざる	
5	灰黄褐	細	○○	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	
6	暗褐	細	○○	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る、ややシルトを含む	
7	灰黄褐	細	○○	洪水による砂礫層	
8a	暗褐	細	○○	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	
8b	にぶい黄褐	粗	○△	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	
9a	灰黄褐	細	○◎	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	
9b	灰黄褐	細	○○	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る、ややシルトを含む	
10	黒褐	微	○◎	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	(W－2)
11	灰黄褐	微	○○	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る	(W－2)
12	暗褐	微	○◎	洪水による砂礫層、鉄分凝集層がまだらに入る	(W－2)
13	にぶい黄褐	細	○○	砂質のブロック	(W－2)
14	灰黄褐	微	○◎	As-C 1%、Hr-FP 20%、鉄分凝集層がまだらに入る	(W－2)
15	灰黄褐	微	△◎	Hr-FP 20%、砂質の層、ややシルト混じる	(W－2)
16	灰黄褐	微	○◎	Hr-FP 20%、鉄分凝集層がまだらに入る	(W－2)
17	褐灰	微	△○	シルト層に洪水による砂と Hr-FP がやや混じる	(W－2)
18	にぶい黄褐	細	◎△	洪水による砂礫層	
19	にぶい黄褐	細	◎△	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る	
20	灰黄褐	細	◎△	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る	
21	褐	細	◎△	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る	
22	褐	微	○○	鉄分凝集層がまだらに入る	
23	暗褐	細	○○	Hr-FP 2%、鉄分凝集層がまだらに入る	
24	暗褐	細	○○	Hr-FP 5%、鉄分凝集層がまだらに入る	
25	にぶい黄褐	細	○◎	Hr-FPF1の純層	
26	灰黄褐	微	○○	シルトをやや含む	
27a	黄褐	細	◎○	Hr-FA の純層	
27b	褐灰	微	△◎	シルト層	
28a	黒褐	微	△◎	泥炭層、FA 下の水田面と考えられる	
28b	黒	微	△◎	泥炭層、FA 下の水田面と考えられる	
29	黒	微	△○	As-C 2%	
30	黒褐	粗	△○	As-C 50% 以上	
31	黒褐	細	○○	As-C 5%、ややシルトを含む	
32	にぶい黄褐	粗	△×	As-C 50% 以上	

東壁中央



北壁中央



10区　東壁中央　セクション

1	現耕作土			
2	にぶい黄褐	細	◎△	洪水による砂礫層
3	にぶい黄褐	細	◎○	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る
4	褐	細	◎○	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る
5a	灰黄褐	細	◎△	洪水による砂礫層
5b	灰黄褐	細	◎△	洪水による砂層、ややシルトが混ざる
5c	灰黄褐	細	◎△	洪水による砂層、鉄分凝集層がまだらに入る
5d	灰黄褐	細	◎△	洪水による砂礫層
6	褐	微	○◎	シルト層
7	にぶい黄褐	細	○◎	Hr-FPF1の純層
8	黄褐	細	◎○	Hr-FA の純層
9	黒	微	△◎	泥炭層、FA 下の水田面と考えられる
10	黒褐	粗	○△	As-C 50% 以上
11	黒褐	微	○◎	As-C 5%

10区　北壁中央　セクション

1	現耕作土			
2	にぶい黄褐	細	◎○	洪水による砂層
3	にぶい黄褐	細	◎○	洪水による砂礫層
4	灰黄褐	細	◎○	洪水による砂礫層、小石を多く含む
5	褐	細	◎○	Hr-FPF1の純層
6	黄褐	細	◎○	Hr-FA の純層
7	黒	微	△◎	泥炭層、FA 下の水田面と考えられる
8	黒褐	粗	○△	As-C 50% 以上
9	黒褐	微	○◎	As-C 2%

10区　水田跡計測表

区画No.	位　置	規模(m) 東西	規模(m) 南北	面積	備考
1	X247, 248 Y152, 153	[3.10]	[3.30]	6.48	一部検出
2	X247, 248 Y151, 152	[2.70]	(2.00)	4.46	一部検出
3	X247, 248 Y151, 152	[2.40]	(2.20)	3.94	一部検出
4	X247, 248 Y151	[1.50]	[1.06]	0.95	一部検出
5	X246, 247 Y151~153	(5.40)	[3.90]	15.14	一部検出
6	X245, 246 Y151~153	[4.90]	[6.90]	14.40	範囲未確定

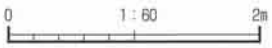
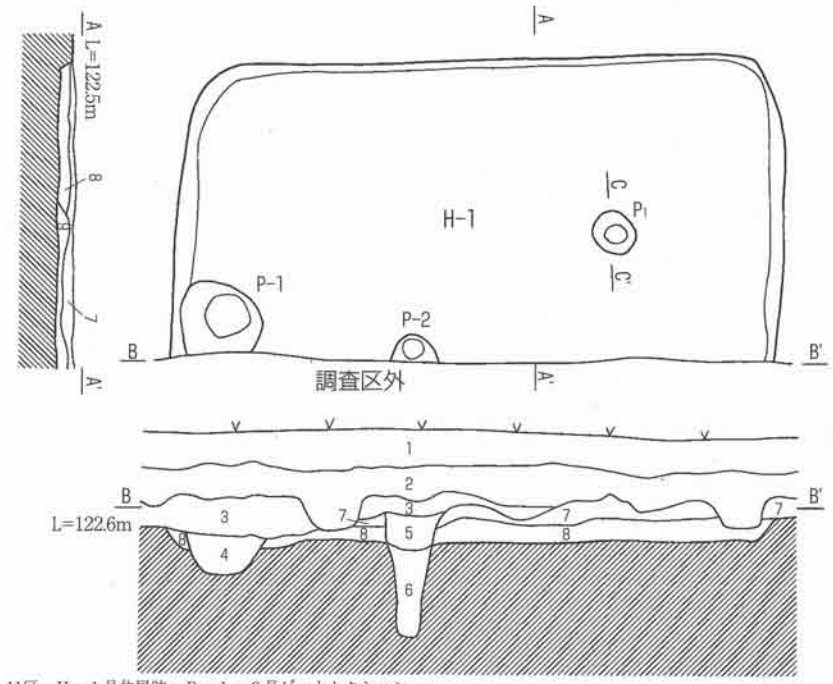
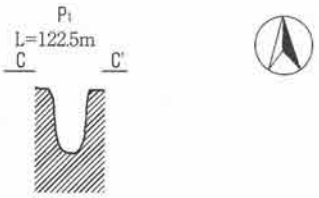


Fig.57　10区 W－2号溝跡、南・東・北壁断面図





11区　H－1号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円　形	34	31	50

11区　H－2号住居跡柱穴計測表

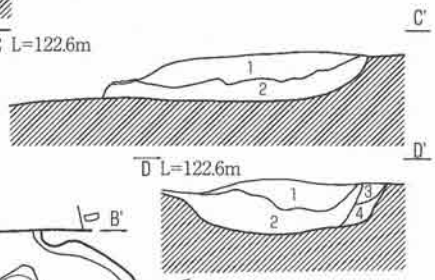
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P5	円　形	36	36	36.5

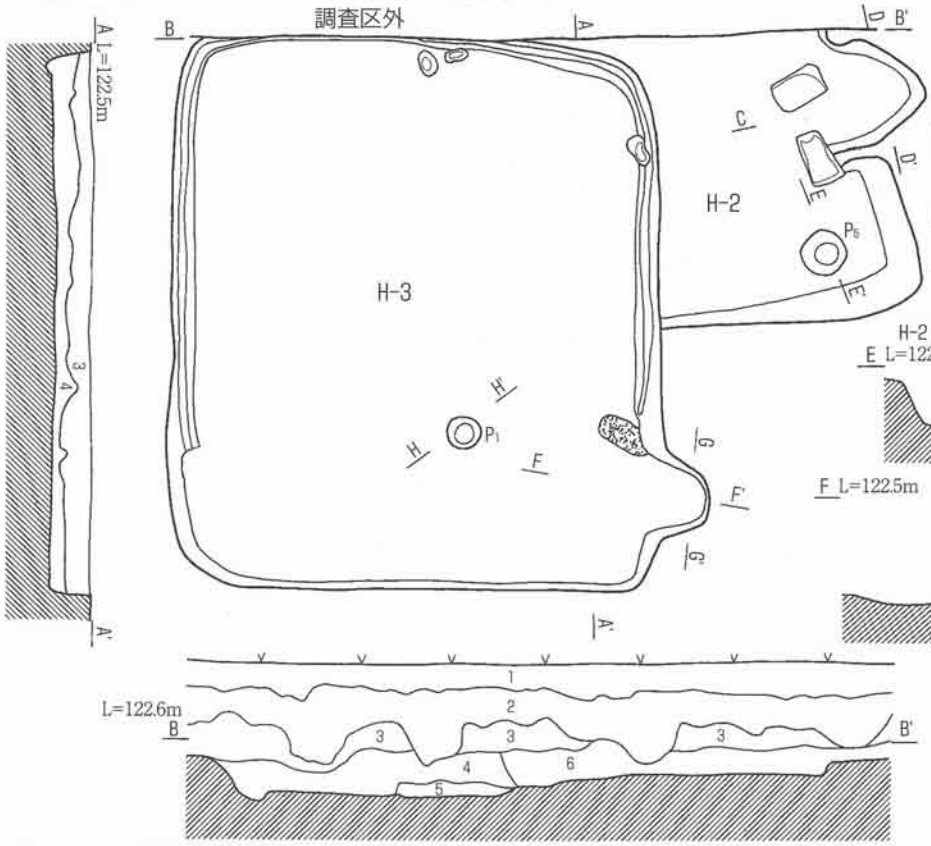
11区　H－3号住居跡柱穴計測表

No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円　形	26	25	42.5

11区　H－1号住居跡・P－1・2号ピットセクション

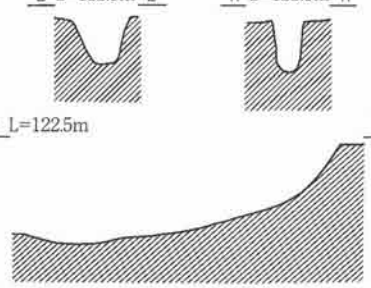
1　現耕作土
2　暗褐　粗　○×　As-B 40%、As-C・Hr-FP 1%
3　黒褐　粗　○×　As-C・Hr-FP 20%、As-C・Hr-FP 1%
4　暗褐　粗　○×　As-C・Hr-FP 3%、黄橙色粒 3%　(P－1)
5　暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 7%　(P－2)
6　暗褐　微　△×　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 2%　(P－2)
7　黒褐　細　△×　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色ブロック(φ10～20mm) 2%、黄橙色粒 1%
8　黒褐　細　◎△　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色ブロック(φ50mm) 3%、焼土粒 2%、炭化物 1%
9　暗褐　細　△×　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 5%、焼土粒 2%

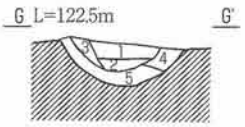




11区　H－2号　竈セクション

1　極暗褐　細　△×　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒 3%、炭化物 1%
2　黒褐　微　△×　灰層、焼土粒 3%
3　暗褐　細　△×　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒 2%
4　褐　微　△×　As-C・Hr-FP 1%、黄橙色粒 7%





11区　H－2・3号住居跡セクション

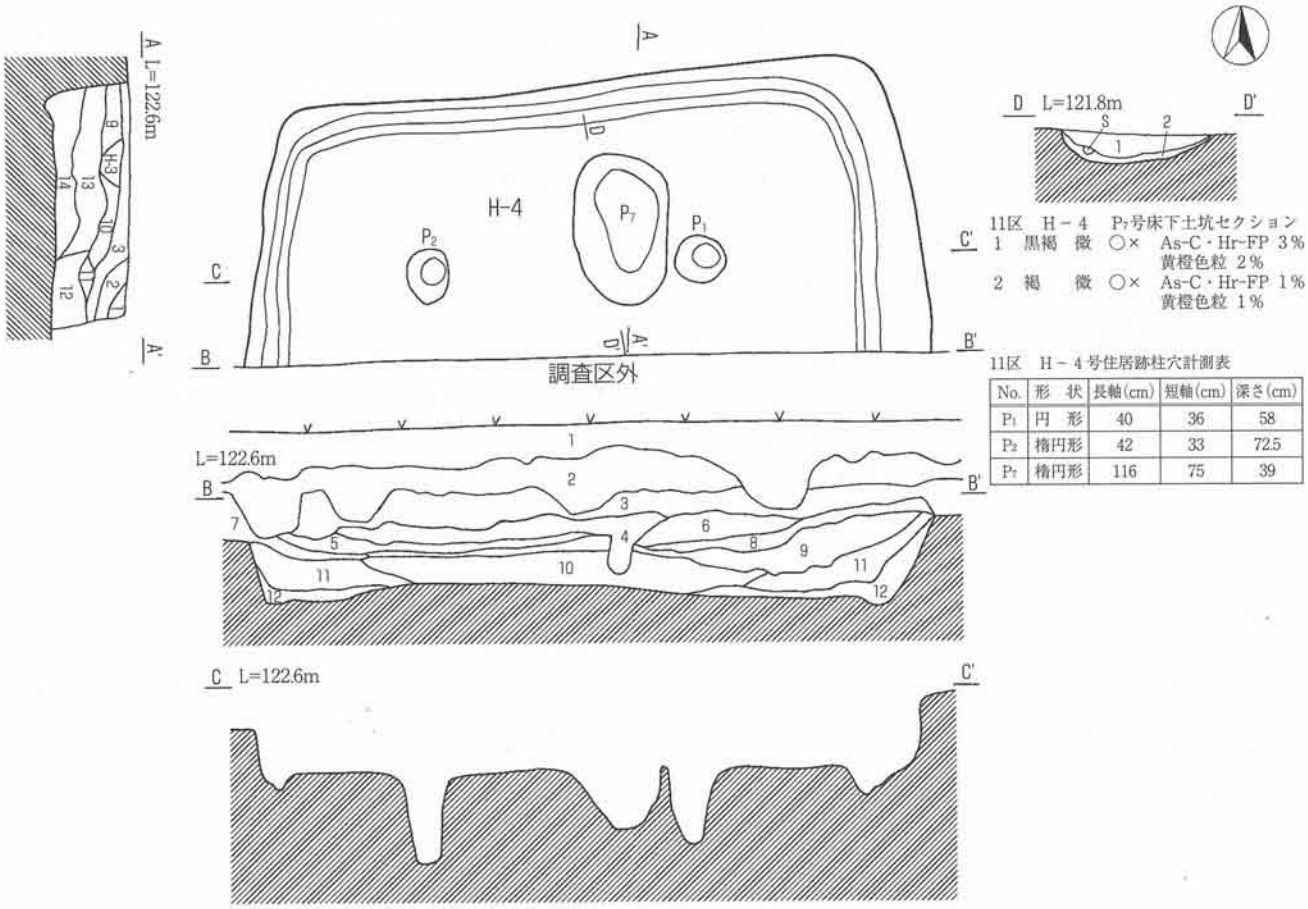
1　現耕作土
2　暗褐　粗　○×　As-B 40%、As-C・Hr-FP 1%
3　黒褐　粗　○×　As-B 5%、As-C・Hr-FP 3%
4　暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 3%、炭化物 1%　(H－3)
5　暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 2%、黄橙色粒 7%　(H－3)
6　暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 5%、黄橙色粒 2%、炭化物 1%　(H－2)

11区　H－3号住居跡　竈セクション

1　暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 1%、橙色粘土 5%
2　極暗褐　細　△×　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 5%、灰 7%、橙色粘土 5%
3　橙　微　○◎　橙色粘土主体
4　極暗褐　細　○×　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒 1%
5　極暗褐　微　△△　焼土粒 2%、灰 20%、橙色粘土 10% 灰層

0　1:60　2m　　0　1:30　1m

Fig.58　11区 H－1・2・3号住居跡、P－1・2号ピット



11区　H－4　P7号床下土坑セクション

1	黒褐	微	○×	As-C・Hr-FP 3％ 黄橙色粒 2％
2	褐	微	○×	As-C・Hr-FP 1％ 黄橙色粒 1％

11区　H－4号住居跡柱穴計測表

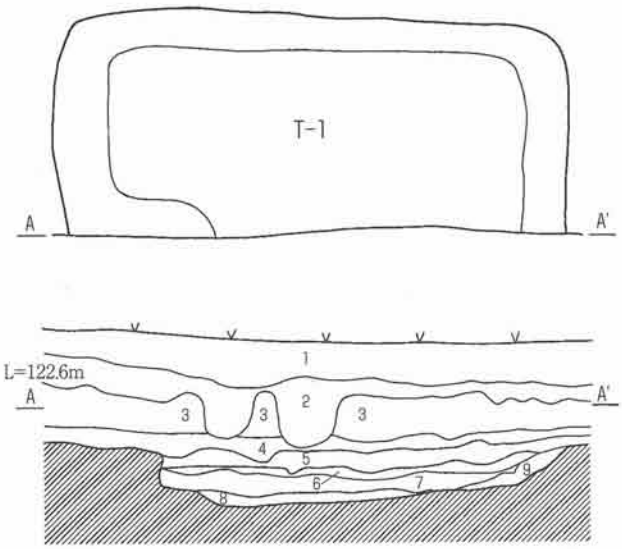
No.	形　状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P1	円　形	40	36	58
P2	楕円形	42	33	72.5
P7	楕円形	116	75	39

11区　H－4号住居跡　南北ベルトセクション

1	黒褐	粗	△×	As-B 30%、As-C・Hr-FP 2％、灰黄褐色粘土 5％
2	灰黄褐	微	○△	灰黄褐色粘土主体
3	暗褐	粗	○△	As-B 25%、As-C・Hr-FP 3％、炭化物 1％
9	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 7％
10	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 5％
11	黒褐	細	◎×	As-C・Hr-FP 7％
12	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5％
13	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 7％、炭化物 1％
14	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 5％

11区　H－4号住居跡　南壁セクション

1	現耕作土			
2	暗褐	粗	○×	As-B 40%、As-C・Hr-FP 1％
3	黒褐	粗	△×	As-B 30%、As-C・Hr-FP 2％、灰黄褐色粘土 5％
4	暗褐	粗	○△	As-B 25%、As-C・Hr-FP 3％、灰黄褐色粘土 15%
5	黒褐	粗	○×	As-B 20%、As-C・Hr-FP 1％、灰黄褐色粘土 5％
6	灰黄褐	微	○△	灰黄褐色粘土主体
7	黒褐	細	◎×	As-C・Hr-FP 5％、黄橙色粒 2％、炭化物 1％
8	暗褐	細	○×	As-C・Hr-FP 7％、黄橙色粒 2％、炭化物 1％
9	黒	微	○△	As-C・Hr-FP 2％、焼土粒 2％、灰 40%
10	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 10%、黄橙色粒 5％
11	褐	細	○×	As-C・Hr-FP 7％、黄橙色粒 3％、炭化物 2％
12	暗褐	細	○△	As-C・Hr-FP 2％、黄橙色粒 3％、焼土粒 1％、炭化物 1％



11区　T－1号竪穴状遺構　南壁セクション

1	現耕作土			
2	暗褐	粗	○×	As-B 40%、As-C・Hr-FP 1％
3	黒褐	粗	△×	As-B 30%、As-C・Hr-FP 2％
4	黒褐	粗	○×	As-B 30%、As-C・Hr-FP 1％
5	暗褐	粗	○×	As-B 25%、As-C・Hr-FP 2％
6	暗褐	粗	◎×	As-B 20%、As-C・Hr-FP 2％
7	黒褐	粗	○×	As-B 20%、As-C・Hr-FP 1％
8	暗褐	粗	◎×	As-B 20%、As-C・Hr-FP 1％
9	黒褐	粗	◎×	As-C・Hr-FP 7％

0　1：60　2m

Fig.59　11区 H－4号住居跡、T－1号竪穴状遺構

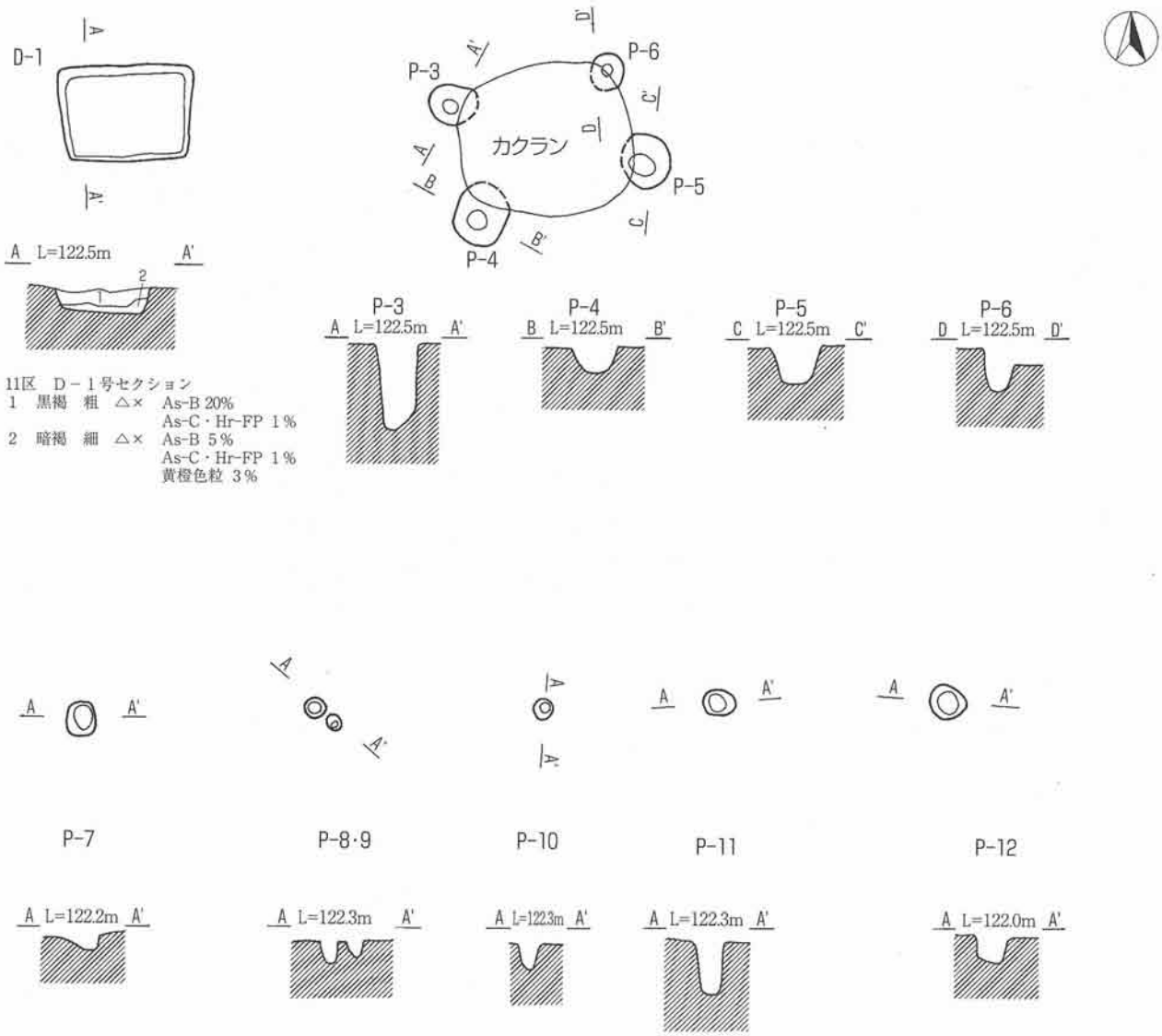


Fig.60 11区 D－1号土坑、P－3～12号ピット

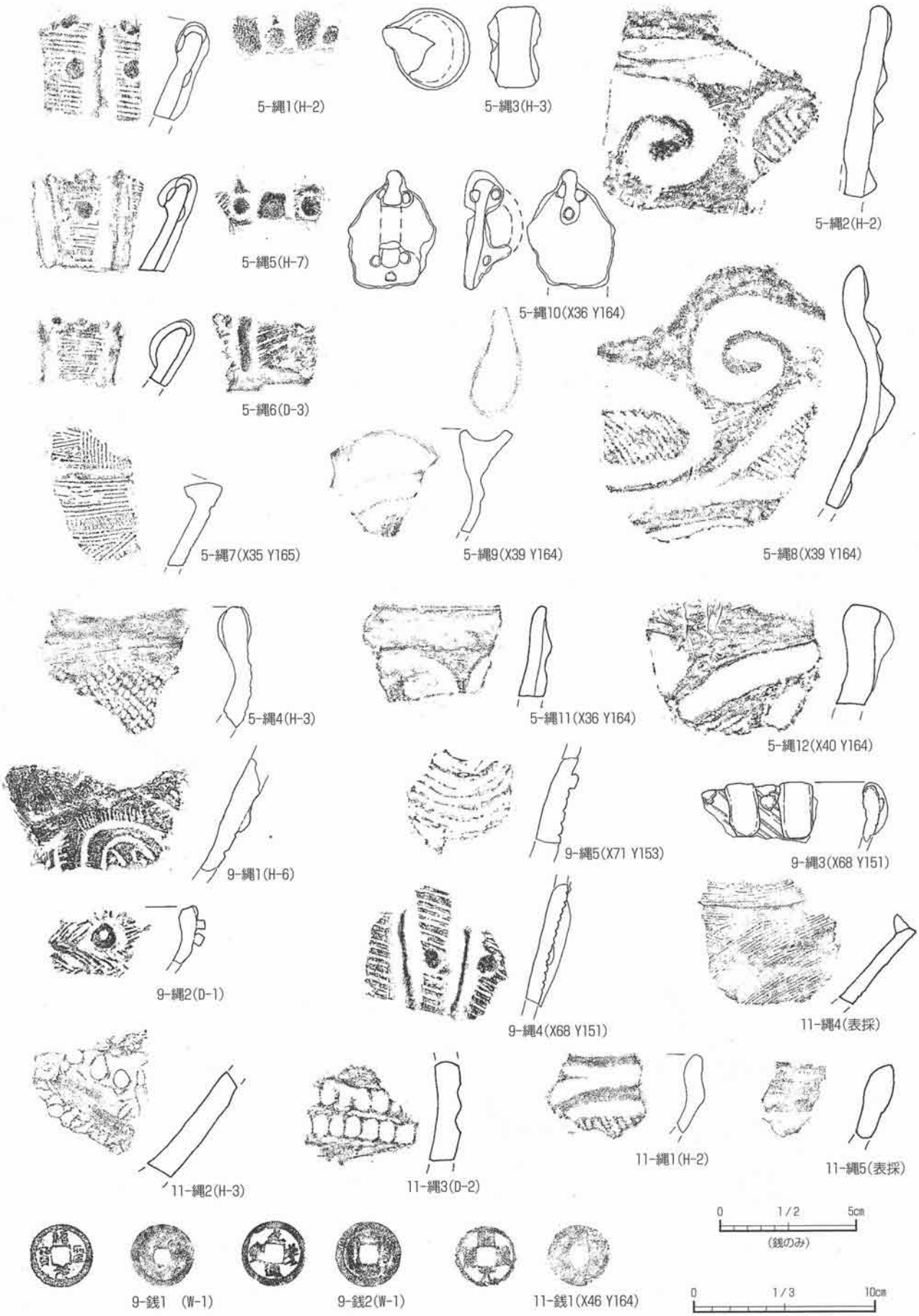


Fig.61 縄文土器、銅銭

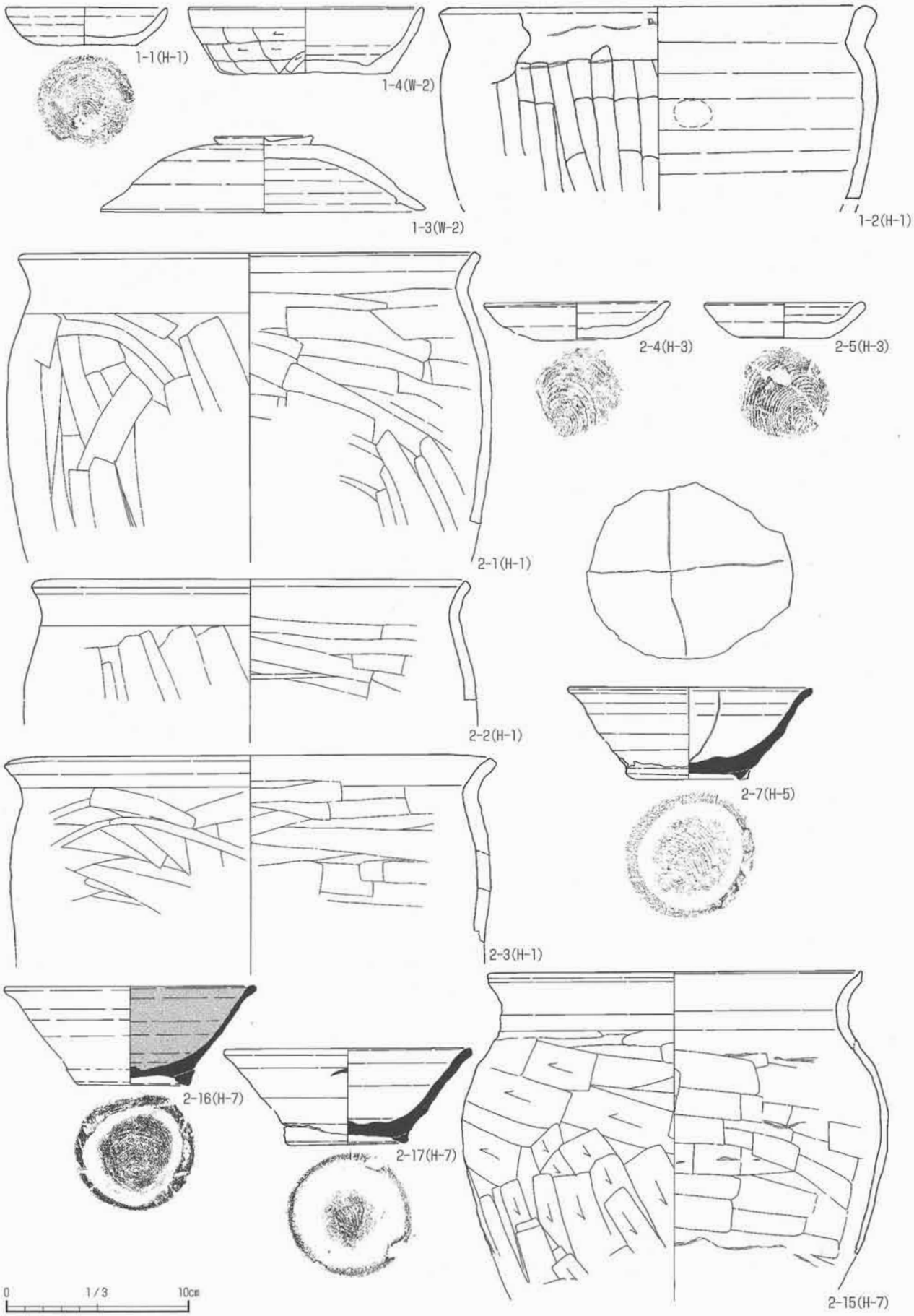


Fig.62　1区 H－1号住居跡、W－2号溝跡、2区 H－1・3・5・7号住居跡出土遺物

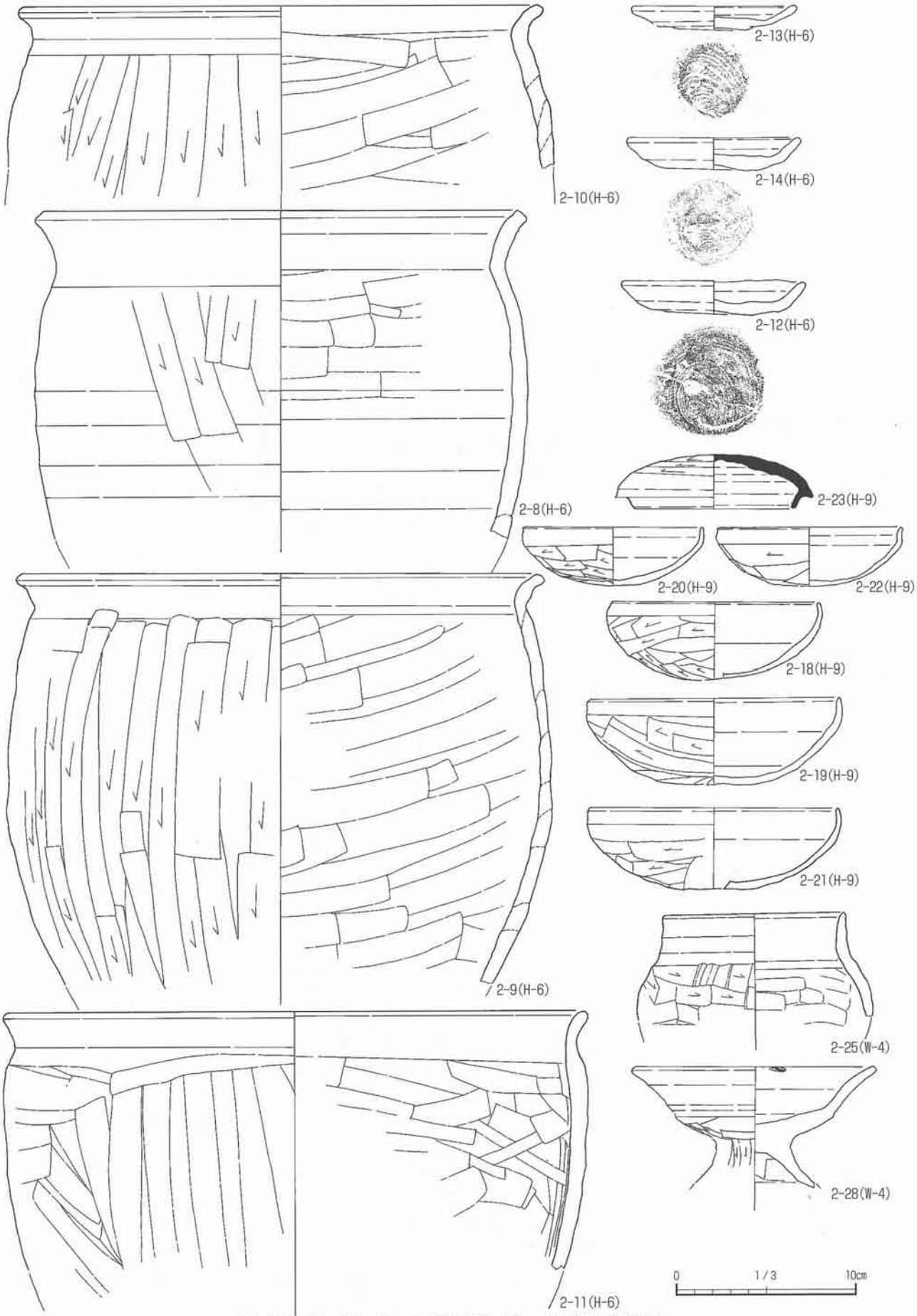


Fig.63　2区 H－6・9号住居跡、W－4号溝跡出土遺物

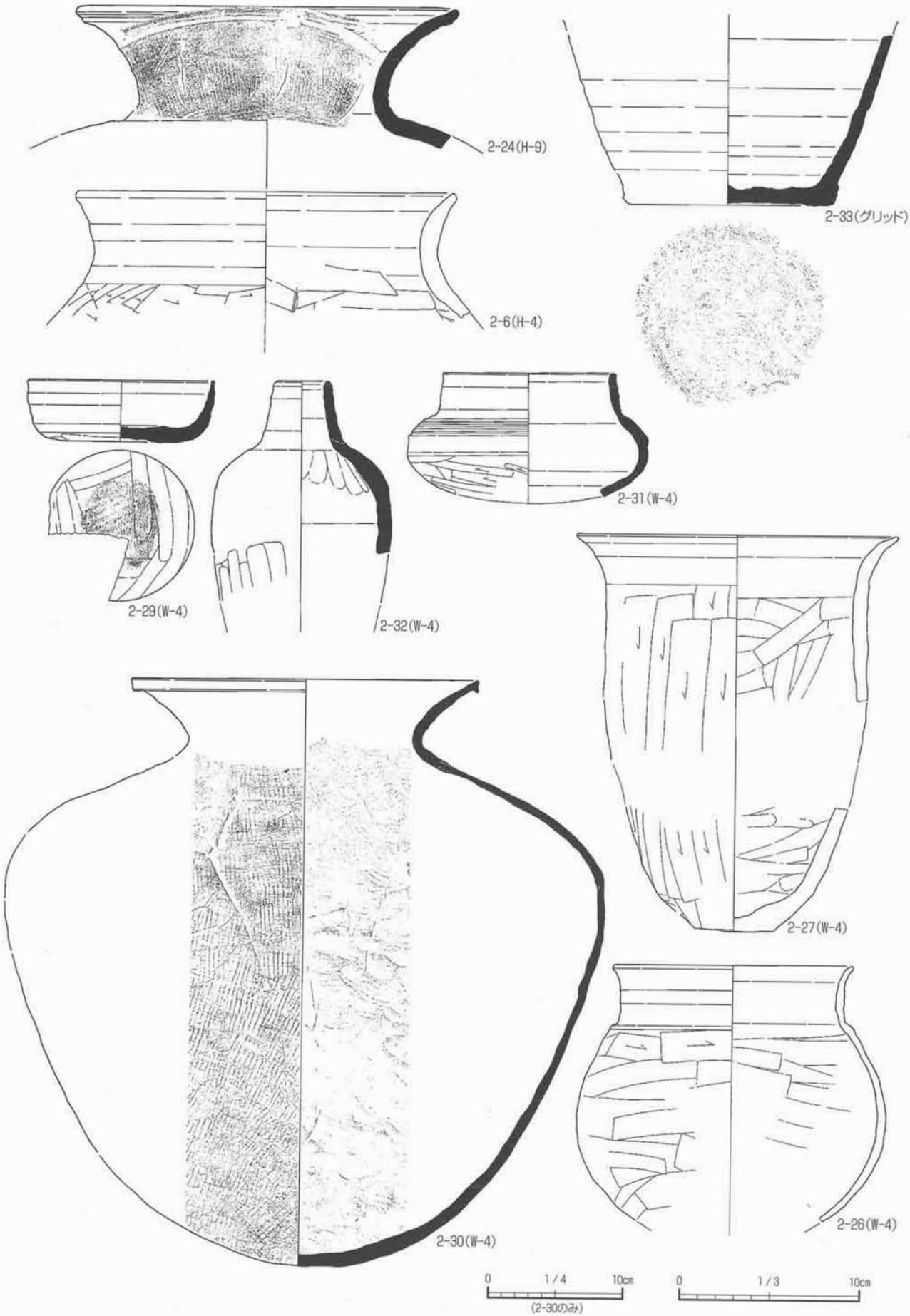


Fig.64　2区 H－4・9号住居跡、W－4号溝跡、グリッド出土遺物

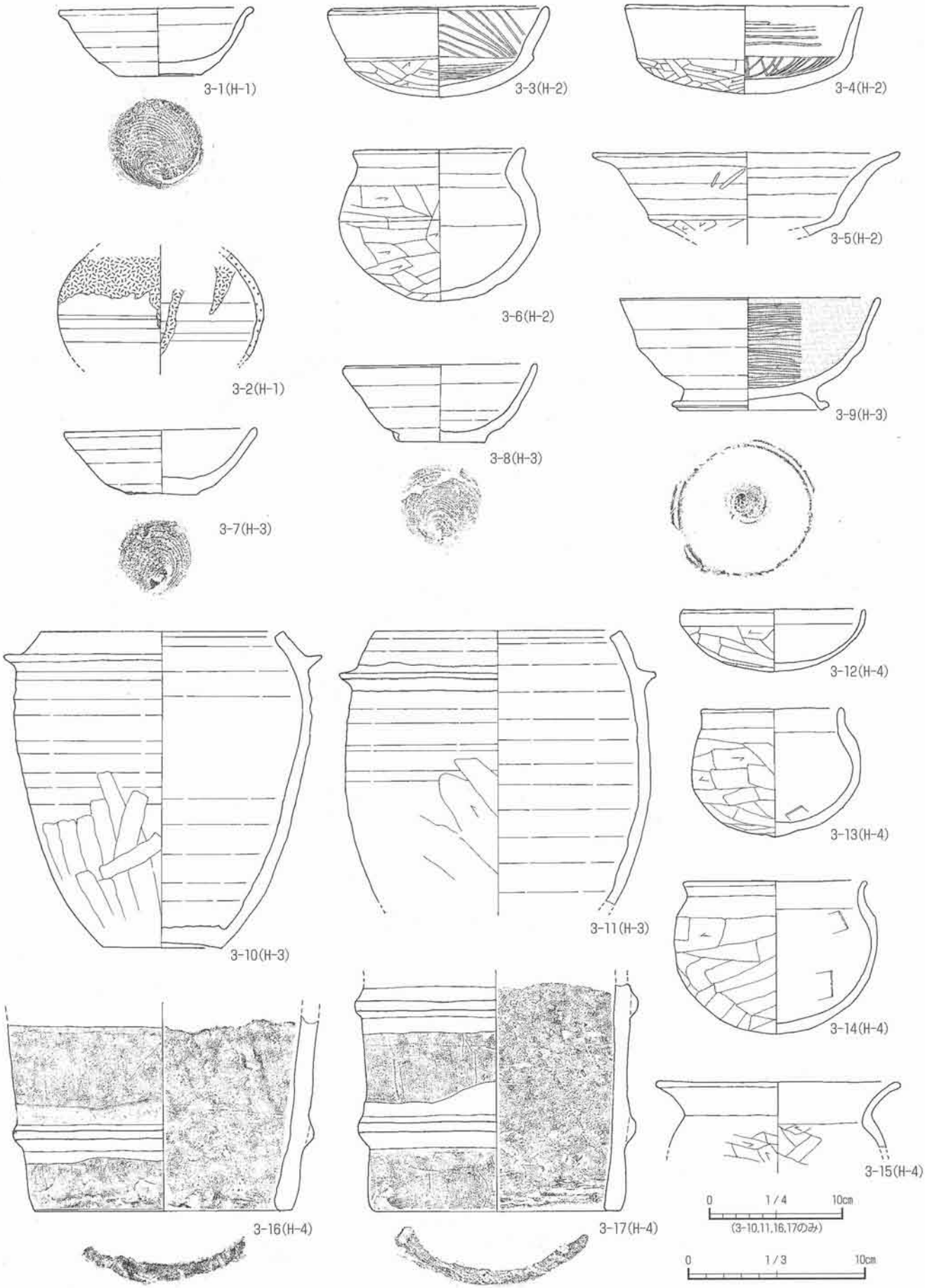


Fig.65　3区 H－1～4号住居跡出土遺物

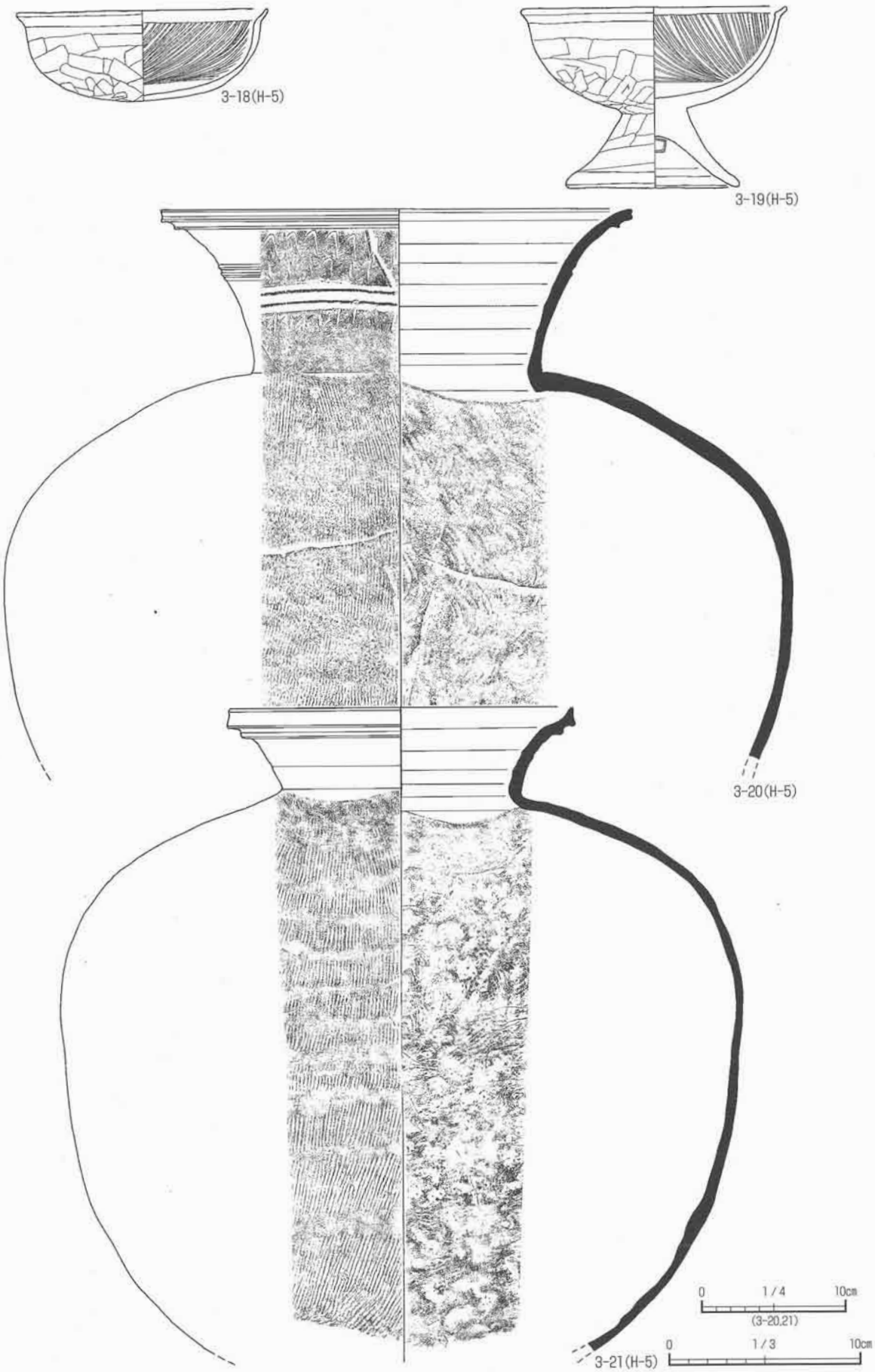


Fig.66　3区 H－5号住居跡出土遺物(1)

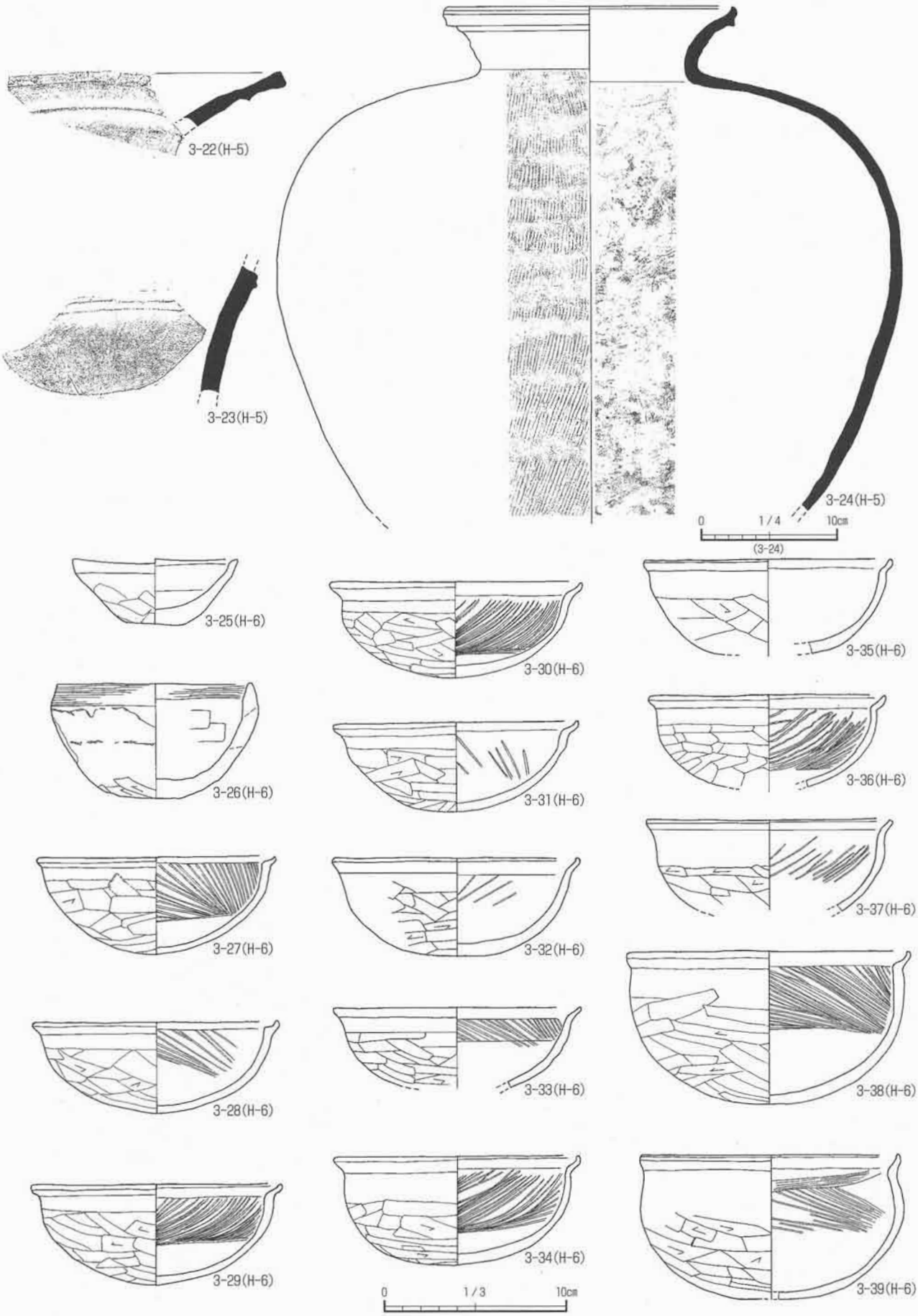


Fig.67　3区 H－5号住居跡出土遺物(2)

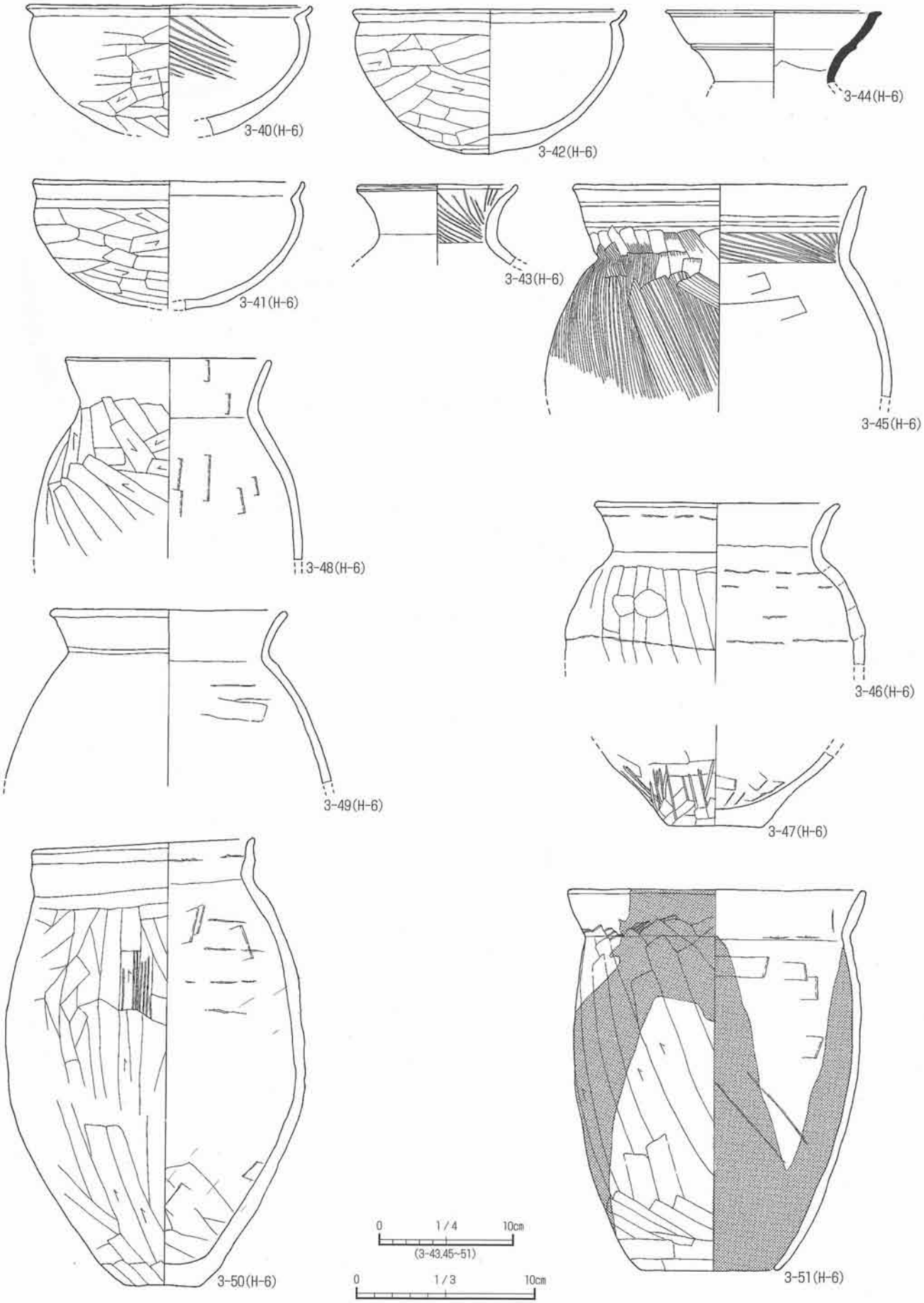


Fig.68　3区 H－6号住居跡出土遺物

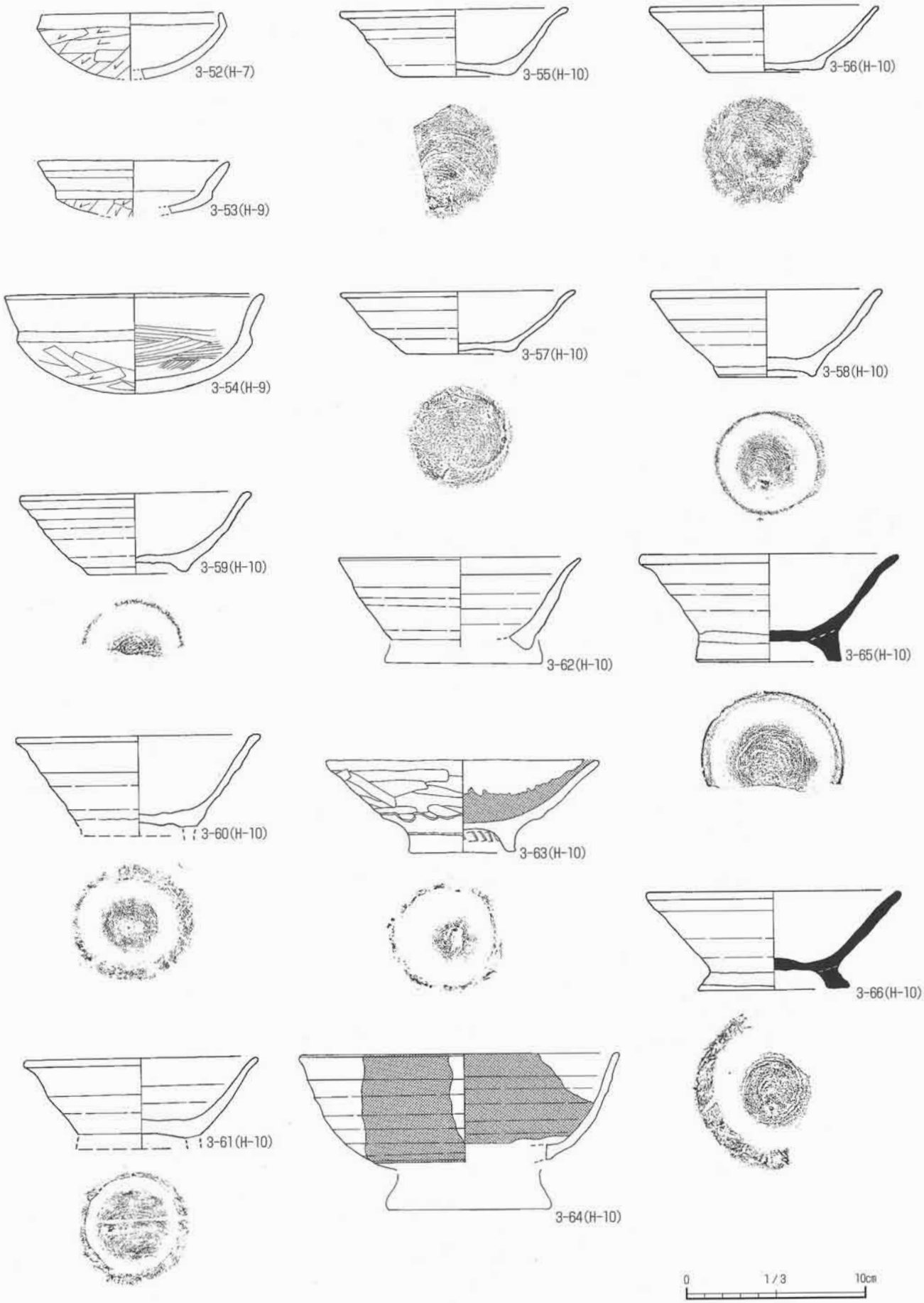


Fig.69　3区 H－7・9・10号住居跡出土遺物

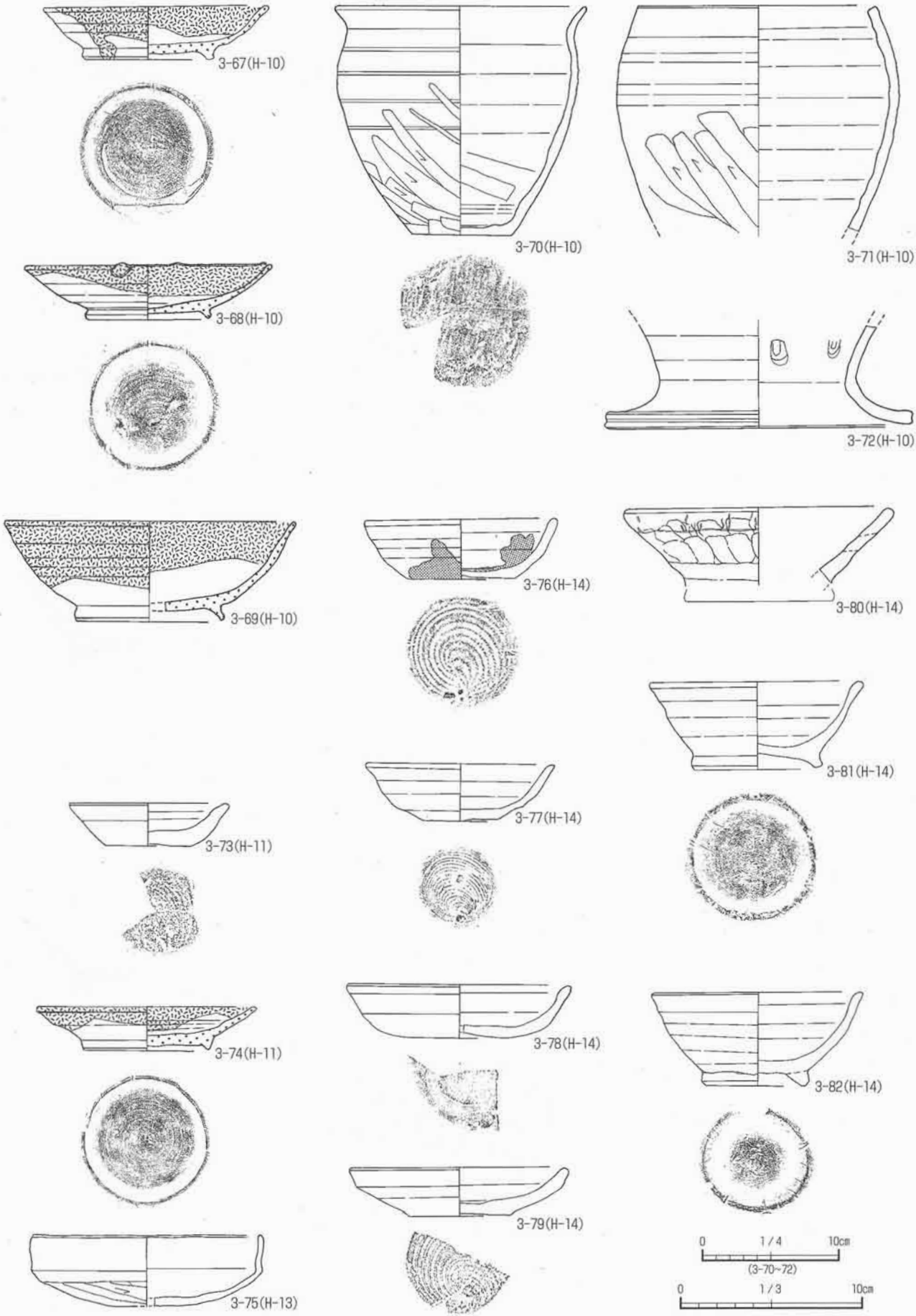


Fig.70　3区 H－10・11・13・14号住居跡出土遺物

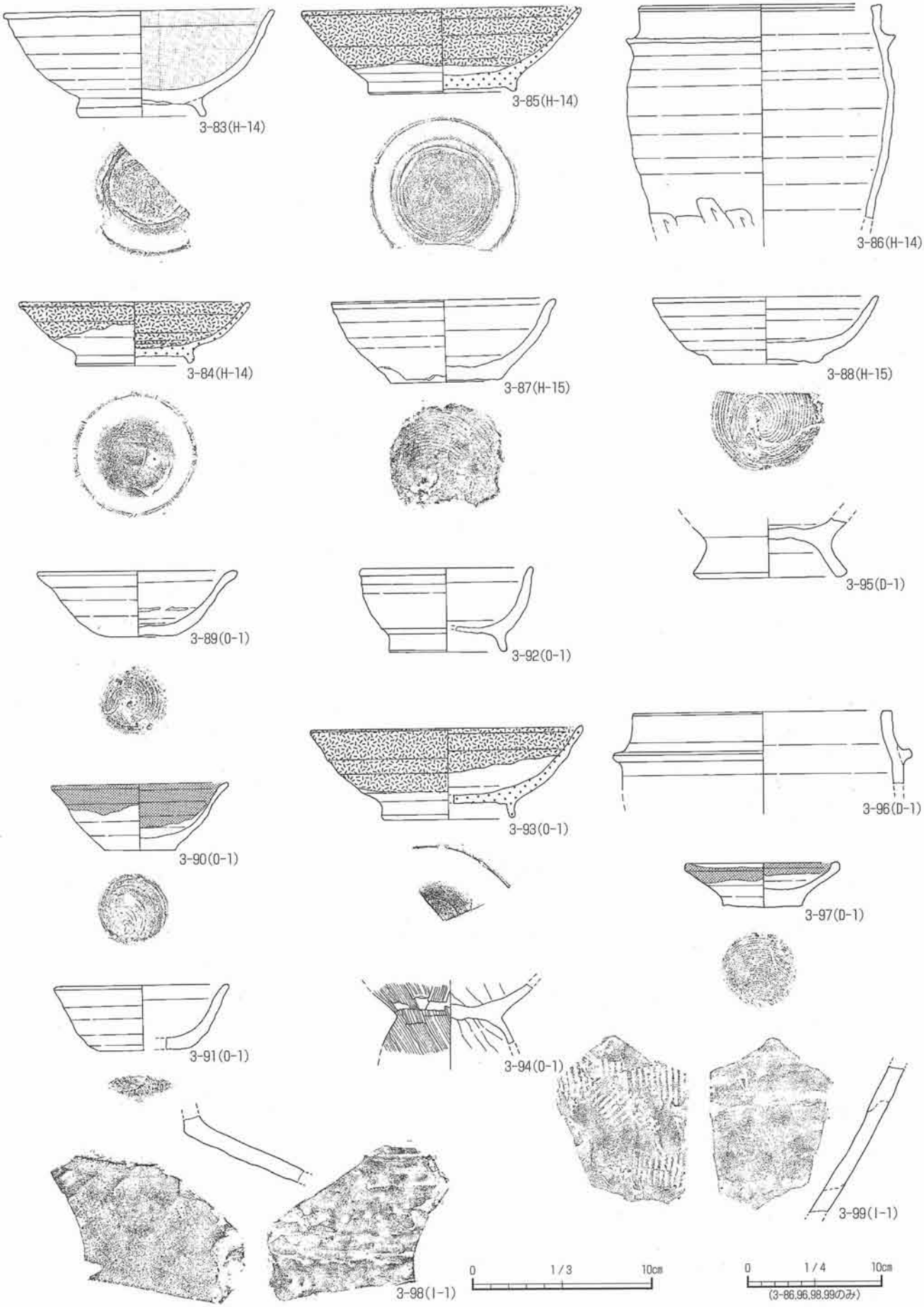


Fig.71　3区 H－14・15号住居跡、O－1号遺構、D－1号土坑、I－1号井戸跡出土遺物

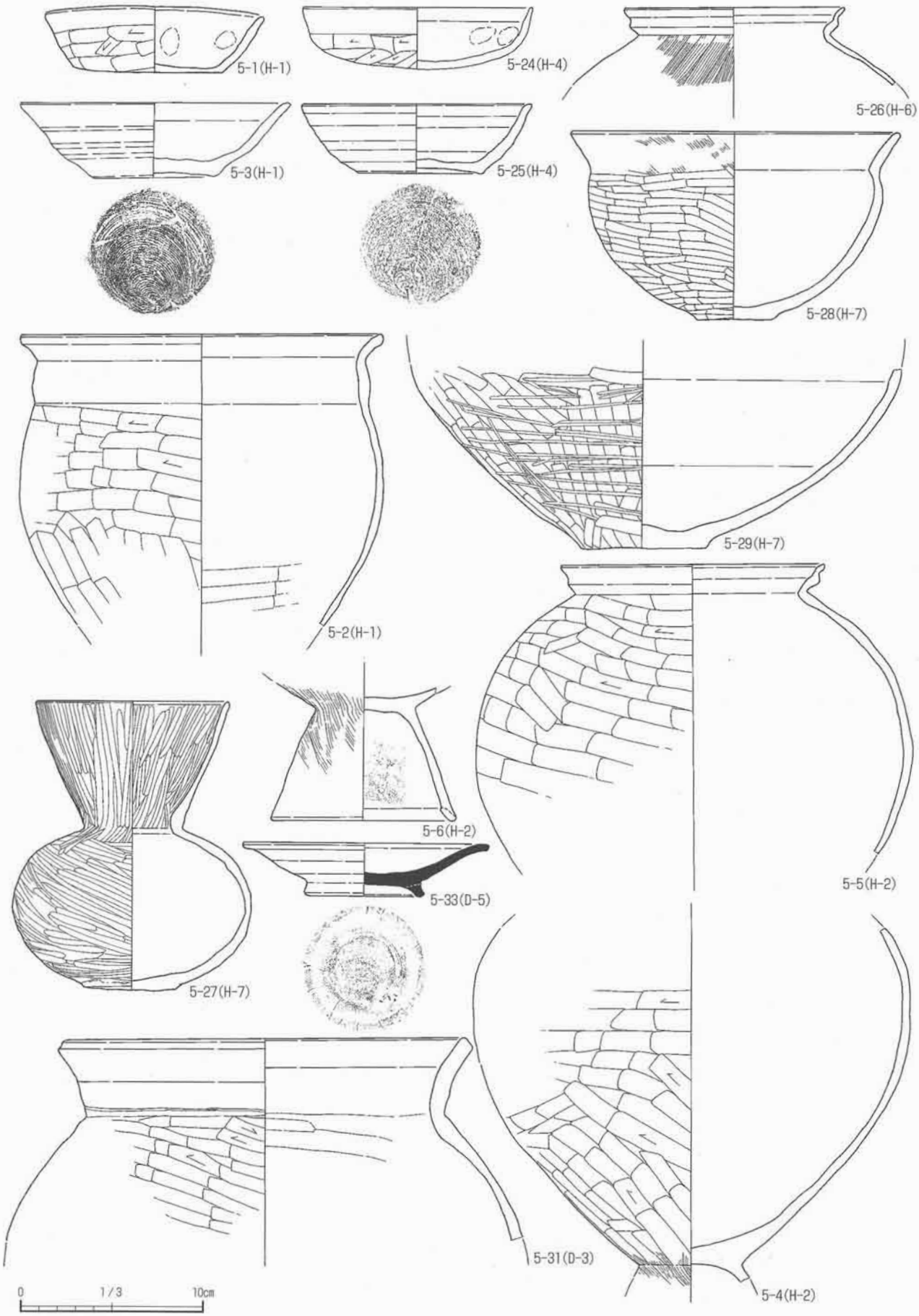


Fig.72　5区 H－1・2・4・6・7号住居跡、D－3・5号土坑出土遺物

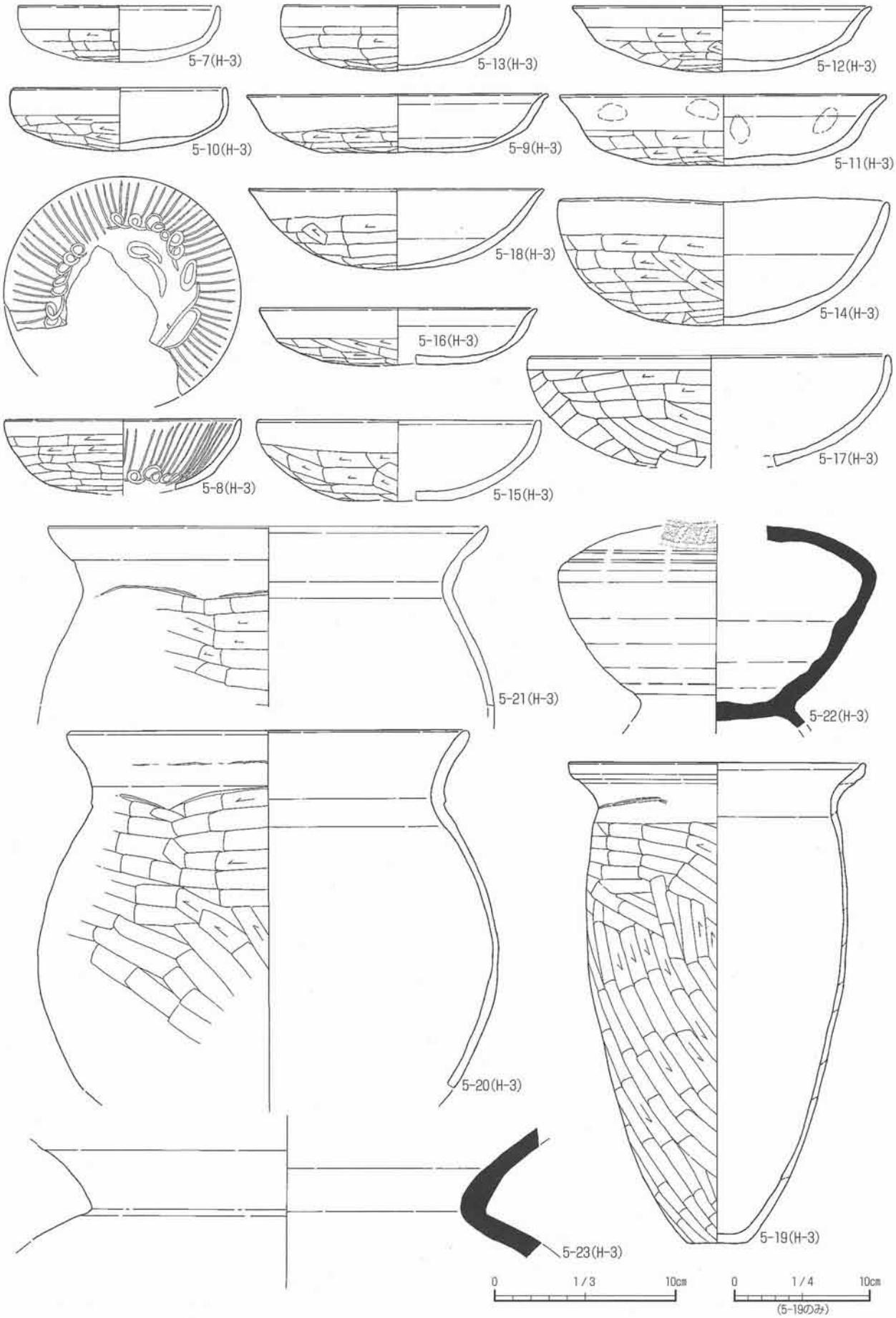


Fig.73　5区 H－3号住居跡出土遺物

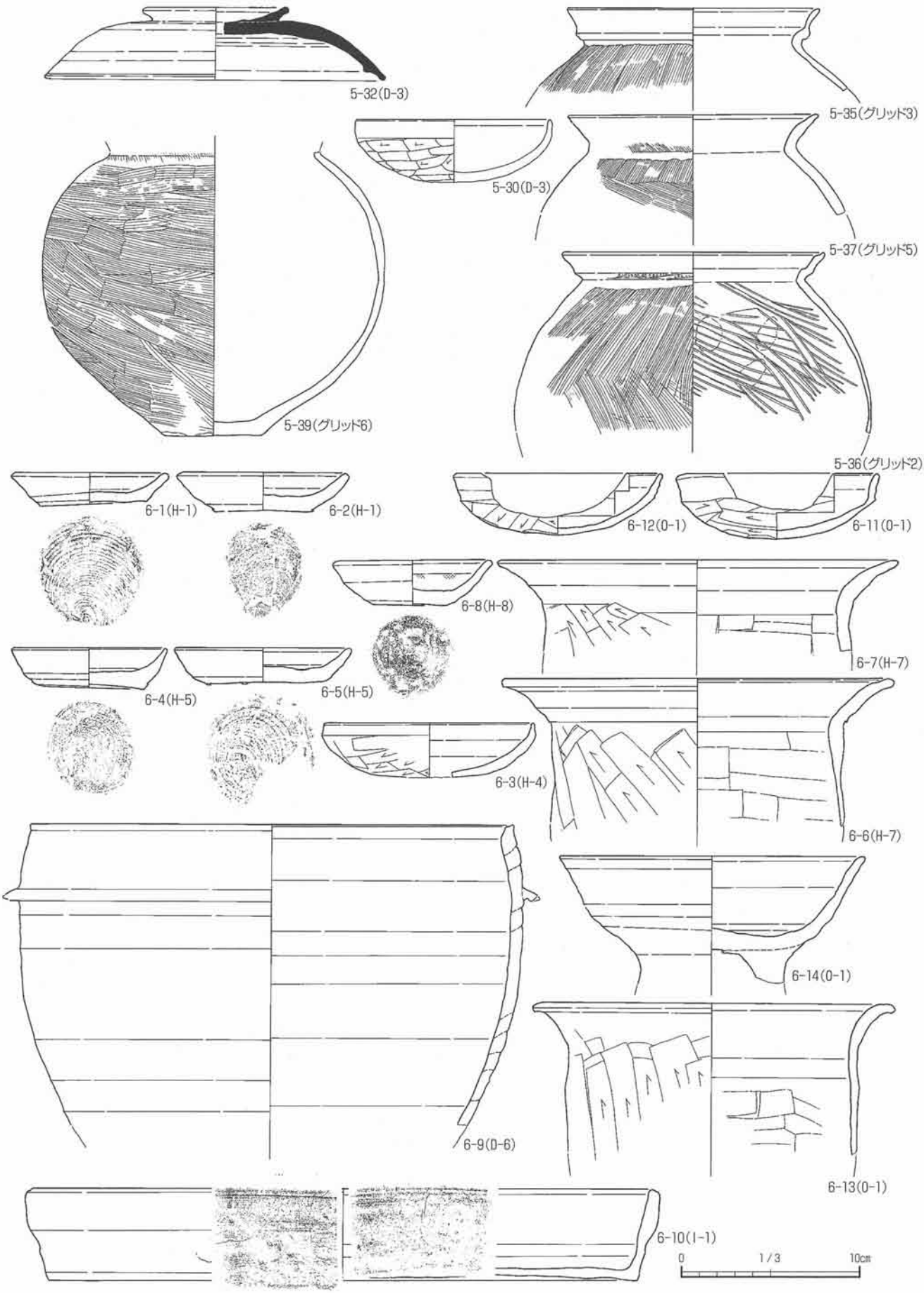


Fig.74　5区 D－3号土坑・グリッド、6区 H－1・4・5・7・8号住居跡、I－1号井戸跡、O－1号落ちこみ出土遺

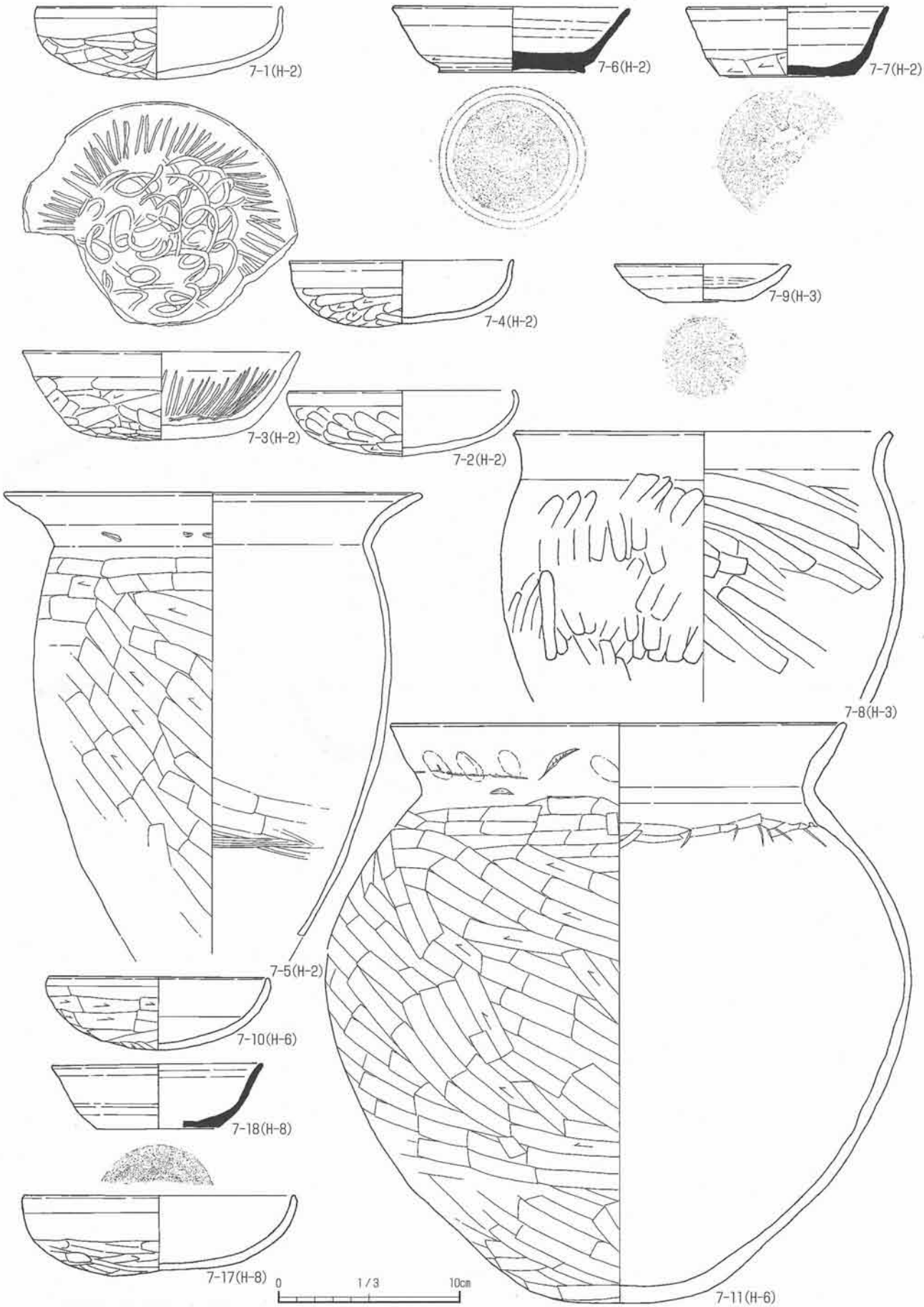


Fig.75　7区 H－2・3・6・8号住居跡出土遺物

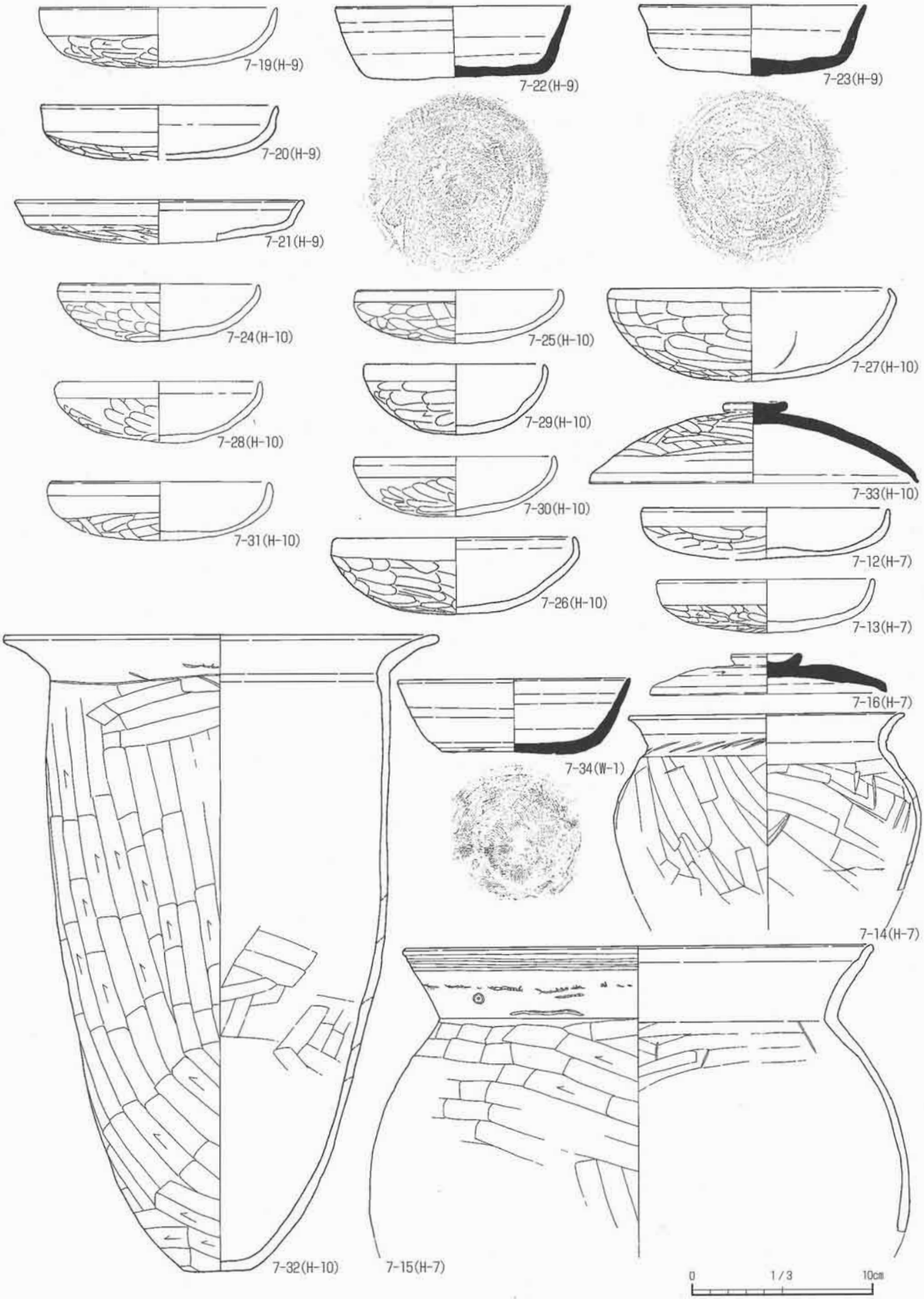


Fig.76　7区 H－7・9・10号住居跡、W－1号溝跡出土遺物

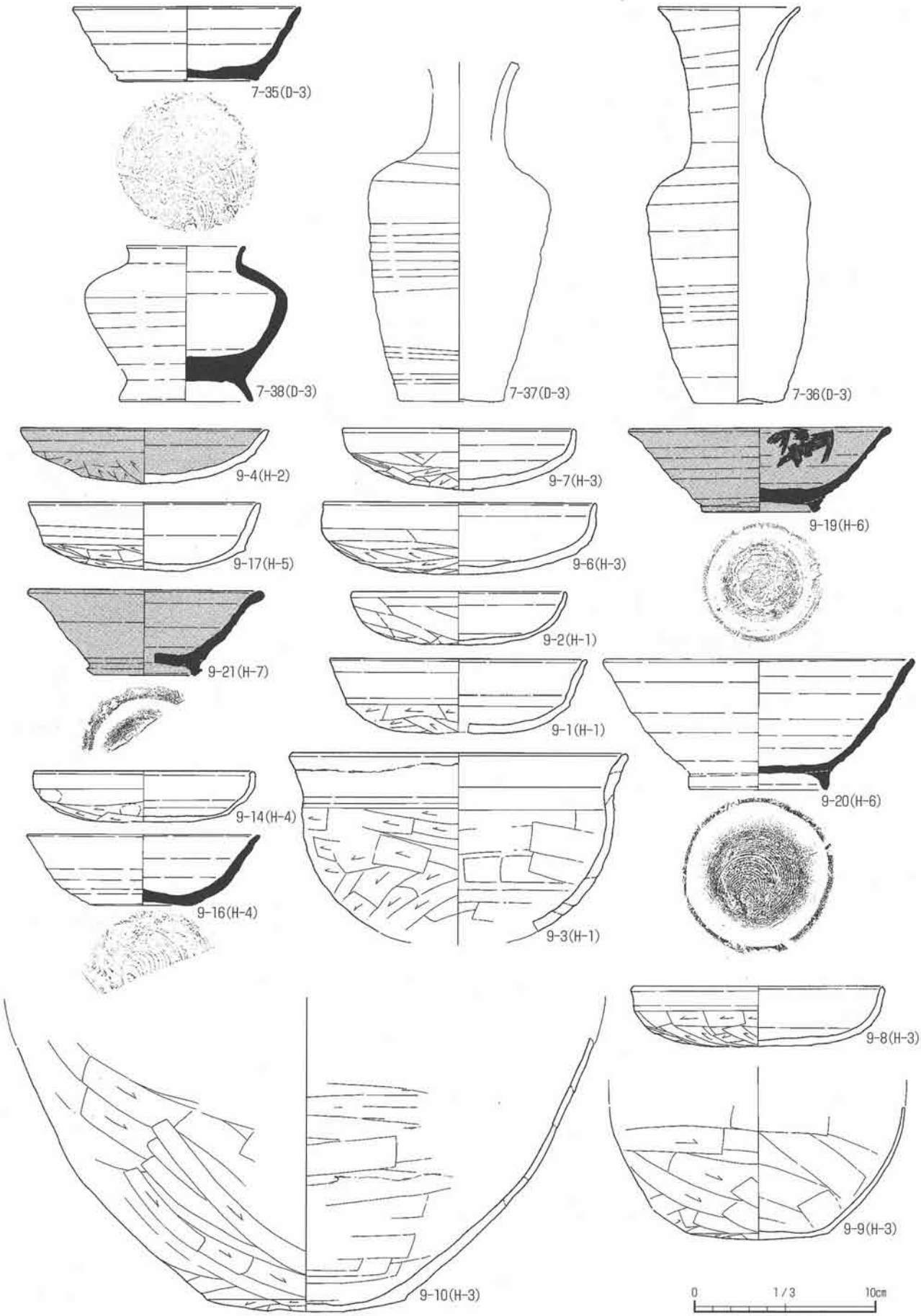


Fig.77　7区 D－3号土坑、9区 H－1～7号住居跡出土遺物

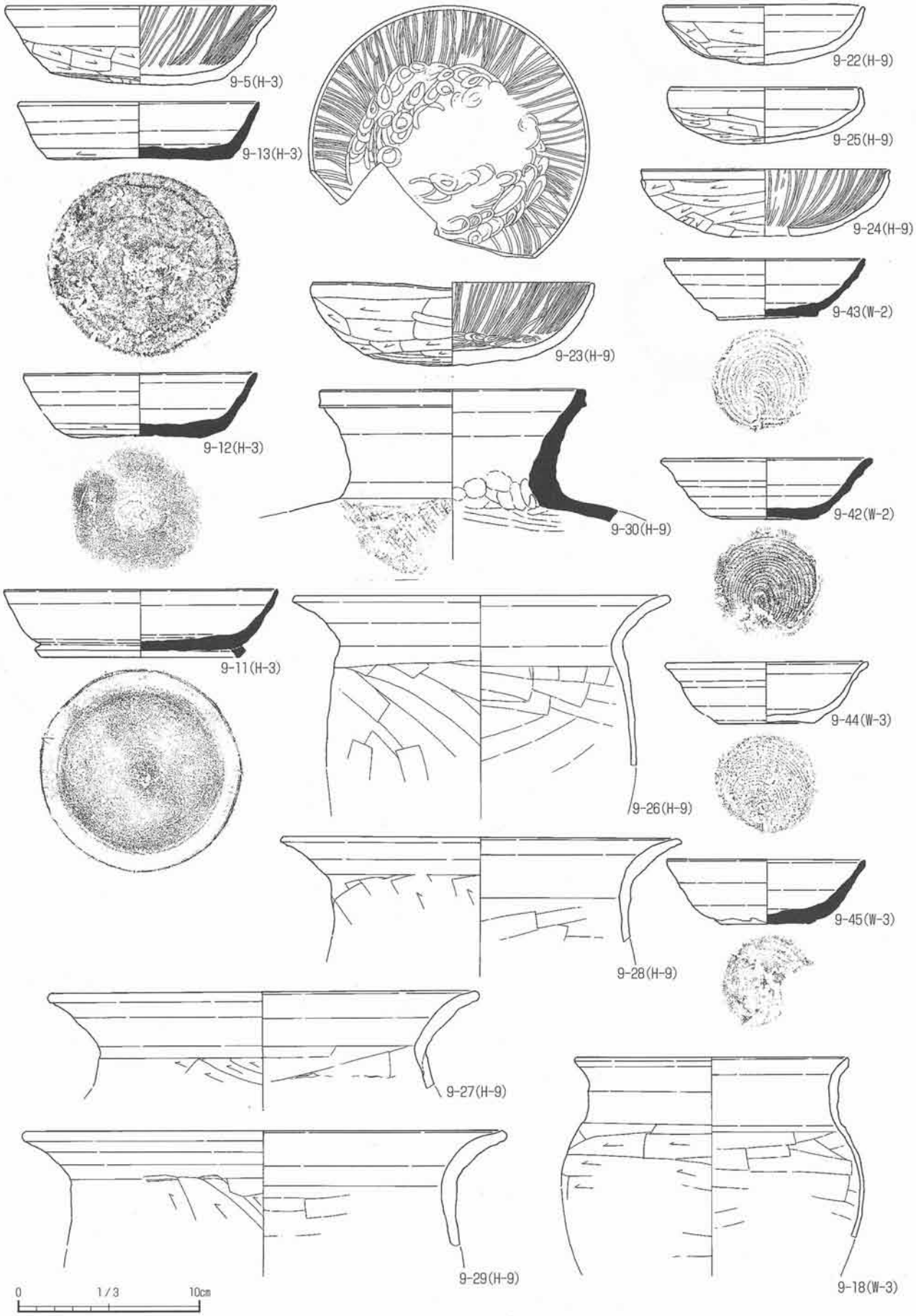


Fig.78　9区 H－3・9号住居跡、W－2・3号溝跡出土遺物

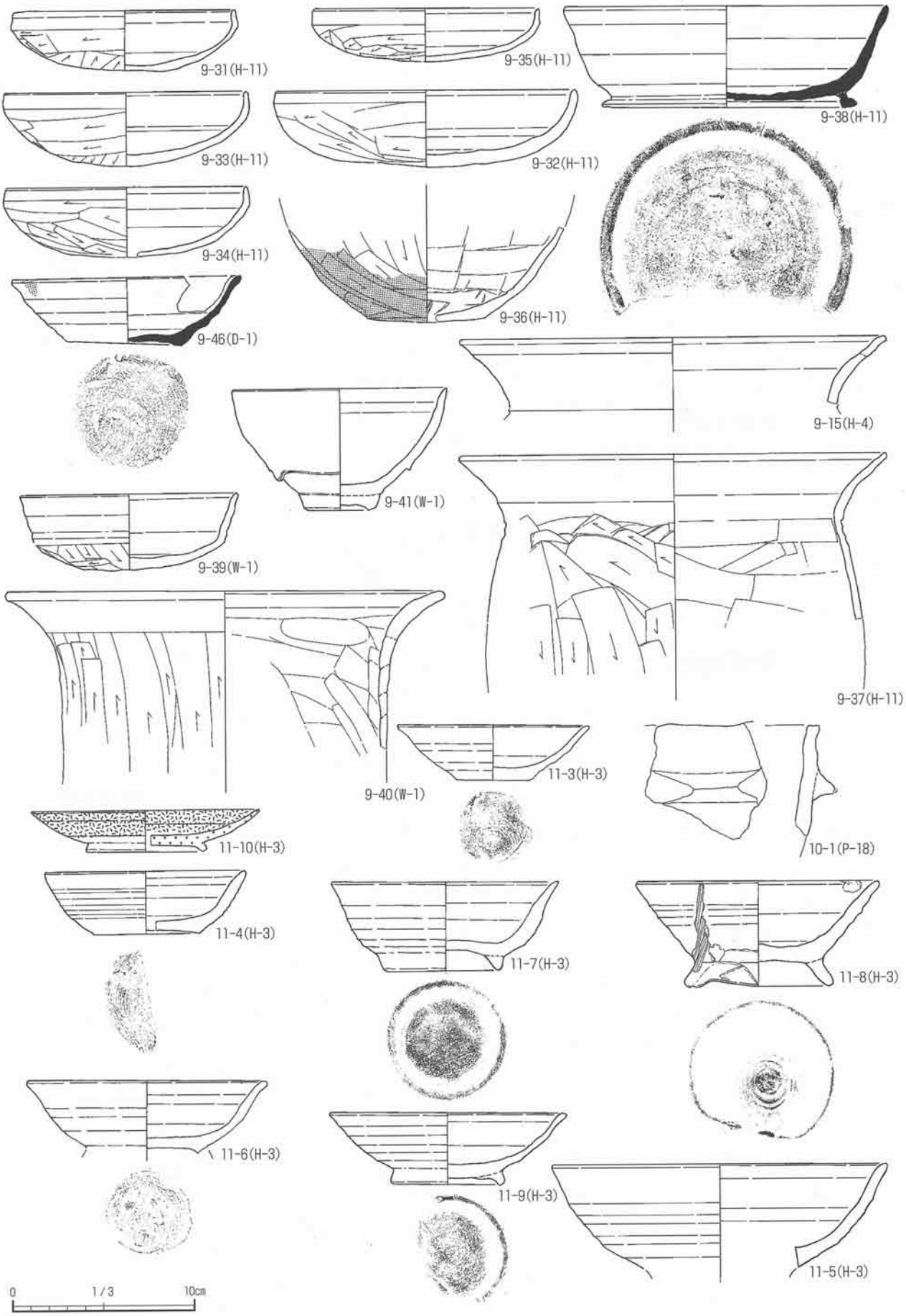


Fig.79　9区 H－4・11号住居跡、D－1号土坑、W－1号溝跡、10区 P－18ピット、11区 H－3号住居跡出土遺物

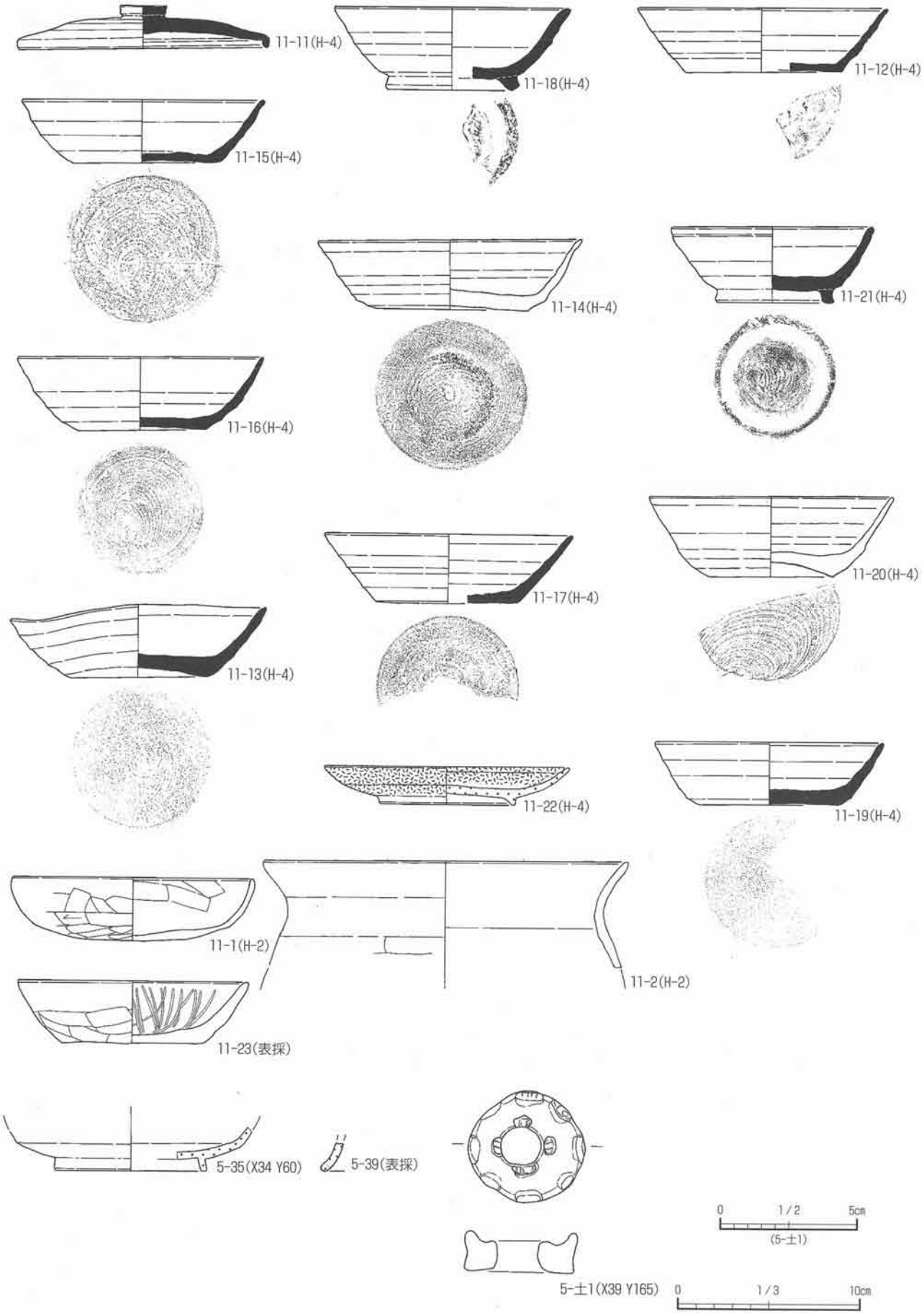


Fig.80　11区 H－2・4号住居跡、表採出土遺物・緑釉陶器・土製品

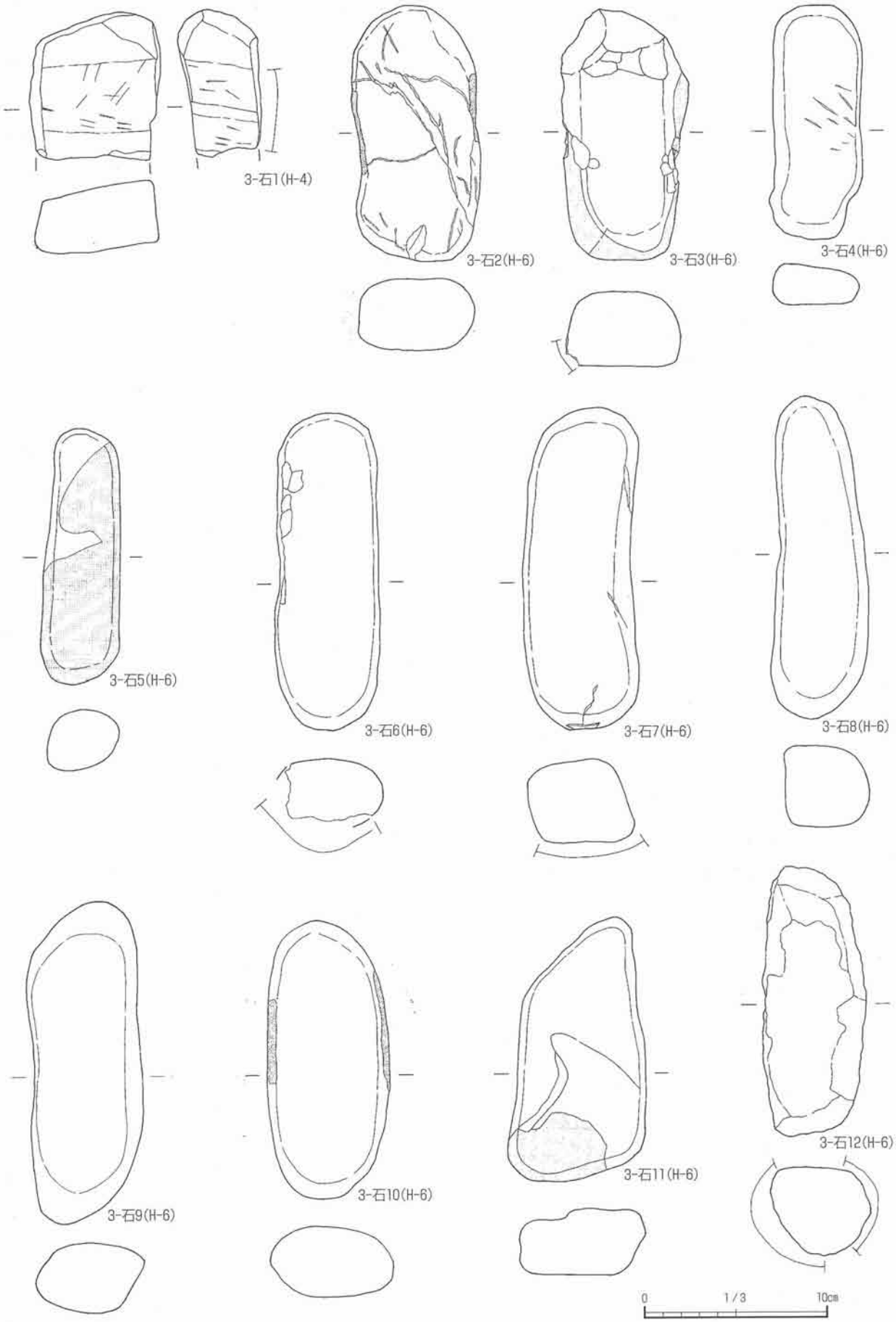

3-石1(H-4)
3-石2(H-6)
3-石3(H-6)
3-石4(H-6)
3-石5(H-6)
3-石6(H-6)
3-石7(H-6)
3-石8(H-6)
3-石9(H-6)
3-石10(H-6)
3-石11(H-6)
3-石12(H-6)
0
1/3
10cm

Fig.81　石製品(1)

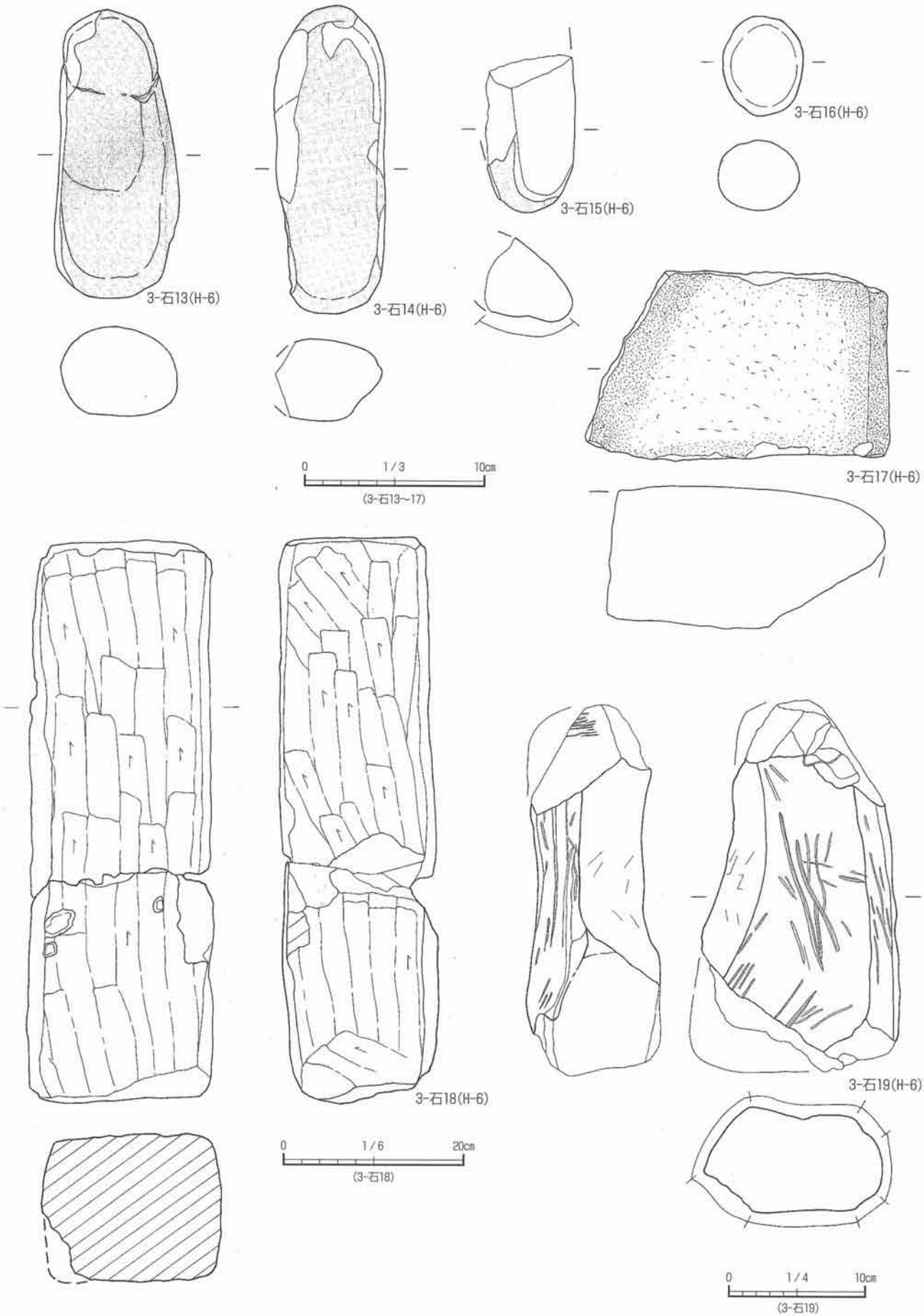

3-石13(H-6)
3-石14(H-6)
3-石15(H-6)
3-石16(H-6)
3-石17(H-6)
0 1/3 10cm
(3-石13~17)
3-石18(H-6)
0 1/6 20cm
(3-石18)
3-石19(H-6)
0 1/4 10cm
(3-石19)

Fig.82 石製品(2)

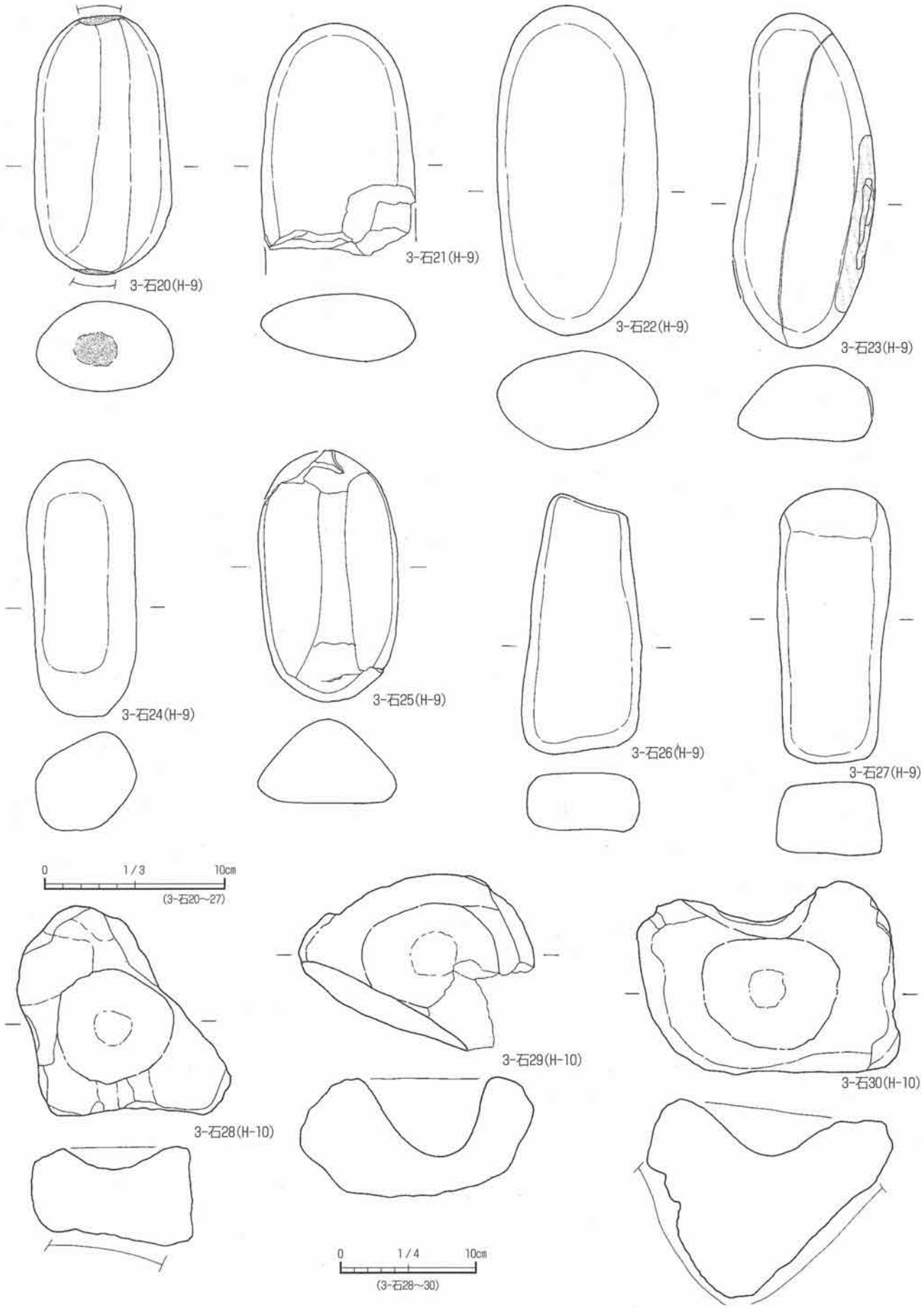

3-石20(H-9)
3-石21(H-9)
3-石22(H-9)
3-石23(H-9)
3-石24(H-9)
3-石25(H-9)
3-石26(H-9)
3-石27(H-9)
0 1/3 10cm
(3-石20~27)
3-石28(H-10)
3-石29(H-10)
3-石30(H-10)
0 1/4 10cm
(3-石28~30)

Fig.83 石製品(3)

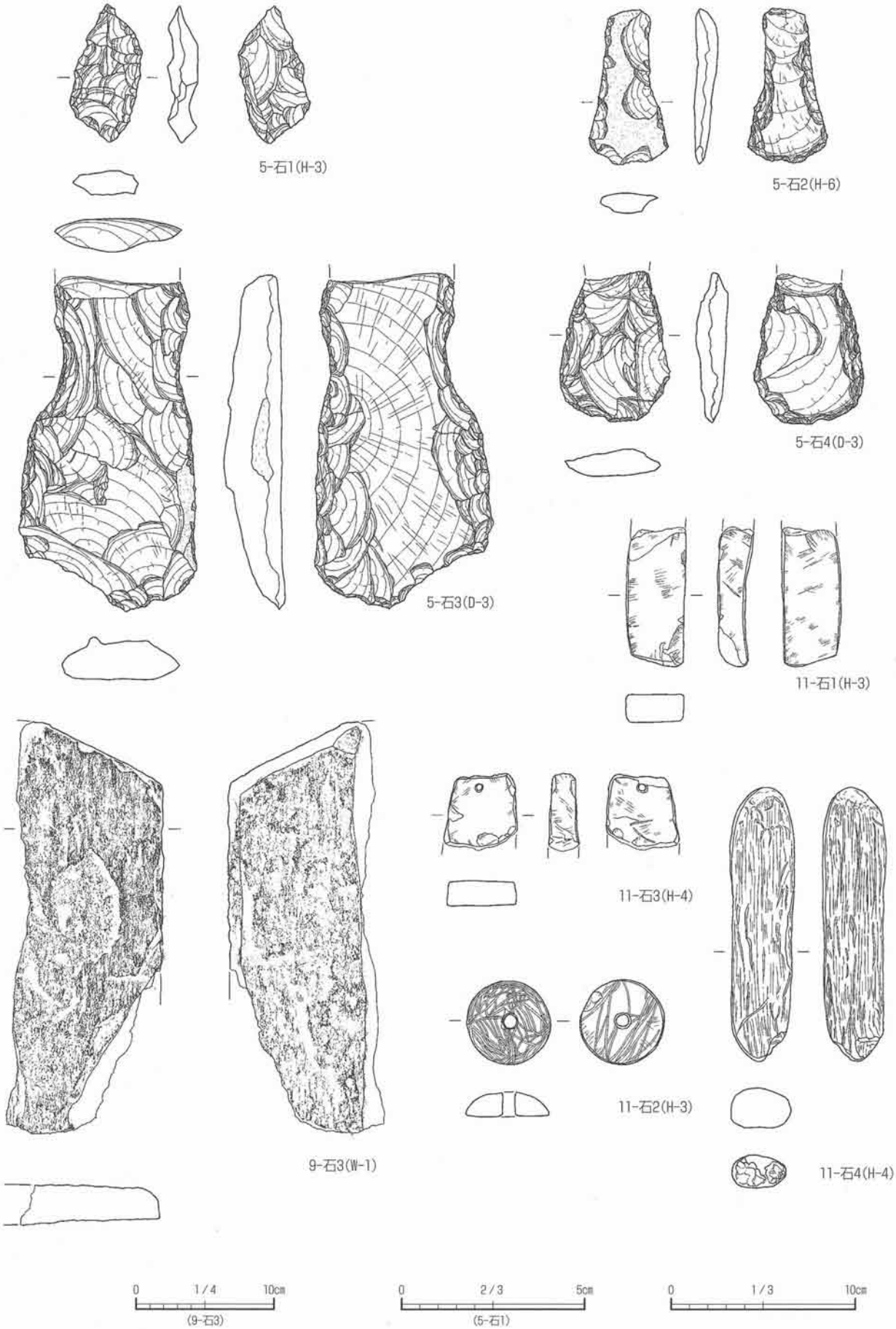

5-石1(H-3)
5-石2(H-6)
5-石3(D-3)
5-石4(D-3)
11-石1(H-3)
11-石3(H-4)
11-石2(H-3)
9-石3(W-1)
11-石4(H-4)
0 1/4 10cm
(9-石3)
0 2/3 5cm
(5-石1)
0 1/3 10cm

Fig.84 石製品(4)

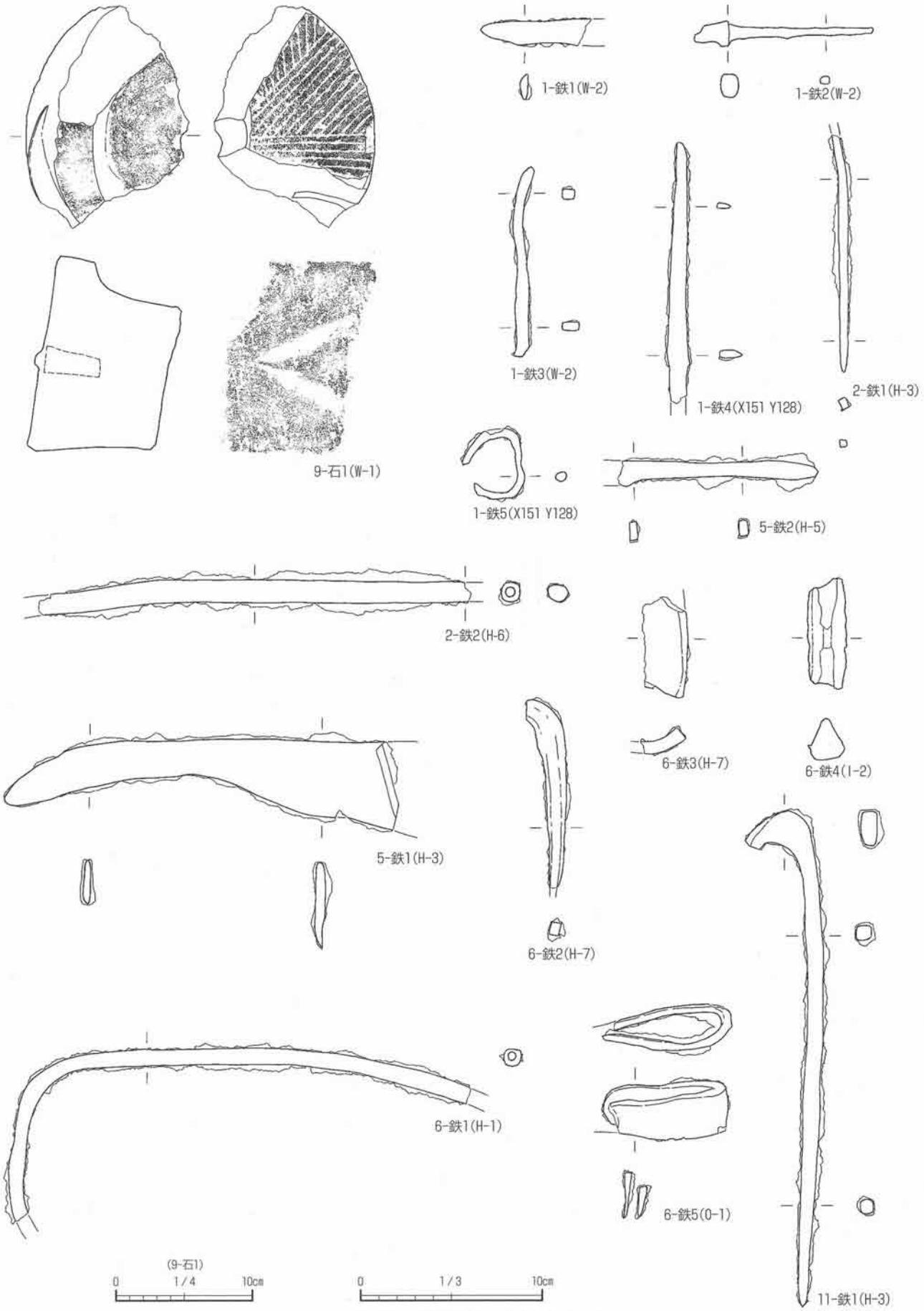


Fig.85 石製品(5)・鉄製品(1)

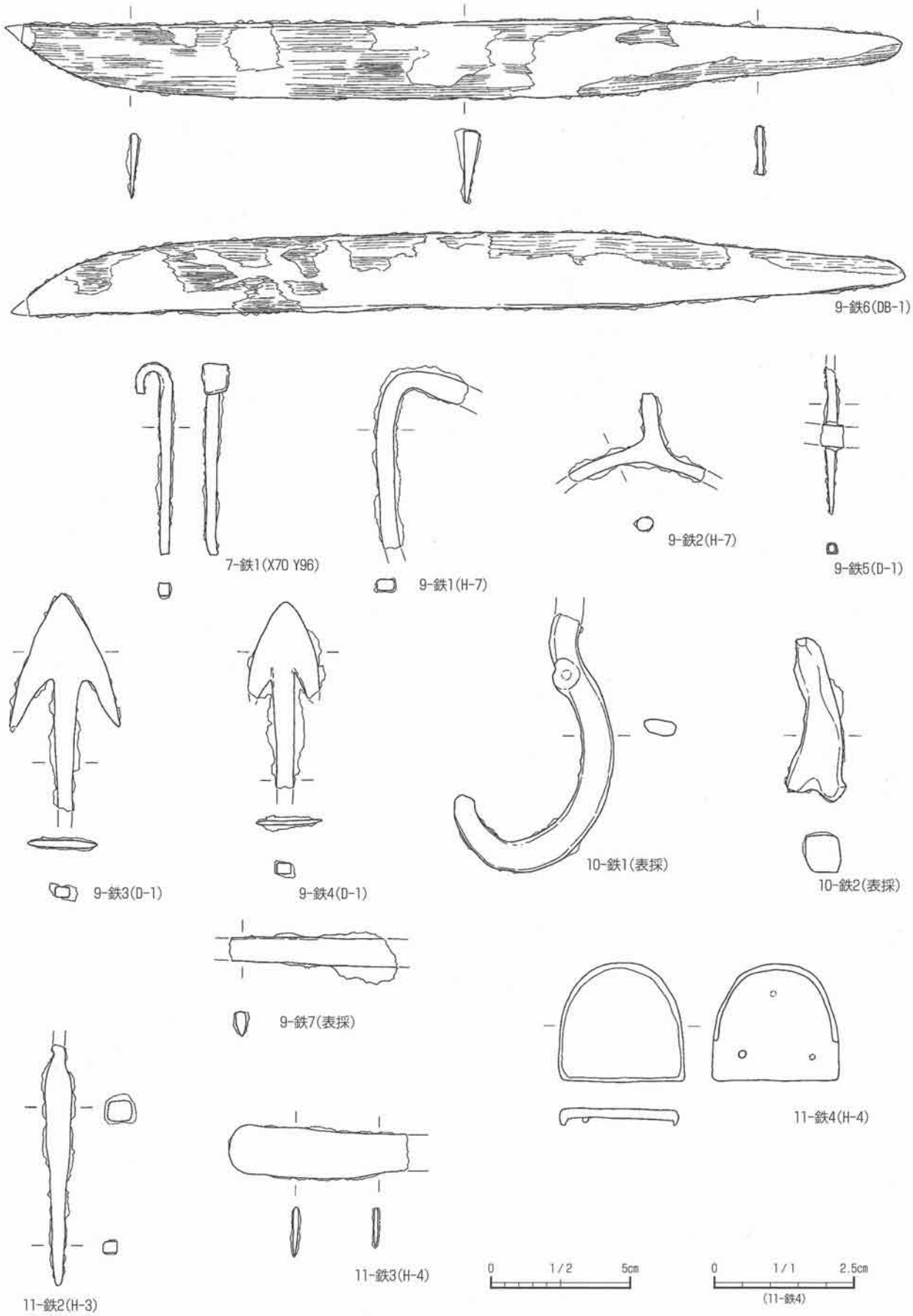

9-鉄6(DB-1)
7-鉄1(X70 Y96)
9-鉄1(H-7)
9-鉄2(H-7)
9-鉄5(D-1)
9-鉄3(D-1)
9-鉄4(D-1)
10-鉄1(表採)
10-鉄2(表採)
9-鉄7(表採)
11-鉄4(H-4)
11-鉄2(H-3)
11-鉄3(H-4)
0 1/2 5cm
0 1/1 2.5cm
(11-鉄4)

Fig.86　鉄製品(2)

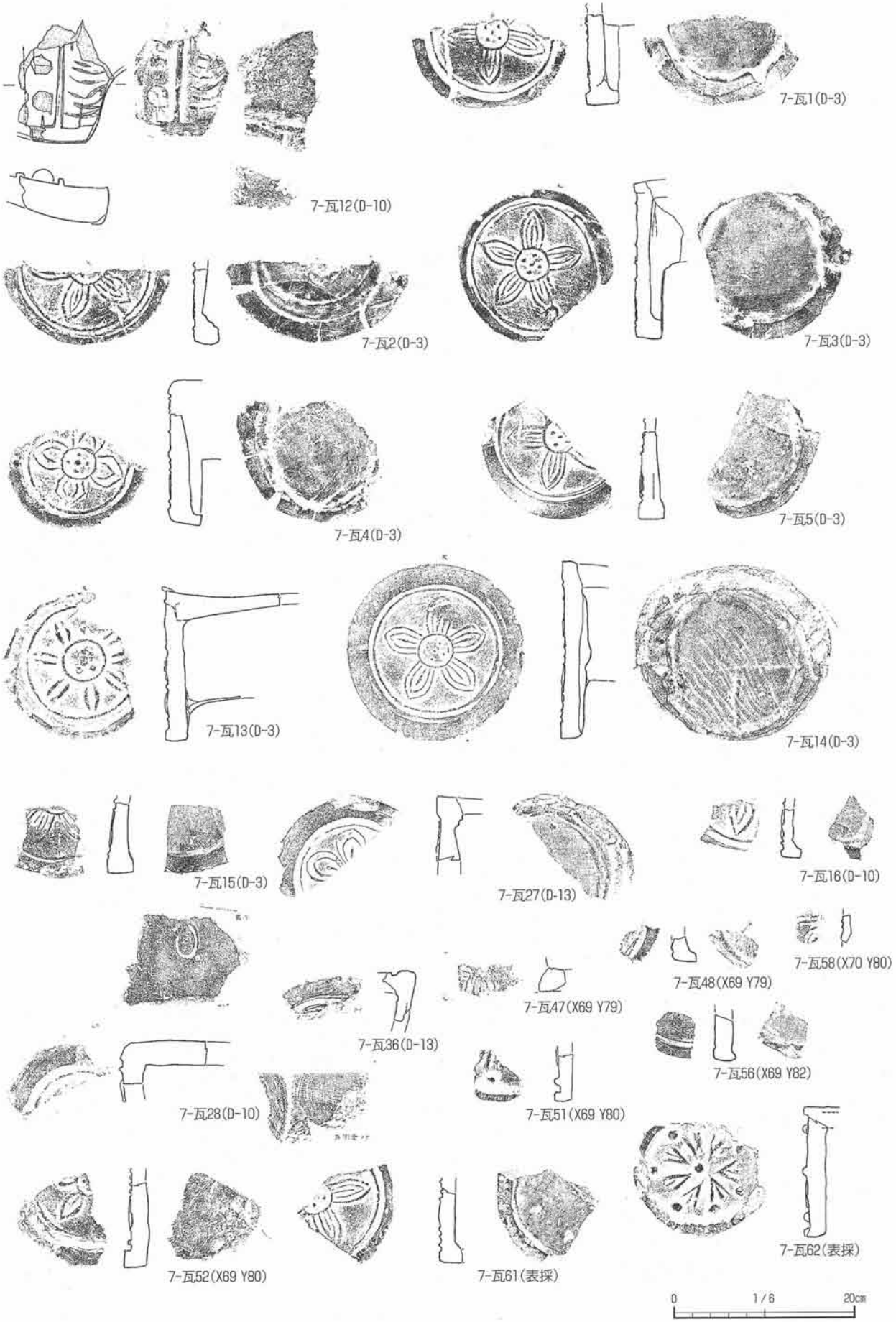

7-瓦1(D-3)
7-瓦12(D-10)
7-瓦2(D-3)
7-瓦3(D-3)
7-瓦4(D-3)
7-瓦5(D-3)
7-瓦13(D-3)
7-瓦14(D-3)
7-瓦15(D-3)
7-瓦27(D-13)
7-瓦16(D-10)
7-瓦58(X70 Y80)
7-瓦48(X69 Y79)
7-瓦47(X69 Y79)
7-瓦36(D-13)
7-瓦56(X69 Y82)
7-瓦28(D-10)
7-瓦51(X69 Y80)
7-瓦62(表採)
7-瓦52(X69 Y80)
7-瓦61(表採)
0
1/6
20cm

Fig.87　瓦(1)

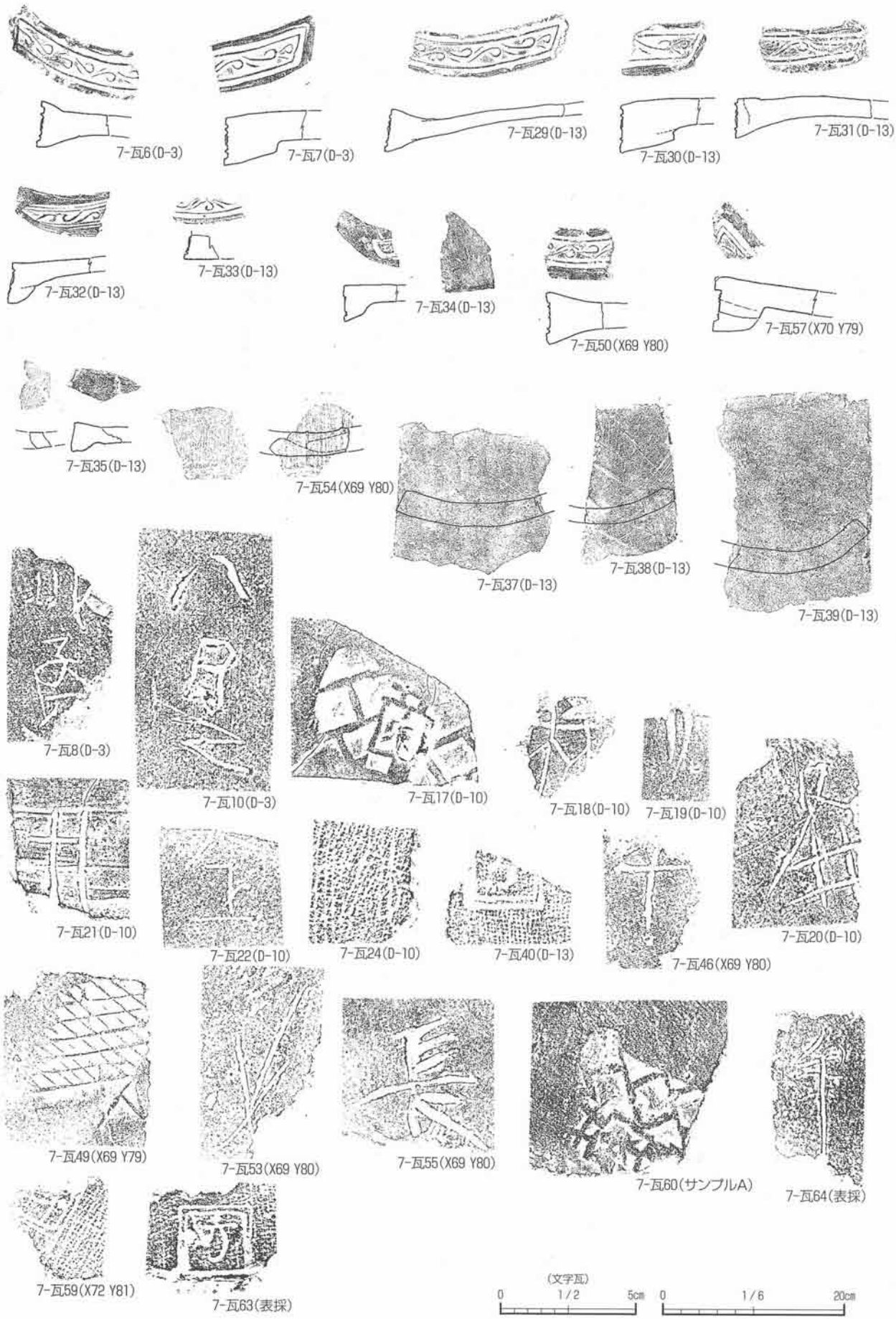
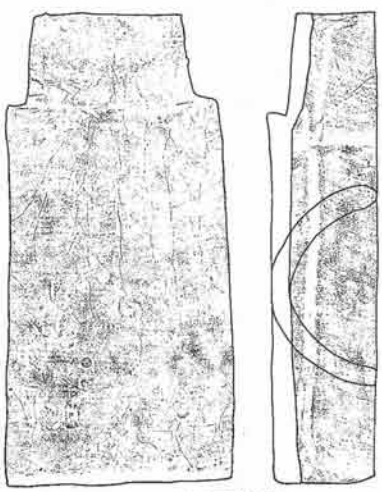
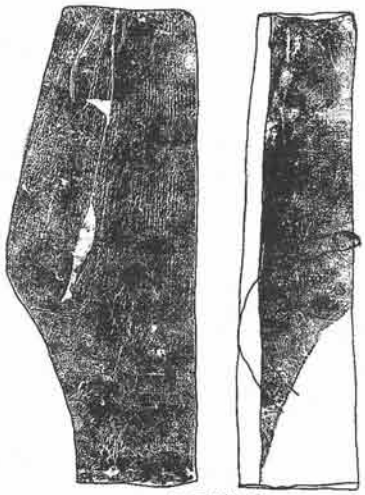

7-瓦6(D-3)
7-瓦7(D-3)
7-瓦29(D-13)
7-瓦30(D-13)
7-瓦31(D-13)
7-瓦32(D-13)
7-瓦33(D-13)
7-瓦34(D-13)
7-瓦50(X69 Y80)
7-瓦57(X70 Y79)
7-瓦35(D-13)
7-瓦54(X69 Y80)
7-瓦37(D-13)
7-瓦38(D-13)
7-瓦39(D-13)
7-瓦8(D-3)
7-瓦10(D-3)
7-瓦17(D-10)
7-瓦18(D-10)
7-瓦19(D-10)
7-瓦21(D-10)
7-瓦22(D-10)
7-瓦24(D-10)
7-瓦40(D-13)
7-瓦46(X69 Y80)
7-瓦20(D-10)
7-瓦49(X69 Y79)
7-瓦53(X69 Y80)
7-瓦55(X69 Y80)
7-瓦60(サンプルA)
7-瓦64(表採)
7-瓦59(X72 Y81)
7-瓦63(表採)
(文字瓦)
0 1/2 5cm
0 1/6 20cm

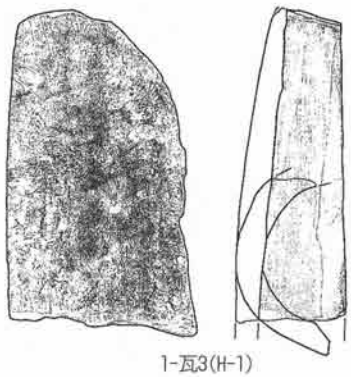
Fig.88 瓦(2)



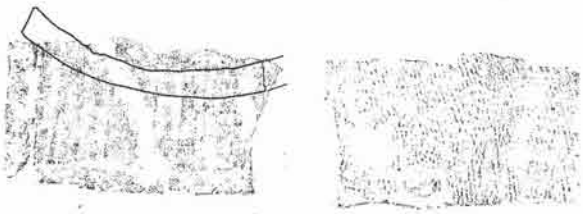
1-瓦1(H-1)



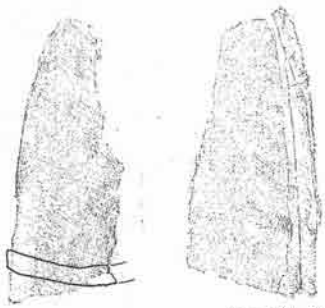
1-瓦2(H-1)



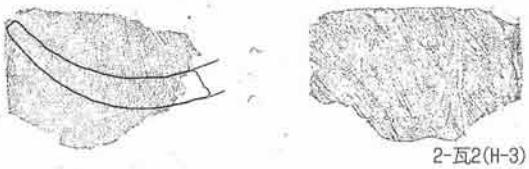
1-瓦3(H-1)



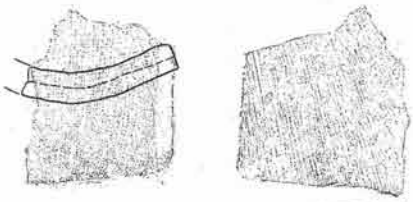
2-瓦1(H-3)



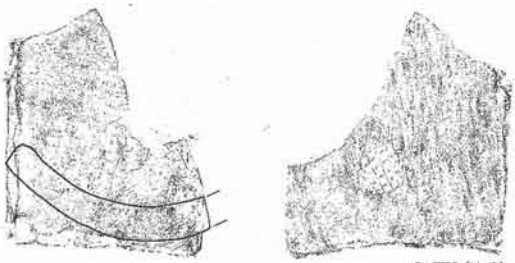
2-瓦4(H-6)



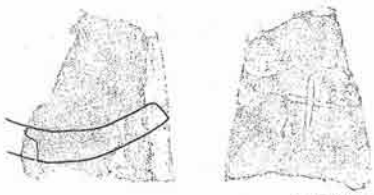
2-瓦2(H-3)



2-瓦3(H-3)



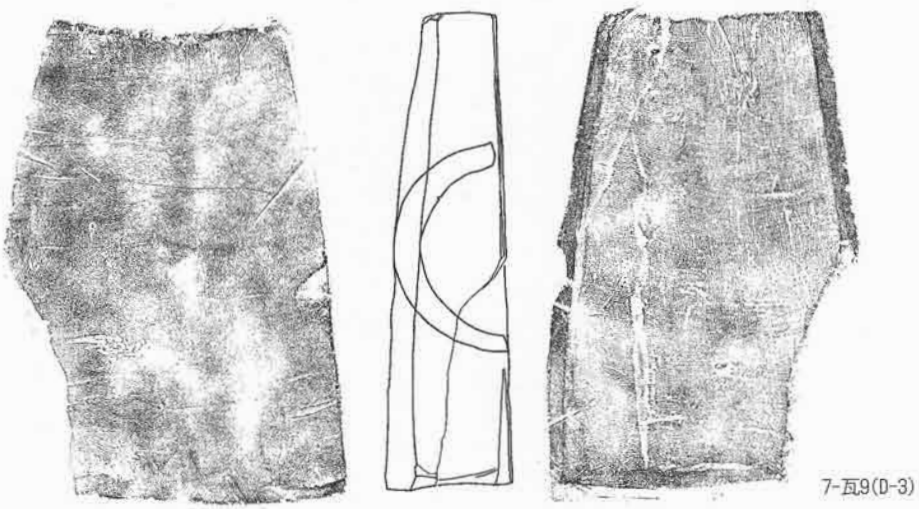
9-瓦1(H-6)



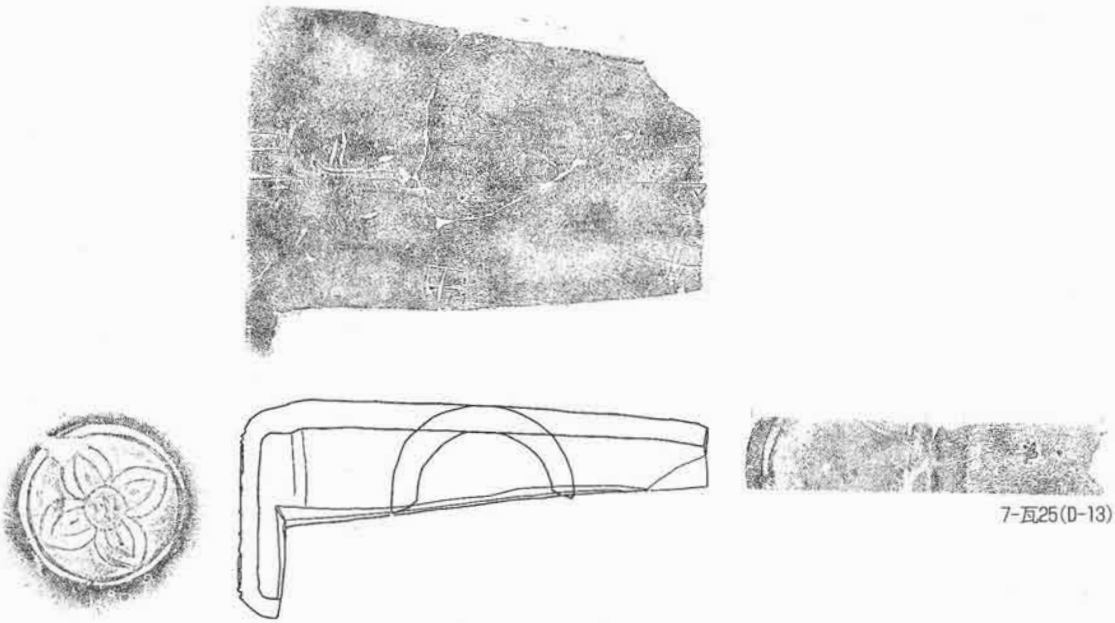
9-瓦2(W-1)

0 1/6 20cm

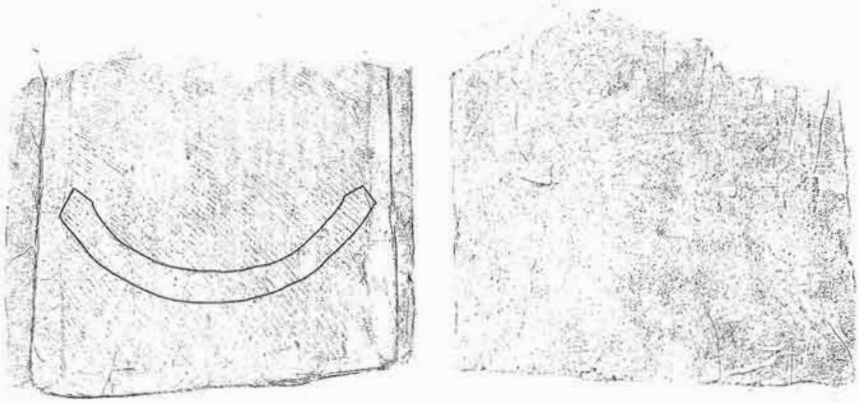
Fig.89 瓦(3)



7-瓦9(D-3)



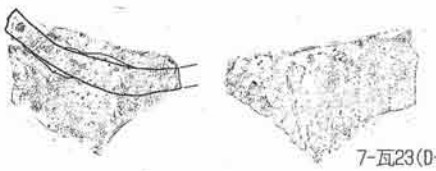
7-瓦25(D-13)



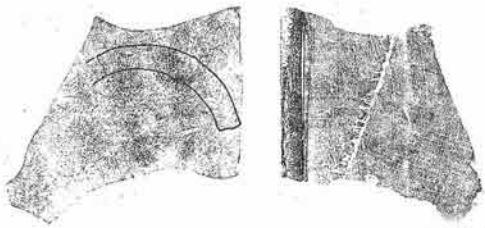
7-瓦11(D-3)

0 1/6 20cm

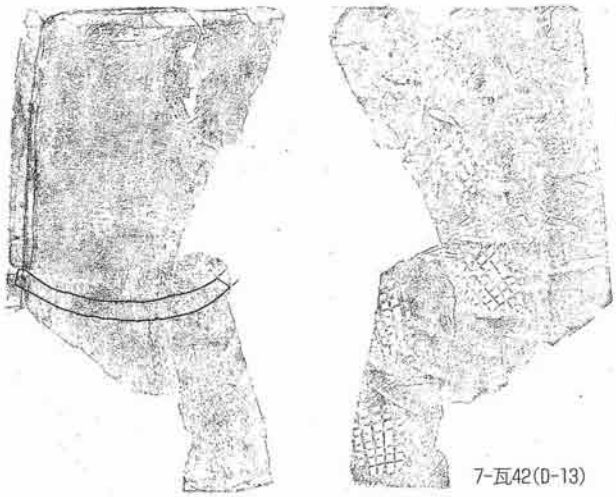
Fig.90 瓦(4)



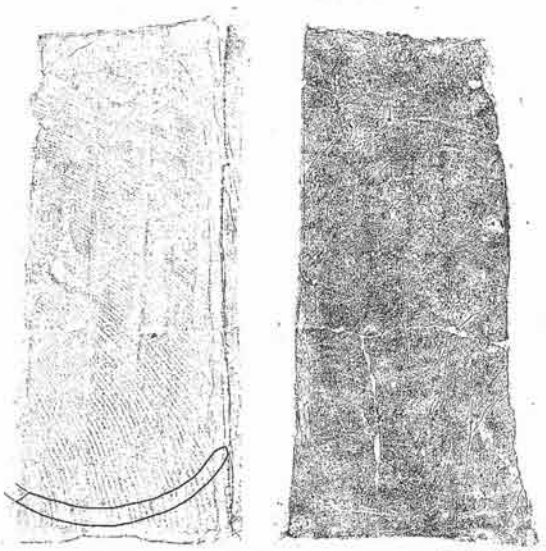
7-瓦23(D-10)



7-瓦26(D-10)



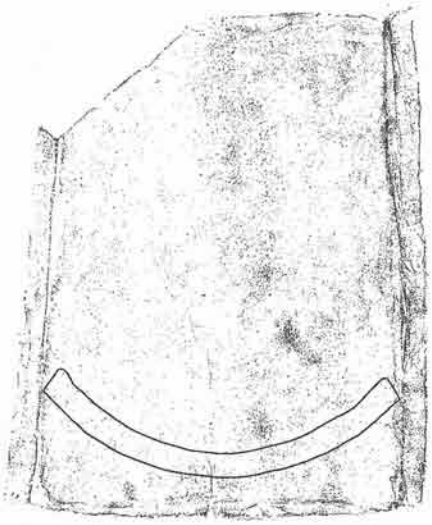
7-瓦42(D-13)



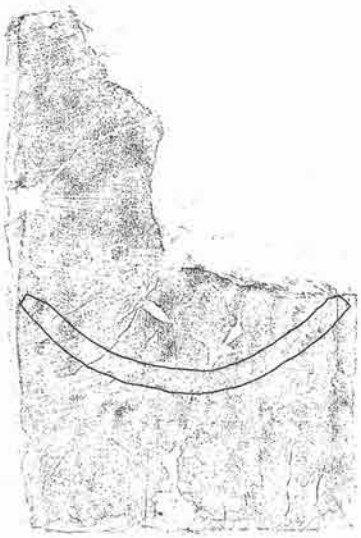
7-瓦44(D-13)

0 1/6 20cm

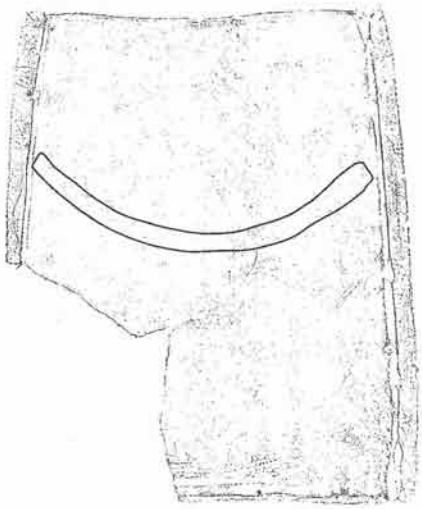
Fig.91 瓦(5)



7-瓦41(D-13)



7-瓦43(D-13)



7-瓦45(D-13)

0 1/6 20cm

Fig.92 瓦(6)

1区全景（西から）

1区　H－1号住居跡竈遺物出土状況（西から）

1区　H－1号住居跡竈全景（西から）

1区　H－1号住居跡全景（西から）

1区　W－1，2号溝跡全景（南から）

PL. 2

2区　H－1号住居跡全景（南から）

2区　H－1号住居跡竈全景（西から）

2区　H－2号住居跡全景（東から）

2区　H－4，10号住居跡全景（西から）

2区　H－3号住居跡全景（東から）

2区　H－3号住居跡竈全景（東から）

2区　H－5号住居跡全景（西から）

2区　H－5号住居跡竈全景（西から）

2区　H－6号住居跡竈遺物出土状況（西から）

2区　H－6号住居跡竈全景（西から）

2区　H－6号住居跡全景（西から）

2区　H－9号住居跡遺物出土状況（西から）

2区　H－6，9号住居跡全景（西から）

2区　W－4号溝跡全景（南から）

2区　D－1号土坑全景（西から）

2区　D－2号土坑全景（南から）

3区　H－2号住居跡全景（南から）

3区　H－2号住居跡竈全景（北から）

3区　H－3号住居跡全景（西から）

3区　H－3号住居跡竈全景（西から）

3区　H－4号住居跡全景（西から）

3区　H－4号住居跡竈全景（西から）

3区　H－5号住居跡、D－3号土坑遺物出土状況（北から）

3区　H－5号住居跡、D－3号土坑全景（南から）

3区　H－6号住居跡南北ベルトセクション北側（南東から）

3区　H－6号住居跡全景（西から）

3区　H－6号住居跡遺物出土状況（西から）

3区　H－6号住居跡竈全景（西から）

3区　H－6号住居跡 P_5 遺物出土状況（西から）

3区　H－6号住居跡南壁炭化物出土状況（北から）

3区　H－8号住居跡全景（南から）

3区　H－8号住居跡竈全景（西から）

3区　H－7号住居跡全景（西から）

3区　H－9号住居跡全景（南から）

3区　H－10号住居跡竈遺物出土状況（西から）

3区　H－10号住居跡竈全景（西から）

3区　H－10，14号住居跡全景（西から）

3区　H－11，12，13号住居跡全景（南から）

3区　H－13号住居跡全景（西から）

3区　W－2号溝跡全景（北から）

3区　W－4号溝跡全景（西から）

3区　I－1号井戸跡全景（西から）

5区　H－1号住居跡全景（西から）

5区　H－1号住居跡竈全景（西から）

5区　H－2号住居跡遺物出土状況（北から）

5区　H－2号住居跡全景（北から）

5区　H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

5区　H－3号住居跡全景（西から）

5区　H－4号住居跡竈全景（西から）

5区　H－4号住居跡竈先端部（西から）

5区　H－5号住居跡（西から）

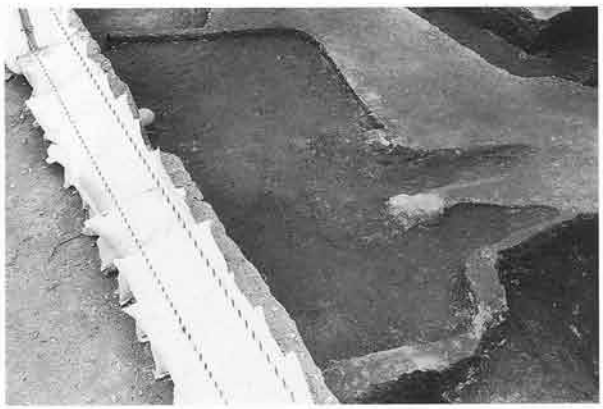
5区　H－5号住居跡竈全景（西から）

5区　H－6号住居跡全景（西から）

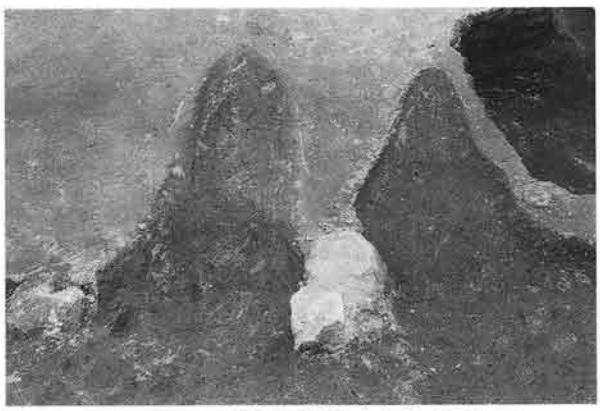
5区　H－7号住居跡全景（西から）

5区　W－2号溝跡、A－1硬化面全景（南から）

5区　D－3号土坑全景（東から）



6区　H－1号住居跡全景（南から）



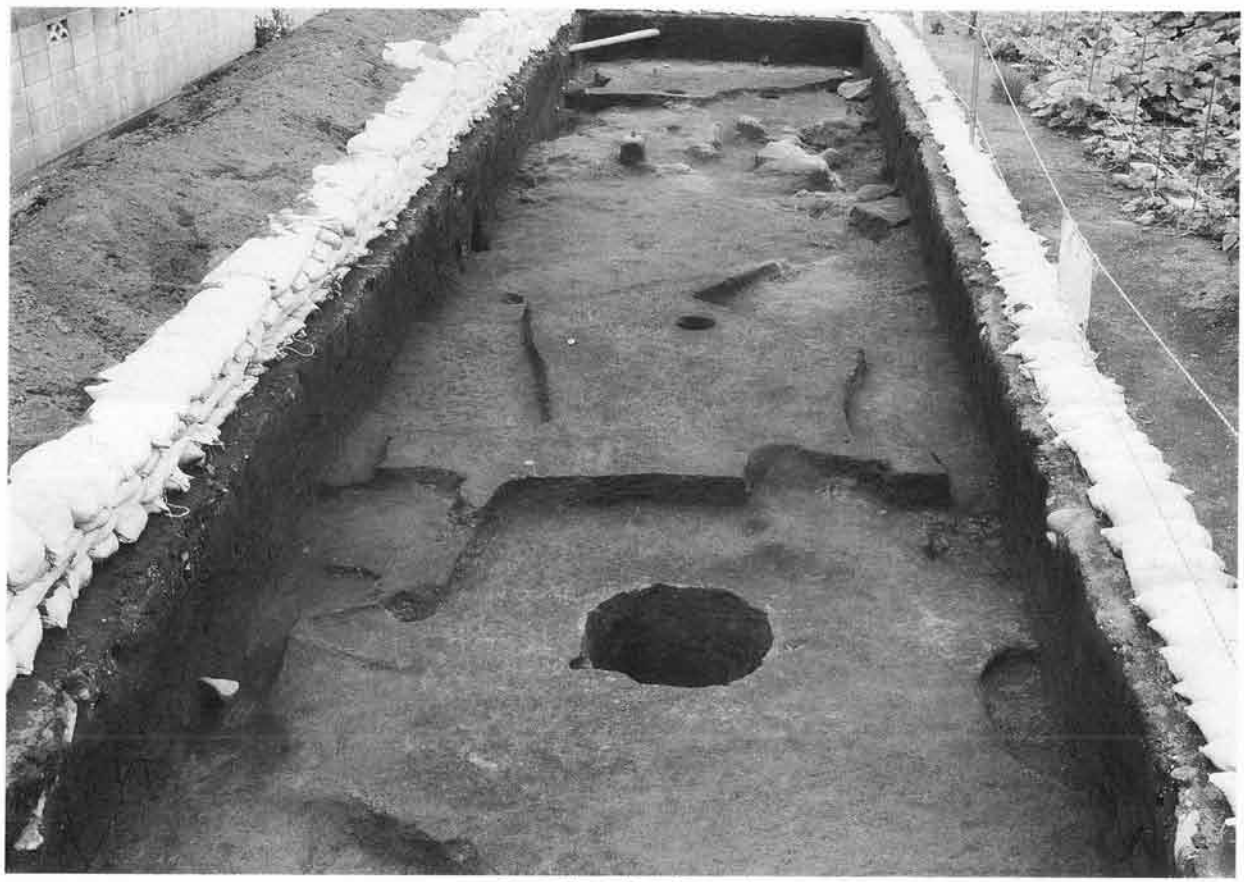
6区　H－1号住居跡新旧竈全景（西から）

6区　H－2，3号住居跡全景（東から）

6区　H－4号住居跡全景（西から）

6区　H－5号住居跡全景（西から）

6区　D－2号土坑全景（南から）

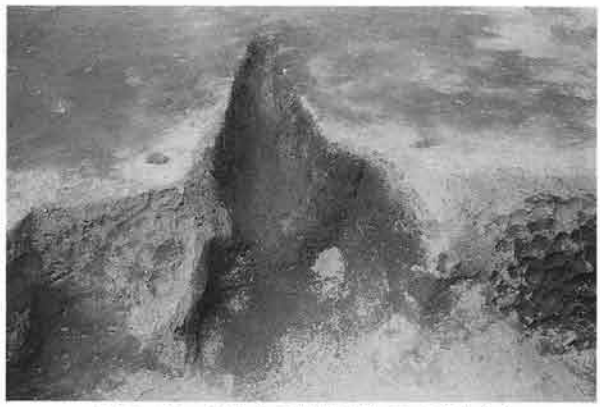


6区　調査区全景（北から）

7区　H－1号住居跡全景（北から）

7区　H－2号住居跡全景（南から）

7区　H－2号住居跡東竈全景（西から）



7区　H－2号住居跡北竈全景（南から）

7区　H－3号住居跡全景（西から）

7区　H－6号住居跡全景（西から）

7区　H－7，8号住居跡全景（西から）

7区　H－9号住居跡全景（南から）

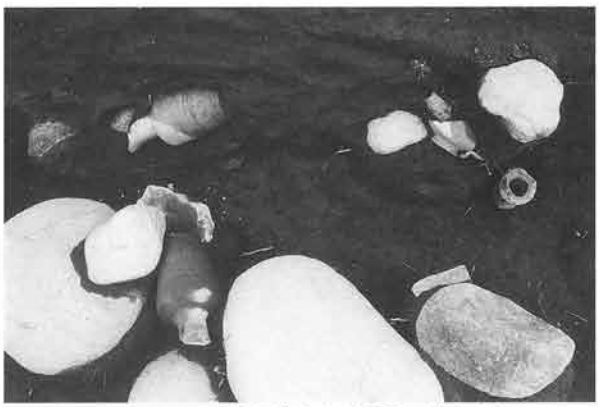
7区　H－10号住居跡全景（西から）

7区　H－10号住居跡竈全景（西から）

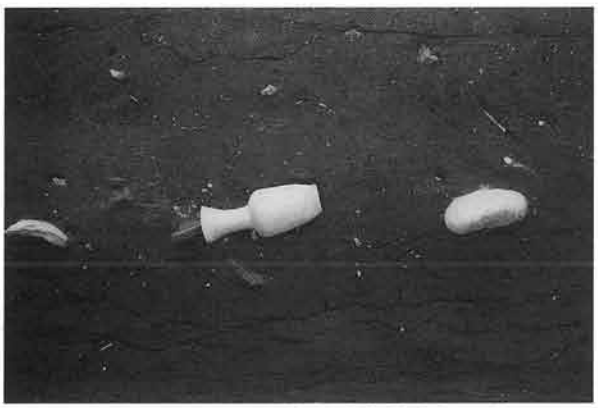
7区　W－1号溝跡全景（南から）

7区　T－1号竪穴状遺構、D－2号土坑全景（西から）

7区　D－3号土坑遺物出土状況（西から）



7区　D－3号土坑出土遺物①（東から）



7区　D－3号土坑出土遺物②（東から）

7区　D－3号土坑全景（東から）

7区　瓦敷き面集中部（南から）

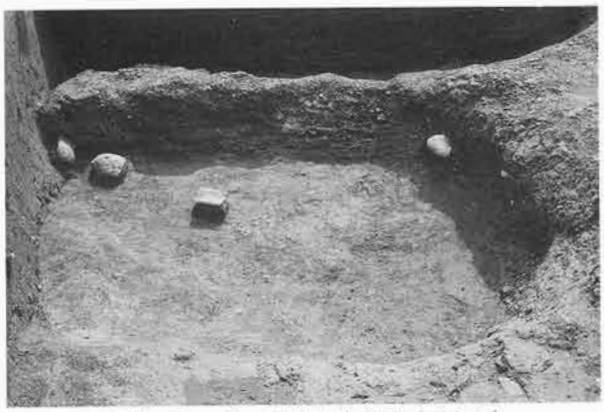
7区　瓦敷き面中央部全景（東から）

7区　D－10，13号土坑全景（東から）

7区　D－10，13号土坑全景（西から）

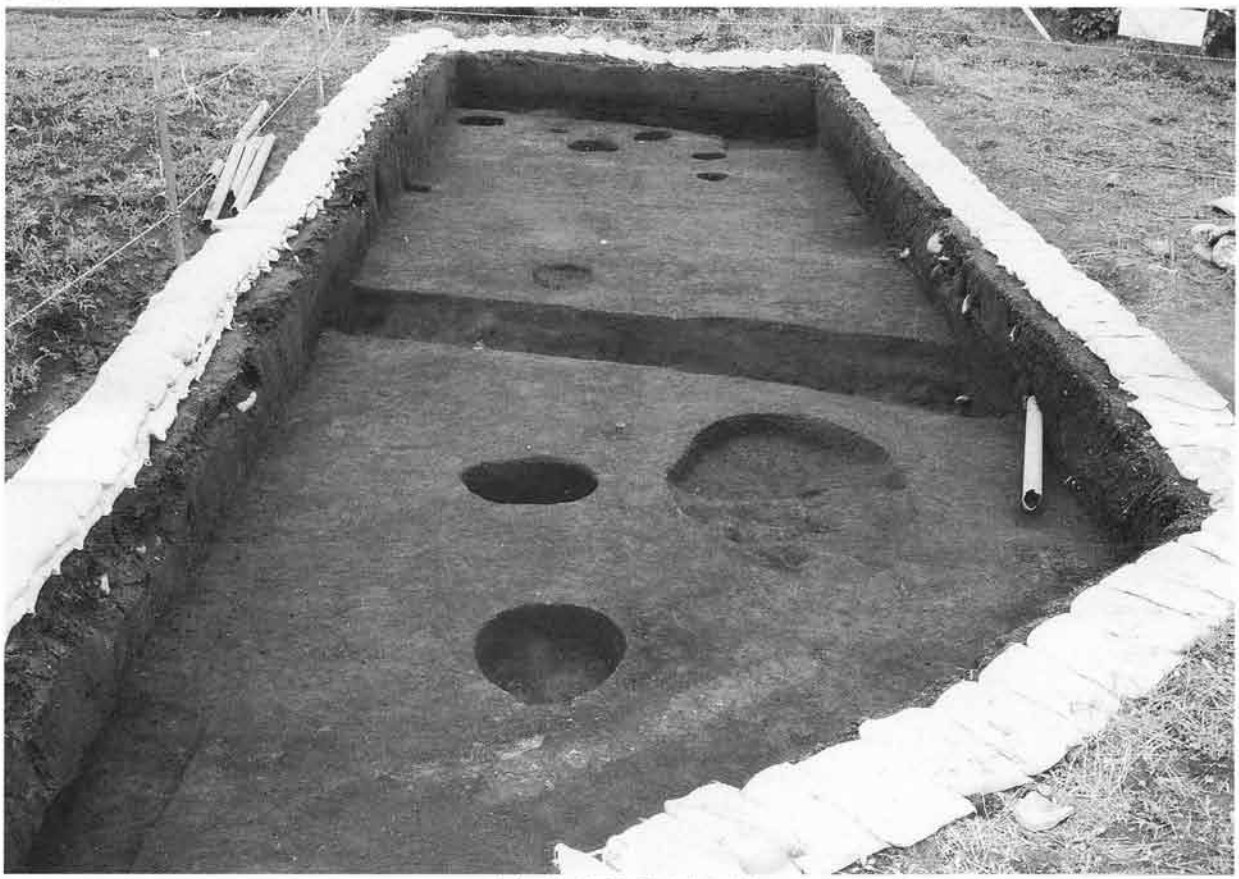
7区　D－13号土坑西側断面（東から）

7区　D－13号土坑南側断面（北から）



7区　D－6，7号土坑全景（西から）

7区　瓦敷き面埋め戻し前状況（北から）



8区　調査区全景（東から）

9区　H－1住居跡全景（西から）

9区　H－1号住居跡竈全景（西から）

9区　H－2号住居跡竈全景（西から）

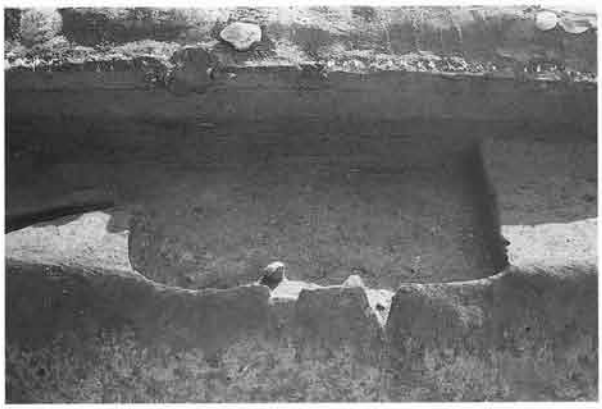
9区　H－2号住居跡竈全景（西から）

9区　H－3号住居跡遺物出土状況（西から）

9区　H－3，10号住居跡全景（西から）

9区　H－3号住居跡竈全景（西から）

9区　H－4号住居跡全景（西から）



9区　H－5号住居跡全景（北から）

9区　H－5号住居跡竈全景（南から）

9区　H－6号住居跡全景（西から）

9区　H－6号住居跡竈全景（西から）

9区　H－7号住居跡全景（西から）

9区　H－8号住居跡全景（西から）

9区　H－9号住居跡全景（西から）

9区　H－9号住居跡竈全景（西から）

9区　H－11号住居跡全景（西から）

9区　H－11号住居跡竈全景（西から）

9区　W－1号溝跡石検出状況（東から）

9区　DB－1号土坑墓全景（南から）

10区　西側ピット群全景（北から）

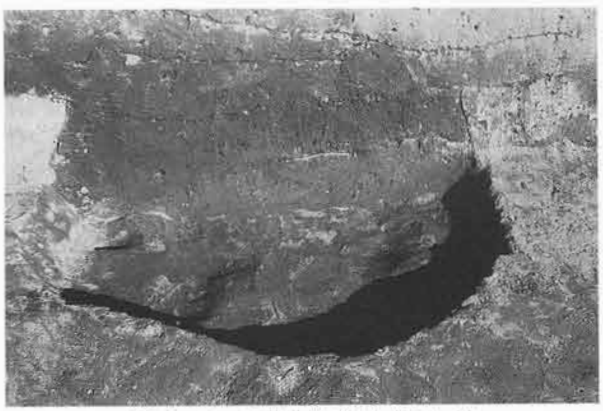
10区　東側 FA 下水田確認面全景（西から）

10区　FA 下水田確認面東側全景（北から）

10区　FA 中イネ科葉茎出土状況（北から）

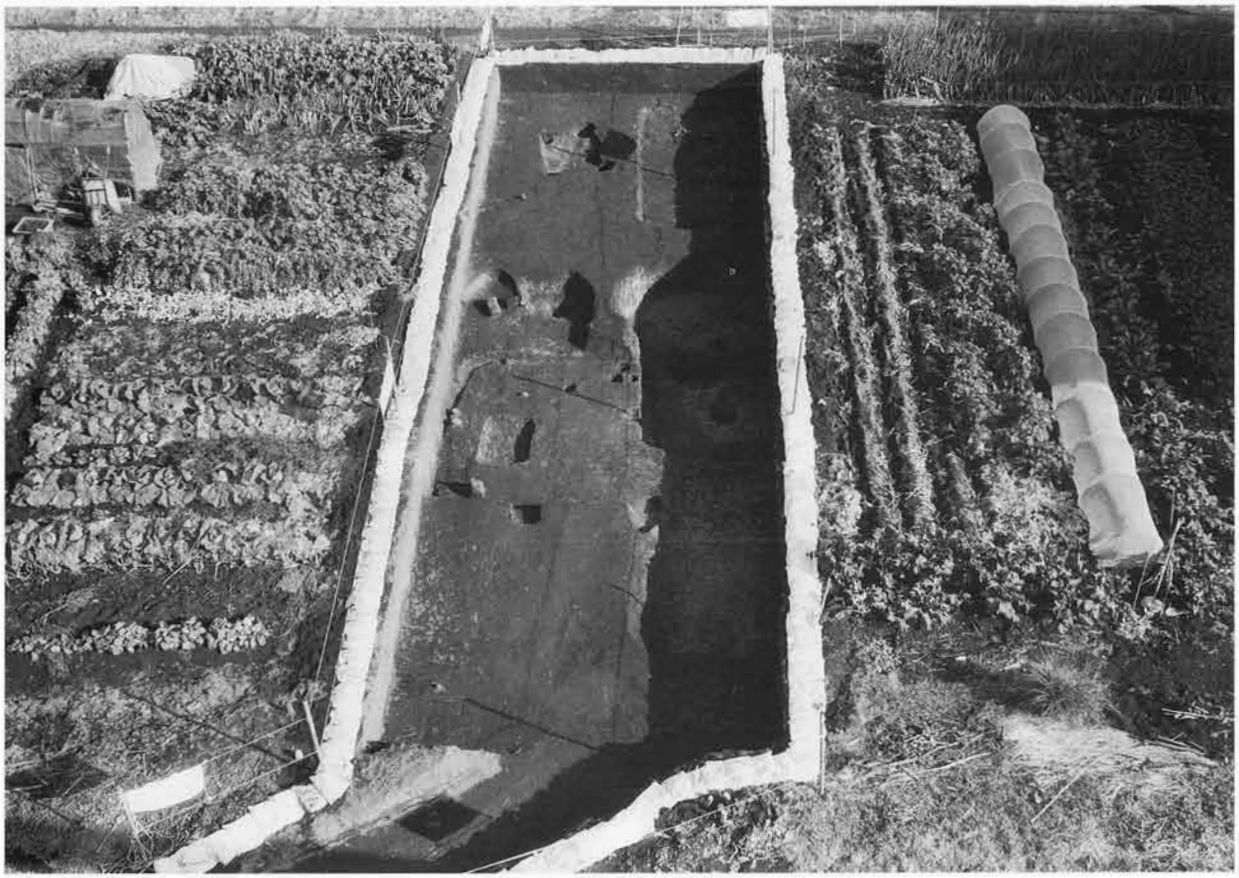
10区　W－1号溝跡全景（北から）

10区　W－2号溝跡全景（北から）

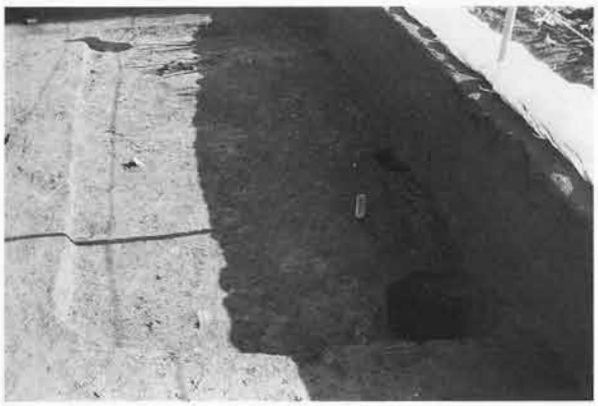


10区　D－1号土坑全景（南から）

10区　D－2号土坑全景（東から）



11区　調査区全景（西から）



11区　H－1号住居跡全景（西から）

11区　H－2，3号住居跡全景（西から）

11区　H－2号住居跡竈全景（西から）

11区　H－4号住居跡全景（西から）

縄文土器

1-1

1-3

1-2

1-4

PL.20

2-1

2-4

2-5

2-2

2-7

2-3

2-12

2-6

2-13

2-14

2-11

2-16

2-9

2-15

2-8

2-17

2-18

2-19

2-10

2-23

2-21

2-20

2-24

2-22

PL.22

2-25

2-31

2-28

2-26

2-29

2-33

2-32

2-30

2-27

3-1

3-3

3-4

3-5

3-7

3-8

3-13

3-14

3-9

3-13

3-14

3-10

3-16

3-17

3-11

3-20

3-21

3-24

3-25

3-26

3-31

3-34

3-27

3-38

3-39

3-28

3-41

3-42

3-29

3-30

3-45

3-49

3-50

3-51

3-52

3-53

3-54

3-56

3-58

3-60

3-61

3-62

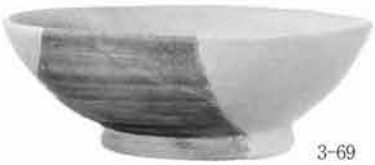
3-63

3-64

3-65

3-67

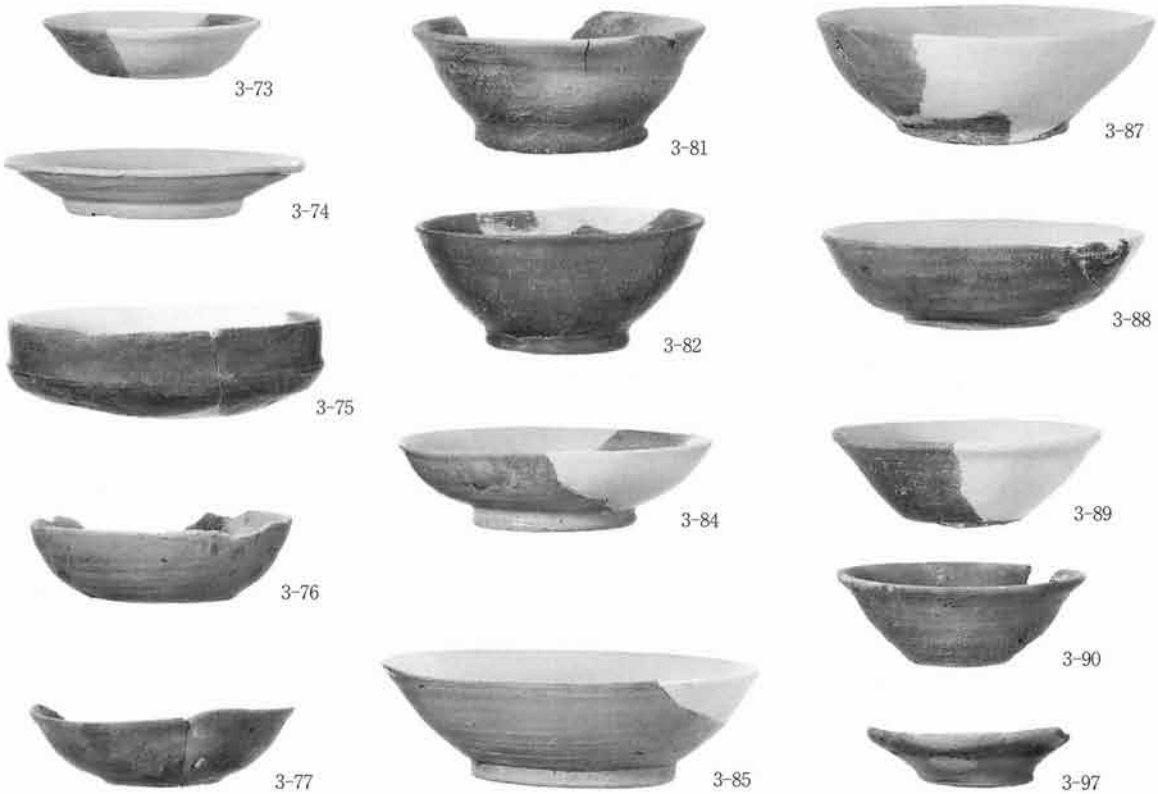
3-68

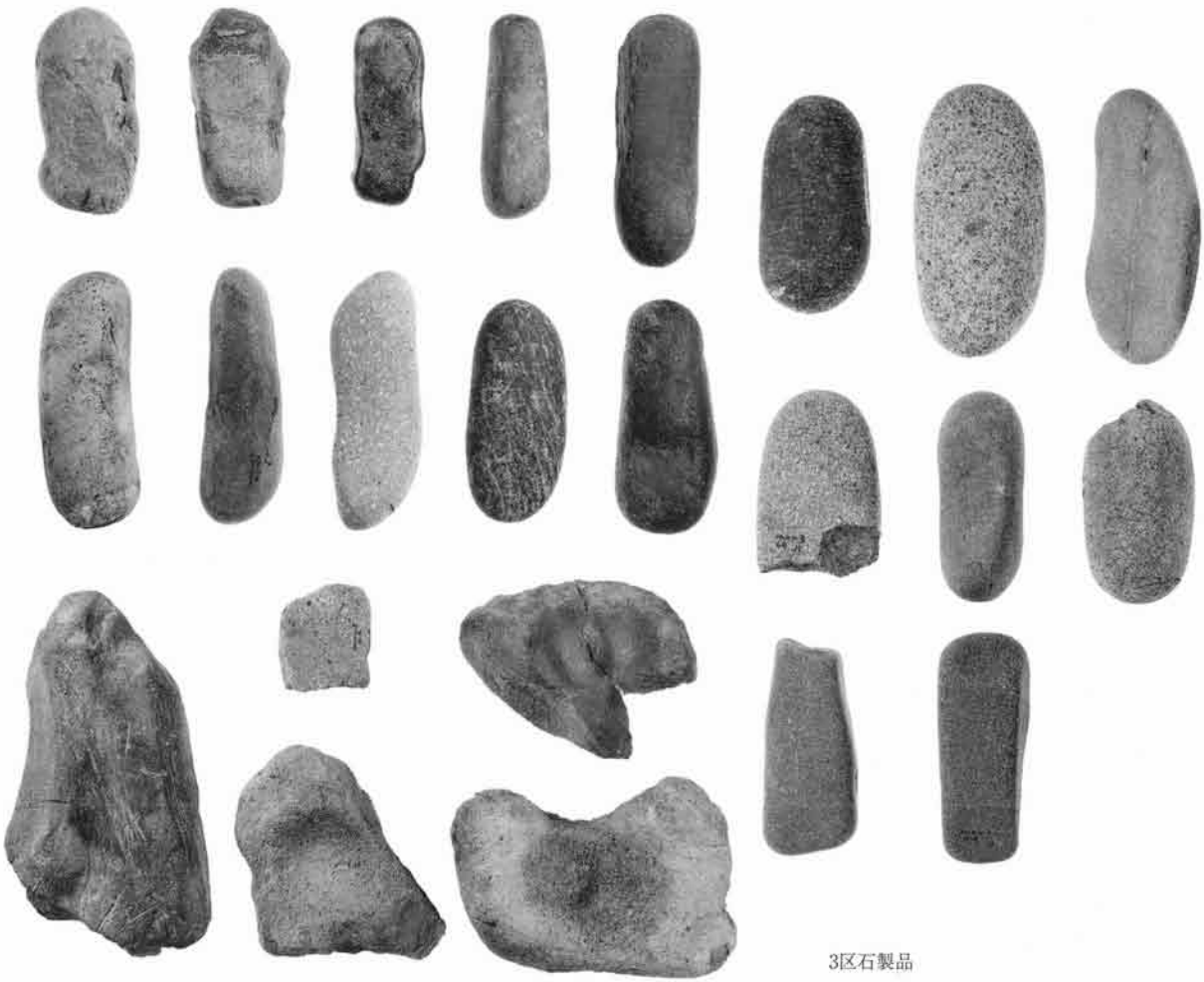

3-69

3-70

3-72

3-71





3区石製品

5-1

5-3

5-6

5-2

5-4

5-5

5-8

5-9

5-17

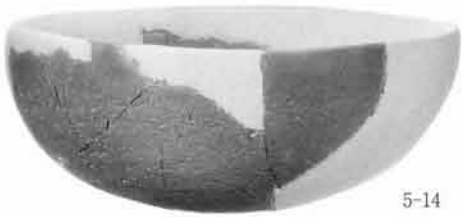
5-13

5-10

5-11

5-7

5-16

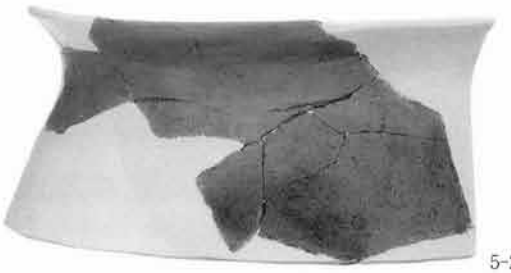

5-14

PL.28

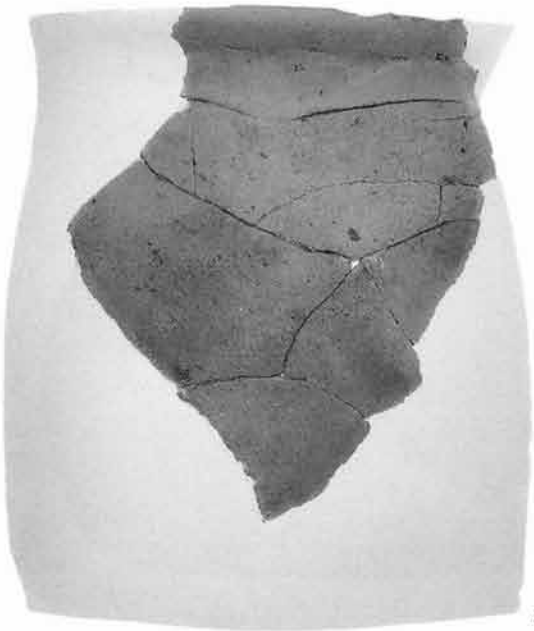
5-18

5-23

5-12


5-21

5-15

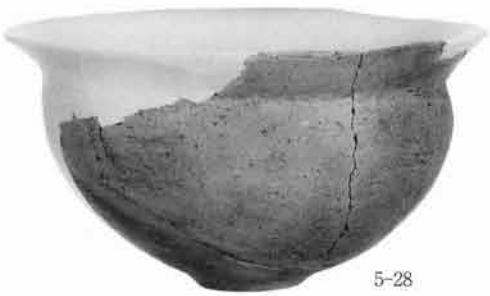

5-20

5-22

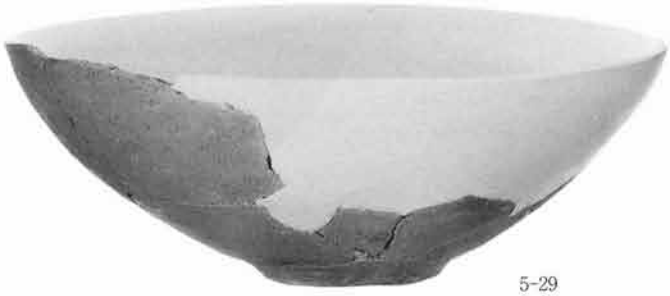
5-24

5-25

5-19


5-28

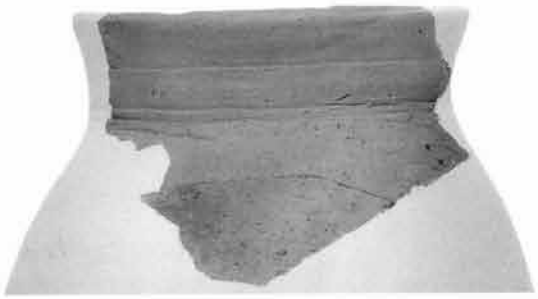
5-27


5-29

5-30

5-32

5-33


5-31

5-36

6-1

6-2

5-37

6-3

6-8

6-12

6-11

6-7

6-6

6-13

PL.30

6-9

7-5

7-8

7-6

7-1

7-2

7-3

7-4

7-7

7-9

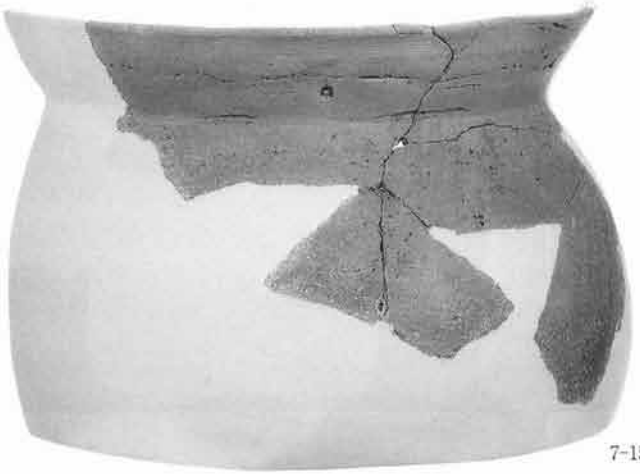
7-10

7-11

7-12

7-13

7-16


7-15

7-17

7-18

7-14

7-19

7-20

7-23

7-33

7-24

7-22

7-21

7-25

7-26

7-28

7-29

7-30

PL.32

7-27

7-31

7-34

7-35

7-32

7-38

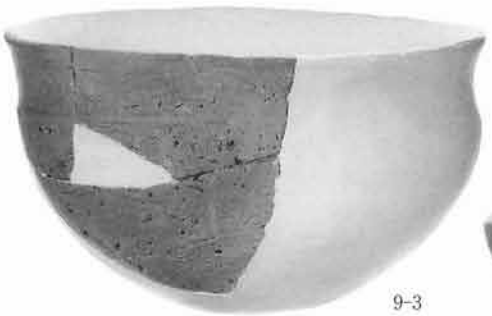
7-36

7-37

9-1

9-7

9-4


9-3

9-5

9-2

9-6

9-8

9-11

9-12

9-13

9-14

9-16

9-17

9-19

9-21

9-18

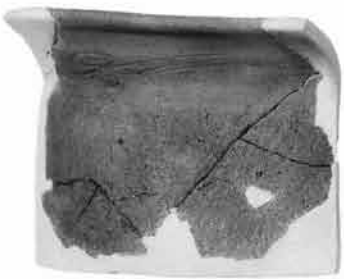
9-20

9-22

9-23

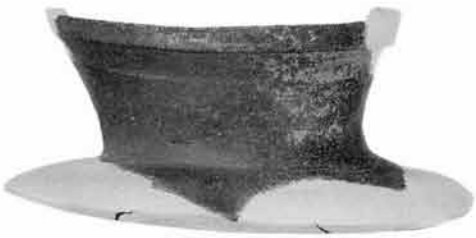
9-24

9-25


9-26

9-27

9-28


9-30

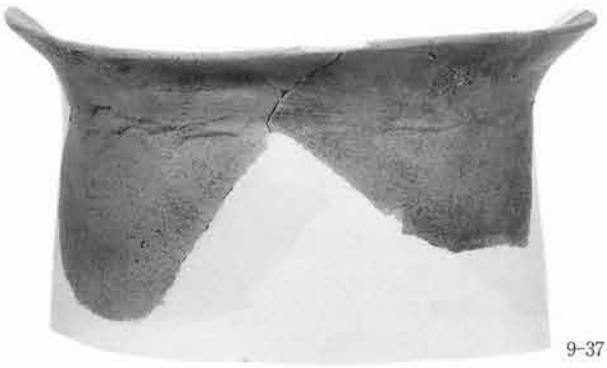
9-31

PL.34

9-32

9-34

9-33


9-37

9-35

9-38

9-40

9-41

9-43

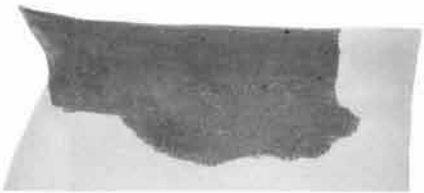
9-42

9-39

9-44

9-46

11-1


11-2

11-3

11-4

11-5

11-6

11-7

11-8

11-10

11-12

11-11

11-14

11-15

11-13

11-17

11-18

11-16

11-20

11-21

11-23

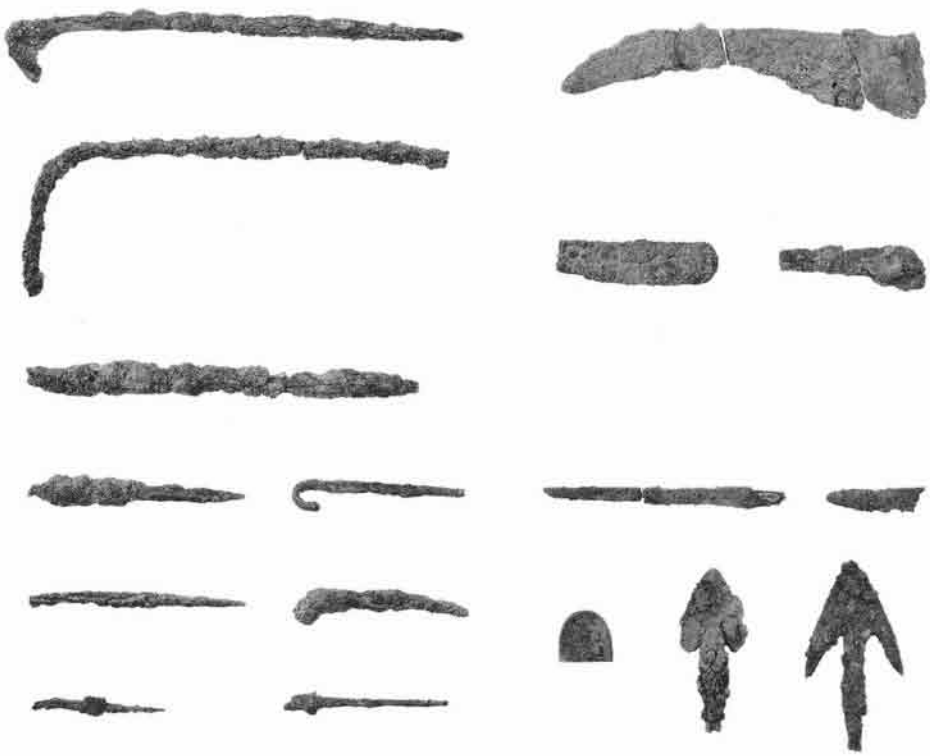
11-19

11-22

5-土1

9-鉄3

石製品



鉄製品

7-瓦1

7-瓦2

7-瓦3

7-瓦4

7-瓦13

7-瓦14

7-瓦25

7-瓦12

7-瓦5

7-瓦27

7-瓦63

7-瓦52

7-瓦62

7-瓦15

7-瓦28

7-瓦6

7-瓦7

7-瓦30

7-瓦29

7-瓦31

7-瓦32

7-瓦8

7-瓦10

7-瓦64

7-瓦65

1-瓦1

7-瓦9

7-瓦11

7-瓦41

7-瓦45

抄　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン(20)
書名	元総社蒼海遺跡群(20)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	阿久澤真一・清水　亮介・神宮　聡・小田　哲生・池田　史人・綿貫　綾子
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年3月19日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (20)	マエバシシモトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町1805-4ほか	10201	20A130 -20	36°23'21"	139°02'07"	20080507 ～ 20081225	約4,351㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (20)	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡6軒	土師器、須恵器　他	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡61軒、 竪穴状遺構2軒、 溝跡10条、土坑51基	土師器、須恵器、 鉄製品、石製品、瓦	
		中世	溝跡13条、土壙墓1基	鉄製品、石製品	

元総社蒼海遺跡群(20)

2009年3月12日　印　刷
2009年3月19日　発　行
編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印　刷　日本特急印刷株式会社
前橋市下小出町二丁目9-25
TEL 027-233-2002